

県単道路改良 (一) 古間(停)線
埋蔵文化財発掘調査報告書

—信濃町内—

ふきの 原 A 遺跡
吹野原 A 遺跡

2002.3

長野県長野建設事務所
長野県埋蔵文化財センター

県単道路改良 (一) 古間(停)線
埋蔵文化財発掘調査報告書

—信濃町内—

ふきの はら
吹野原 A 遺跡

2002.3

長野県長野建設事務所
長野県埋蔵文化財センター



吹野原 I 石器文化の主要な石器



基本層序 (TP11南壁)

序

信濃町は黒姫山麓にあって新潟県と境を接し、俳人小林一茶の里として知られる高原の町です。観光地として知られる野尻湖は、全国から参加者が集まる野尻湖発掘調査団によって継続されている湖底の発掘でも知られています。この発掘によりナウマンゾウやオオツノシカなどを狩った人々の生活のようすや当時の自然環境が明らかにされつつあります。また、化石が発見される湖底の遺跡だけではなく、湖の周辺に広がる野尻湖遺跡群も、日本の旧石器時代を代表する遺跡の密集地として知られています。

当センターにおきましても信濃町を縦断して建設された上信越自動車道の工事に先立って、平成5年から7年まで発掘調査を実施しました。日向林B・貫ノ木遺跡他多くの旧石器時代遺跡の調査が行われ、重層するいくつかのブロック群や礫群、他を圧倒する出土数を数える石斧・砥石などから成る豊富な石器群が検出されました。これらの報告書は平成11年度に刊行されております。

本書では、吹野原A遺跡における始良丹沢火山灰降灰前～降灰時期の石刃石器群を報告しています。良好な資料を十分に生かしたとは言えないかと思いますが、基本的な資料の提示においては責を果たしたものと思います。当該期の旧石器時代の遺跡の調査は数少なく、貴重な資料となるでしょう。上信越道関連調査報告書と併せて、永く活用されることを願うものです。

最後となりましたが、発掘調査から本書刊行に至るまで、深いご理解とご協力をいただいた長野県長野建設事務所・信濃町・同教育委員会など関係機関、地元の地権者・関係者の方々、発掘・整理作業にご協力いただいた多くの方々に、心より感謝申し上げます。

平成14年3月29日

財団法人 長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
所長 深瀬弘夫

例 言

1. 本書は長野県信濃町の所在する吹野原A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は県単道路改良事業に伴う事前調査として実施し、長野県長野建設事務所からの委託事業として、財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 上記遺跡の概要は、長野県埋蔵文化財センター刊行の『長野県埋蔵文化財センター年報』18他で紹介しているが、内容において本書と相違がある場合は、本書の記述の方が優先する。
4. 本書に掲載した地図は、信濃町作成の都市計画図をもとに作成したほか、国土地理院発行の数値地図 200000 を使用した。
5. 黒曜石の産地分析は沼津工業高等専門学校^のの望月明彦氏に依頼し報告をいただいた。
6. 本書の執筆・編集・校正は谷 和隆がおこない、土屋 積が全体を校閲した。
7. 発掘調査から本書の刊行に至るまで多くの方々のご指導・ご協力を得た。本文中にお名前を掲げさせていただいたが、厚く感謝申し上げたい。
8. 本書で報告した各遺跡の記録および出土遺物は、信濃町教育委員会が保管する。

凡例

1. 石器実測図についている番号を報告番号とする。報告番号は本文・挿図・挿表・写真のすべてに共通する。
2. 挿表の各種組成表内の礫の取り扱いは以下のとおりである。

遺構別出土層位組成・遺構別器種組成・石材別器種組成と遺構別石材重量組成についてはすべて礫を除いた組成となっている。

遺構別石材組成・遺構別石材重量組成については、石器と礫を別に扱っている。
3. 挿表中の重量の単位はすべてgとなっている。
4. 本文中で用いた石器の呼称については第1章5節に記した。折れていて接合した石器の名称は片方に正式な器種名を、もう片方は該当器種の破片ということで、器種記号に破を付けて表現をした。表中の法量の計測値は接合しない個々の状態を示してある。
5. 本文および表中で、石器石材となる黒色で緻密な安山岩の呼称には、地元信濃町での呼称にならい「無斑晶質安山岩」を用いた。この石材は佐久市八風山付近で採集されるガラス質黒色安山岩とほぼ同質である。
6. 本文中の加工の表現は下記のとおりである。

正方向の剥離（加工）：石器の腹面を打面とした背面側への剥離（加工）。

反方向の剥離（加工）：石器の背面を打面とした腹面側への剥離（加工）。

強剥離（加工）・強い剥離（加工）：縁辺が鋸歯縁状になるような素材を強く断ち切る剥離（加工）。

中剥離（加工）：強剥離と弱剥離の中間的な剥離（加工）。プランティング。

弱剥離（加工）・弱い剥離（加工）：素材の形状をほとんど変えない弱い剥離（加工）。

平坦剥離（加工）・平坦な剥離（加工）：器面内部まで入り込む剥離（加工）。

折れ：偶発的な折れと意図的な折れの両者を含む。
7. 本書に掲載した実測図は原則として下記のとおりである。また、それぞれの図版右下隅にスケールを付した。

主な遺構実測図

全体図 1:400 ブロック 1:40 1:50 1:80 礫群・土坑・溝跡 1:40

主な遺物実測図

中・小形石器 3:4 大形石器 3:4 1:2

8. 本書に掲載した遺物写真の縮尺は下記のとおりである。

1:1・3:4で、それぞれのプレートのキャプション中に示した。写真の歪みのため縮尺はおおよそである。

9. ブロック別の遺物分布図（第18～24図）に付した石器実測図の縮尺はすべて1:2である。

10. ブロック別の遺物分布図・石器実測図・挿表・挿図の器種・石材の記号・略称は以下のとおりである。それぞれの器種の破片については、記号は同じものを、器種略称については通常略称に「破」の文字を付した。また、ブロック別分布図中の遺物に付された番号、および写真図版の石器に付された番号は遺物実測図の番号（報告番号）と対応する。

記号	略称	器種	記号	略称	器種	記号	略称	器種	記号	略称	器種
◇	Kn	ナイフ形石器	☆	Sc	削器	●	UF	微細剥離のある剥片	▲	Ax	斧形石器
▽	Tr	台形石器	■	Pe	楔形石器	□	Co	石核	⊙	GS	磨石
◎	CF	折断剥片	⊙	Bl	石刃	●	Fl	剥片	⊕	PS	敲石
★	ES	搔器	○	RF	2次加工のある剥片	●	Ch	砕片	Ⓜ	原石	原石
◇	礫	礫									

略称	石材	略称	石材	略称	石材	略称	石材
Ob	黒曜石	An	無斑晶質安山岩	Tu	凝灰岩	SS	珪質頁岩
Ag	玉髓	安山岩	安山岩	Ch	チャート	GT	緑色凝灰岩
ST	珪質凝灰岩	Sa	砂岩	TS	凝灰質頁岩	Se	蛇紋岩
QP	石英斑岩						

11. ブロック別の遺物分布図中の垂直分布図の記号は以下の出土層位を表す。

△IV層（IV層上部～下部） ○V a層
 □V b層 ・その他の層位

12. 石器実測図に付したキャプションの見方は以下のとおりである。黒曜石産地群の記号は第4章、第18表中の新記号を用いている。



13. 石器実測図中のスクリーントーンは主要剥離面以外のポジ面および、石核にみられるポジ面を表す。発掘調査時と思われる新しい剥離面は黒く塗りつぶしてある。

14. 石器の長さ・幅・厚さの計測方法は以下のとおりである。

長さ・幅：石器の主軸方向を上下の基準として方眼紙に置き、長方形を想定し、上下（縦方向）長さ、左右（横方向）を幅とした。

厚さ：最も厚い箇所を、主要剥離面から垂直方向で計測した。

本文目次

序	
例言	
凡例	
本文目次	
挿図目次	
挿表目次	
写真図版目次	
第1章 調査の概要	1
第1節 調査の経過	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査体制と調査期間	1
3 調査の経過	2
(1) 調査日誌抄	
4 指導者・協力者	2
5 発掘および整理作業参加者	2
(1) 発掘調査参加者 (2) 整理作業参加者	
第2節 遺跡周辺の環境	2
1 遺跡の地理的環境	2
2 遺跡の歴史的環境	4
3 石器石材と産地	8
(1) 黒曜石 (2) 無斑晶質安山岩	
(3) 珪質頁岩・凝灰質頁岩・頁岩・珪質凝灰岩・凝灰岩・緑色凝灰岩	
(4) チャート (5) 蛇紋岩 (6) その他	
第3節 調査の方法	9
1 発掘調査の方法	9
(1) 試掘と調査区の設定 (2) 遺跡名称と遺跡記号 (3) グリッドの設定と呼称法	
(4) 遺構記号 (5) 遺物の取り上げと記録方法	
2 整理作業の方法	12
(1) 遺物の整理方法と管理収納	
第4節 基本層序	12
1 基本層序	12
第5節 石器の器種分類	14
1 素材の縁辺を機能部とする石器	14
2 加工部を刃部とする石器	15
3 礫石器	15
4 剥片・碎片・石核	15
第2章 旧石器時代	16
第1節 旧石器時代の概要	16
1 地形と遺物の分布	16
2 遺物の出土層位	16
3 器種組成	17
4 石材組成	18
第2節 旧石器時代の遺構	20

1 遺物の分布	20
(1) 石器の分布 (2) 礫の分布	
2 ブロック	27
(1) 第1号ブロック～(11) 第11号ブロック (12) 遺構外遺物	
3 礫群	37
(1) 第1号礫群 (2) 第2号礫群 (3) 第3号礫群	
第3節 旧石器時代の遺物	42
1 石器	42
(1) ナイフ形石器 (2) 台形石器 (3) 折断剥片 (4) 搔器 (5) 削器 (6) 楔形石器	
(7) 石刃 (8) 石核 (9) 打面再生剥片 (10) 斧形石器 (11) 敲石 (12) 磨石	
2 石材・母岩分類	70
(1) 黒曜石 (2) 無斑晶質安山岩 (3) 凝灰岩 (4) 珪質頁岩 (5) 玉髓 (6) 安山岩	
(7) チャート (8) 珪質凝灰岩 (9) 凝灰質頁岩 (10) 蛇紋岩 (11) 石英斑岩	
3 接合資料	72
4 剥片剥離技術	73
5 礫	73
第3章 縄文時代以降	74
第1節 縄文時代以降の遺構と遺物	74
1 縄文時代以降の遺構	74
(1) 土坑 (2) 溝跡	
第4章 自然科学分析	79
第1節 吹野原A遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定	79
1 はじめに	79
2 分析法	79
3 分析試料と試料調整	79
4 測定	81
5 産地推定法	81
6 産地推定結果	83
7 まとめ	84
第5章 成果と課題	89
第1節 検出された石器群	89
1 はじめに	89
2 各石器群の様相	89
3 検出された石器群の評価	91
第2節 吹野原I石器文化の位置付けと問題点	91
1 吹野原I石器文化の層位的位置付け	91
2 吹野原I石器文化のナイフ形石器	91
3 吹野原I石器文化の台形石器	91
4 吹野原I石器文化の斧形石器	92
5 吹野原I石器文化の問題点	92
引用参考文献	95
第6章 結語	96
写真図版	
抄録	

挿図目次

第1図	野尻湖周辺の地形	3	第31図	旧石器時代 石器実測図3(楔形石器1)	47
第2図	信濃町の遺跡分布図	7	第32図	旧石器時代 石器実測図4(楔形石器2・石刃1)	49
第3図	吹野原A遺跡周辺の地形と調査区	10	第33図	旧石器時代 石器実測図5(石刃2)	50
第4図	吹野原A遺跡の調査範囲とTPの配置	11	第34図	旧石器時代 石器実測図6(石刃3)	51
第6図	石器分布図(石器全点1)	21	第35図	旧石器時代 石器実測図7(石刃4)	52
第7図	石器分布図(石器全点2)	21	第36図	旧石器時代 石器実測図8(石刃4・石核1)	53
第8図	石器分布図(黒曜石)	22	第37図	旧石器時代 石器実測図9(石核2)	54
第9図	石器分布図(黒曜石・蓼科冷山群)	22	第38図	旧石器時代 石器実測図10(石核3)	55
第10図	石器分布図(黒曜石・和田鷹山群)	23	第39図	旧石器時代 石器実測図11(石核4)	56
第11図	石器分布図(黒曜石・その他産地群)	23	第40図	旧石器時代 石器実測図12(石核5)	57
第12図	石器分布図(無斑晶質安山岩)	24	第41図	旧石器時代 石器実測図13(石核6)	58
第13図	石器分布図(凝灰岩)	24	第42図	旧石器時代 石器実測図14(打面再生剥片・斧形石器1)	59
第14図	石器分布図(頁岩・凝灰岩類)	25	第43図	旧石器時代 石器実測図15(斧形石器2・敲石1)	61
第15図	石器分布図(黒曜石・その他産地群)	25	第44図	旧石器時代 石器実測図16(敲石2・磨石)	62
第16図	石器分布図(その他石材)	26	第45図	縄文時代以降の遺構分布図	74
第17図	礫分布図(礫全点)	26	第46図	縄文時代以降の土坑	75
第18図	BL1・BL3遺物分布図	28	第47図	第1・2号溝跡	77
第19図	BL2遺物分布図	30	第48図	寛永通宝	78
第20図	BL4・BL5遺物分布図	32	第49図	隠岐以東の主な黒曜石産地分布図	80
第21図	BL6遺物分布図	33	第50図	判別図1	82
第22図	BL7遺物分布図	34	第51図	判別図2	82
第23図	BL8・BL9・BL10遺物分布図	36	第52図	吹野原I石器文化の石器	93
第24図	BL11遺物分布図	38	第53図	裏ノ山II石器文化の石器	93
第25図	遺構外遺物分布図	39	第54図	貫ノ木I石器文化(第3地点)の石器	94
第26図	SH1遺物分布図	39	第55図	日向林I石器文化の石器	94
第27図	SH2遺物分布図	40	第56図	東裏H1II石器文化の石器	95
第28図	SH3遺物分布図	41			
第29図	旧石器時代 石器実測図1(ナイフ形石器・台形石器・折断剥片)	43			
第30図	旧石器時代 石器実測図2(搔器・削器)	45			

挿表目次

第1表	信濃町の遺跡一覧	6	第14表	石器属性表5	68
第2表	遺構別出土層位分布	17	第15表	石器属性表6	69
第3表	遺構別10g以上の石器出土層位分布	17	第16表	母岩分類基準	71
第4表	遺構別石器器種組成	18	第17表	黒曜石母岩別産地群組成	72
第5表	石材別石器器種組成	18	第18表	産地原石判別群	80
第6表	遺構別石器石材数量組成	19	第19表	黒曜石産地組成	83
第7表	遺構別石器石材重量組成	19	第21表	石器ブロック別産地組成	83
第8表	遺構別黒曜石産地数量組成	19	第20表	器種別産地組成	83
第9表	遺構別黒曜石産地重量組成	20	第22表	野尻湖遺跡群黒曜石産地推定結果まとめ	84
第10表	石器属性表1	64	第23表	産地指定結果1	84
第11表	石器属性表2	65	第24表	産地指定結果2	85
第12表	石器属性表3	66	第25表	産地指定結果3	86
第13表	石器属性表4	67			

写真図版目次

PL1	調査状況1(遺跡遠景 溝跡 土坑)	PL8	旧石器時代の石器4(石刃)
PL2	調査状況2(南西区遺物出土状況)	PL9	旧石器時代の石器5(石刃)
PL3	調査状況3(南東区・北区遺物出土状況 北区作業風景)	PL10	旧石器時代の石器6(石核)
PL4	調査状況4(北区遺物出土状況 礫群 北区作業風景)	PL11	旧石器時代の石器7(石核 打面再生剥片)
PL5	旧石器時代の石器1(ナイフ形石器 台形石器 折断剥片)	PL12	旧石器時代の石器8(斧形石器)
PL6	旧石器時代の石器2(搔器 削器)	PL13	旧石器時代の石器9(敲石 磨石 実測図のない石器)
PL7	旧石器時代の石器3(楔形石器)	PL14	旧石器時代の石器10(実測図のない石器)

第1章 調査の概要

第1節 調査の経過

1 調査に至る経緯

現在の県道古間停車場線は野尻湖南西部にある鍋山から北に延びる尾根を東西に貫いている。道路は約10m掘り下げられているが、造られたのが戦後間もない頃のため発掘調査はおこなわれていない。その後、この切り通しから石器が採集され、旧石器時代の遺跡として周知されるようになった^(註1)。

平成8年度には信濃町教育委員会による広域営農団地農道整備事業（以下、広域農道）に伴う緊急発掘調査が始まり、9年・11年・12年度に調査がおこなわれている。この調査により、多数の旧石器時代の石器が検出されている。また、少量だが縄文時代早期、平安時代の遺物も検出されている。

広域農道は県道古間停車場線に接続しており、この接続部と国道18号の間を拡幅することとなった。拡幅のため削平される南側の道路切り通し部は、遺跡発見時に石器が採集された地点である。また、広域農道の調査では県道接続部際まで遺物が分布しており、今回の工事区域にまで広がることが予想されたため、緊急発掘調査を実施することとなった。

本書ではこの県道古間停車場線の拡幅工事に伴う発掘調査報告を収録する。

本遺跡の発掘調査および報告書作成のための整理作業は、長野県長野建設事務所から委託を受けて、財団法人長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センターにより実施された。

発掘調査の契約面積は下記の通りである。

平成13年度	吹野原A遺跡	1600 m ²
--------	--------	---------------------

2 調査体制と調査期間

調査・整理体制および調査期間は以下のとおりである。

所長	深瀬弘夫
副所長	春日光雄(兼管理部長)
調査部長	小林秀夫
管理部長補佐	田中照幸
調査第2課長	土屋 積
調査研究員	谷 和隆
同	西山克己(調査のみ)

調査期間 平成13年9月13日～同年11月26日

整理期間 平成13年11月27日～平成14年3月29日

整理作業内容 遺物実測、写真撮影、遺物・遺構図のトレース・図版組み、原稿執筆、編集・校正

(註1) 1987年の野尻湖人類考古グループの報告では吹野遺跡として報告されている(野尻湖人類考古グループ1987 P26)。

3 調査の経過

(1) 調査日誌抄

9月13日	重機搬入	10月18日	南西区拡張部より黒曜石製ナイフ形石器出土
9月14日	表土剥ぎ開始	10月23日	南西区拡張部より緑色凝灰岩製斧形石器出土
9月17日	作業員初日	10月24日	作業員11名増員 北区の面的調査開始
	県道南側のテストピット（以下TP）の掘り下げ開始	10月25日	南西区の掘り下げほぼ終了
	石刃出土		北区で礫群2基検出
9月20日	TP2より黒曜石剥片を多数検出	10月26日	縄文時代の陥し穴3基検出
9月26日	県道南側のTPの掘り下げ終了	11月7日	南西区単点測量をおこない調査ほぼ終了
	中央付近以外は面的調査が必要と判断	11月9日	北区Vb層の掘り下げに入る
	南西区の面的掘り下げ開始	11月14日	Vb層掘り下げ終了
10月2日	県道北側（北区）に18ヶ所のTPを設定	11月16日	北区単点測量および地形測量
10月4日	北区のTP掘り下げ開始	11月22日	北区VI層の掘り下げ終了 石器はなし
10月15日	北区のTP掘り下げ終了		調査終了
	ほぼ全面的調査が必要となる	11月26日	プレハブ・重機撤去
	南東区より斧形石器出土		
10月16日	南西区は遺物密度が高いため、切り通し際に残したベルトをはずすことにする		

4 指導者・協力者

発掘調査と整理作業にあたり、下記の方々や機関にご指導ご協力を得た。お名前を記して感謝したい（敬称略・五十音順）。

安蒜政雄 内田陽一郎 岡村秀雄 小野 昭 小菅将夫 佐藤雅一 須藤隆司 堤 隆
中村由克 野口 淳 三木陽平 望月明彦 山本 克 渡辺哲也

5 発掘および整理作業参加者

(1) 発掘調査参加者

荒井けさ子 大沢ともえ 大橋里奈 岡田幸子 荻原啓蔵 荻原千代子 奥戸トモエ 木村ミヨシ
木村嘉光 黒田敏夫 佐藤 厚 小林英子 小林幸雄 高遠香代子 高山義郎 永野勝子
永原定子 永原春男 永原宗夫 服部恵美子 羽入田キク江 羽入田辰之 深津豊晴 森山キミ江
山崎実華 染 恵蘭

(2) 整理作業参加者

小根山貞子 竹内富美子 渡辺恵美子

第2節 遺跡周辺の環境

1 遺跡の地理的環境

野尻湖は長野県の北端、新潟県妙高高原町との境に位置する上水内郡信濃町にある。この湖の西側から南部の丘陵地帯には旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡が約40ヶ所集中している。その範囲は北西南東方向に約6km、北東南西方向に約4kmにおよび、野尻湖遺跡群と呼ばれている。

野尻湖は周囲を山に囲まれている。西側には北から妙高、黒姫、飯綱の火山が並び、東側には斑尾山が存在する。水面標高654m、面積3.96k㎡である。

野尻湖西岸から流れ出る池尻川は北へ向かって流れ、黒姫山と妙高山の間を流れる関川に合流してさらに北へと流れ、高田平野を経て日本海へと注ぐ。



第1図 野尻湖周辺の地形

0 (1:400,000) 20km

鳥居川は黒姫山と飯綱山の間から、本遺跡の北約200mの地点へ東へと流れ、そこから南西、南へと向きを変え約14km下流で千曲川と合流する。千曲川は北西に向かって流れ、新潟県境で信濃川と名を変えて新潟平野を経て日本海へ注いでいる。本遺跡の雨水はすべて鳥居川へと流れる。

関川と信濃川の分水嶺は貫ノ木遺跡や上ノ原遺跡内にあるが、現地での確認が難しいほどなだらかな地形である。そのため、野尻湖周辺の高原は今日まで、高田平野と長野盆地をつなぐ交通の要所として利用されている。

野尻湖周辺には火山の影響によりローム層が堆積している。主たる火山灰の給源とそれぞれの火山の活動期は次のとおりである（地学団体研究会1996）。飯綱火山の活動期は約34万年前と約20万年～15万年前で、約6万年前に水蒸気爆発を2回起こしている。黒姫火山の活動開始年代は約25万年前で最新のマグマ噴火は約4.3万年前である。妙高火山の活動開始年代は約30万年前で、最新のマグマ噴火は約4200年前である。焼山火山の活動開始年代は約3000年前で現在も活動中である。斑尾火山は約70万年前と55万年頃に活動をしていた。したがって、遺跡が形成された頃には飯綱、黒姫、斑尾火山はすでに休止しており、活動していた火山は妙高火山ということになる。また、焼山の活動は縄文時代以降となる。

野尻湖は約7～6万年前に起こったと思われる黒姫山からの池尻川泥流が、斑尾山西麓からの川を堰き止めたことによって誕生した。その後湖西側の仲町丘陵の隆起と湖東側の沈降により、形を変化させながら現在の野尻湖へと変化していく。貫ノ木遺跡の北西部にある池尻川低地は遺跡が形成された約3万～1万年前には野尻湖の一部であったことが確認されている。

野尻湖周辺は丘陵地帯となっている。旧石器時代の遺跡は丘陵の様々な場所に立地している。丘陵頂部、中腹の緩斜面やテラス状の場所、丘陵の裾部など比較的平坦な地形に遺跡が形成される場合が多い。また、現在の水田域となっている部分の多くが、かつては池や湖、湿地であったことが確認されており、野尻湖以外にも多くの水場が存在していたこととなる。これらの丘陵地形と水場環境の良さから、多くの狩猟対象動物が生息していたと考えられる。これら丘陵地帯では隆起・沈降が激しく旧石器時代には現在の地形とはかなり異なった様相を示していたと思われる。7～6万年前頃の野尻湖底堆積物である貫ノ木層が貫ノ木遺跡の丘陵頂部と、低地部において約50mの比高差が見られることから、単純に割ると1万年で10m近く隆起していたことになる。したがって、旧石器時代の人々が活動していた当時は、現在の地形よりも起伏が緩やかであったと考えられる。

2 遺跡の歴史的環境

1948年に野尻湖岸でナウマンゾウの化石が発見されたことがきっかけとなり、1962年から野尻湖発掘調査団による14回の湖底（立ヶ鼻遺跡）の発掘がおこなわれている。立ヶ鼻遺跡の調査では、ナウマンゾウやオツノシカの化石が発見されている。

1953年には芹沢長介、麻生優により杉久保遺跡採集の石器が旧石器時代の遺物と確認され、杉久保型ナイフ形石器の標識遺跡として知られることとなる。杉久保遺跡は1966年に町営駐車場の建設に伴う緊急発掘調査が実施され、森嶋稔らにより4つの石器文化が想定されている（林他1970）。1976年からは野尻湖発掘調査団による陸上発掘が始まり、仲町遺跡、貫ノ木遺跡、仲町向新田遺跡、照月台遺跡が調査された。ナイフ形石器文化期～細石器文化期の遺跡が確認されている。その他、伊勢見山遺跡（樋口他1964）の調査などもあり、野尻湖周辺に多くのナイフ形石器文化以降の旧石器時代遺跡が確認され、野尻湖遺跡群として評価されている（織笠他1986）。

1989年からいわゆる「行政発掘」が始まる。これらは破壊を前提とする記録保存であるが、それまでの調査がトレンチ中心であったのに対し、平面的に広い調査がおこなわれるようになり、野尻湖遺跡群の性格がより明らかになる。特に平成5年～7年におこなわれた上信越自動車道建設に伴う発掘調査面積は数万㎡におよぶ。

整理が進められている遺跡も多い中で、遺跡群の評価は刻々と変化しているが、現時点では以下のようにまとめられよう。

現在確認されている野尻湖周辺における最古の遺跡は立ヶ鼻遺跡とされている。立ヶ鼻遺跡からは、ナウマンゾウなどの動物化石が多く発見されている。これらは全身骨格ではなく、ばらばらになった状態で大量に出土するために、人為的に破砕されたもので、キルサイトに関するものと予想されている。これらは湖底堆積の水成層から検出される。しかし、水底に遺跡があったとは考えにくいと、化石は2次的に動いているものと考えられている。また、動物化石と共に、石器や骨角器が出土しているが、これらは自然物で人類遺物ではないとする意見も存在する。出土層準が約3.8万年～5万年前であり、湖底以外でこの時期の遺跡が見つかっていないことも評価を難しくしている。

ナイフ形石器文化期に入ると遺跡が激増し、野尻湖遺跡群が形成される。全国的に見ても遺跡数、遺物密度が非常に高い遺跡群として評価されよう。

ナイフ形石器文化期初頭の遺跡から多くの斧形石器が出土する。その数は野尻湖遺跡群だけで200点を上回り、日本国内で検出されている斧形石器の半数前後におよんでいる。また、極めて高い形態的斉一性を持つ台形石器も他地域には見られないものである。遺跡規模も大きく、貫ノ木遺跡や仲町遺跡での該期の遺物数は1万点をはるかに上まわっている。

その後、約2.5～2.4万年前の始良丹沢火山灰(AT)降灰後には、系統が異なるとされる複数の石器群が存在するようになる。東裏H2Ⅱ石器文化のように黒曜石やチャート、無斑晶質安山岩などを石材とし、2側縁加工のナイフ形石器や槍先形尖頭器、搔器などを主な組成とする石器群、貫ノ木Ⅲb石器文化(第1地点)や七ツ栗Ⅱ石器文化のような珪質頁岩や珪質凝灰岩、無斑晶質安山岩を主な石材とし、基部加工のナイフ形石器、彫器を組成する石器群、西岡Ⅲb石器文化のような無斑晶質安山岩を主な石材とし横長剥片を素材とするナイフ形石器を特徴とする石器群などが存在する。それぞれの石器群がある程度の時間幅をもって登場し、異なる系統の石器群が同時期に存在していた可能性が高い。

旧石器時代終末期には断片的に神子柴型石斧や細石器関連の遺物が見られるものの、それ以前と比較すると遺跡数は少ない。しかし、縄文時代草創期の遺跡数は多い。星光山荘B遺跡では隆起線文土器片とそれに伴う石器類が多量に発見されており、仲町遺跡には爪形文土器、円孔文土器が多く見られる。特に草創期末～早期にかけての表裏縄文土器の出土量は多い。その後、縄文時代前期頃までの遺物は多く発見されているが、中期以降になると少なくなり遺物が断片的に出土する程度になる。現在のところ縄文時代遺跡からの住居跡の発見はなく、土坑や陥し穴、集石遺構などが残されているのみである。

弥生時代・古墳時代の遺跡は非常に少なく、断片的に土器片などが出土するのみで、平安時代になると再び遺跡数が増える。大規模な集落は発見されていないが住居が数件程度の小規模な遺跡が点在するようになる。その後、中世には野尻湖周辺に集落が点在するようになる。また、高田平野から長野盆地を結ぶ経路となっていたようだ(各遺跡の位置、時期については第2図、第1表を参照)。

第1章 調査の概要

番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中近世
1	慶沢A	古海・慶沢		○				○
2	慶沢B	古海・慶沢		○				○
3	滝屋A	古海・滝屋						○
4	滝屋B	古海・滝屋						○
5	滝屋C	古海・滝屋		○				○
6	滝屋D	古海・滝屋						○
7	林畔	古海・林畔		○				○
8	花ヶ入	古海・花ヶ入		○				○
9	古海城跡	古海・城ノ腰						○
10	猪倉城跡	古海・菅川						○
11	菅川A	古海・菅川		○				
12	菅川B	古海・菅川		○				○
13	寺窪	古海・菅川		○				
14	舟瀬	野尻・舟瀬						
15	綱久保	古海・市河の内綱久保		○	○			
16	丸木舟出土地	古海・市河の内綱久保		○				
17	山手	熊坂・山手		○				
18	赤川・赤川城跡	野尻・赤川						○
19	大本道A	野尻・大本道		○				
20	大本道B	野尻・大本道						○
21	大本道C	野尻・大本道		○				
22	小本道	野尻・小本道		○				
23	野尻湖城跡	野尻・城ヶ入						○
24	家老路城跡	野尻・家老路						○
25	城廻りA	野尻・舟場			○	○		○
26	城廻りB	野尻・城ヶ入		○	○			
27	横ヶ崎	野尻・家老路		○	○			
28	旧野尻湖中学校	野尻・舟場		○	○			
29	杉久保	野尻・舟場		○	○			○
30	琵琶島	野尻・琵琶島		○	○			○
31	立が鼻	野尻・海端		○	○			
32	海端	野尻・海端		○	○			○
33	川久保	野尻・川久保		○	○			○
34	土橋稲荷	野尻・土橋		○				
35	小丸山・土橋城跡	野尻・川久保		○				○
36	向新田A	野尻・高山		○	○			○
37	向新田B	野尻・土橋		○	○			
38	雨池	野尻・高山						
39	清明台	野尻・高山		○	○			
40	仲町	野尻・一杯清水		○	○			○
41	神山北	野尻・上ノ原		○				
42	狐久保	野尻・狐久保		○	○			
43	神山A	野尻・神山		○				○
44	神山B	野尻・神山		○				
45	神山C	野尻・神山						
46	照月台	野尻・滝沢		○	○			
47	貫ノ木	野尻・貫ノ木		○	○			○
48	星光山荘A	野尻・下山桑		○				
49	下山桑A	野尻・下山桑		○				
50	下山桑B	野尻・下山桑		○				
51	下山桑C	野尻・下山桑		○				
52	下山桑D	野尻・下山桑		○				
53	駒爪	野尻・高沢		○				
54	上山桑A	野尻・上山桑		○				○
55	上山桑B	野尻・上山桑		○				
56	瑞穂A	野尻・瑞穂		○				○
57	瑞穂B	野尻・瑞穂						○
58	大久保A	柏原・日向			○	○		
59	大久保B	柏原・日向						
60	大久保C	柏原・中山			○	○		
61	大久保南	柏原・向山		○				
62	西岡A	柏原・西岡		○	○			
63	西岡B	柏原・西岡		○				
64	毛無	柏原・毛無			○			
65	上ノ原	柏原・上ノ原		○				○
66	緑ヶ丘	柏原・毛無		○				
67	野尻湖団地	柏原・小丸山						○
68	小丸山公園	柏原・小丸山		○	○			○
69	役屋敷	柏原・役屋敷		○	○			○
70	東裏	柏原・東裏		○	○			○
71	藁ノ山	柏原・藁ノ山		○	○			○
72	伊勢見山	柏原・藁ノ山		○				
73	東裏城跡	柏原・東裏						○
74	柴山	柏原・柴山						○
75	熊倉	柏原・堰下						○
76	新田川	柏原・新田川						
77	五輪堂	柏原・五輪堂						○
78	仁之倉A	柏原・仁之倉		○	○			
79	仁之倉B	柏原・仁之倉						
80	仁之倉南	柏原・黒姫山		○	○			
81	長水A	柏原・長水						○
82	長水B	柏原・長水						○
83	鳥居川第二発電所	柏原・西原						
84	上島	古間・上島						
85	柳原	古間・柳原		○				
86	一里塚	古間・一里塚		○				○
87	陣場A	古間・陣場		○				

番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中近世
88	陣場B	古間・陣場						○
89	小古間	古間・久根添						○
90	清水裏	古間・清水裏		○	○			○
91	清水尻	古間・清水尻						○
92	吹野原A	古間・吹野原		○				○
93	吹野原B	古間・吹野原		○				○
94	山根	富濃・山根						○
95	古間支館裏	古間・下島						○
96	大平A	富濃・大平		○	○			○
97	大平B	富濃・大平		○	○			○
98	針ノ木	富濃・針ノ木			○			○
99	砂間	富濃・西原		○	○			○
100	琵琶ヶ崎	富濃・西原			○			
101	宮沢	富濃・宮沢			○			
102	諏訪ノ原	富濃・諏訪ノ原			○			○
103	美野里	富濃・諏訪ノ原			○			○
104	日向林A	富濃・日向林						○
105	日向林B	富濃・日向林			○			○
106	七ツ栗	富濃・七ツ栗			○			○
107	普光田	富濃・普光田			○			○
108	庚申堂	富濃・庚申堂						○
109	西久保	富濃・水穴						○
110	水穴	富濃・水穴						○
111	大日方A	富濃・大日方						○
112	大日方B	富濃・大日方						○
113	富濃原	富濃・原				○		○
114	劉芬岳	富濃・城山						○
115	滝沢	富濃・滝沢						○
116	東原	富濃・東原				○		○
117	鳴沢	富濃・鳴沢						○
118	南原A	富濃・南原						○
119	南原B	富濃・南原						○
120	乙原	富濃・南原				○		○
121	中村	富濃・中村						○
122	目細A	富濃・目細						○
123	目細B	富濃・目細						○
124	薬師岳城跡	富濃・舟岳山髮嶺						○
125	舟岳	富濃・成仏				○		○
126	向ノ原	富濃・向ノ原						○
127	寒ノ神	富濃・寒ノ神動蔵				○		
128	勸蔵	富濃・勸蔵						○
129	戸草城跡	富濃・福沢						○
130	戸草	富濃・清水				○		○
131	正徳寺	荒瀬原・正徳寺				○		○
132	荒瀬原	荒瀬原・原				○		○
133	大原	荒瀬原・大原						○
134	則心院裏	荒瀬原・山神						○
135	石原	荒瀬原・石原						○
136	幣塚	富濃・荒瀬原・幣塚				○		
137	月影	荒瀬原・月影						○
138	北ノ原A	平岡・北ノ原						○
139	北ノ原B	平岡・北ノ原				○		○
140	富原	平岡・富原				○		
141	丸山	平岡・丸山						○
142	北山道	平岡・北山道						○
143	御料	平岡・裏屋敷添				○		○
144	向原	平岡・向原				○		○
145	丸谷地	穂波・丸谷地				○		○
146	大道下	穂波・原・大道上・大道下				○		○
147	落影(五厘山)	穂波・五厘山・峰・古道畑						○
148	上の山	穂波・上の山						○
149	北中島	穂波・北谷地						○
150	中島	穂波・嶋崎・中畦						○
151	辻屋	穂波・南平・道下						○
152	宮ノ腰	穂波・腰巻・南原				○		○
153	富ヶ原I	大井・富ヶ原						○
154	富ヶ原II	大井・富ヶ原				○		○
155	富ヶ原III	大井・富ヶ原				○		○
156	富ヶ原IV	大井・富ヶ原				○		○
157	富ヶ原V	大井・富ヶ原				○		○
158	富ヶ原VI	大井・富ヶ原						○
159	富ヶ原VII	大井・富ヶ原				○		○
160	北信	大井・靈仙寺						○
161	繕場	大井・繕場				○		○
162	七滝	大井・靈仙寺				○		○
163	カジカガワ	大井・カジカガワ						○
164	靈仙寺跡	大井・寮添						○
165	石橋	大井・西谷地						○
166	市道	大井・市道				○		
167	高山	大井・高山				○		
168	清水久保	大井・向原				○		○
169	長山	大井・長山				○		○
170	宮浦B	大井・長山				○		
171	糠池	柏原				○		
172	星光山荘B	野尻・下山桑						○
173	大平C	富濃・諏訪原				○		○

第1表 信濃町の遺跡一覧



第2図 信濃町の遺跡分布図

3 石器石材と産地

野尻湖遺跡群では大量の石器が出土するが、石器石材となりうる緻密な岩石の産地は存在しない。地元で採集できる岩石は多孔質で粗粒な岩石が多く、敲石、台石等の礫石器に使用されることはあっても、剥片石器に使用されることはほとんどない。剥片石器に用いられる主要石材には、黒曜石、珪質頁岩、無斑晶質安山岩、チャート、凝灰岩などがあげられる。上信越自動車道建設に伴う野尻湖遺跡群の発掘調査のデータを例に、これら石材の使用状況と推定される産地を以下にあげる。

(1) 黒曜石

黒曜石は理化学的な分析により産地推定がおこなわれている石材である。上信越自動車道建設に伴う野尻湖遺跡群の調査では、旧石器時代～縄文時代草創期の11遺跡から検出された黒曜石12,642点に対して、蛍光X線分析装置を用いた産地推定をおこなっている（長野県埋蔵文化財センター2000）。

そのうち12,156点から有効な数値が得られ産地が推定された。わずかであるが、青森県木造町・深浦町、秋田県男鹿市、栃木県矢板市・塩原町、東京都神津島村の長野県外産地が推定された石器が16点あった。青森県木造町までの直線距離は約460kmだが、直線上には日本海があり陸路で行くには500km以上の距離がある。神津島への直線距離は約300kmだが、必ず海を渡らないと行けない。これらは旧石器時代の石器石材が非常に遠くまで動いていることを示した貴重なデータとなった。

圧倒的多数を占めるのが長野県内の産地である。その中でも7割強を占めるのが「和田峠」「星糞峠」がある和田村・長門町内の産地である。野尻湖遺跡群までの距離が直線で約75kmだが間には険しい山がある。鳥居川を下り、千曲川、依田川を上る川沿いのルートをとると100km以上の道のりで黒曜石産地にたどり着ける。県内だが広い長野県の北端に位置する野尻湖遺跡群と黒曜石産地の距離は遠いといえよう。

和田村・長門町内の産地の次に多いのが「星ヶ塔」「星ヶ台」がある下諏訪町・諏訪市内の産地で全体の約2割弱を占め、なかには主体となる石器群も存在する。距離的には、和田村・長門町内の産地とあまり変わらないが、分水嶺を越えることとなる。

「麦草峠」「冷山」が存在する茅野市内の産地が全体の4%弱となっている。和田村・長門町、下諏訪町・諏訪市の産地より10km以上遠い上に、岩石の質的にも劣る茅野市内産の黒曜石が運び込まれる背景がどのようなものであったか興味深いところである。

(2) 無斑晶質安山岩

野尻湖から最も近い産地としては、長野県飯山市北部の関田山地から長野県栄村と新潟県津南町との境を流れる志久見川周辺までの長野・新潟県境一帯が知られている。野尻湖から産地までの直線距離は30～40kmで、在地石材とはいえない距離がある。また、長野・群馬県境にはガラス質黒色安山岩の産地の八風山が存在する。このガラス質黒色安山岩と無斑晶質安山岩は酷似しており、岩石学的には同じものと思われる。八風山までの距離は直線で約70kmで、黒曜石が多量に持ち込まれていることを考慮すると、野尻湖遺跡群で無斑晶質安山岩としているものの中に八風山のガラス質黒色安山岩が含まれている可能性が十分に考えられる。

主要石材としては産地が最も近くにあるためか、最も多い数の石器が検出されている。また、大形の石核や分割剥片が持ち込まれている例もあり、剥片も他の石材と比べると大形のため、重量比は高くなる。しかし、黒曜石や珪質頁岩と比べると鋭利さに欠けるためか製品になる比率は低い。

貫ノ木遺跡高速道路地点では石器総数約34,000点中16,000点が無斑晶質安山岩となっておりその総重量は200kgを超える。

(3) 珪質頁岩・凝灰質頁岩・頁岩・珪質凝灰岩・凝灰岩・緑色凝灰岩

泥や火山灰の堆積岩であるこれらの岩石（以下頁岩系石材と記す）は蛍光X線等を用いた理化学的な産地分析法が確立していないため、厳密な産地がわからないのが現状である。また、珪化の進み具合や、火山灰の含有比率は漸移的でありそれぞれの中間的な岩石がある点も注意が必要である。

最も近くにある産地は新潟県津南町周辺が知られている。頁岩系石材のうち比較的粗粒で風化面が白色もしくは灰色となるものは、津南周辺では在地の石材として認識されている^{註1}。野尻湖遺跡群においてもこれと同質の頁岩系石材が数量、重量ともに最も多く用いられている。しかし、製品類の中にはよく珪化した褐色の珪質頁岩が多く見られる。これらは、山形県や秋田県で採集できる珪質頁岩によく似ている。秋田・青森産の黒曜石が持ち込まれている事実もあることから、新潟県北部・山形・秋田方面の頁岩の搬入の可能性も十分に考えられよう。

(4) チャート

チャートも頁岩系石材同様に理化学的分析による産地推定ができない石材である。長野県内には佐久地方の関東山地、南アルプス南部から木曾や伊那地方が産地として指摘されているが、野尻湖から比較的近くの千曲川でも採集でき、最も近くに産地のある石材の可能性も考えられる。遺跡に持ち込まれているものは節理が多く、大きさも小さい。

(5) 蛇紋岩

蛇紋岩で作られるほとんどの石器が斧形石器である。長野県内の白馬村や小谷村にも産地が存在するが、遺跡に持ち込まれている蛇紋岩の礫面形状や、透閃石、透緑閃石や曹長石が多く含まれていることから、糸魚川市内の姫川下流域から富山県境付近の日本海岸が産地として予想される。野尻湖までの距離は約50kmであるが、黒曜石や無斑晶質安山岩、頁岩系石材の産地とは別の方向にある。

(6) その他

玉髓、碧玉などその他の石材も見られるが、いずれも野尻湖周辺では採集できない。

第3節 調査の方法

1 発掘調査の方法

(1) 試掘と調査区の設定（第4図）

信濃町教育委員会の平成12年度調査区は東西に走る県道古間停車場線の南北両側に位置しており、その西側は今回調査がおこなわれた調査区と接している。町教育委員会の調査区と今回調査区の位置関係を第3図に示した。町教委による調査ではその調査区境にまで遺物が分布しており、今回の調査区内に遺物の分布域が広がることが予想された。また、遺跡発見の経緯となった遺物は今回調査区内の切り通しから採集されたものである。そのため、今回の調査区ほぼ全面が遺物分布域と予想されたことから、急斜面を除くほぼ全面が調査の対象となった。

調査区は全面カラマツの植樹林となっており、調査直前に伐採され、開始時には根が残っている状態だった。樹木根は重機を用いて土をよく振り落としてから抜いた。この中から検出された遺物は攪乱層出土とし、平面的には検出位置の単点を測量した。

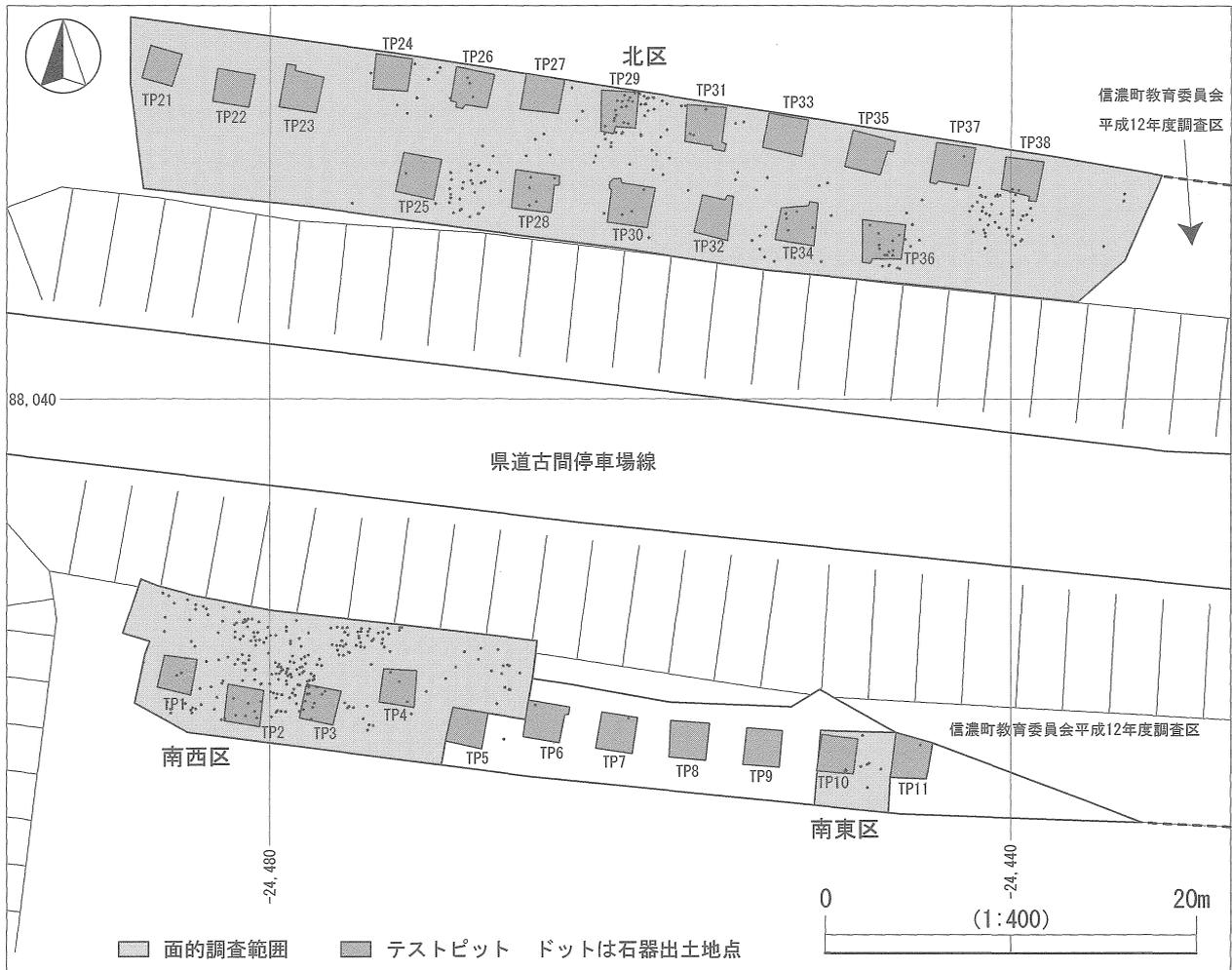
註1：津南町教育委員会山本 克氏のご教授による。



第3図 吹野原A遺跡周辺の地形と調査区

発掘調査区は現道により南北に分断されている。現道南側を南区、北側を北区として調査をおこなった。南区は道路に平行して細長く、長さが約55m、幅約7mとなっている。まず、危険防止のため道路側の切り通し部を約1m残して、重機により表土からⅢ層中位まで掘り下げた。この面で人力による縄文時代以降の遺構検出をおこなったが、遺構は検出されなかった。その後旧石器の確認のため、調査区の長軸に沿って2m×2mのテストピット（以下TP）を11ヶ所設定した。TPは人力によりⅦ層上面まで薄く削りながら掘り下げをおこなった。その結果、南区中央部以外から石器が検出されたため、西側を南西区、東側を南東区と細分して面的調査をおこなった。南西区に関しては、安全確保のために残した、切り通し側のベルトにも遺物分布域が広がるのが確実視されたため、ベルトをはずして調査区を拡張した。

北区の調査は表土剥ぎをおこなう前に、第4図のように18ヶ所のTPを設定した。TP番号は南区とダブらないように21からの連番とした。南区と同様にTPを人力により掘り下げた結果、多くのTPから石器が検出されたため、全面を面的調査の対象とし、Ⅲ層中位までは重機で、それ以下は人力による掘り下げをおこなった。Ⅳ層上面まで掘り下げた時点で、陥し穴と溝状の遺構が検出されたため、旧石器の掘り下げと並行して調査をおこなった。



第4図 吹野原A遺跡の調査範囲とTPの配置

(2) 遺跡名称と遺跡記号

本書で報告する遺跡の名称と遺跡記号は下記のとおりである。遺物・写真他の記録類の注記などもすべてこれによる。

吹野原A遺跡 MFH

(3) グリッドの設定と呼称法

当センターでは従来、国土座標を基準として大々地区・大地区・中地区・小地区の4段階のグリッドを設定して調査をおこなっている。しかし、今回の調査では調査範囲が狭いことと、光波トランシットによる測量のため特にグリッドの設定はおこなわなかった。測量は国土地理院の定める平面直角座標系の原点（長野県第Ⅷ系、X=0.000, Y=0.000）を基準点としている。

(4) 遺構記号

記録・注記等の便宜を図るために遺構名称は記号を用い、遺構番号は時代等にかかわらず種類ごと、検出順に付した。遺構記号は原則として検出時に決定するため、主として平面的な形態や遺物の分布状況等指標としたもので、必ずしも遺構の性格を示すものはない。整理段階で遺構名称変更の必要が生じた場合は、発

掘時の遺構記号・遺構番号は欠番とし、新しい遺構記号の最終番号に追加した。本書で報告する遺構番号は前述の理由から飛び番号が生じているが、混乱を避けるため発掘時の遺構記号・遺構番号をそのまま使用した。したがって最終遺構番号＝遺構数とはならない。

なお、本書の遺構記号は当センターで共通して用いているもので、以下のとおりである。

[BL]旧石器時代の石器・剥片集中

[SK]単独もしくは他の掘り込みと関係が認められないSB(住居跡等)より小さな掘り込み(土坑、陥し穴、貯蔵穴、井戸等)。

[SD]溝跡

(5) 遺物の取り上げと記録方法

旧石器時代の遺物が主体となったため、遺物の取り上げに際しては、測量業者に委託して、光波トランシットを用い端点測量をおこなった。成果品として編集図面、観測成果簿、観測データの3種で管理している。

遺物の取り上げ番号は、遺構^(註1)に帰属する遺物については、遺構ごとに1番から番号を付し、包含層・遺構外の遺物については遺跡全体に1番から番号を付した。注記については以下のとおりである。

遺構外遺物(BL所属遺物を含む)の例:MFH55

遺構出土遺物の例:MFH・SH1・55

2 整理作業の方法

(1) 遺物の整理方法と管理収納

遺物の注記終了後、石器・礫を分別し、それぞれに作業を進めていった。

石器の整理では最初に器種判別作業をおこなった。石器属性の観察項目は以下のとおりである。

器種／材質／長さ／幅／厚さ／重量

器種判別後、石器実測作業と並行しながら、母岩判別、接合作業をおこなった。作業の結果得られた母岩別資料および、接合資料は石材をまたいで1から番号を付けて台帳に登録した。

礫の整理では、礫の計測・観察をおこなった後接合作業をおこなった。礫の観察項目は以下のとおりである。

材質／礫形状／遺存度／焼け面／付着物／長さ／幅／厚さ／重量

遺物管理は、石器、礫の大別に従いそれぞれ収納している。

遺物は信濃町教育委員会が管理をおこなう。

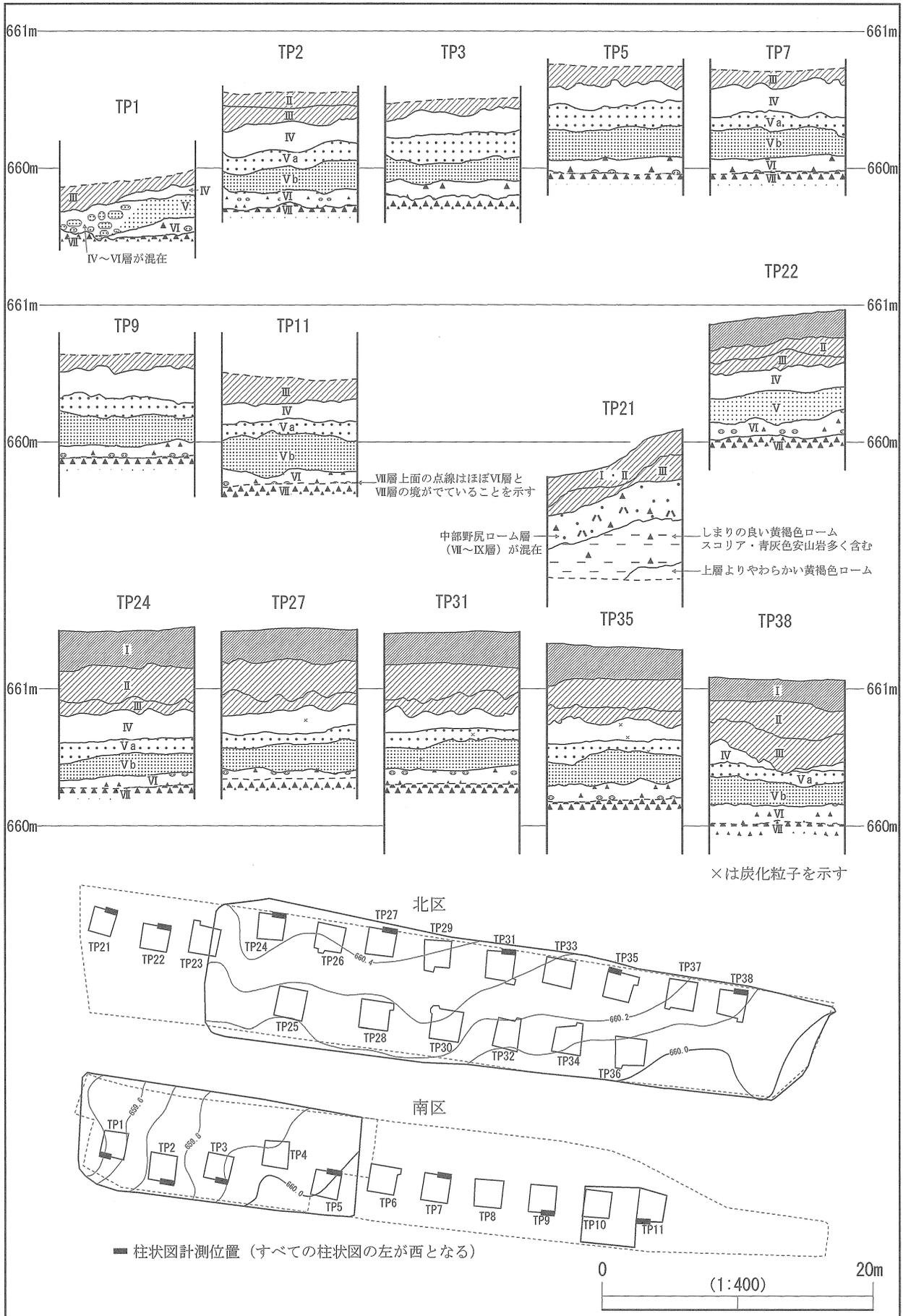
第4節 基本層序

1 基本層序

斜面および落ち際は堆積が薄く不安定となっているが、丘陵上の平坦面の堆積は安定しており、野尻湖遺跡群の中では厚い方になろう。

層名は地表より、ローマ数字でⅠ・Ⅱ・Ⅲ…の順でつけており、各層が細分される場合には上からa.b.c…としている。この層名は上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15等で用いた当センターでの信濃町内標準層序名に準拠している。

(註1) BLは整理段階で設定したため、石器の大部分は包含層、遺構外遺物の取り扱いで番号を付け、注記を行っている。



第5図 層序とVI層上面の地形

以下に各層の特徴を示す。土層注記はTP11の断面観察でおこなっている。なお、色調観察には新版土色帖を用いた。

- I層：表土 黒色腐植土層 厚さ25cm前後
- II層：柏原黒色火山灰層 Hue10YR2/3 貫ノ木遺跡など比較すると色調が明るい 厚さ約25cm
- III層：漸移層 モヤ層 Hue10YR4/2 色調は均質ではなく、黒色土とロームが混在しており、上部ほど黒色土の比率が高い 厚さ約20cm
- IV層：明黄褐色ローム層 Hue10YR6/6 粘性なくしまりが悪い 平均的な遺跡より層厚が薄く乱れが多い 厚さ15～20cm 上部野尻ローム層II上部～下部に対応
- V a層：黄褐色ローム層（黒色帯漸移層） Hue10YR5/6 IV層とV b層が混在 上半部にATの極大値があるとされている 厚さ10～15cm 上部野尻ローム層II最下部に対応
- V b層：褐色ローム層（黒色帯） Hue10YR4/6 粘性がややあり、締まりが良い 下部にはスコリアが多く V c層に対応すると思われる。 上部野尻ローム層Iの上部に対応
- VI層：黄褐色ローム層 Hue10YR5/8 粘性がややあり締まりが良い 赤褐色スコリアおよび青灰色安山岩の小礫が見られる
- VII層：赤褐色スコリア層 Hue2.5YR4/6 中部野尻ローム層IIIに対応

第5節 石器の器種分類

本書でおこなった石器の器種分類の基準をに示す。第1のレベルとして、石器は石器（製品）、石核、剥片・碎片に区分される。石器（製品）は剥片を素材とする剥片石器と礫そのものを素材とする礫石器に、その下位のレベルとして素材の縁辺を機能部とする石器、加工部位を機能部とする石器に分けられ、さらに下位のレベルとして個別の器種名が存在する。

1 素材の縁辺を機能部とする石器

剥片の持つ鋭い縁辺をそのまま刃部として利用する石器。大きくは基部が作り出されるナイフ形石器、組み合わせが予想される細石器、加工による形状変化が少ない石刃・貝殻状刃器等に分けられる。

(1) ナイフ形石器

剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器。台形石器もこの定義にあてはまるが、全体の形状で尖端を尖らせているものをナイフ形石器とした。

(2) 台形石器

剥片の鋭い縁辺を一部に残し、他の縁辺を細部加工した石器のうち、石器長軸（主軸）に直交もしくは斜交する刃部を持つ石器。基本的にはナイフ形石器の一部と考えるが、特徴的に存在しているため器種を分けた。AT降灰以前の時期を代表する「台形様石器」の一部や、AT降灰以降の「切出形石器」や「台形石器」と呼称されていた石器を含む。

(3) 折断剥片

剥片の鋭い縁辺と、意図的な折れ面により側縁が構成されている石器。意図的な折れと偶発的な折れとの区別が難しいため、本書では平面形状が台形石器に近いものを折断剥片として扱っている。

(4) 石刃

規則的に連続して剥離された、左右側縁が平行する細長い石器。そのものが使用される他、ナイフ形石器等の素材となる。連続性、規則性が認められないものは含まない。また、組成表上では稜付き剥片も石刃としている。

2 加工部を刃部とする石器

(1) 搔器

連続する加工により、厚い刃部が作り出されている石器。平面形は円形、拇指状を呈するものが多い。刃部の角度が45度以上のものを搔器、以下のものを削器とし分別することとする。

(2) 削器

連続する加工による刃部を持つ石器。形態や加工は様々である。

(3) 楔形石器

相対する2端に反対向からの剥離が認められる石器。剥離は加工だけではなく、使用の結果生じた可能性も考えられる。

(4) 斧形石器

石器の長軸と平行する2側縁に主として平坦な加工が施され、石器の長軸に直交するような刃部を持つ石器。刃部には研磨が施されるものが多い。従来、「局部磨製石斧」と呼ばれているものがこれに含まれるが、研磨の認められないものや、用途が木材の伐採以外にもあったと考えられる点から斧形石器という呼称を用いる。剥片ではなく礫を素材とする斧形石器も存在するため、礫石器の範疇に含まれるものがある。

3 礫石器

(1) 敲石

人為的な敲打痕のある石器。石器製作のためのハンマーと思われる。

4 剥片・碎片・石核

(1) 2次加工のある剥片

2次加工が認められるが器種名がつけられない石器。製品の破片で、器種名が判別できなかったものが大半を占める。

(2) 微細剥離のある剥片

微細な剥離を有する剥片。使用の痕跡の可能性が考えられる。

(3) 剥片

石核や原石から意図的に打ちはがされた石片。

(4) 碎片

剥片剥離時や石器の2次加工をおこなう時に生じる非目的的な細かい石屑。剥片との厳密な区別が難しく、本書では1cm以下のものを碎片とした。

(5) 石核

剥片が剥離された石塊。

第2章 旧石器時代

第1節 旧石器時代の概要

1 地形と遺物の分布

調査区は鍋山から北に向かつてのびる舌状の平坦な尾根の上、標高約660mに位置している。尾根は南北約200m、東西約100mの平坦部を持ち、当センター調査区と町教委調査区が南北中心付近を横断している。東西の見晴らしがよく、東は黒姫山から裾に広がる低地部を一望でき、西は日向林B遺跡の東側に広がる低地部の南端付近を見下ろせる。

調査区のほぼ全域が遺物分布域となっており、調査区外に遺物分布域が広がることが予想される。調査区の西側は斜面落ち際となるためこれ以上の遺物分布域のひろがりはないと思われるが、東側は町教委調査区となっており、すでに遺物分布域が確認されている。また、調査区の南北隣接地と、現道切り通しのある南北調査区間は調査区壁際まで密に遺物が分布しているため、確実に遺物分布域が広がっていたものと思われる。

これまで調査がおこなわれた範囲は遺跡のごく一部に限られるため、遺跡全体像はかなり大規模になることが予想される。

2 遺物の出土層位 (第2表)

482点の石器はⅡ層からⅥ層で検出されており、Ⅴa層が最も多い。表中のⅣ層は、上部・中部・下部・一括に分層されており、Ⅳ層全体では165点でⅤa層の146点を上回るが、上下に偏ることなく分散して分布している。そのため、全体的に垂直方向への拡散が大きい傾向があるといえる。

そこで、比較的2次的移動の少ないと思われる重量10g以上の石器の分布を第3表に示した。その結果、南区にあるBL7～11に関しては、Ⅴa層に集中が読み取れる。また、BL2・6でも上下に散るものの、Ⅴa層前後に遺物が集中している。また、BL3～5では依然として、Ⅳ層からⅤb層に分散している。BL1ではⅣ層下部の分布がなくなるため、他のブロックより層位的に上位であることが予想される。このようにブロックにより層位分布の状況は異なるため、すべてのブロックが同時期とはいえない状況にある。

石器の平面的分布にはまとまりがあり、ブロックとして認識できる。また、石材構成に矛盾もないため、各ブロック内の大部分の石器は同一時期のものが上下に拡散していると考えるのが妥当であろう。遺物が下層へ沈み込む場合が少ない事を考慮すると、BL1以外のブロックの生活面はⅤa層上部からⅤb層の上面付近にあると評価できようか。

上信越自動車道の調査では、ATのピークがⅣ層下部からⅤa層にあるとの分析結果が得られており(長野県埋蔵文化財センター2000)、野尻湖発掘調査団の見解とも一致している。野尻湖遺跡群内でのロームの堆積は、武蔵野台地・相模野台地に比べると薄い。そのため、本石器群が包含されるⅤa層はAT降灰前後であり、武蔵野台地立川ローム層に対比すると、Ⅶ層～Ⅴ層の幅を持つと思われる。

891点検出された礫の多くは3基の礫群に属する。これらはⅣ層に分布するものが圧倒的に多く、Ⅳ層堆積中の礫群と評価することができる。そのため、AT降灰以降に残されたこととなり、石器群と時期は異なる。

種別	遺構番号	II	III	IV	IV上	IV中	IV下	Va	Vb	VI	攪乱	合計	比率
石器	BL1		3		2	6	1		1			13	2.7%
	BL2		8		13	9	15	10	6			61	12.7%
	BL3		3		6	7	8	11	5		2	42	8.7%
	BL4		4		5	3		5	3		1	21	4.4%
	BL5		2		2	4	5	6	3			22	4.6%
	BL6		8		2	3	5	7	19		5	49	10.2%
	BL7		20	2	19	13	18	72	29	1	1	175	36.3%
	BL8		1		1	4		12	14		12	44	9.1%
	BL9		3		1	1	1	12	4			22	4.6%
	BL10		3		1		1	4				9	1.9%
	BL11		1		1			6	2			10	2.1%
	SH1			2								2	0.4%
	SH3		1									1	0.2%
	外	1	1		2	1	1	1	3		1	11	2.3%
合計		1	58	4	55	51	55	146	89	1	22	482	
比率		0.2%	12.0%	0.8%	11.4%	10.6%	11.4%	30.3%	18.5%	0.2%	4.6%		
礫	BL1		3		10	1						14	1.6%
	BL2		8		13	18	7	1	2			49	5.5%
	BL3		2		4	9	1	2				18	2.0%
	BL4	1	2		1	2		1	2			9	1.0%
	BL6							1	2		1	4	0.4%
	BL7							1				1	0.1%
	BL8	1										1	0.1%
	BL9				1				1			2	0.2%
	SH1	1	13	261		1		13	2			291	32.7%
	SH2		12	172		2	4	5	1		1	197	22.1%
	SH3		8	249	1	2	2	10				272	30.5%
	外		2		7	10	7	4	1		2	33	3.7%
	合計	3	50	682	37	45	21	38	11	0	4	891	
	比率	0.3%	5.6%	76.5%	4.2%	5.1%	2.4%	4.3%	1.2%	0.0%	0.4%		

第2表 遺構別出土層位分布

遺構番号	III	IV	IV上	IV中	IV下	Va	Vb	攪乱	合計	比率
BL1	1		1	2	1				5	3.5%
BL2	3		2	2	6	6	4		23	16.2%
BL3			1	3	3	5	1		13	9.2%
BL4			4	3		3	2		12	8.5%
BL5	1			1	2	2	1		7	4.9%
BL6	3			3	1	4	9	3	23	16.2%
BL7	3		3	4	1	17	6		34	23.9%
BL8						2	1		3	2.1%
BL9				1		4			5	3.5%
BL11						6	2		8	5.6%
SH1		2							2	1.4%
SH3	1								1	0.7%
外	1		1		1	1	2		6	4.2%
合計	13	2	12	19	15	50	28	3	142	
比率	9.2%	1.4%	8.5%	13.4%	10.6%	35.2%	19.7%	2.1%		

第3表 遺構別10g以上の石器出土層位分布

3 器種組成 (第4・5表)

石器482点が出土した。器種組成はナイフ形石器3点、ナイフ形石器破片1点(ナイフ形石器と接合)、台形石器4点、折断剥片1点、搔器2点、削器3点、楔形石器15点、石刃30点、2次加工のある剥片4点、微細剥離のある剥片8点、石核17点、剥片300点、碎片85点、斧形石器2点、磨石1点、敲石5点、原石1点となった。

すべてが同時期とはいえない出土状況から、組成も1時期の様相を表すものではない。しかし、前記したとおり大部分は近い時期に残されたと考えられる。

遺構番号	ナイフ形石器	ナイフ破片	台形石器	折断剥片	搔器	削器	楔形石器	石刃	2次加工剥片	微細剥離剥片	石核	剥片	碎片	斧形石器	磨石	敲石	原石	合計	比率
BL1					1						1	8	3					12	2.5%
BL2						1	1	1	1	2	2	47	6					58	12.0%
BL3	1						11	1	1	1	1	23	2			1		42	8.7%
BL4						1				1	2	16	1					19	3.9%
BL5						1	1					17	2			1		22	4.6%
BL6	1		1							1	4	38	3			1		49	10.2%
BL7	1	1	3	1	1		1	22	1	3	6	92	43					177	36.7%
BL8												22	21	1				44	9.1%
BL9								2			1	16	2				1	22	4.6%
BL10								2				5	2					9	1.9%
BL11								2				7		1				10	2.1%
SH1															1	1		2	0.4%
SH3																1		1	0.2%
外							1		1				9					15	3.1%
合計	3	1	4	1	2	3	15	30	4	8	17	300	85	2	1	5	1	482	
比率	0.6%	0.2%	0.8%	0.2%	0.4%	0.6%	3.1%	6.2%	0.8%	1.7%	3.5%	62.2%	17.6%	0.4%	0.2%	1.0%	0.2%		

註：ナイフ破片＝ナイフ形石器破片、2次加工剥片＝2次加工のある剥片、微細剥離剥片＝微細剥離のある剥片

第4表 遺構別石器器種組成

石材	ナイフ形石器	ナイフ破片	台形石器	折断剥片	搔器	削器	楔形石器	石刃	2次加工剥片	微細剥離剥片	石核	剥片	碎片	斧形石器	磨石	敲石	原石	合計	比率
黒曜石	3	1	2				3	14	2	6	7	136	67					241	50.0%
無斑晶質安山岩					2	1		6			1	65	11					86	17.8%
凝灰岩						1	1		1		5	50	4					62	12.9%
珪質頁岩				1			9	5		1	1	14	1					32	6.6%
玉髓						1	2					14						17	3.5%
安山岩									1		3	8	1		1	1		15	3.1%
チャート			1							1		8	1			1	1	13	2.7%
緑色凝灰岩								3				2		1				6	1.2%
珪質凝灰岩			1					1				1						3	0.6%
砂岩																	3	3	0.6%
凝灰質頁岩								1				1						2	0.4%
蛇紋岩														1				1	0.2%
石英斑岩												1						1	0.2%
合計	3	1	4	1	2	3	15	30	4	8	17	300	85	2	1	5	1	482	
比率	0.6%	0.2%	0.8%	0.2%	0.4%	0.6%	3.1%	6.2%	0.8%	1.7%	3.5%	62.2%	17.6%	0.4%	0.2%	1.0%	0.2%		

註：ナイフ破片＝ナイフ形石器破片、2次加工剥片＝2次加工のある剥片、微細剥離剥片＝微細剥離のある剥片

第5表 石材別石器器種組成

177点の石器が検出された南区のBL7では、22点の石刃が組成し、ナイフ形石器、台形石器が伴っている。石刃石核も組成していることから、石刃製作の痕跡が残るブロックとして評価できる。また、BL7に隣接し層位分布や石材組成に共通性が見られるBL8には斧形石器が伴っている。場所がやや離れるもののBL11でも斧形石器が検出されている。BL7の石刃石器群に斧形石器が共伴する可能性が高いといえよう。

北区では定形的な石器が少ないため特徴がつかみづらい。そのような中BL3で楔形石器が11点も組成している点が注目される。

4 石材組成 (第6・7表)

石器の石材組成は黒曜石241点、無斑晶質安山岩86点、凝灰岩62点、珪質頁岩32点、玉髓17点、安山岩15点、チャート13点、緑色凝灰岩6点、凝灰質頁岩2点、珪質凝灰岩3点、砂岩3点、蛇紋岩1点、石英斑岩1点となっている。石材分類の詳細については第3節2石材・母岩分類の項に記述する。

北区で無斑晶質安山岩、凝灰岩が主体を占め、南区では黒曜石が主体となっている。これら3種の石材には石核、剥片、碎片が数量的にまとまって見られ、剥片剥離がおこなわれている痕跡が見られる。それ以外の石材は数量が少ないため単独で持ち込まれたもの、あるいは剥片剥離の主体が調査区外にあるものと思われる。

遺構番号	黒曜石	無斑晶質安山岩	凝灰岩	珪質頁岩	玉髓	安山岩	チャート	緑色凝灰岩	凝灰質頁岩	珪質凝灰岩	砂岩	蛇紋岩	石英斑岩	合計	比率
BL1	1	9	1			1			1					13	2.7%
BL2	2	40	9	3	5	2								61	12.7%
BL3	10	1	3	17		8	3							42	8.7%
BL4	2	5	8	1		1	3						1	21	4.4%
BL5	1	8	4		6	1	1				1			22	4.6%
BL6	8	1	32		5		2				1			49	10.2%
BL7	142	19	3	2			1	5	1	2				175	36.3%
BL8	43							1						44	9.1%
BL9	17		2		1		2							22	4.6%
BL10	8			1										9	1.9%
BL11				8						1		1		10	2.1%
SH1						1					1			2	0.4%
SH3						1								1	0.2%
外	7	3					1							11	2.3%
合計	241	86	62	32	17	15	13	6	2	3	3	1	1	482	
比率	50.0%	17.8%	12.9%	6.6%	3.5%	3.1%	2.7%	1.2%	0.4%	0.6%	0.6%	0.2%	0.2%		

第6表 遺構別石器石材数量組成

遺構番号	黒曜石	無斑晶質安山岩	凝灰岩	珪質頁岩	玉髓	安山岩	チャート	緑色凝灰岩	凝灰質頁岩	珪質凝灰岩	砂岩	蛇紋岩	石英斑岩	合計	比率
BL1	18.19	51.42	3.10			118.29			31.01					222.01	3.2%
BL2	7.20	553.55	167.87	109.49	18.84	6.93								863.88	12.5%
BL3	57.34	15.71	37.89	95.41		175.05	301.12							682.52	9.9%
BL4	10.17	54.48	230.13	3.91		38.25	78.30						16.74	431.98	6.2%
BL5	0.88	83.48	63.17		27.03	1.53	5.85				115.32			297.26	4.3%
BL6	30.80	24.63	802.28		24.95		7.54				119.20			1009.40	14.6%
BL7	833.89	349.63	8.27	8.97			5.36	95.04	19.13	77.31				1397.60	20.2%
BL8	85.74							68.12						153.86	2.2%
BL9	103.66		21.20		1.62		194.53							321.01	4.6%
BL10	27.45			4.05										31.50	0.5%
BL11				313.34						42.89		110.18		466.41	6.7%
SH1						180.24					362.67			542.91	7.9%
SH3						350.95								350.95	5.1%
外	66.25	46.78					29.02							142.05	2.1%
合計	1241.57	1179.68	1333.91	535.17	72.44	871.24	621.72	163.16	50.14	120.20	597.19	110.18	16.74	6913.34	
比率	18.0%	17.1%	19.3%	7.7%	1.0%	12.6%	9.0%	2.4%	0.7%	1.7%	8.6%	1.6%	0.2%		

重量単位 g

第7表 遺構別石器石材重量組成

遺構番号	蓼科冷山群	和田鷹山群	和田小深沢群	和田土屋橋西群	和田土屋橋南群	和田土屋橋北群	和田高松沢群	諏訪星ヶ台群	風化	合計	比率
BL1	1									1	0.6%
BL2		1			1					2	1.2%
BL3	3					1			6	10	5.8%
BL4	2									2	1.2%
BL5									1	1	0.6%
BL6			3						4	7	4.0%
BL7	62	33	1				2		1	99	57.2%
BL8	19	1							2	22	12.7%
BL9	13	3								16	9.2%
BL10	1	5								6	3.5%
外	3	2			1		1			7	4.0%
合計	104	48	1		2	1	1	2	11	173	
比率	60.1%	27.7%	0.6%		1.2%	0.6%	0.6%	1.2%	6.4%	1.7%	

第8表 遺構別黒曜石産地数量組成

遺構番号	蓼科 冷山群	和田 鷹山群	和田 小深沢群	和田 土屋橋西群	和田 土屋橋南群	和田 土屋橋北群	和田 高松沢群	諏訪 星ヶ台群	風化	合計	比率
BL1	18.19									18.19	1.5%
BL2		1.90		5.30						7.20	0.6%
BL3	15.61					0.77		40.96		57.34	4.7%
BL4	10.17									10.17	0.8%
BL5								0.88		0.88	0.1%
BL6		12.52						17.75		30.27	2.5%
BL7	387.02	377.31	26.76				24.89		2.09	818.07	67.2%
BL8	71.58	5.91							1.91	79.40	6.5%
BL9	79.69	23.61								103.30	8.5%
BL10	2.59	24.50								27.09	2.2%
外	23.45	10.46		30.83		1.51				66.25	5.4%
合計	608.30	456.21	26.76	36.13	0.77	1.51	24.89	59.59	4.00	1218.16	
比率	49.9%	37.5%	2.2%	3.0%	0.1%	0.1%	2.0%	4.9%	0.3%		

重量単位 g

第9表 遺構別黒曜石産地重量組成

黒曜石では産地推定がおこなわれており、すべての黒曜石が長野県内産と推定されている（第8・9表：詳細は第4章参照）。碎片を除く器種を分析対象としており、162点から産地群が推定された。最も多いのは蓼科冷山群で103点、次いで和田鷹山群の44点となっており、その他は10点以下となっている。

上信越自動車道建設に伴う調査資料では10遺跡、約12,000点について同様の分析をおこなっているが、蓼科冷山群が主体となったのは上ノ原 I 石器文化で全体の5割強を占めていた例のみである。蓼科冷山群の原石採集地として麦草峠や冷山が知られているが、これら産地は和田エリアおよび諏訪エリアのより良質な黒曜石採集地の同一方向でより遠い。そのため、なぜ蓼科冷山群の黒曜石が主体となるのか注目される。

第2節 旧石器時代の遺構

1 遺物の分布

空白部に囲まれている複数の石器の集まりをブロックとして認定した。そのため本書で認定したブロックはあくまで石器の平面的まとまりであり、住居跡等の遺構的性格や遺物の同時性を示すものではない。ただし、分析を進めた結果として、ブロックが石器製作場等の意味を持つことが推定されることはある。

石器のブロック同様に礫の平面的まとまりを礫群とした。

北区に第1～6号ブロックおよび第1～3号礫群、南西区に第7～10号ブロック、南東区に第11号ブロックの合計11ヶ所のブロック、3基の礫群を設定した。

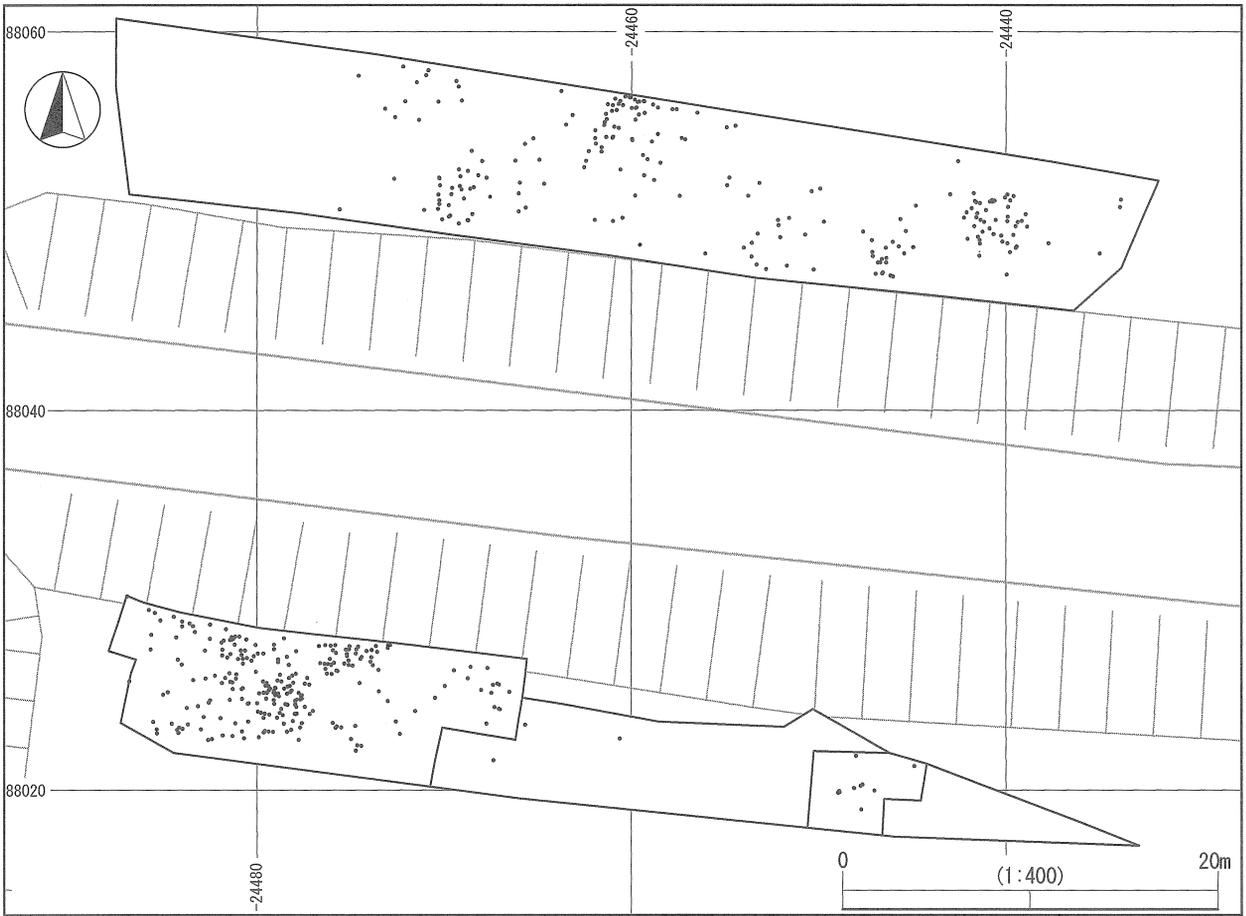
(1) 石器の分布（第6・7図）

北区に217点、南西区252点、南東区に10点、南西区と南東区の間は1点、出土位置不明2点の石器が検出されている。これら石器の平面的まとまりを基に北区に6ヶ所、南西区に4ヶ所、南東区に1ヶ所のブロックを設定した（第7図）。

北区は剥片剥離の痕跡が見られるものの、作業頻度は低いようで石器分布密度は低い。一方南西区は分布密度が高く、盛んに剥片剥離作業がおこなわれている。南東区の石器は単独で持ち込まれたと思われるもののみで構成されており、石器製作の痕跡は残されていない。

1. 黒曜石の分布（第8図）

分布は南西区に大きく偏っている。北区の黒曜石製石器の多くは製品、もしくは素材としての利用が想定されるものが多く、単独で持ち込まれたと考えられる。



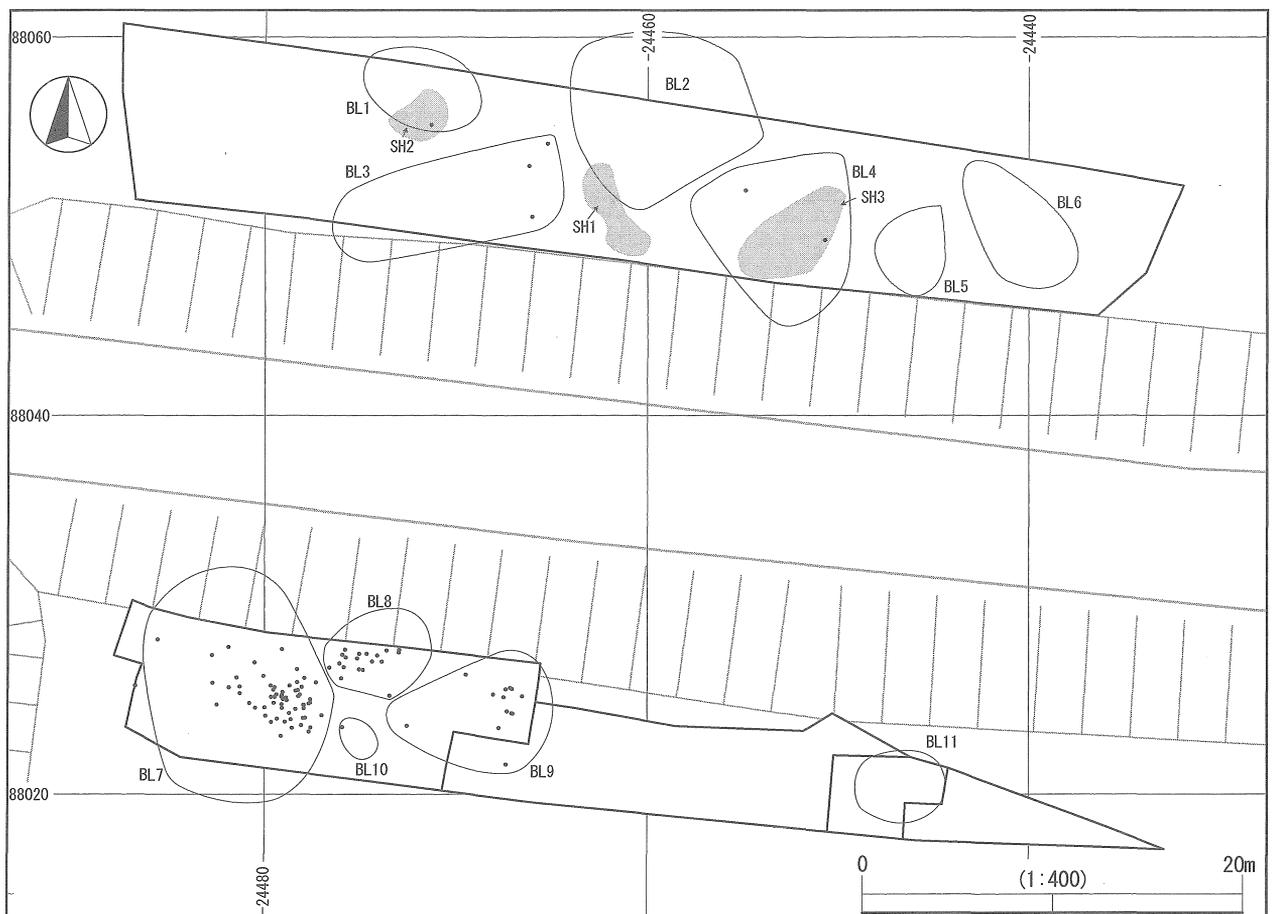
第6図 石器分布図（石器全点1）



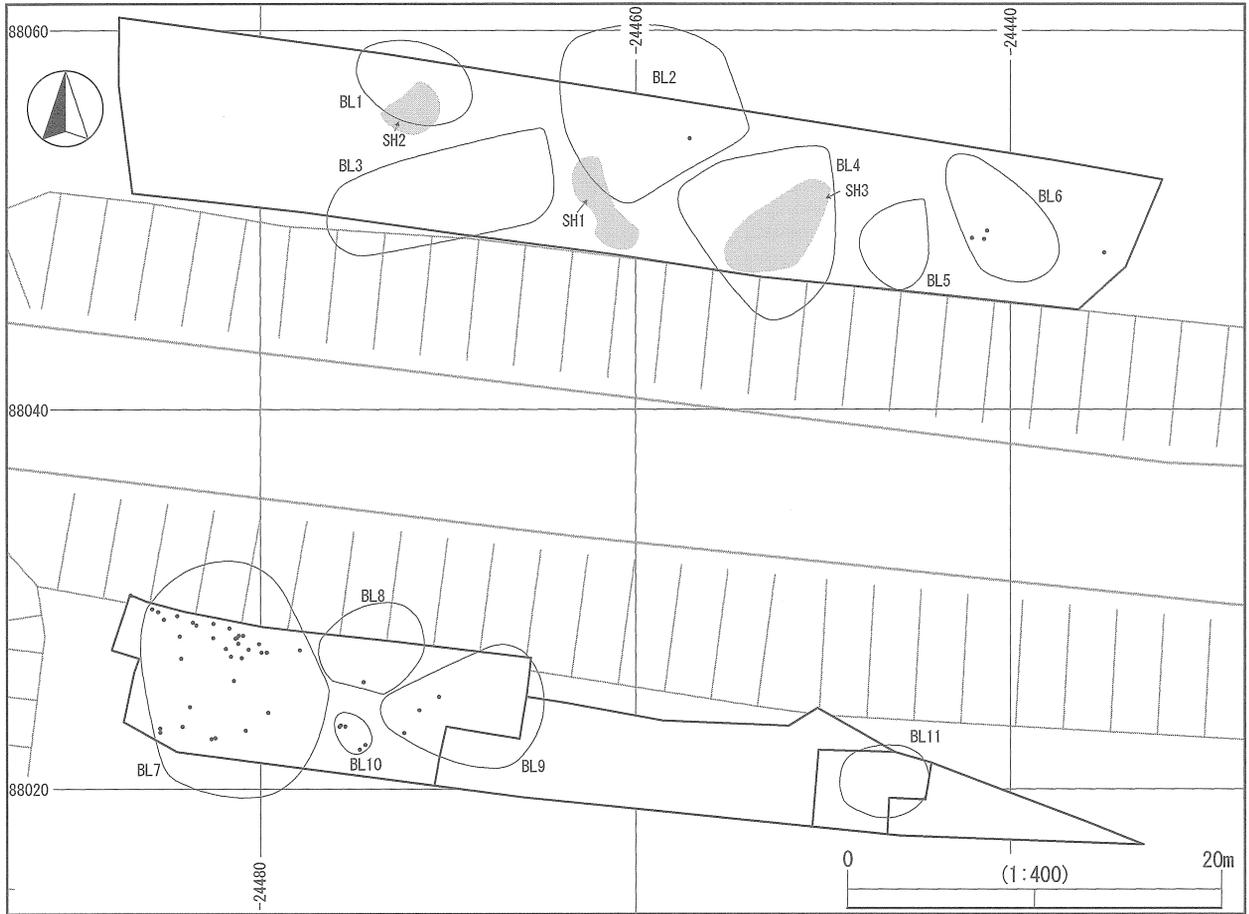
第7図 石器分布図（石器全点2）



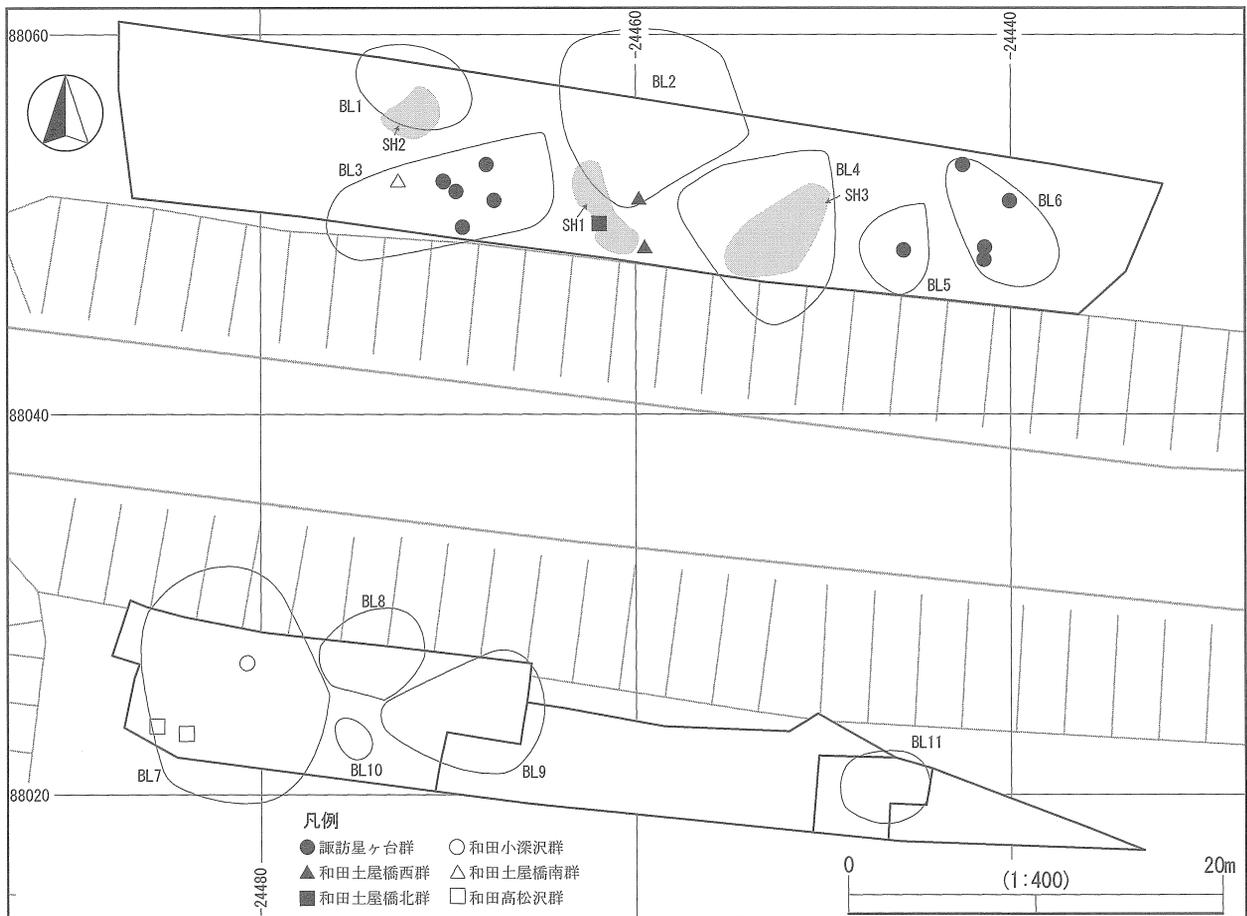
第8図 石器分布図（黒曜石）



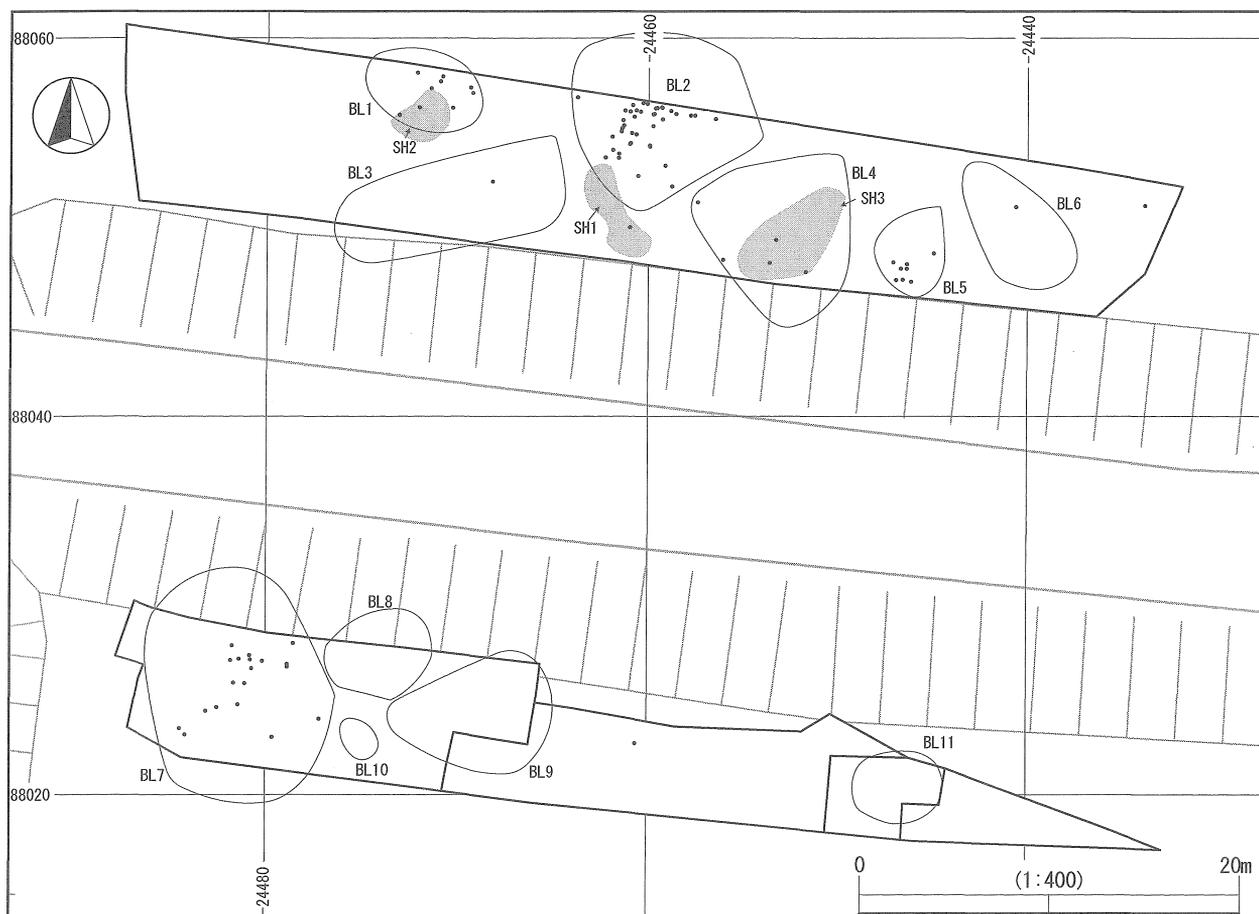
第9図 石器分布図（黒曜石・蓼科冷山群）



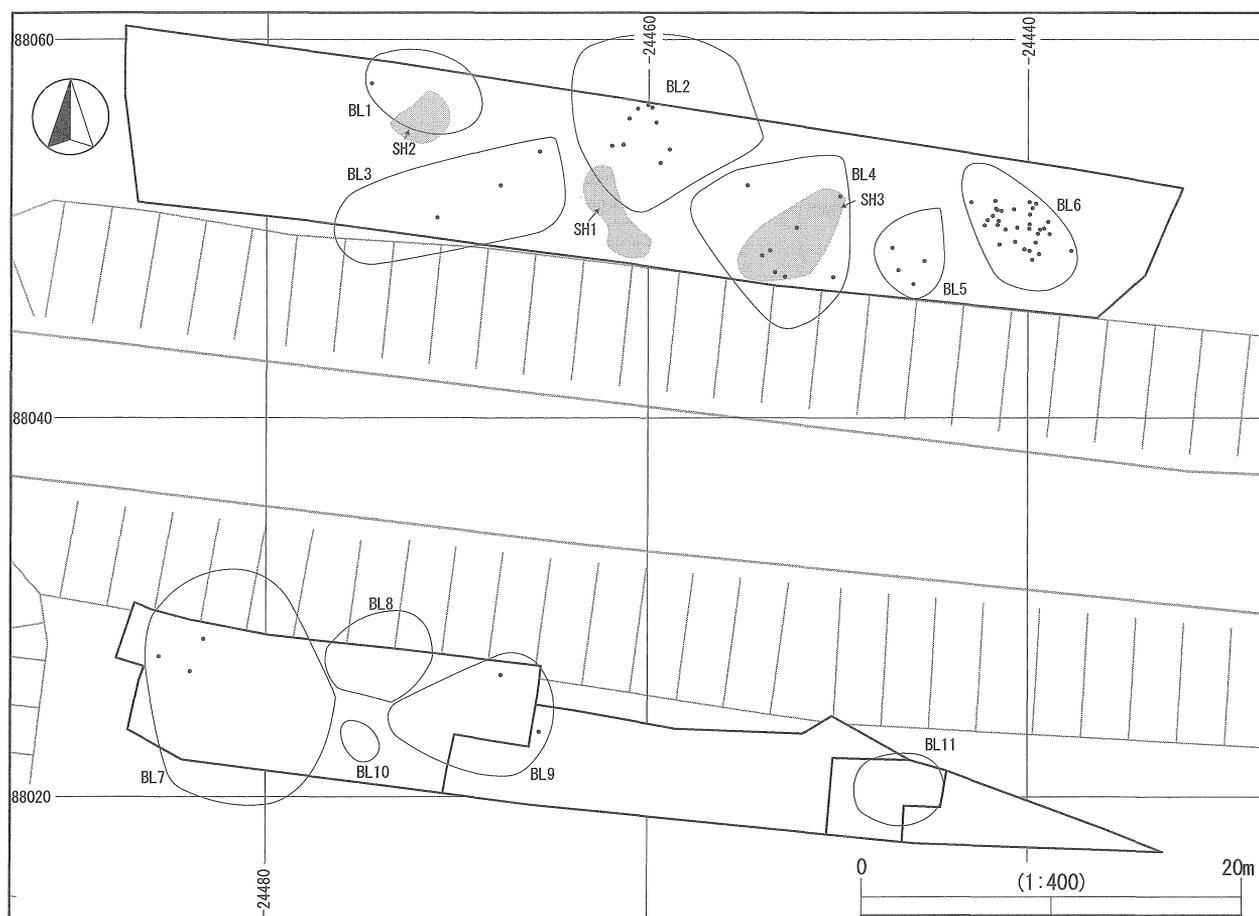
第10図 石器分布図（黒曜石・和田鷹山群）



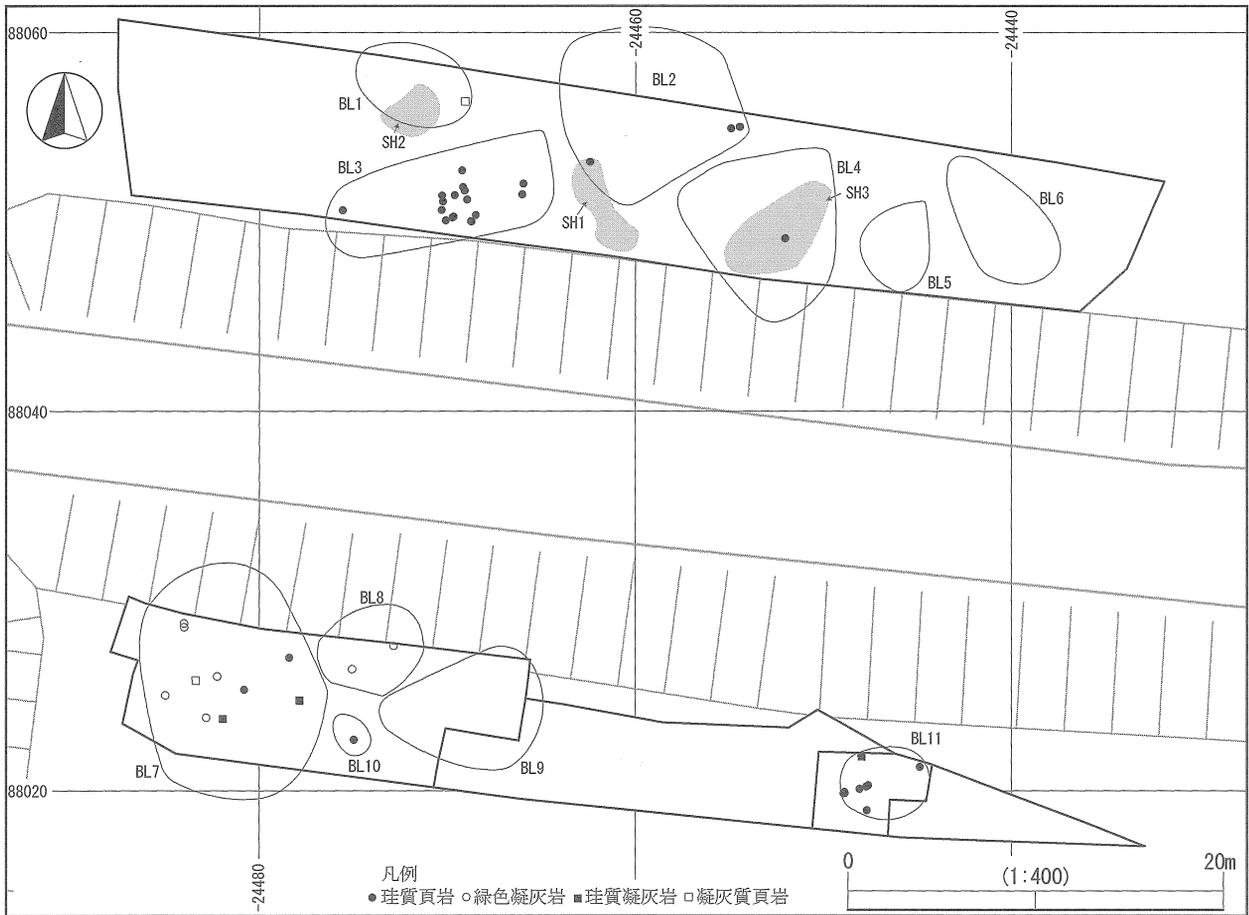
第11図 石器分布図（黒曜石・その他産地群）



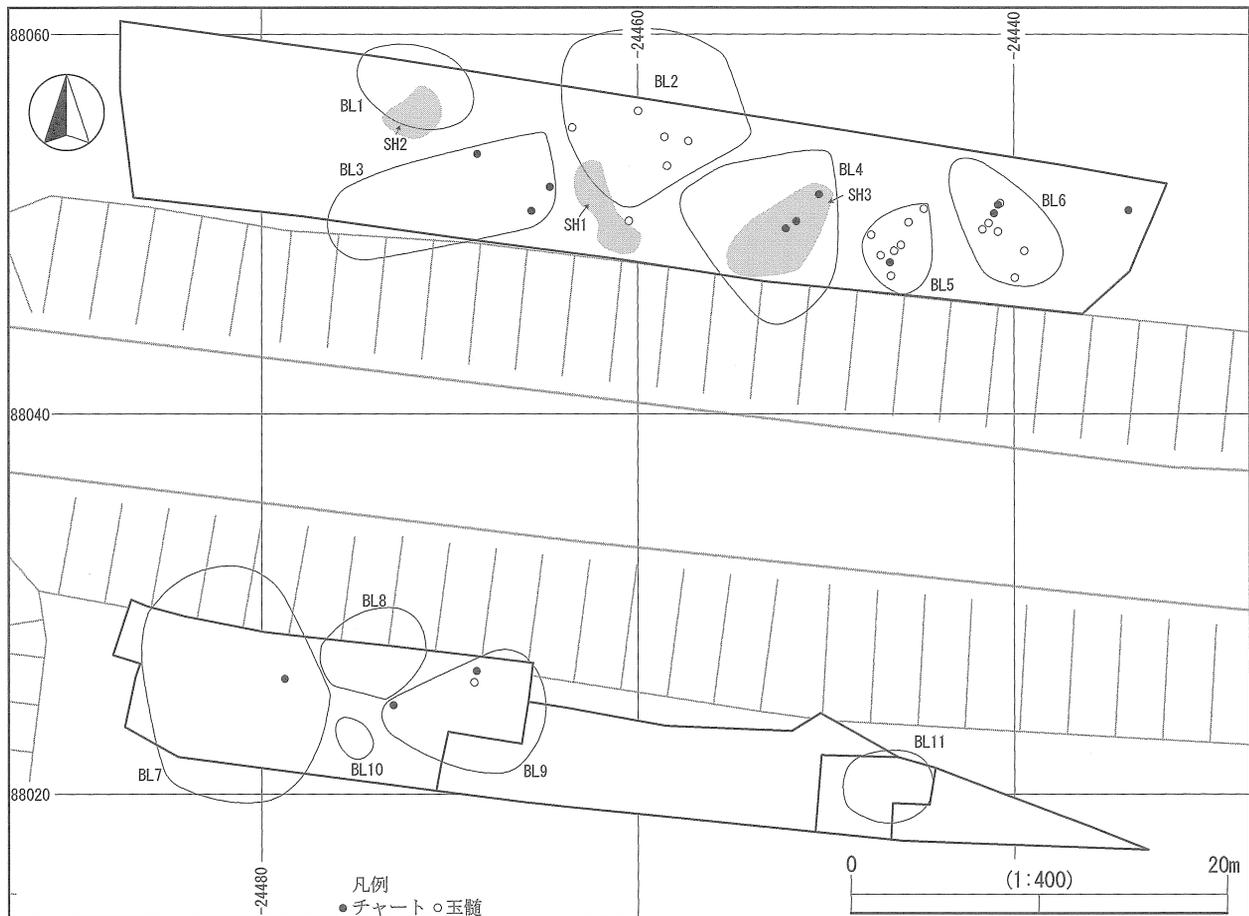
第12図 石器分布図（無斑晶質安山岩）



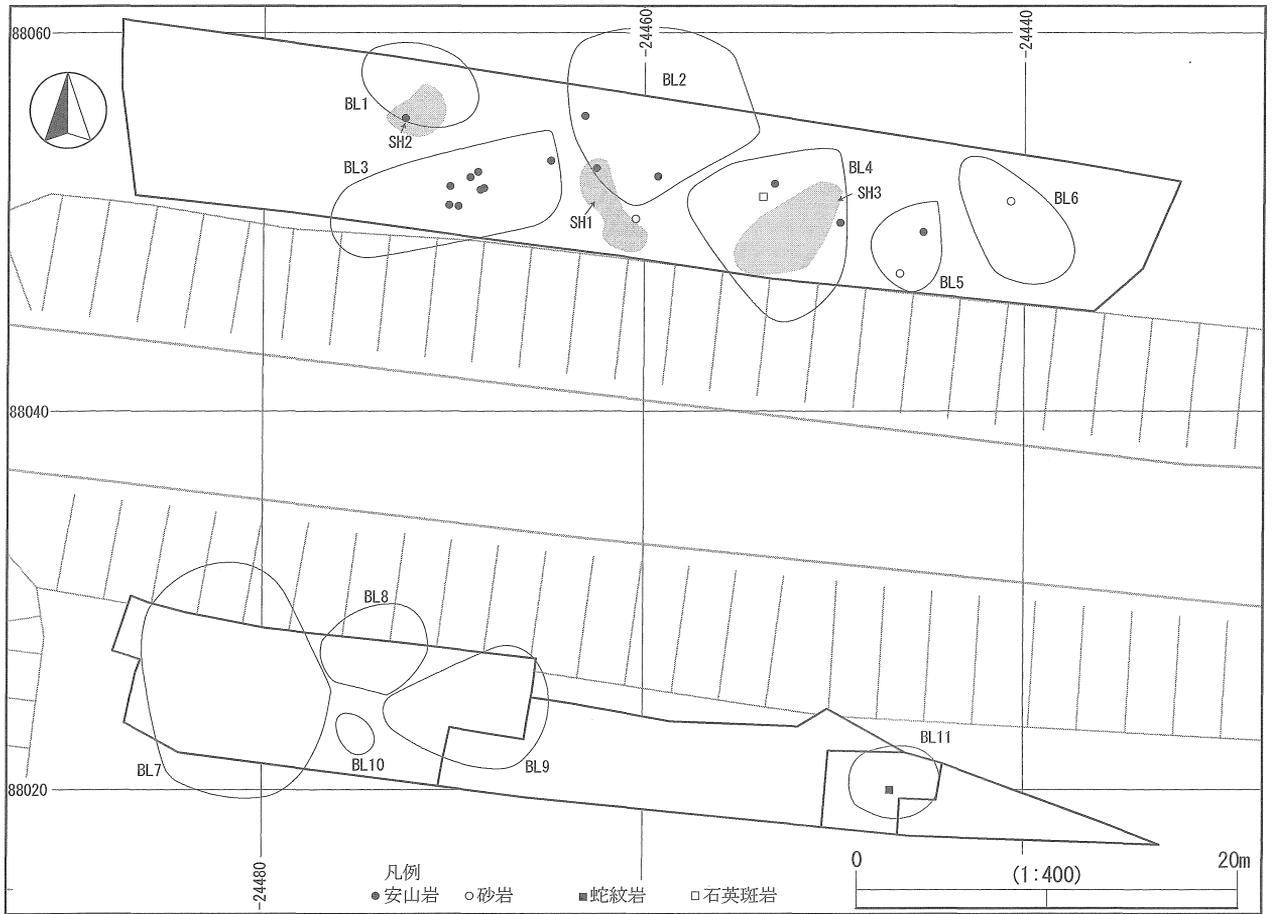
第13図 石器分布図（凝灰岩）



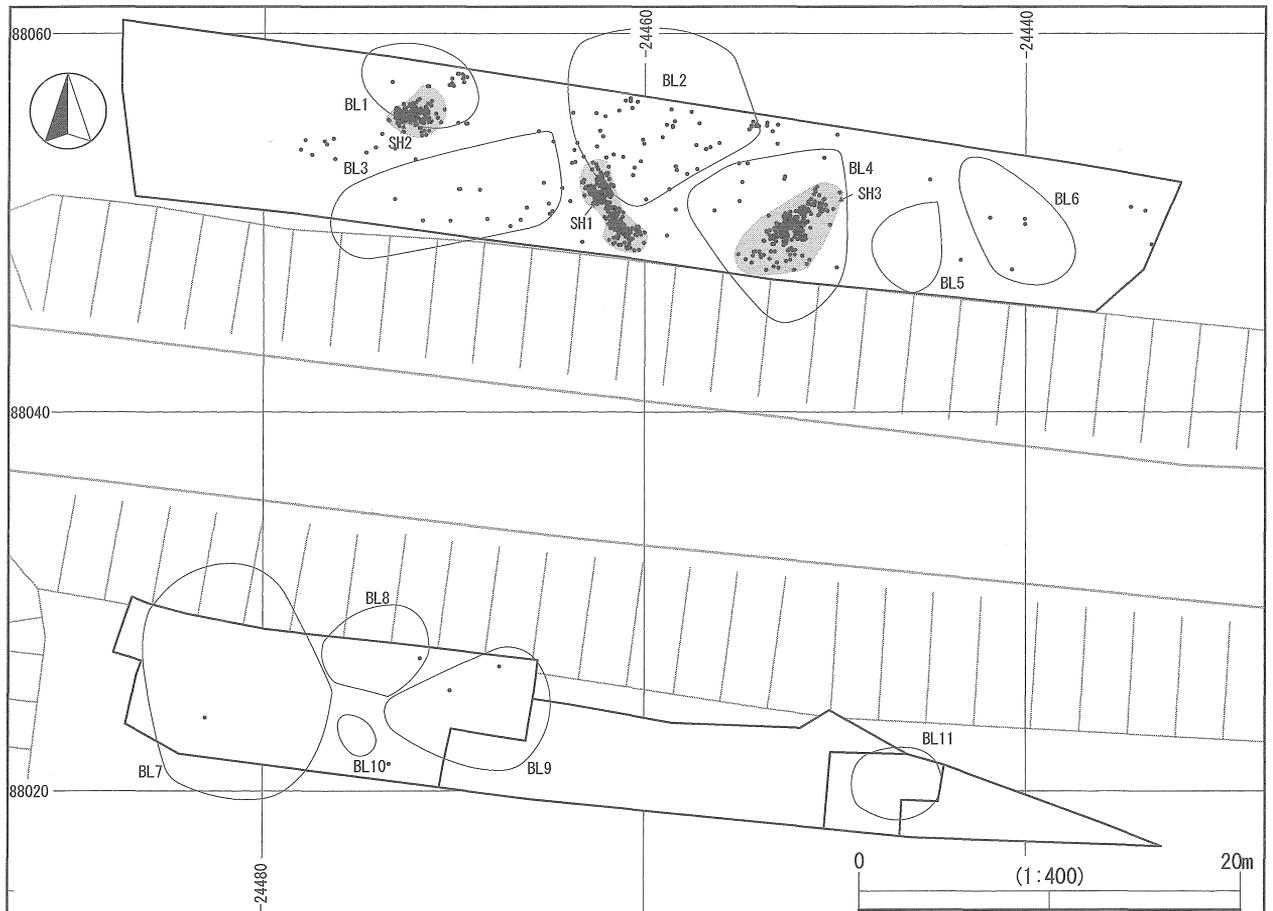
第14図 石器分布図（頁岩・凝灰岩類）



第15図 石器分布図（チャート・玉髓）



第16図 石器分布図（その他石材）



第17図 礫分布図（礫全点）

南西区では剥片、碎片、石核の数も多く剥片剥離がおこなわれた痕跡が残されている。南東区では黒曜石が検出されなかった。

碎片を除く器種のほとんどの黒曜石で蛍光X線分析装置を用いた産地推定がおこなわれている。推定された産地群ごとの分布図を第10～12図に示す。単独出土が多い北区のブロックにおいて、諏訪星ヶ台群などの数量の少ない産地群が分布する特徴が見られる他は、特に産地群の違いによる分布の偏りはないと判断されよう。

2. 無斑晶質安山岩の分布 (第12図)

BL1・BL2・BL5で主体となっている。BL7に分布する数量も多いが、こちらでは黒曜石が主体となるため比率は低い。

3. 凝灰岩の分布 (第13図)

BL6で主体となる他は、散在している。BL6では剥片剥離の痕跡が見られるものの規模は小さい。

4. その他の石材 (第14～16図)

珪質頁岩・緑色凝灰岩・珪質凝灰岩・凝灰質頁岩の分布を第14図、チャート・玉髓の分布を第15図、その他の石材を第16図に示す。これらの石材での剥片剥離の痕跡は遺跡内にほとんど残されていない。

(2) 礫の分布 (第17図)

圧倒的に北区に偏り、南区では5点検出されたにすぎない。これらの礫は自然状態では地山中に存在しないため、人為的に持ち込まれたと思われる。

北区に3基の礫群が存在し、礫群周囲および、礫群に隣接するブロック範囲内にも礫の散らばりが認められ、礫群礫との関係が予想される。しかし、礫群検出層序がIV層なのに対し、V a層以下で検出される礫もあるため、すべての礫が礫群に関連するとはいえない。

2 ブロック

(1) 第1号ブロック (第18図)

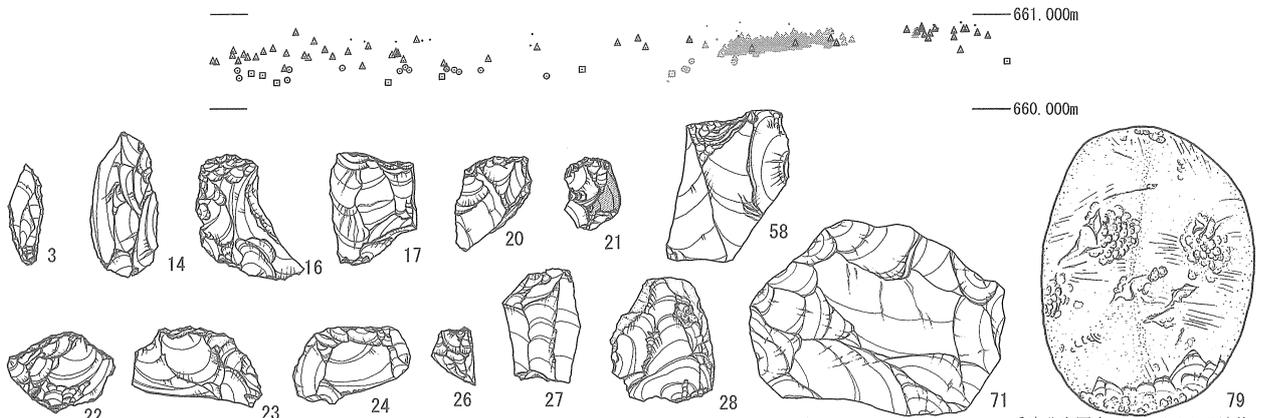
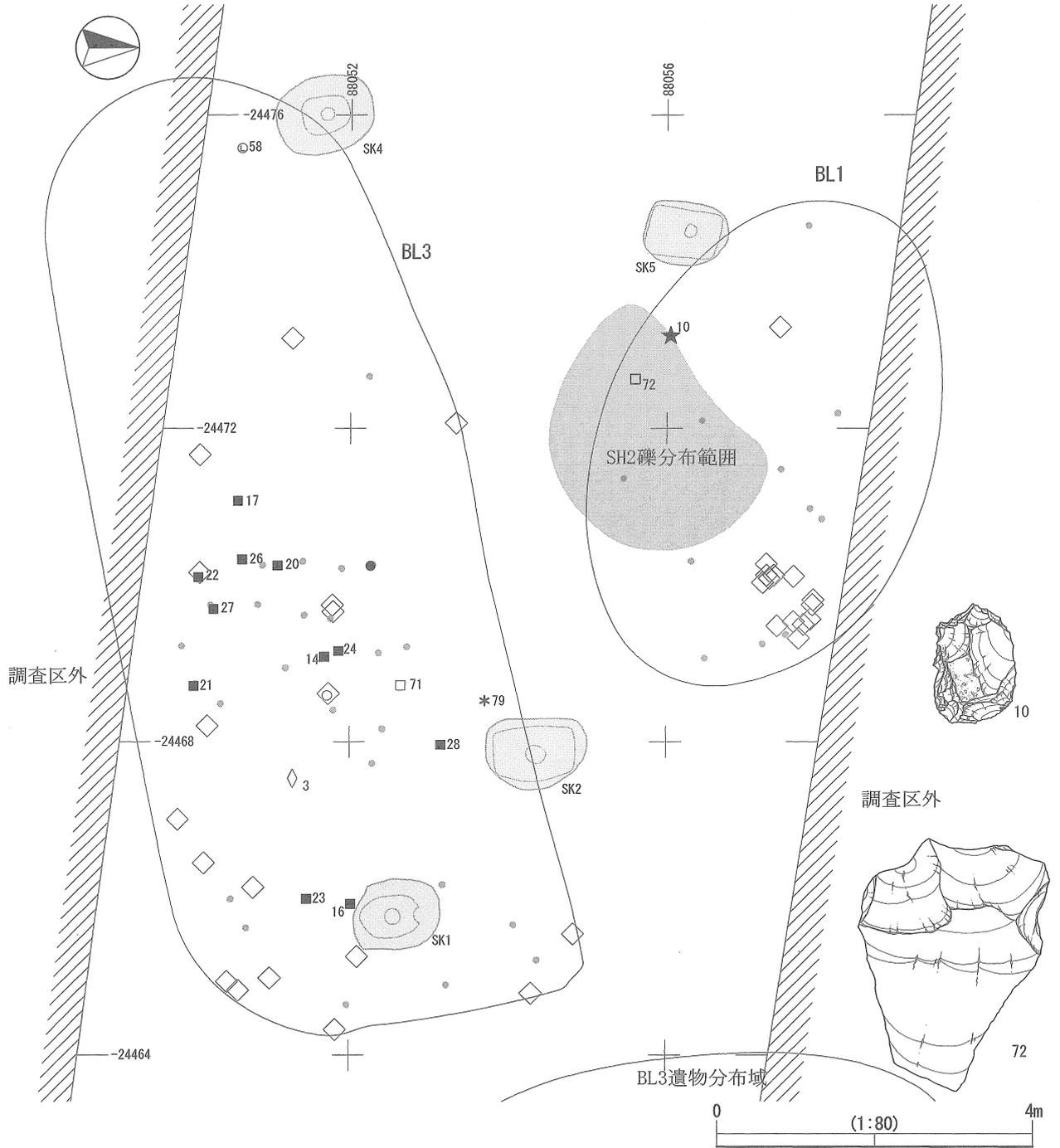
北区西端に位置し、X=88057, Y=-24472座標付近を中心に北-南約6m、東-西約4mの楕円形の広がりを持つ。西側は尾根下方に続く斜面となっており、遺物の分布が途切れるが、北側には調査区境があり調査区外に遺物分布域が広がる可能性が考えられる。遺物数が少なく散漫な状況を示しているため、遺物分布域の主体が北側の調査区外にある可能性も考えられる。南に第3号ブロックがありその間には約2mの遺物空白部が存在する。また、第2号礫群の遺物分布域の大部分が本ブロックの遺物分布域と重なっている。南西縁に接している第5号土坑による攪乱の影響はほとんどない。

III層からV b層に遺物が分布しておりIV層が最も多い。10g以上の石器に限定すると、V層以下の遺物はなくなるため、本ブロックの生活面はIV層中にあるといえよう。しかし、石器と礫で比較すると石器がIV層中部に集中するのに対して礫はIV層上部が多くなっている。第2号礫群の出土層位は大部分がIV層一括になっているが、垂直分布を見ると上半に集中しているようである。このように本ブロックの礫は第2号礫群と関連があることが予想されるが、石器に関してはやや深い層に集中する傾向があり、時期が異なる可能性が残される。

石器13点、礫14点が検出されている。14点の礫のうち13点はブロック東端に集中しており、小規模な礫群もしくは配石的な分布をしめしている。

器種組成は搔器1点、石核1点、剥片8点、碎片3点となっている。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少ないため、剥片剥離がおこなわれた痕跡が残されているとはいえない。1点の搔器は典型的なものとは

BL1・BL3



第18図 BL1・BL3 遺物分布図

* 垂直分布図中のアミはSH2の遺物

異なり、時期や性格付けができるような器種ではない。石材は無斑晶質安山岩、黒曜石、凝灰岩、安山岩、凝灰質頁岩が見られ、無斑晶質安山岩が最も多い。黒曜石の産地は蓼科冷山群と推定されている。

(2) 第2号ブロック (第19図)

北区中央のやや西よりに位置し、X=88054, Y=-24458 座標付近を中心に直径約10mの円形の広がりを持つ。北側には調査区境があり調査区外に遺物分布域が広がると思われる。遺物の集中度合いは低く、ブロック全域にばらばらと散らばる散漫な状況を示す。南東に第4号ブロックがありその間には約1mの遺物空白部が存在するが、両ブロックとも散漫な分布状況のため境界は不明瞭である。また、第1号礫群が南に接しており、一部が本ブロックの遺物分布域と重なっている。南東縁には第6号土坑が接しているが、周囲の遺物密度が低いためほとんど影響を受けていないと思われる。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しており、IV層が最も多いがVa・Vb層中の遺物も多く上下に拡散している。10g以上の石器に限定すると、IV層下部からVb層の比率が高くなる。一方礫はIV層中部前後が多くVa層以下は少ない。そのため、礫と石器では時期が異なる可能性も考えられる。隣接する第1号礫群の出土層位がIV層主体であることから、礫の多くは第1号礫群に関連するもので、石器にはより古い一群が存在する可能性が考えられる。

石器61点、礫49点が検出されている。礫はブロック全域に分散しているが、数点まとまる場所も見られる。

器種組成は削器1点、楔形石器1点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離のある剥片1点、石核2点、剥片47点、碎片6点となっている。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少なく、明瞭な剥片剥離の跡はみられない。削器、楔形石器、石刃に型式名がつけられるようなものはない。石材は無斑晶質安山岩、黒曜石、凝灰岩、珪質頁岩、玉髓、安山岩が見られ、無斑晶質安山岩が最も多い。黒曜石2点の産地は和田鷹山群と和田土屋橋西群が推定されている。

(3) 第3号ブロック (第18図)

北区西端に位置し、X=88051, Y=-24470 座標付近を中心に北-南約5m、東-西約12mの楕円形の広がりを持つが、大半は東半分に分布している。南側は現道切り通しの調査区境があり、外に遺物分布域が広がっていたと思われる。北には約2mの遺物空白部を挟んで第1号ブロックと第2号礫群が存在する。遺物の集中度合いは低く、ブロック全域にばらばらと散らばる散漫な状況を示す。

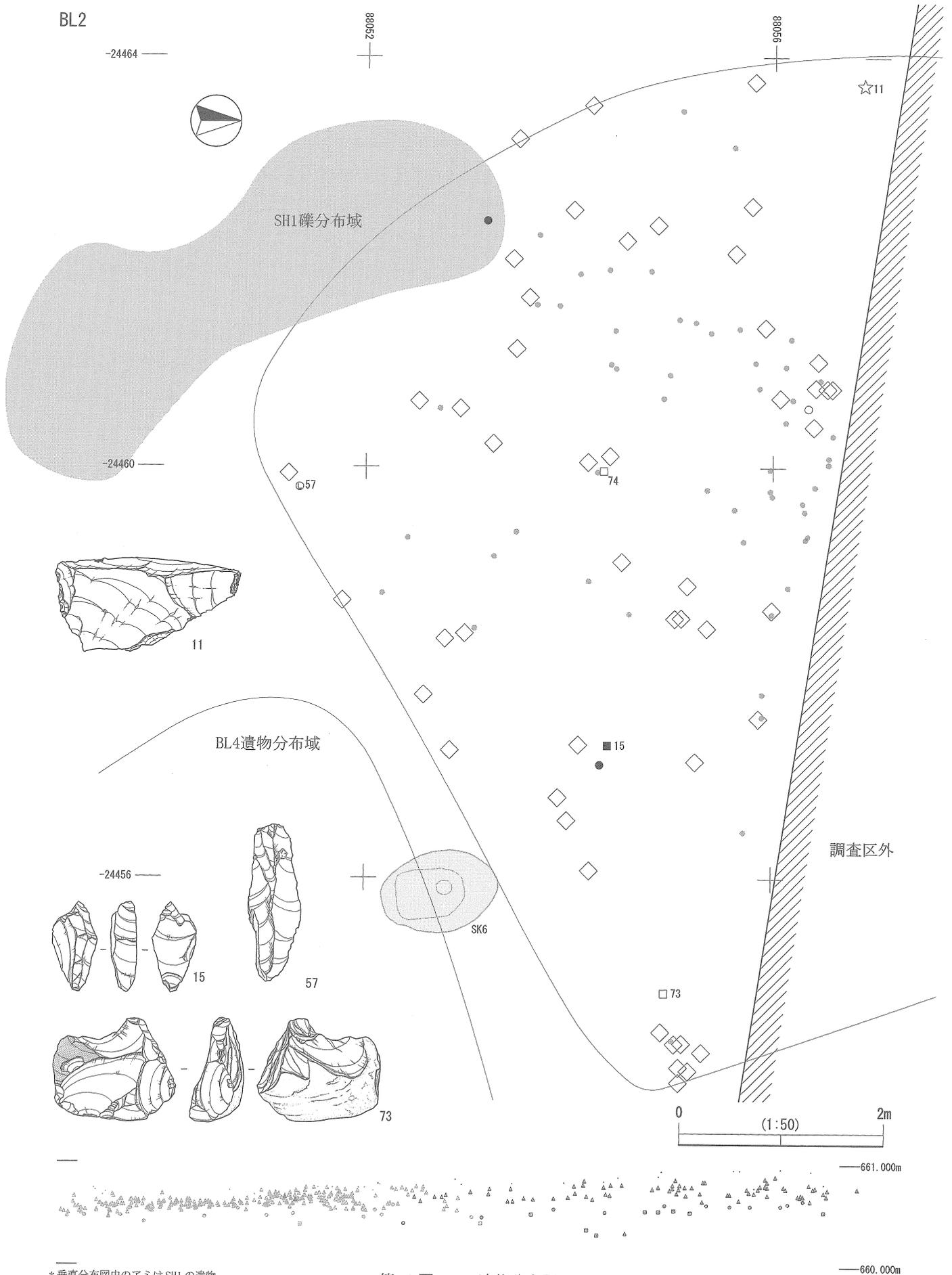
一部に縄文時代以降の土坑との切りあいがみられる。縁に接している第2・4土坑による攪乱はほとんどないと思われるが、第1号土坑はブロック範囲内にあり、周囲に遺物の分布も見られることから、攪乱を受けた可能性が高い。しかし、土坑は陥し穴と思われる小さなもののため、その影響は少ないと思われる。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しており、IV層下半からVa層に多いが上下に拡散している。10g以上の石器に限定すると、IV層中部からVa層の比率が高くなる。一方、Va層以下の礫は少ない。本ブロックの礫も隣接する第2号礫群と関連するものが含まれていると思われる。

石器42点、礫18点が検出されている。礫はブロック全域に分散しているが、外縁に多い傾向がある。

器種組成はナイフ形石器1点、楔形石器11点、石刃1点、2次加工のある剥片1点、微細剥離のある剥片1点、石核1点、剥片23点、碎片2点、敲石1点となっている。楔形石器が11点と突出して多い。ナイフ形石器の出土層位はⅢ層で浅い。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少なく、逆に製品の数が多いため剥片剥離の痕跡はあまりみられない。

石材は珪質頁岩、黒曜石、無斑晶質安山岩、凝灰岩、安山岩、チャートが見られ、珪質頁岩が最も多い。楔形石器10点は表面が白色に風化する珪化が進んだ珪質頁岩製である。黒曜石の産地推定は他で蓼科冷山群が多いのに対し、諏訪星ヶ台群が多くなっている。



* 垂直分布図中のアミはSH1の遺物

第19図 BL2 遺物分布図

(4) 第4号ブロック (第20図)

北区中央からやや東よりに位置し、X=88050, Y=-24453座標付近を中心に直径約8mの円形の広がりを持つ。南側は現道切り通しの調査区境があり、外に遺物分布域が広がっていたと思われる。北西には連なるように第2号ブロックが、東には約2mの遺物空白部を挟んで第5号ブロックが位置している。第3号礫群のすべての遺物分布範囲は本ブロックの範囲と重なっている。遺物の集中度合いは低く、ブロック全域にばらばらと散らばる散漫な状況を示す。

第6号土坑と第1・2号溝との切り合いが認められるが、第6号土坑は遺物分布域の隅であり、第1・2号溝は掘り込みがIV層上面前後までしか達していないため、それぞれの影響は小さいと思われる。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しており、IV層上部～中部と、Va層～Vb層の2ヶ所に集中が分かれる。分布の重なる第3号礫群はIV層から集中して検出されるため、IV層上部～中部の一群は礫群に関連する可能性が考えられる。一方、Va層～Vb層の一群は確実に礫群より下層にあることが垂直分布から読み取れる。

石器21点、礫9点が検出されている。第3号礫群がブロックほぼ中央にあり、その周囲の礫が本ブロックの礫となっている。

器種組成は削器1点、微細剥離のある剥片1点、石核2点、剥片16点、碎片1点となっている。石核、剥片、碎片が見られるものの数量が少なく、剥片剥離の痕跡はあまりみられない。削器は刃部のみ加工が施されるもので、その他の器種にも定形的なものがないため、時期や性格付けが難しい。

石材は凝灰岩、無斑晶質安山岩、黒曜石、珪質頁岩、安山岩、チャートが見られ、凝灰岩が最も多い。黒曜石2点の産地は蓼科冷山群が推定されている。

(5) 第5号ブロック (第20図)

北区東よりに位置し、X=88049, Y=-24446座標付近を中心に直径約4mの円形の広がりを持つ。南側は現道切り通しの調査区境があるが、大部分は調査区内に収まっていると思われる。西に第4号ブロックが、北東に第6号ブロックがそれぞれ約2mの遺物空白部を挟んで存在する。遺物の集中度合いは低く散漫である。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布しており、Va層前後が最も多いが上下に拡散している。

石器22点が検出されており礫はない。器種組成は削器1点、楔形石器1点、剥片17点、碎片2点、敲石1点となっている。剥片、碎片的数量が少なく剥片剥離の痕跡はあまりみられない。削器は刃部のみ加工が施されるもので、その他の器種にも定形的なものがないため、時期や性格付けが難しい。

石材は無斑晶質安山岩、玉髓、黒曜石、凝灰岩、安山岩、チャート、砂岩が見られ、無斑晶質安山岩が最も多く玉髓の比率は他より高い。黒曜石の産地は諏訪星ヶ台群が推定されている。

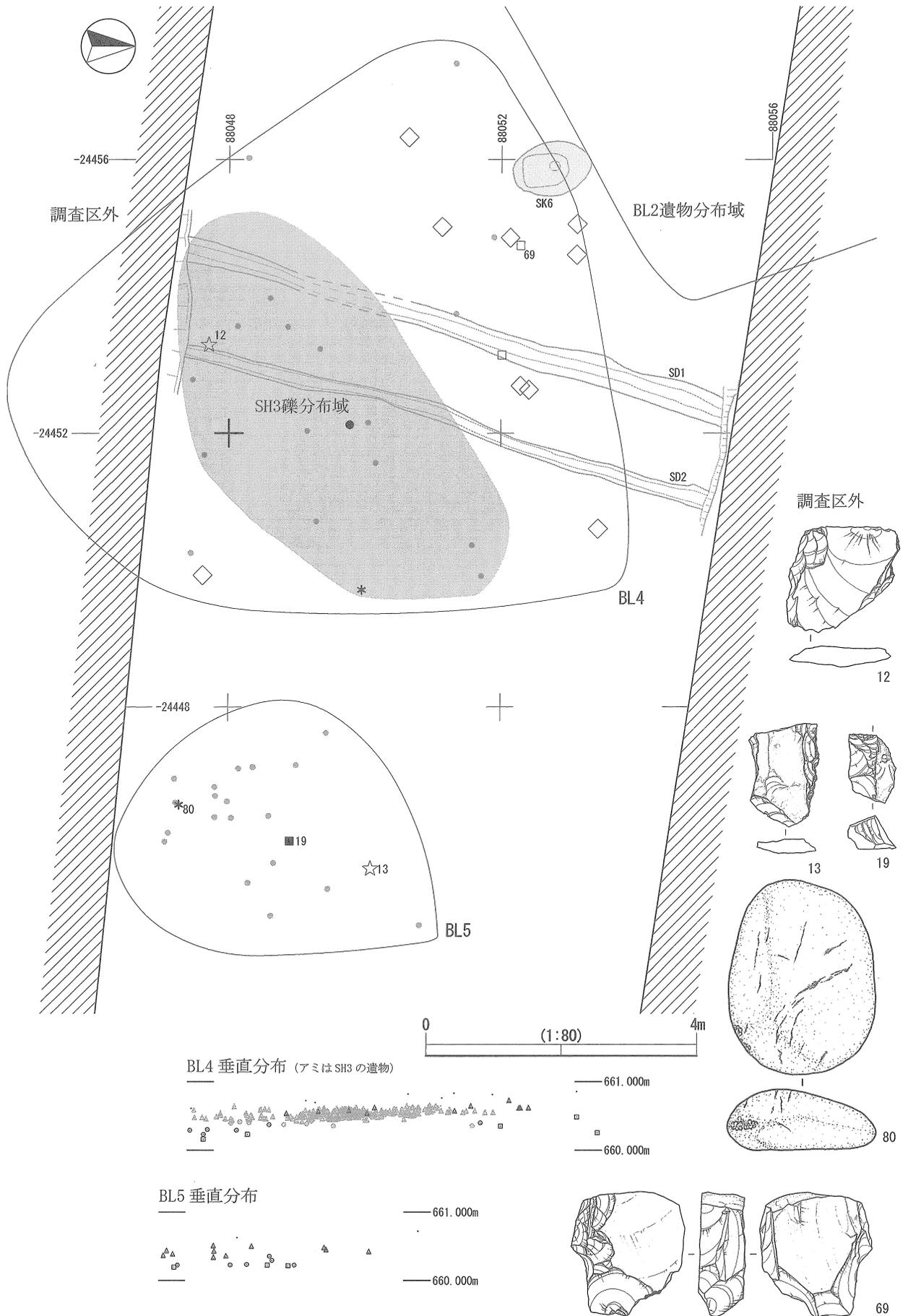
(6) 第6号ブロック (第21図)

北区東端に位置し、X=88050, Y=-24441座標付近を中心に北西-南東約8m、北東-南西約4mの楕円形の広がりを持つ。北側に調査区境が、南側に現道切り通しがあるが、それぞれの境の間には遺物空白部が認められるため、遺物分布域は調査区内に収まっていると思われる。西に第5号ブロックが約2mの遺物空白部を挟んで存在する。遺物の集中度合いは低く散漫である。

Ⅲ層からVb層に遺物が分布している。Vb層が最も多いが、上に多く拡散している。

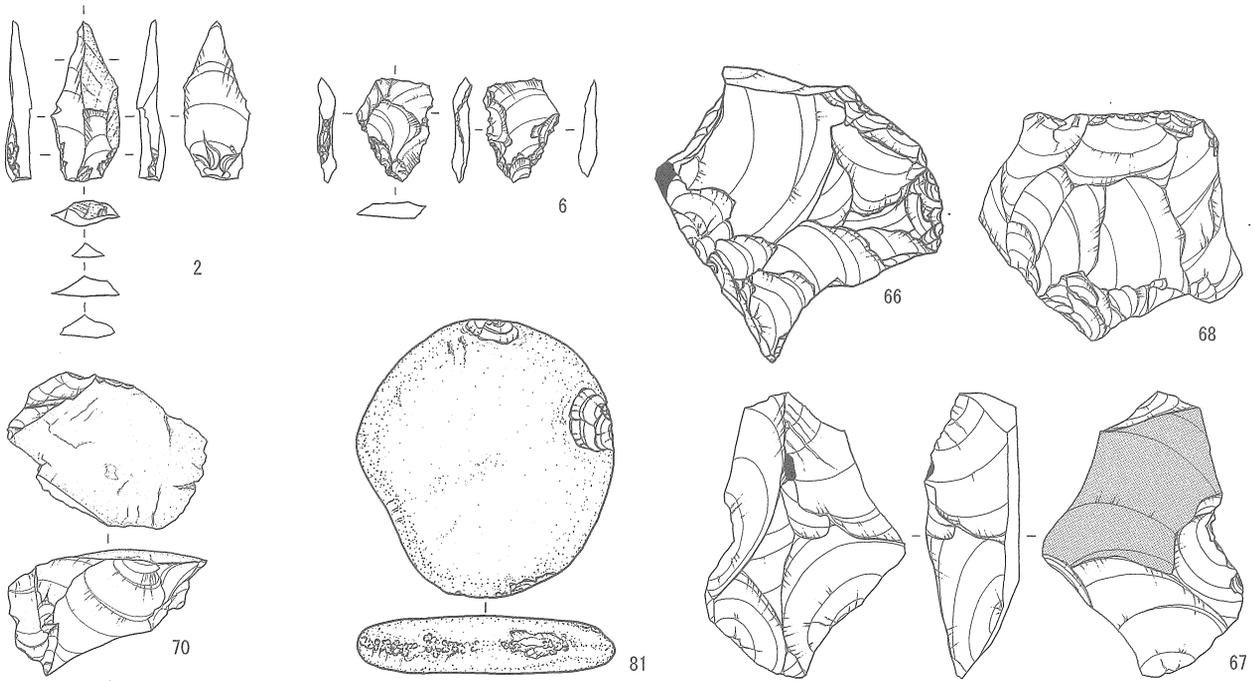
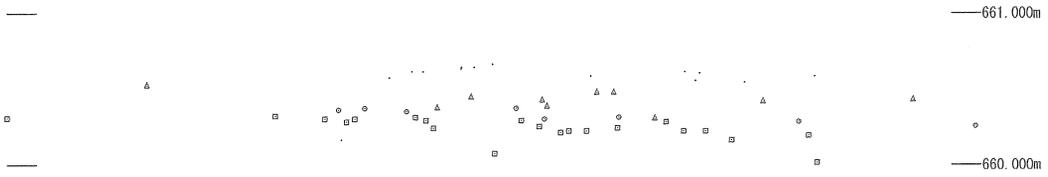
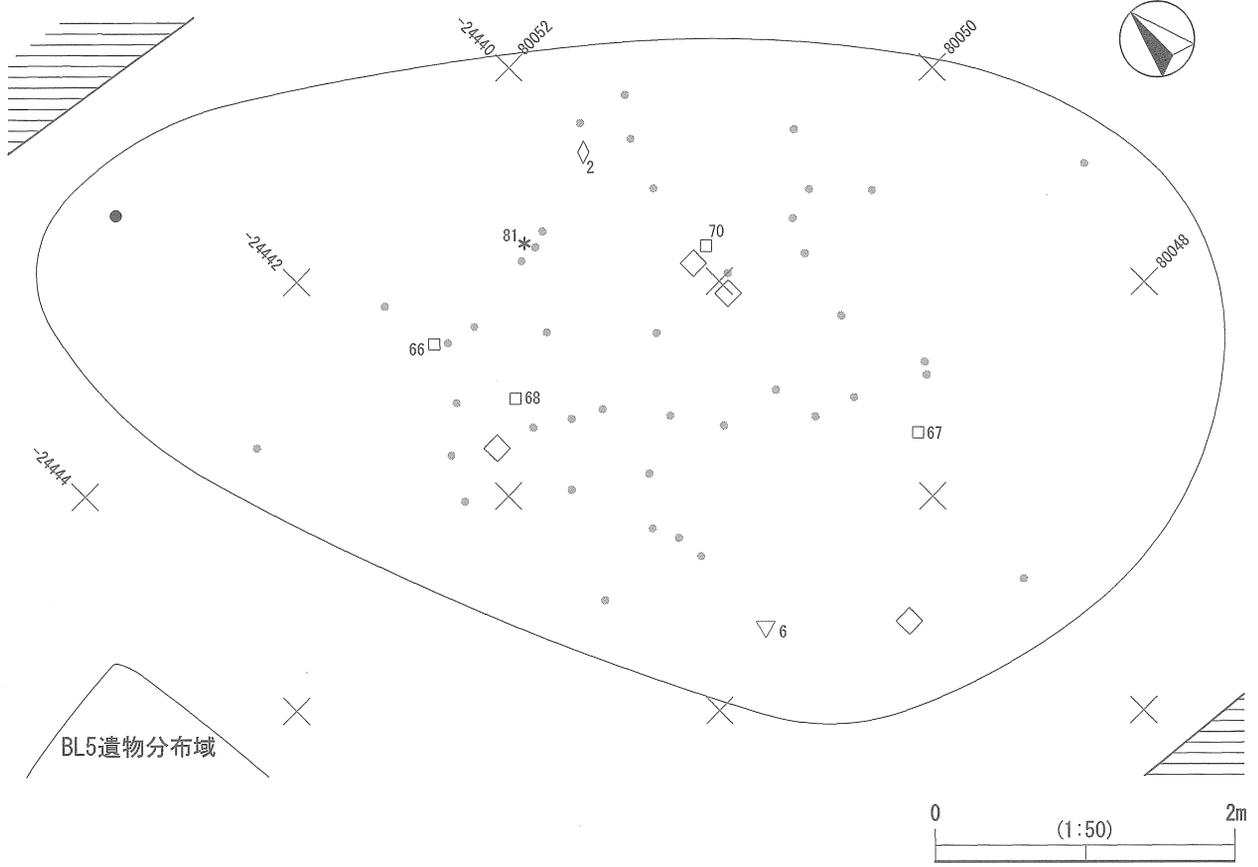
石器49点、礫4点が検出されている。器種組成はナイフ形石器1点、台形石器1点、微細剥離のある剥片1点、石核4点、剥片38点、碎片3点、敲石1点となっている。剥片、碎片的数量が少なく剥片剥離の痕跡はあまりみられない。ナイフ形石器はⅢ層、台形石器はIV層下部から検出されているが、形態的にはVa層以下のものと思われる。

BL4・BL5



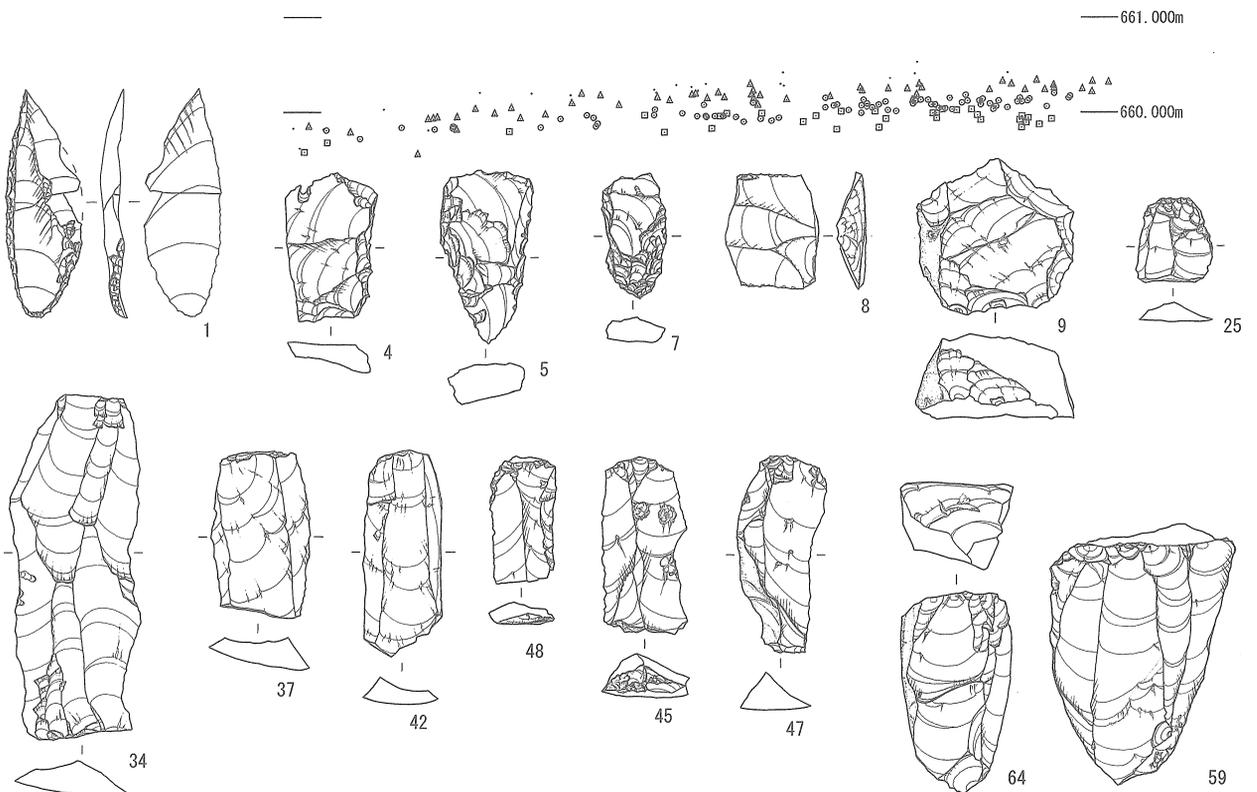
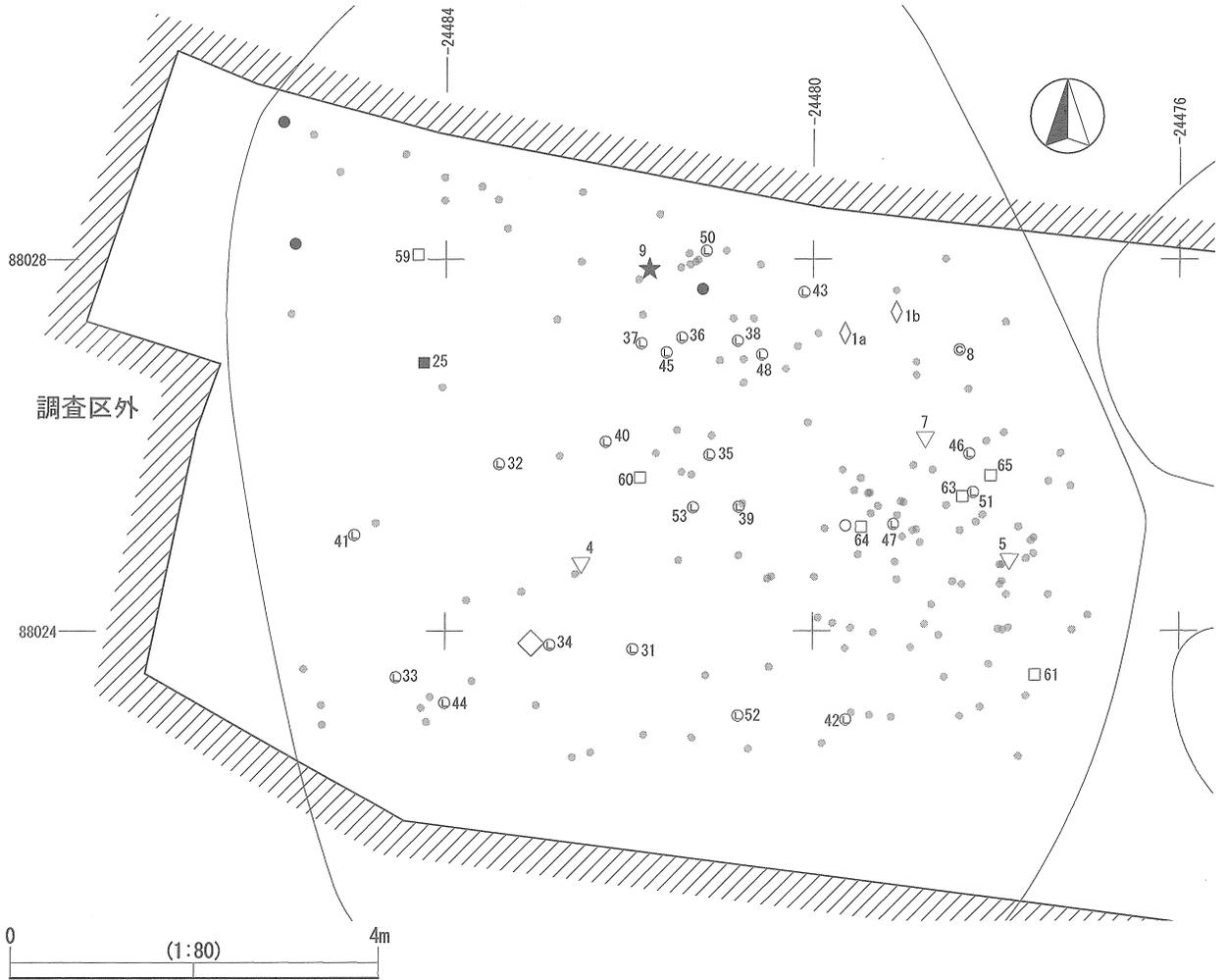
第20図 BL4・BL5 遺物分布図

BL6



第21図 BL6遺物分布図

BL7



第22図 BL7 遺物分布図

石材は凝灰岩、黒曜石、無斑晶質安山岩、玉髄、チャート、砂岩が見られ、凝灰岩が過半数を占める。黒曜石の産地は和田鷹山群が3点、諏訪星ヶ台群4点となっており、遺跡内で最も多い蓼科冷山群はみられない。

(7) 第7号ブロック (第22図)

南西区西端に位置し、X=88026, Y=-24481座標付近を中心に直径約10mの円形の広がりを持つ。西側は尾根下にむかう斜面落ち際に遺物の分布が途切れる。北側に現道切り通しが、南側には調査区境があり、それぞれに遺物分布域が広がっていたと思われる。東側に第8号ブロックと第10号ブロックが存在するが、間に明白な空白部はないため第9号ブロックも含めて、1つの大きなブロックとしての認識も可能と思われる。遺物の集中度合いは比較的高い。

Ⅲ層からⅥ層に遺物が分布しており、Ⅴa層に最も多く分布している。ただし、他のブロック同様に上下の拡散が大きいようで、Ⅲ層・Ⅳ層からも多くの石器が出土している。

石器175点、礫1点が検出されている。器種組成はナイフ形石器1点、台形石器3点、折断剥片1点、搔器1点、楔形石器1点、石刃22点、2次加工のある剥片1点、微細剥離のある剥片3点、石核6点、剥片92点、碎片43点となっている。同一母岩と思われる剥片、碎片があることから石刃製作に伴う剥片剥離の痕跡が残されているといえる。ナイフ形石器は2側縁に加工が施される「茂呂型」の範疇に含まれる。台形石器は刃部が平たく側縁が切り立っている。ナイフ形石器、台形石器、石刃の共伴関係が注目される。

石材は黒曜石、無斑晶質安山岩、凝灰岩、珪質頁岩、チャート、緑色凝灰岩、凝灰質頁岩、珪質凝灰岩がみられ、黒曜石が大半を占める。黒曜石の産地は蓼科冷山群と和田鷹山群の比が2:1程度と蓼科冷山群が多くなっている。分布を見ると北側に和田鷹山群が、中央から南側に蓼科冷山群が多く分布している。その他和田高松沢群が2点含まれる点も注目される。

(8) 第8号ブロック (第23図)

南西区中央に位置し、X=88027, Y=-24474座標付近を中心に直径約5mの円形の広がりを持つ。ブロックの半分以上は北側の現道切り通しに広がっていたと思われる。西に第7号ブロック、南に第10号ブロック、南東に第9号ブロックがあり、第10号ブロックとはやや離れるものの明瞭な遺物空白部はない。遺物の集中度合いは比較的高いが、集中部は現道切り通しに切られている。

Ⅲ層からⅤb層に遺物が分布しておりⅤb層が最も多い。

石器44点、礫1点が検出されている。器種組成は剥片22点、碎片21点、斧形石器1点となっている。石刃、石核はないが、縦長剥片も見られ、第7号ブロックと共通する石材がみられることから、縦長剥片剥離の痕跡の一部が残されていると評価できようか。斧形石器は緑色凝灰岩製で単独で存在するが、層位的・平面的に本ブロックに伴うと判断できる。

石材は黒曜石、緑色凝灰岩がみられ、斧形石器以外は黒曜石となっている。黒曜石の産地は蓼科冷山群が19点、和田鷹山群が1点となっている。

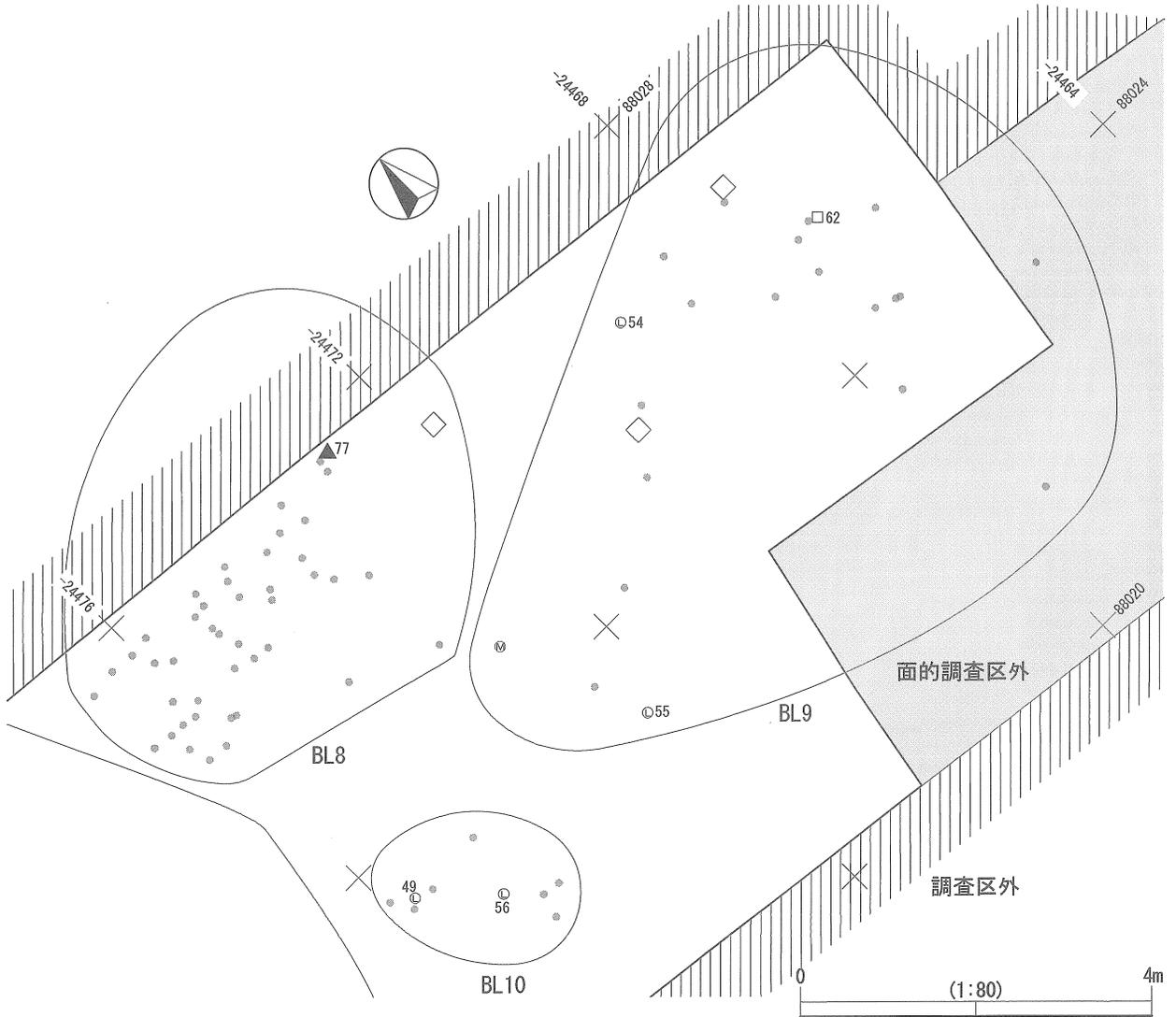
(9) 第9号ブロック (第23図)

南西区東端に位置し、X=88024, Y=-24469座標付近を中心に北-南約6m、東-西約8mの楕円形の広がりを持つ。北側に現道切り通しがあるが、境の遺物密度は低いいため遺物分布範囲は、ほぼ調査区内で収まると考えられる。北西に第8号ブロック、南西に第10号ブロックがあり、第8号ブロックとの間には明瞭な遺物空白部がない。遺物密度は低く散漫である。

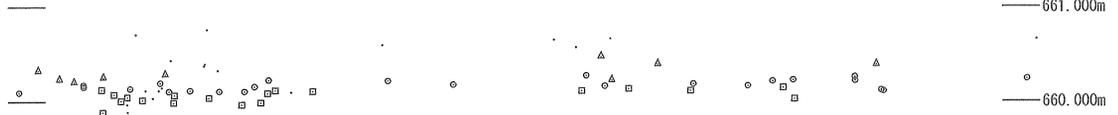
Ⅲ層からⅤb層に遺物が分布しておりⅤa層が最も多い。

石器22点、礫2点が検出されている。器種組成は石刃2点、石核1点、剥片16点、碎片2点、原石1点となっている。遺物数は少ないものの、第7号ブロックの石刃製作との関連が考えられる。

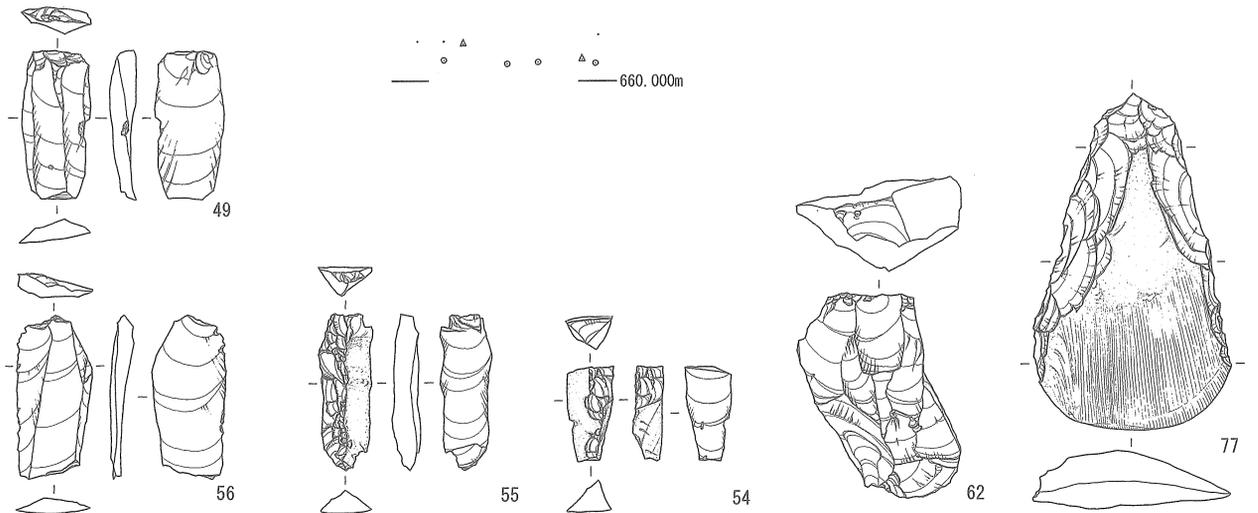
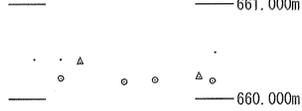
BL8・BL9・BL10



BL8・9 垂直分布



BL10 垂直分布



第23图 BL8・BL9・BL10 遺物分布图

石材は黒曜石、凝灰岩、玉髄、チャートがみられ、黒曜石が大半を占める。黒曜石の産地は蓼科冷山群が13点、和田鷹山群が3点となっている。

(10) 第10号ブロック (第23図)

南西区中央に位置し、X=88023, Y=-24475座標付近を中心に直径約2mの円形の広がりを持つ。南側に調査区外があるが遺物分布範囲は調査区内に収まっていると思われる。西に第7号ブロック、北に第8号ブロック、北東に第9号ブロックがあるが、本ブロックの認定にあたってはこれら3ブロックの範囲確定後に残った少量の遺物集中部をブロックとした。遺物密度は低く散漫である。

Ⅲ層からⅤa層に遺物が分布しておりⅤa層が最も多い。

石器9点が検出されているが礫はない。器種組成は石刃2点、剥片5点、碎片2点となっている。遺物数は少ないものの、第7号ブロックに関連する石刃製作との関連が考えられる。

石材は黒曜石が8点、珪質頁岩が1点となっている。黒曜石は1点が蓼科冷山群、5点が和田鷹山群と推定されている。

(11) 第11号ブロック (第24図)

南東区に唯一存在するブロックである。X=88020, Y=-24447座標付近を中心に北-南約4m、東-西約6mの楕円形の広がりを持つ。北に信濃町教育委員会の調査区が接しており、遺物数が少ないため、本体はそちらに存在する可能性が考えられる。遺物密度が非常に低く散漫である。

Ⅲ層からⅤb層に遺物が分布しておりⅤa層が最も多い。

石器10点が検出されているが礫はない。器種組成は石刃2点、剥片7点、碎片2点となっている。剥片類も素材となるような大形品が目立ち、ほとんどが製品や素材として持ち込まれていると考えられる。そのため、剥片剥離の痕跡はみられない。

石材は珪質頁岩8点、珪質凝灰岩1点、蛇紋岩1点となっている。

(12) 遺構外遺物 (第25図)

ブロックと礫群の外から検出された遺物の分布を第25図に示した。

3 礫群

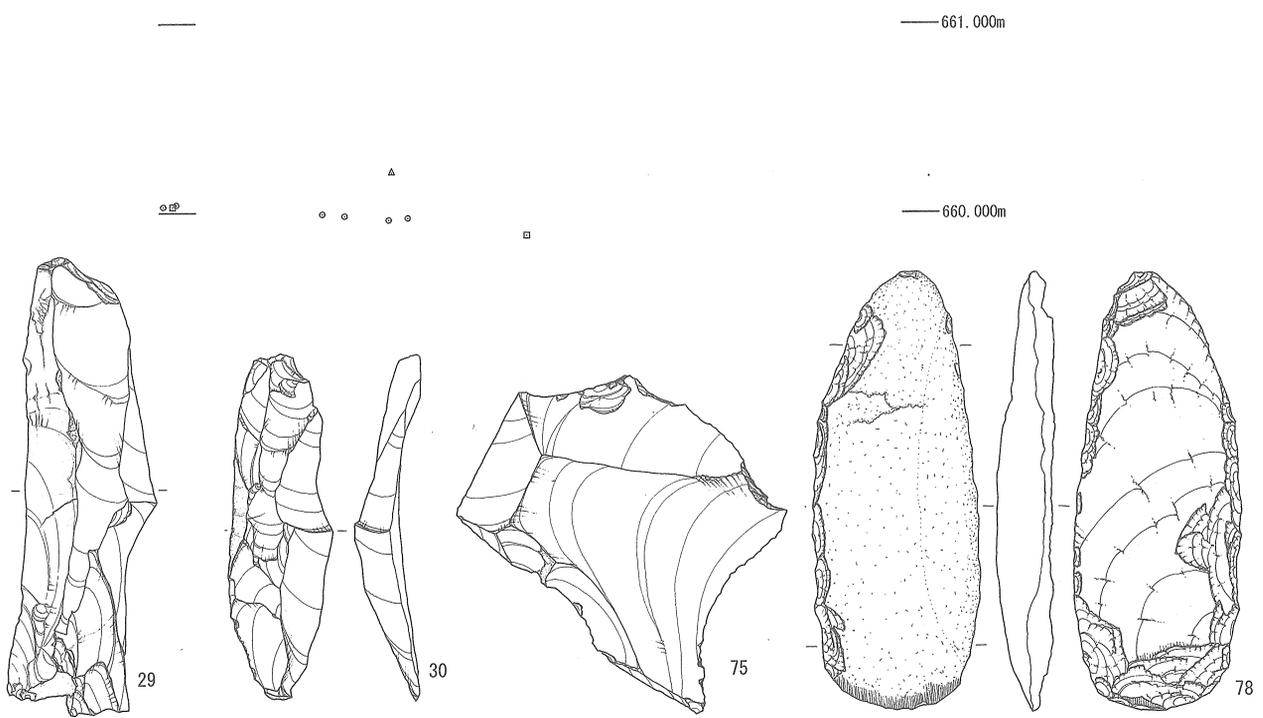
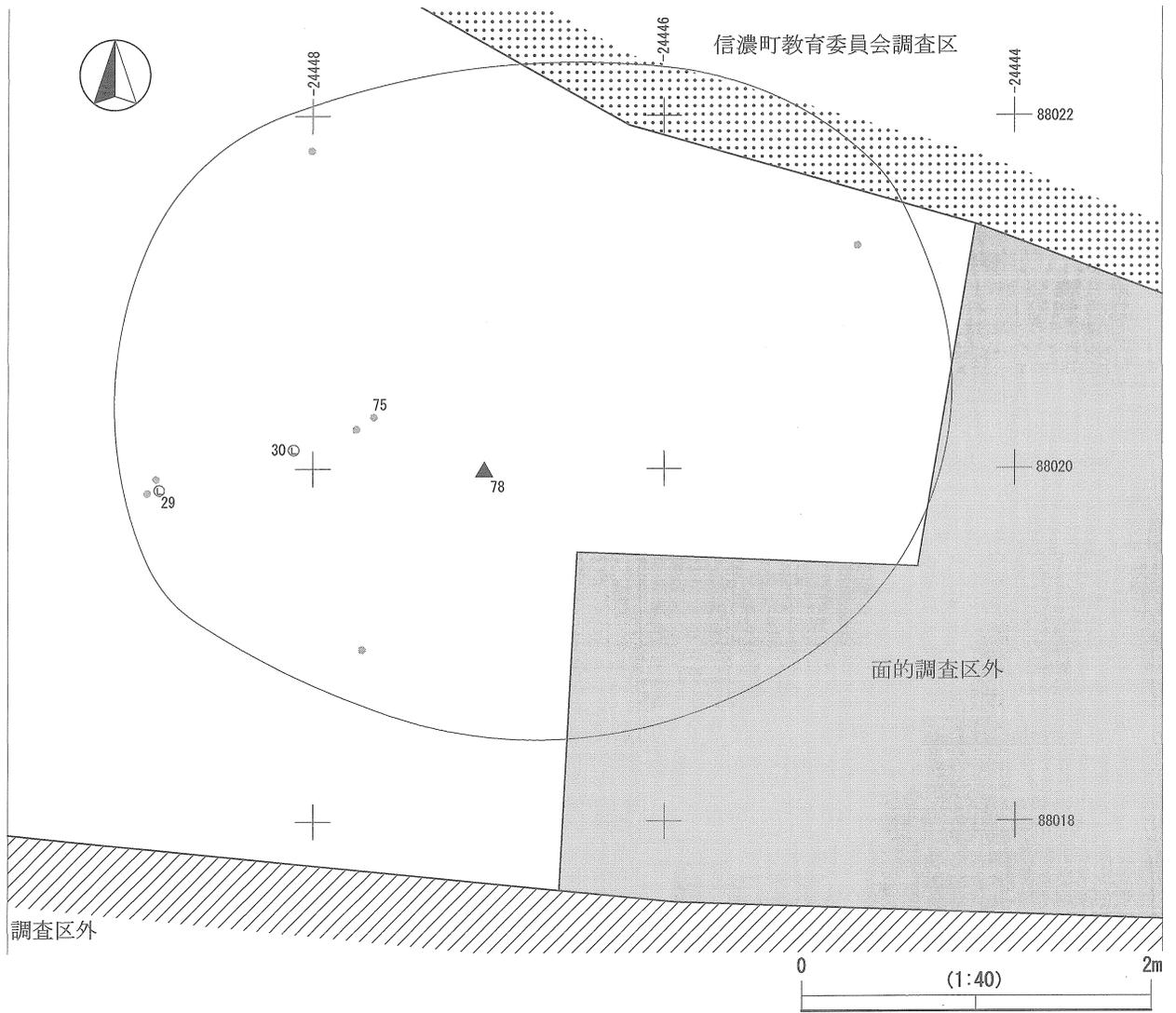
3基の礫群が検出されている。いずれの礫群もⅣ層から集中して出土するため生活面はⅣ層にあると思われる。3基の礫群に共通する特徴として、円礫および円礫に近い亜角礫が主体を占め、焼けた破損礫が少ない点があげられる。また、礫集中部の外縁が1辺1～1.5mの「コ」の字状を呈し、内部には60cm前後の空白部を持つ特徴的な礫分布が認められる。

真っ赤に赤化した礫はほとんどなく全般的に焼けが弱い印象がある。分布図では焼けと思われる赤化した部分がみられる礫に濃いアミを、「焼弱」としたわずかに赤化またはすすけている礫に薄いアミをかけて表現した。

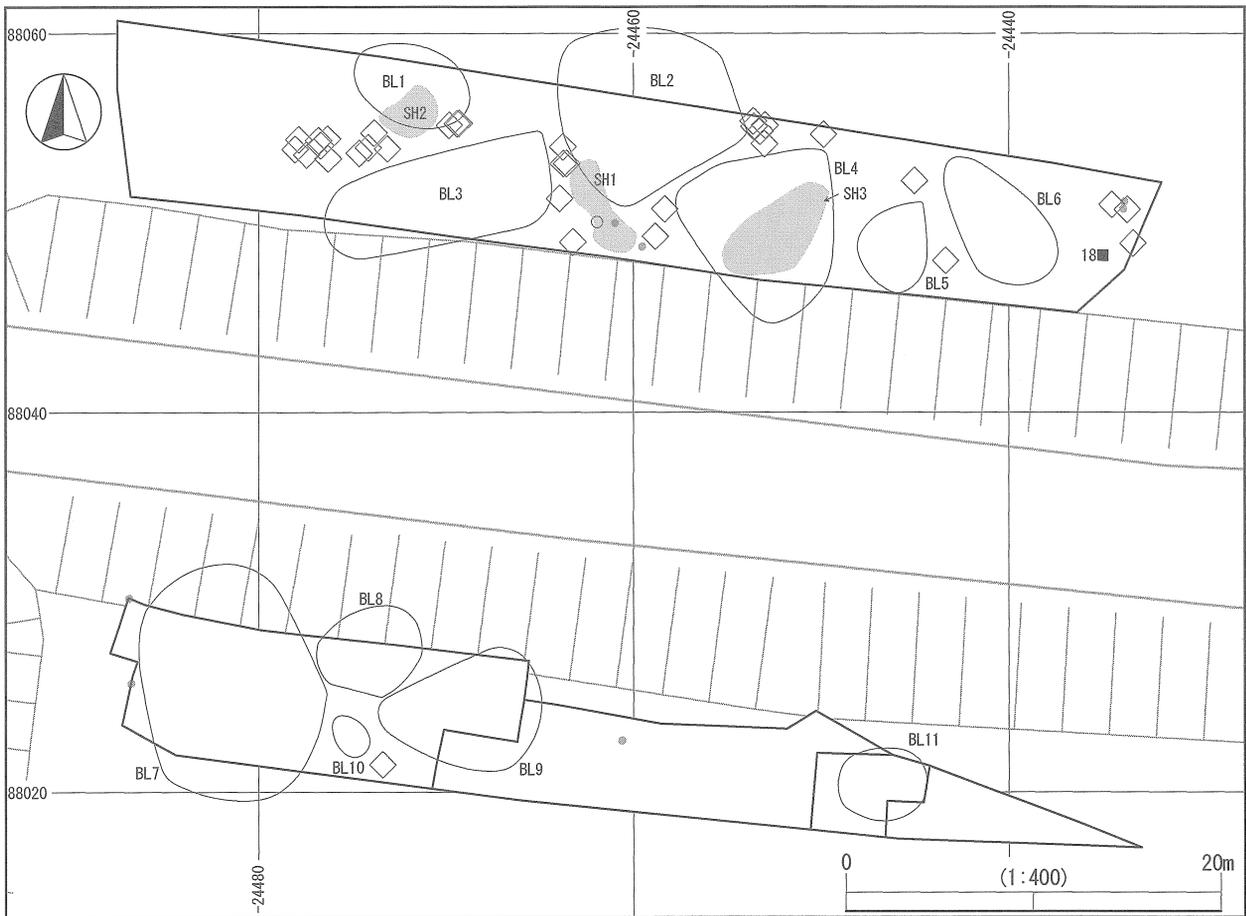
(1) 第1号礫群 (第26図)

北区の中央付近に位置し、X=88051, Y=-24462座標付近を中心に北西-南東約5m、北東-南西約1.5mの中央にくびれのある楕円形の広がりを持つ。中央付近の礫密度がやや低く、北東側と南西側にそれぞれ密度の高い場所がみられるため、2基の礫群が接して分布していると捉えることもできる。それぞれの密度の高い部分の外縁は、1辺が1～1.5mの「コ」の字を呈しており、「コ」の字の内側には直径60cm前後の円形の空白部が存在している。「コ」の字の開いた部分は北西側の集中部が北西、南東側の集中部が北東を向いている。

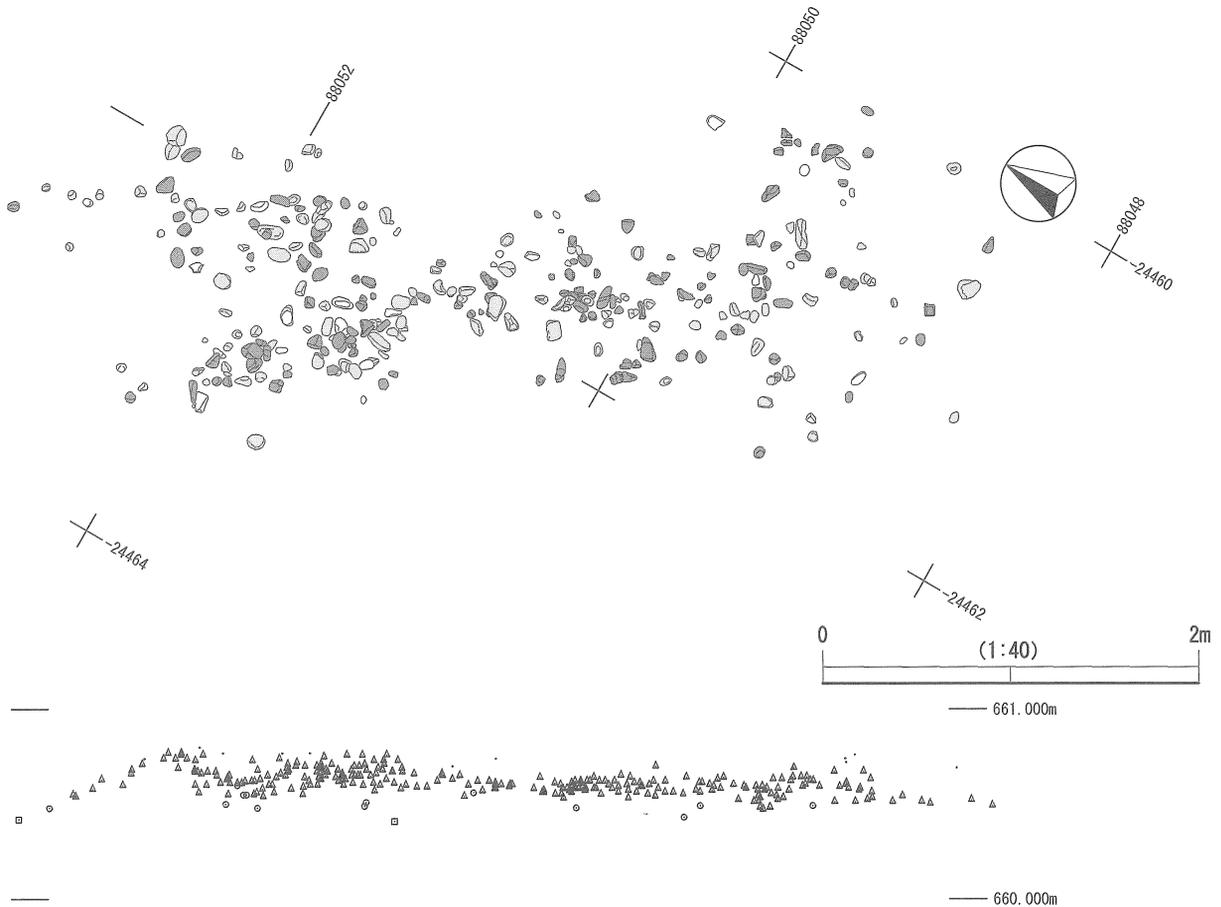
BL11



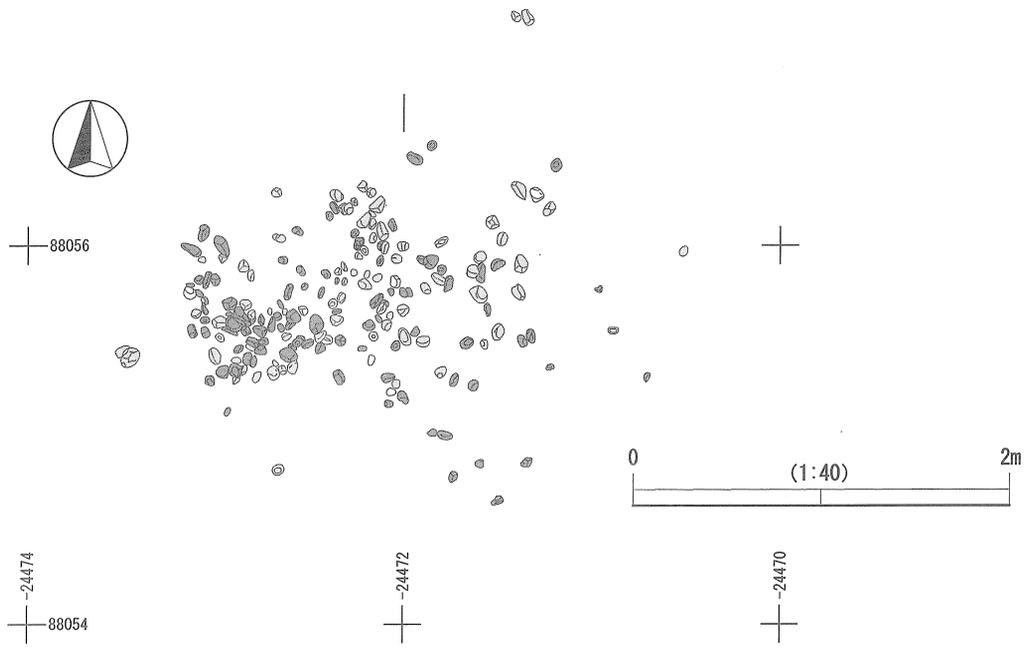
第24図 BL11 遺物分布図



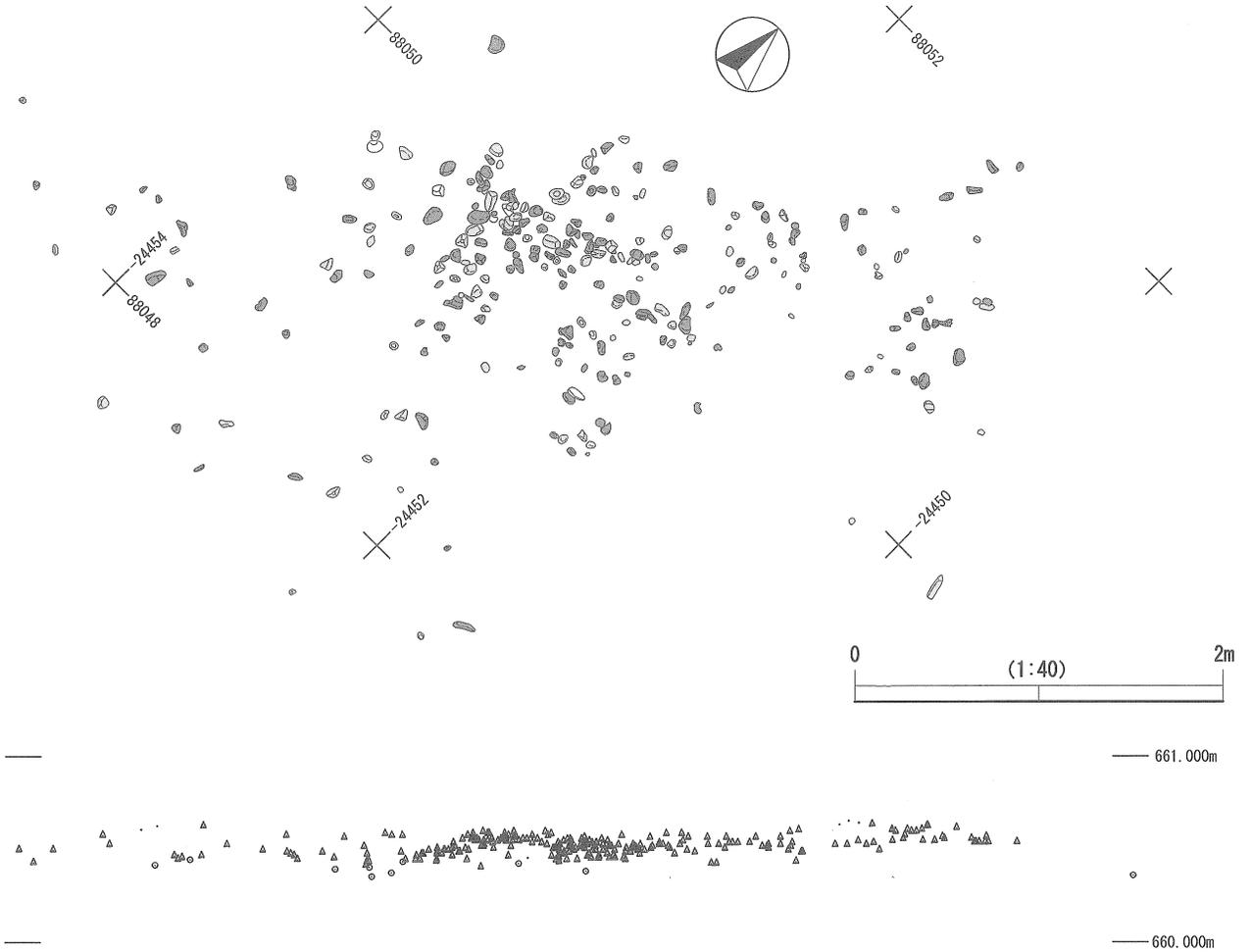
第25図 遺構外遺物分布図



第26図 SH1遺物分布図



第27図 SH2遺物分布図



第28図 SH3遺物分布図

第2号ブロックと分布が一部重なっており、重なっている部分から検出されている1点の微細剥離のある剥片は第2号ブロックに所属させた。

出土層位はⅡ層からⅤb層に分布しておりⅣ層が圧倒に多いため、本来の生活面はⅣ層にあると思われる。

291点の礫が検出され、総重量は47.295kg、平均重量が約163gで、石材はすべて地元で採集できる多孔質の安山岩となっている。礫形状は亜角礫194点、円礫97点となっているが、亜角礫の多くは角が落ちたかなり円礫に近いもので、丸い礫が多い印象を持たされる。過半数の179点が破損がない完形品となっている。

133点に焼けと思われる赤化が見られ、128点が「焼弱」としたもので、30点には赤化が見られなかった。非常に赤化の弱い礫を「焼弱」としており、焼けているとも焼けていないとも明言し難い礫である。また、34点にすす状の付着物がみられた。

その他に磨石1点、敲石1点の合計2点の礫石器が検出されている。

野尻湖遺跡群の一般的な礫群は赤化して割れている亜角礫が主体となるのに対して、本礫群は赤化していない丸い完形礫が多いといえよう。

(2) 第2号礫群 (第27図)

北区の西端に位置し、X=88056, Y=-24472座標付近を中心に直径約2.5mの円形の広がりを持つ。西側半分には第1号礫群で捉えられた「コ」の字状の集中部が捉えられる。「コ」の字の開いた部分は北西を向いている。

第1号ブロックと分布が一部重なっており、重なっている部分から検出されている剥片石器は第1号ブロックに所属させた。

出土層位はⅢ層からⅤb層に分布しておりⅣ層が圧倒に多いため、本来の生活面はⅣ層にあると思われる。

197点の礫検出され、総重量は38.675kg、平均重量が約196gで、石材はすべて地元で採集できる多孔質の安山岩となっている。礫形状は亜角礫101点、円礫96点となっているが、亜角礫の多くは角が落ちた円礫に近いもので、丸い礫が多い印象を持たされる。約4分の3の150点が破損がない完形品となっている。

106点に焼けと思われる赤化が見られ、81点が「焼弱」としたもので、10点に赤化が見られなかった。また、42点にすす状の付着物が、1点に鉄分が付着していた。

本礫群も赤化していない丸い完形礫が多いといえよう。

(3) 第3号礫群 (第28図)

北区の中央からやや東よりに位置し、X=88049, Y=-24452座標付近を中心に北東-南西約6m、北西-南東約3.5mの楕円形の広がりを持つ。中央付近に集中部があり、北東側と南西側に分散している分布状況を示す。中央付近の集中部は第1・2号礫群で捉えられた「コ」の字状の集中部が確認できる。「コ」の字のひらいた部分は南を向いている。また、これ以外にも1~1.5mの長さで礫が直線的に並ぶ部分が認められ、複数「コ」の字状の分布が存在する可能性が考えられるが、はっきりとしない。

第4号ブロックの分布域と完全に重なっており、重なっている部分から検出されている剥片石器は第4号ブロックに所属させた。また、本礫群よりも新しい時期の第1・2号溝に切られているが、溝の掘り込みが浅いためその影響は小さい。

出土層位はⅡ層からⅤa層に分布しておりⅣ層が圧倒に多いため、本来の生活面はⅣ層にあると思われる。

272点の礫が検出され、総重量は44.642kg、平均重量が約164gで、石材はすべて地元で採集できる多孔質の安山岩となっている。礫形状は亜角礫119点、円礫153点となっているが、亜角礫の多くは角が落ちたかなり円礫に近いもので、丸い礫が多い印象を持たされる。過半数の169点が破損のない完形品となっている。

162点に焼けと思われる赤化が見られ、104点が「焼弱」としたもので、6点には赤化が見られなかった。非常に赤化の弱い礫を「焼弱」としており、焼けているとも焼けていないとも明言し難い礫である。また、56点にすす状の付着物がみられた。

本礫群も赤化していない丸い完形礫が多いといえよう。

第3節 旧石器時代の遺物

1 石器

482点の石器が出土した。以下に主な器種について記載するが、その他石器の法量等の属性を第10～15表に示す。

(1) ナイフ形石器 (第29図・報告番号1～3)

3点のナイフ形石器が検出されている。いずれも異なるブロックに属しており、同時期かどうかはわからない。

1は黒曜石の石刃を素材としている。黒曜石は比較的透明度が高く細かい気泡をわずかに含むが質は良く、産地は和田鷹山群と推定されている。素材の打面を基部に置き、左側縁全体と右側縁の下半に正方向のブランディングを施している。石器の主軸と素材の剥離軸はほぼ一致し、打面およびバルブは加工により折除されている。平面形はやや右側縁の肩が張る左右非対称形を呈し、尖端は鋭く尖り基部は丸い。側面形は薄くてそりが小さく直線的で、断面形は薄い台形状を呈する。器体ほぼ中央で横方向に2つに割れており、同一ブロック内の隣接する異なる地点から検出されている。

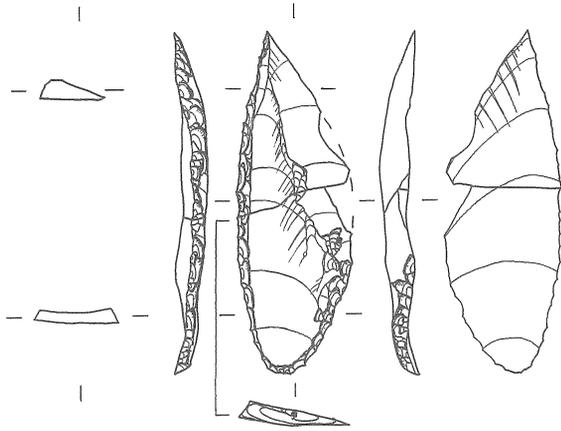
2は黒曜石の縦長剥片を素材としている。黒曜石は透明度が高く気泡がほとんどない質の良いもので、産地は諏訪星ヶ台群と推定されている。素材の打面および背面には礫面が残されており、石刃石核から剥離されたものかどうかは微妙である。打面を基部に置き、両側縁基部付近のみに正方向のブランディングを施している。石器の主軸と素材の剥離軸はほぼ一致しており、打面は平たく残されている。平面形は左右ほぼ対称で、基部が平たく尖端の尖るやや細身のペン先形を呈する。側面形はバルブのふくらみが若干みられるものの直線的で、断面形は台形、三角形を呈する。

3は黒曜石の縦長剥片を素材としている。黒曜石は透明部と黒色の不透明部が斑状となり、気泡がほとんどない質の良いもので、産地は諏訪星ヶ台群が推定されている。素材の打面を基部に置き右側縁全体と左側縁の下半に正方向のブランディングを施している。素材の打面は折除されているが、バルブは部分的に残されている。平面形はやや左肩の張る左右非対称で、尖端は鋭く基部は鈍く尖る。側面形は薄くてそりが小さく、断面形は薄い台形、三角形を呈する。

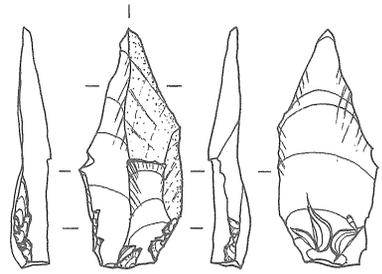
(2) 台形石器 (第29図・報告番号4～7)

第7号ブロックから3点、第6号ブロックから1点、合計4点の台形石器が検出された。

4は黒曜石の剥片を素材としている。黒曜石は細かい球顆が多く、蓼科冷山群と産地推定されている。素材が縦長剥片か横長剥片かは断言できないが、背面の剥離痕は主要剥離面と同一方向で揃っているため、石刃状の縦長剥片を素材としている可能性も考えられる。素材の打面を右側縁に置き、正方向のブランディングにより打面は折除されている。左側縁は切り立った折れ面となっており、意図的に折り取られた可能性が考えられる。平面形は刃部と基部が水平となる台形を呈している。側面形は素材のバルブが発達しているため翼状を呈しており、横断面形は台形となっている。刃部は薄く鋭いが、薄さゆえに安定せず山形を呈し波打っている。

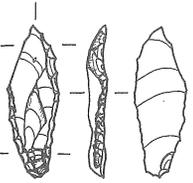
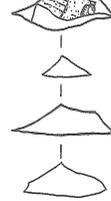


1b
Kn Ob
BL7 2.02g
IV下 198

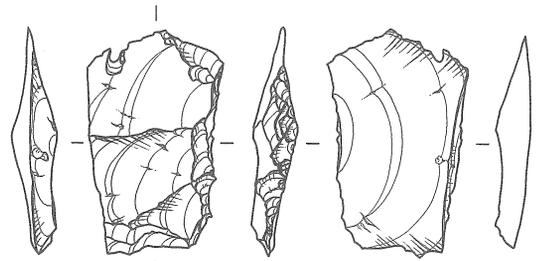


2
Kn Ob SWHD
BL6 3.45g
III 519

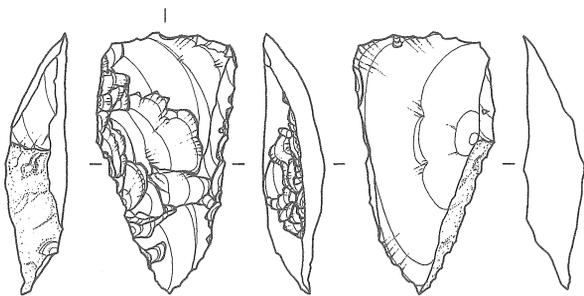
1a
Kn破 Ob WDTY
BL7 2.76g
V a 199



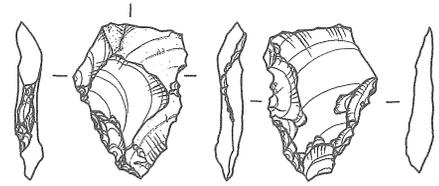
3
Kn Ob SWHD
BL3 0.63g
III 340



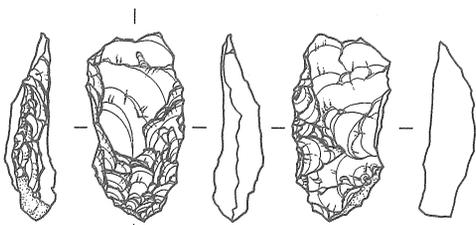
4
Tr Ob TSTY
BL7 6.07g
V a 219



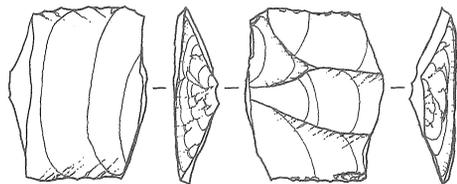
5
Tr ST
BL7 9.54g
V a 272



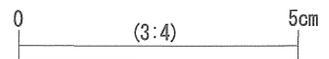
6
Tr Ob SWHD
BL6 2.51g
IV下 501



7
Tr Ch
BL7 5.36g
V a 190



8
CF SS
BL7 7.21g
V a 194



第29図 旧石器時代 石器実測図1(ナイフ形石器・台形石器・折断剥片)

5は珪質凝灰岩の横長もしくは貝殻状剥片を素材としている。珪質凝灰岩とした石材は白色で石英がみられ流紋岩との区別が難しいものとなっている。素材の打面は礫面と1枚の剥離面とで構成されており、その稜の部分を打点として剥離されている。左側縁に打面を置き打面から背面に平坦な剥離が施されているが、主要剥離面との切り合いはなく加工との断定ができない。右側縁は正方向のブランディングにより素材が折断されている。平面形は刃部が平たく基部の尖る三角形を呈する。刃部は薄く鋭い。側面形はバルブが発達しているため、翼状を呈しており、横断面形は甲高で側縁の切り立つ四角形を呈する。

6は黒曜石の貝殻状剥片を素材としている。黒曜石は黒色不透明で質がよく諏訪星ヶ台群と産地推定されているが他に同一個体がない。素材背面には平坦でなめらかな礫面が残されており底面的な使い方も考えられる。左側縁下部に打面を置き、反方向の平坦剥離を施した後に正方向の急角度の剥離を施して打面を折除している。素材の剥離軸はこの左側縁下部から刃部右肩方向にあり、素材は石器主軸に対して斜めに置かれている。右側縁全体に反方向の平坦剥離が施されている。平面形は刃部が平たい台形状を呈するが、左側縁上半部には鋭い縁辺が残されており、そこまで刃部として認識をした場合は、軸のずれたペン先形を呈するナイフ形石器との認識もできようか。側面形は薄くそりは小さく、横断面形は薄くつぶれた六角形を呈する。

7はチャートの剥片を素材としている。加工による素材の変形が大きいため素材形状が明瞭ではないが、打面が礫面であることや背面が平坦であることから、石刃等の定形的なものではないと思われる。左側縁下部に打面を置き打面肩から刃部肩に正方向のブランディングを施して切り立った左側縁を作出している。また、右側縁全体には反方向の平坦剥離が施されている。平面形は刃部が平たく基部が丸い台形状を呈している。刃部中ほどに岩石の脈の影響でくびれ部がみられ、非直線的で不安定である。側面形はバルブが大きく発達するため翼状を呈し、横断面形態は側縁が切り立っていることから、つぶれた方形を呈する。

(3) 折断剥片 (第29図・報告番号8)

1点しかなく、折れも意図的との断定が難しいため本来組成する器種かどうか微妙なところである。

8は風化面が灰色の珪質頁岩を素材としている。同一個体が他にないことから単独で持ち込まれたものと思われる、その利用価値が予想されることからこの石器を折断剥片と認定した。石刃を素材としているようだが打面および末端は折り取られていて断定は難しい。折り取りについても意図的なものとの断定ができず、その他にも明瞭な加工痕はみられない。素材の剥離軸を横に置くと、左右側縁が切り立った折れ面となっており、上辺および下辺に刃部と思われる鋭い縁辺がある。上辺、下辺の刃部には使用痕と思われる微細な剥離が認められる。平面形は方形を呈し、腹面は平たくそりが小さい。

(4) 搔器 (第30図・報告番号9・10)

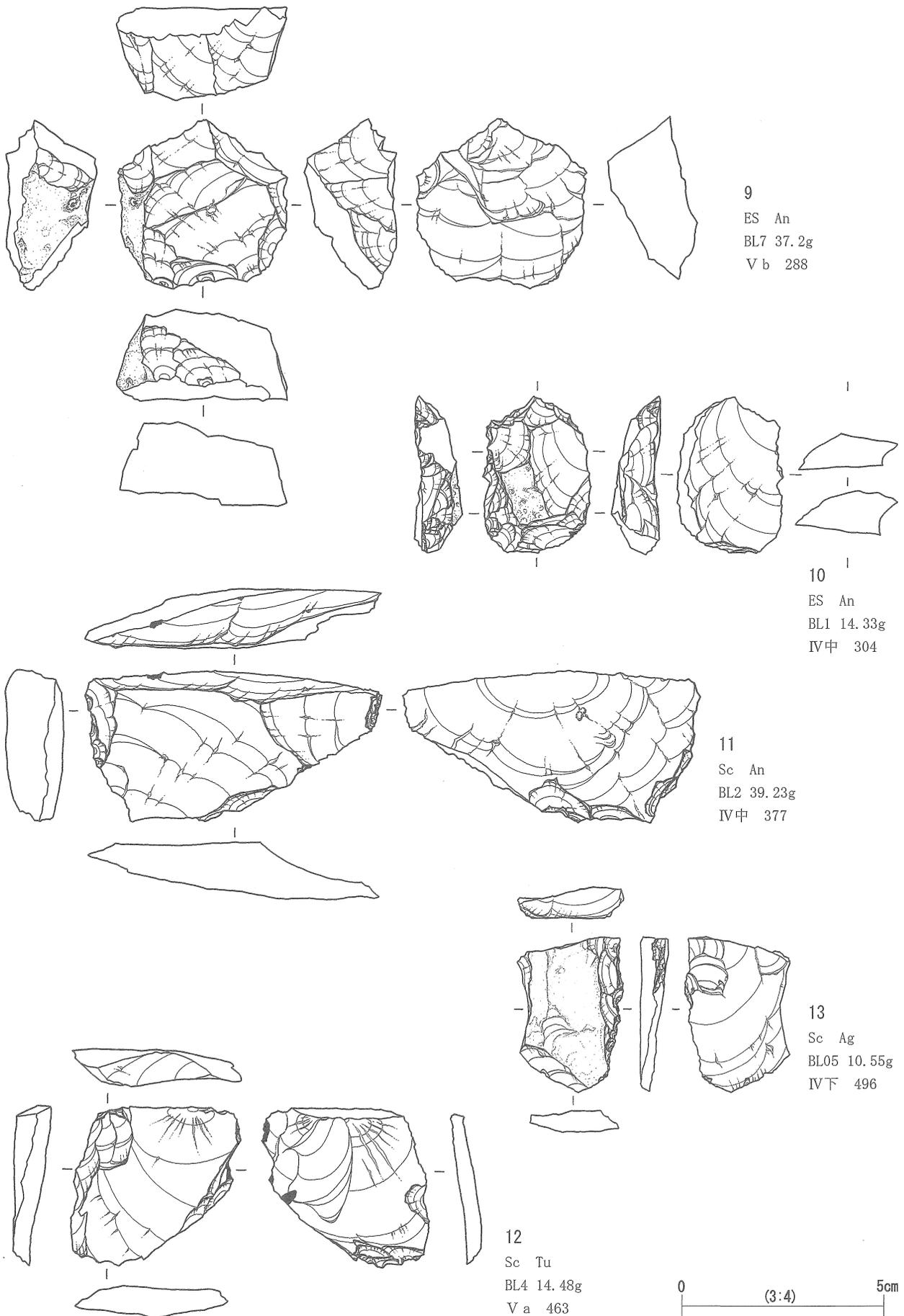
2点の搔器が出土しているが、いずれも加工頻度が低く定形的な搔器とはいえない。

9は無斑晶質安山岩の分厚い剥片を素材としている。腹面上部の平坦な剥離は素材剥離時に打点付近が同時に剥離したもので2次加工ではないと思われる。素材の末端に数回の剥離を施して刃部を作出しているが、加工頻度は低く完成品とは考えにくい。平面形は五角形状を呈し、断面形は甲高の台形を呈する。

10は無斑晶質安山岩の剥片を素材としている。素材の打面は折れにより存在しない。素材末端の肩の部分に正方向の剥離を施して丸い刃部を作出している。実測図左下側縁が刃部で、左側縁ほぼ全体に刃部より粗い正方向の剥離が施されている。平面形は拇指状を呈するが、刃部の位置は一般的な拇指の先端からずれている。断面形はD字状を呈する。

(5) 削器 (第30図・報告番号11～13)

3点の削器が出土している。いずれも刃部のみに加工が施されており定形的なものではない。



第30図 旧石器時代 石器実測図2(搔器・削器)

11は無斑晶質安山岩の剥片を素材としている。素材打面側が折れており現形状は横長を呈する。その短辺にあたる左側縁上半部に正方向、下半部に半方向の平坦剥離を施して刃部を作出している。下辺にみられる反方向の剥離は右下辺が礫であることから、礫面に残されているひびによる剥離で、素材剥離時と同時と考えられる。

12は凝灰岩の貝殻状剥片を素材としている。素材は礫面を打面としており、石刃のような定形的なものとは異なる。素材の末端に反方向の平坦剥離を施して刃部を作出しているが、加工頻度が低く刃部でない可能性もあろうか。

13は玉髓の横長剥片を素材としている。素材の打面側にやや角度のある正方向の剥離を施して刃部を作出している。この加工により打面は折除されている。他の削器と異なり加工頻度は高く、刃部は鋸歯状を呈している。

(6) 楔形石器 (第31・32図・報告番号14～28)

楔形石器は15点検出されているが、11点が第3号ブロックに分布している。

14・16・20～24・26・27は風化面が灰白色の珩質頁岩製である。いずれも第3号ブロックに分布しており、母岩も同一あるいは同種と思われる。同一母岩の剥片類がほとんど見られないため、これらは単独で持ち込まれたと思われる。

14裏面はポジティブな剥離面だが、剥離の開始部が上端付近で、側縁の折れ面に切り勝っていてリング・フィッシャーも通常の剥離にみられる状態と異なることから、素材の主要剥離面ではないと思われる。上下両端の裏面に小さく平坦な2次剥離があり、わずかだが表面にも微細な2次剥離が認められる。

15の裏面は非常に平坦なため素材の主要剥離面ではないと思われる。上端には側面および裏面に槌状剥離がみられるが、なぜかどの剥離にも剥離の開始部がない。下端には狭く切り立った平坦面があり、そこから裏面に微細および平坦な剥離がみられ、剥離の開始部には僅かに潰れが認められる。

16は珩質頁岩の横長剥片を横に置き、縦長に素材を用いている。上下両端の表裏に平坦および微細な2次剥離が認められる。端部の潰れはみられない。

17は上下両端の表裏に平坦および微細な2次剥離があることから、素材の主要剥離面が確認できない。上下端は風化でややとろけているものの潰れは認められない。

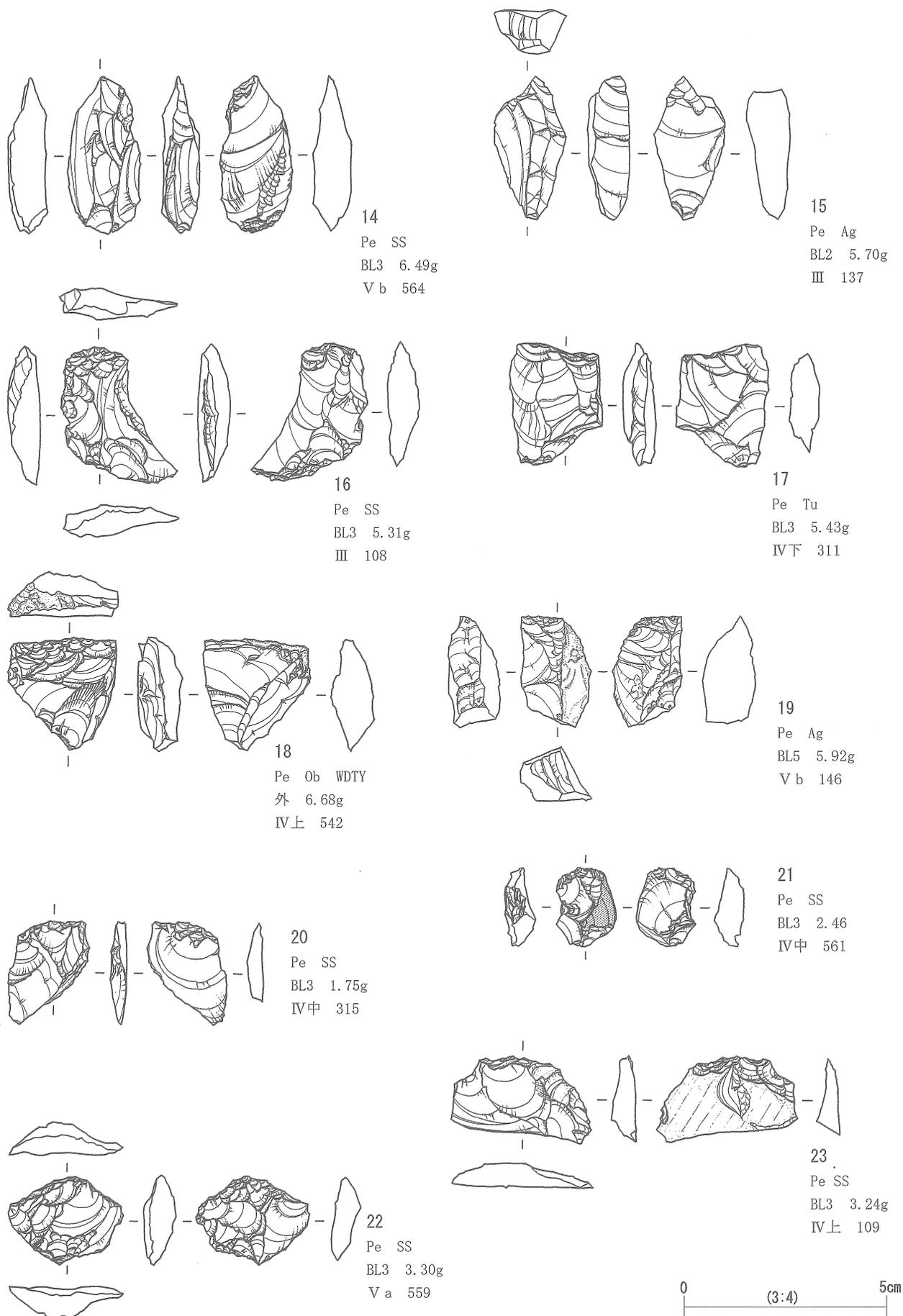
18は素材末端の切り立った礫面を上端としている。その礫面を打面として表面に平坦および微細な2次剥離が施されている。上端の剥離開始部は潰れている。下端方向からの平坦な剥離が裏面にあるが剥離開始部は欠損している。また、下端右下方向からの表面への平坦な剥離もみられる。上端の剥離が表面に偏る点や、下端がそれに対応しないなど典型的な楔形石器とはやや異なる性格を持つといえよう。

19は玉髓製で上下端からの剥離によりポジティブな面が切り取られているため素材が読み取れない。上端には表裏面に平坦および微細な2次剥離があり、その開始部は若干潰れている。下端方向からの平坦な剥離の末端は認められるが、下端は欠損している。器体は厚くごろっとした印象を持つ。

20の裏面はポジティブな面となっており、素材の主要剥離面の可能性が考えられるが、2次剥離の可能性も捨てきれない。上端表裏面に小さく平坦な2次剥離がみられ、下端は欠損している。器体は薄い。

21は表裏にポジティブな面がみられるが、裏面が切り勝っている。上下端には表裏に平坦および微細な2次剥離がみられる。これら2次剥離はやや表面に多く、開始部は潰れていない。その他に、左側縁にも多くの開始部が潰れた2次剥離が認められる。

22の裏面にポジティブな面があるが、素材の主要剥離面と断定できない。上下端の表裏に平坦および微細な2次剥離がみられるが、器体左側の剥離数は特に多く、上端と下端の剥離が肩部を介して連なっている。上端中央部付近に潰れが見られる。平面形は横長で隅丸のひし形を呈し、上下側面形は翼状を呈する。



第31図 旧石器時代 石器実測図3(楔形石器1)

23の表面左下にポジティブな剥離面があるが、素材の主要剥離面と断定できない。上端の表裏に平坦および微細な2次剥離がみられ、下端は欠損している。欠損のためか平面形は横長で、断面形は薄い。

24にはポジティブな剥離面が認められない。上端の表面に平坦および微細な2次剥離がみられるが、この中の一枚の剥離が裏面へ抜けているため、下端は存在しない。また、左右端にも対応する2次剥離部が存在する。右端は裏面には開始部が潰れた微細な2次剥離があり、左端裏面にも僅かだが微細な2次剥離が認められる。

25の裏面はポジティブな剥離面で素材の主要剥離面と思われる。下端折れ面以外にこの面を切る明瞭な2次剥離面がないため単なる剥片とする視点もあるが、線状の打面部に僅かな潰れが認められる点、背面頭部からの剥離末端にステップが目立つ点、主要剥離面に複数のバルブがみられる点から楔形石器と判断した。

26は上端部がわずかに残るのみである。上端は表裏に平坦および微細な2次剥離がみられる。

27の裏面はポジティブな剥離面で素材の主要剥離面と思われる。上端は25とよく似ている。下端裏面の切り立った2次剥離は一般的な楔形石器の加工と異なる。

28は黒曜石のやや横に長い剥片を縦長に置いている。上端の表裏に平坦および微細な2次剥離がみられ、端部はわずかだが潰れている。下端は折れ面で切り立っているが、折れた後の平坦な2次剥離が裏面にみられる。

(7) 石刃 (第32～36図・報告番号29～58)

30点の石刃が出土している。第7号ブロックでは22点の石刃が検出されており、その他に石刃石核や多くの縦長剥片が検出されている。ここの石刃には打面調整、頭部調整、稜上調整等が認められる。石材は蓼科冷山群の黒曜石で、それ以外の産地群の黒曜石および、その他の石材の石刃は他の場所で製作されたものが持ち込まれたと考えられる。

37・42・43・45・49・53に打面調整が認められる。打面調整は背面の切り立っている方の剥離面より、打点付近に向かって平坦な剥離が施されている。また、37・42は無斑晶質安山岩製、43・45は和田鷹山群の黒曜石製で形状も整っているため、いずれも素材もしくは製品として他の場所から持ち込まれたものと考えられる。ただし、53は蓼科冷山群の黒曜石の稜付剥片であり、遺跡内で製作されたものと思われる。

32・33・34・39・47・48・51・52・56・58に頭部調整が施されている。打面の最も厚くなる稜の部分に平坦な剥離を施して厚みを減じている。また、頭部調整が施されている石刃に明瞭な打面調整が認められない。調整により打面が狭くなっている影響も考えられるが、単剥離打面も目立つことから、打面調整と頭部調整は相反する関係にあることが想定できようか。

31・35・44・53・54・55は稜付剥片である。これらの存在により稜上調整がおこなわれていたことがうかがえる。

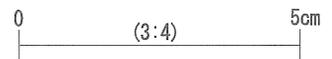
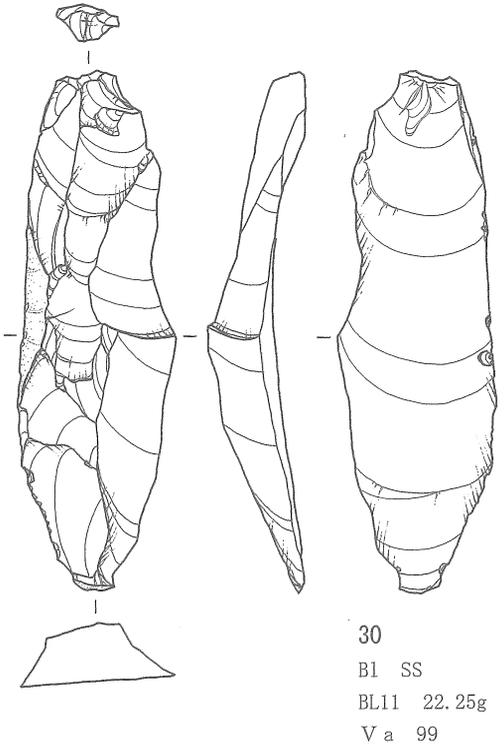
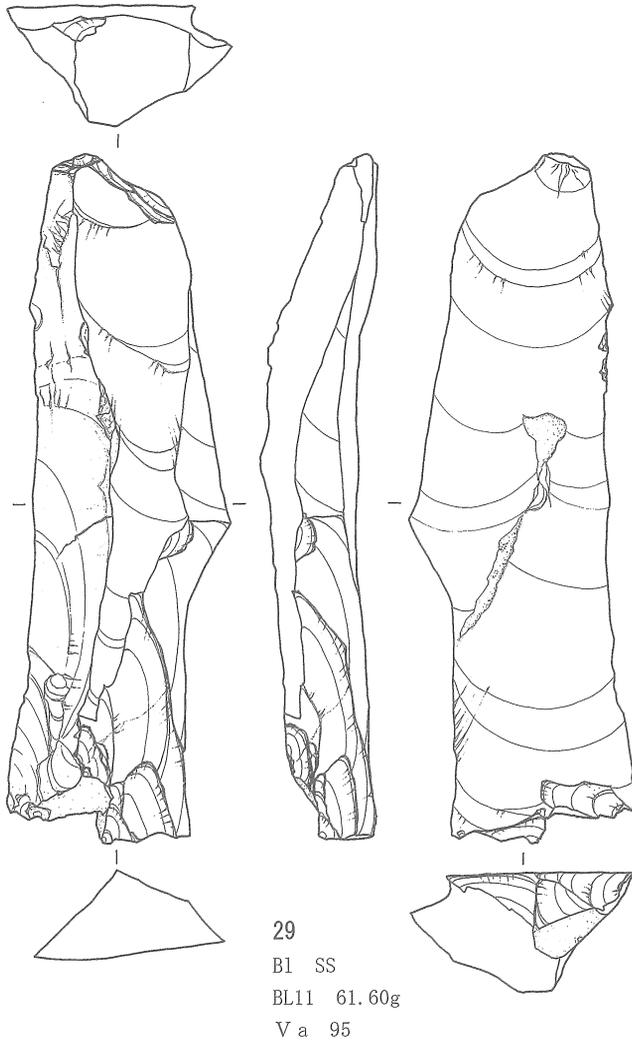
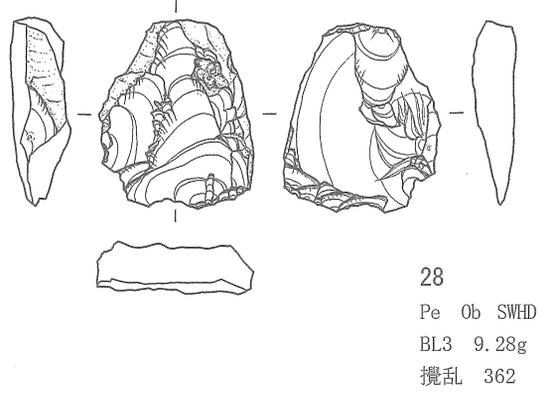
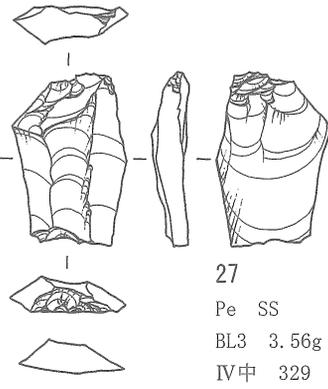
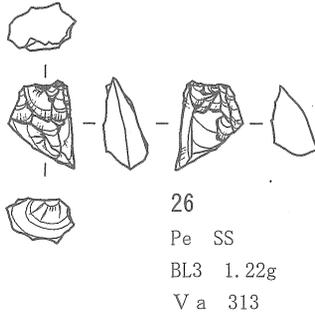
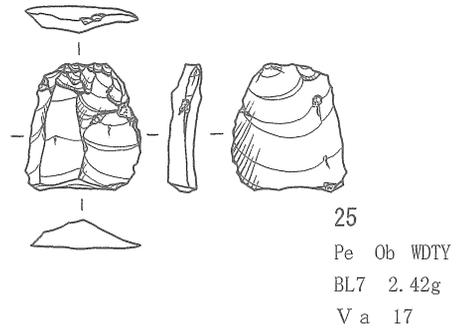
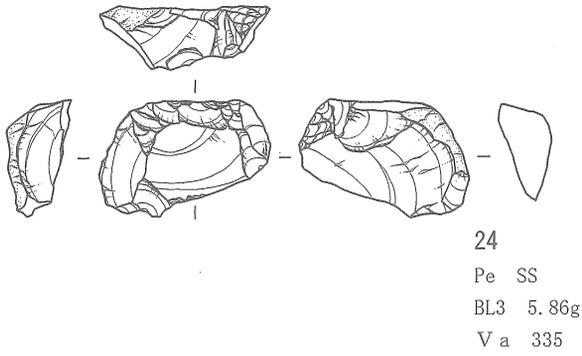
32・33・34・36・38の背面に主要剥離面と逆方向の縦長の剥離痕が認められることから、両設打面の石刃石核の存在が確認できる。

(8) 石核 (第36～41図・報告番号59～74)

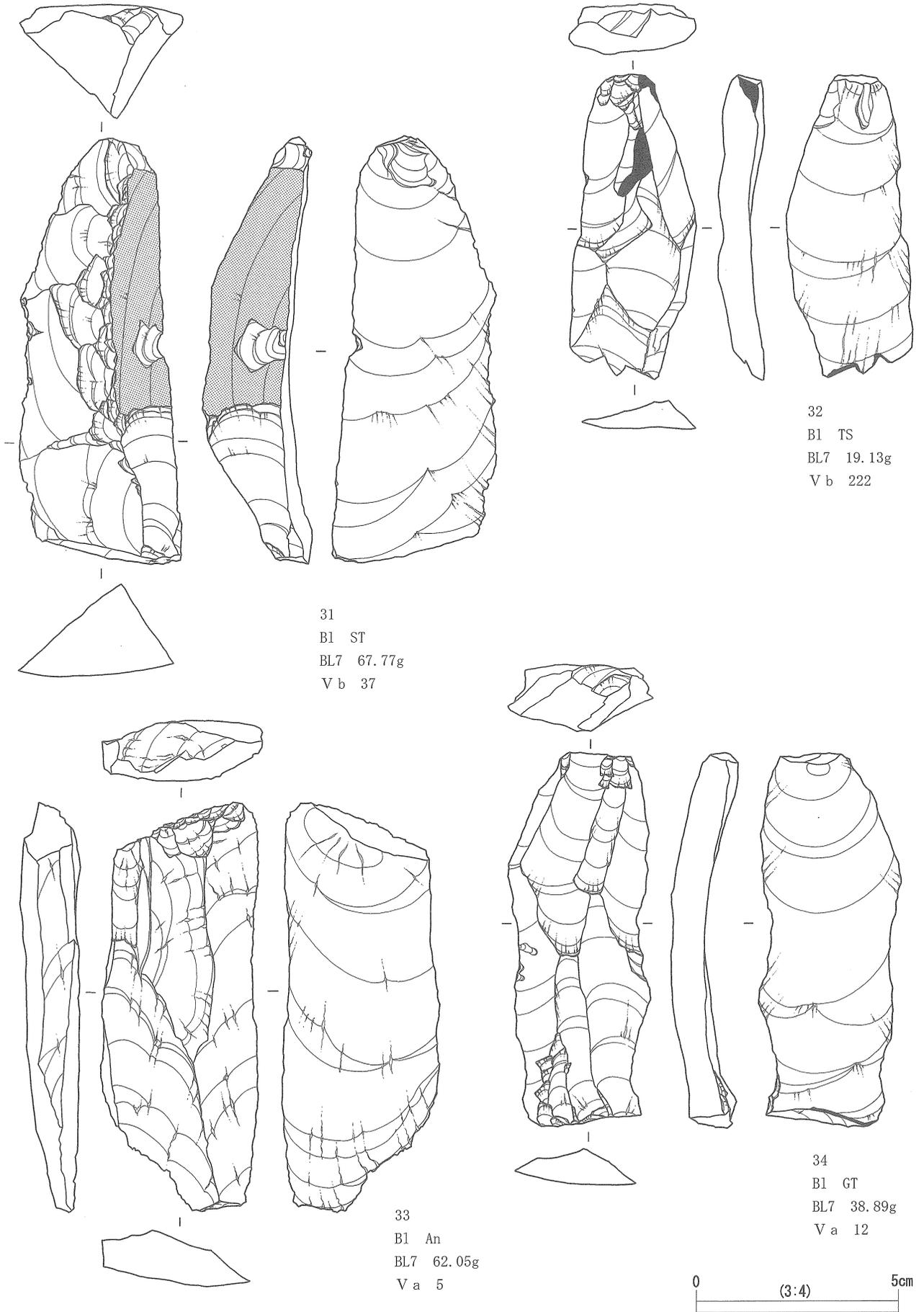
17点の石核が出土している。南西区には石刃石核が、北区には貝殻状剥片を目的とする石核が存在する。

59・61～65は黒曜石の石刃石核で、62が第9号ブロック、その他は第7号ブロックから検出されている。

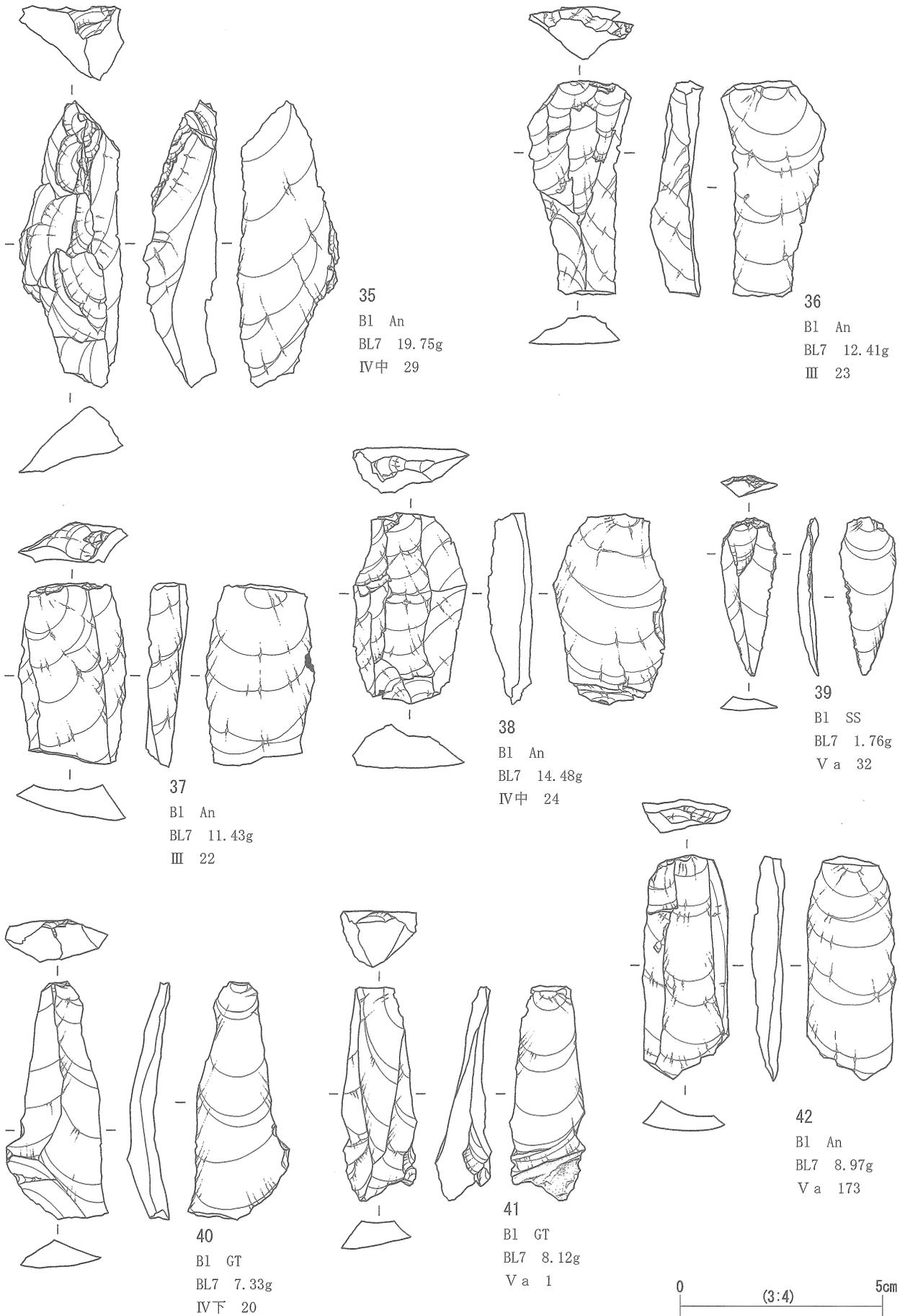
59の産地は和田鷹山群が推定されており、他の蓼科冷山群と異なる。また、他の石核が剥離が進行して小形化しているため、これ以上は有効な石刃が得られないと思われるのに対し、59は大きさもあり石刃石核としてのさらなる利用が可能なものと思われる。さらに、59にのみ打面調整および、主要作業面の背の部分の稜への調整が認められる。



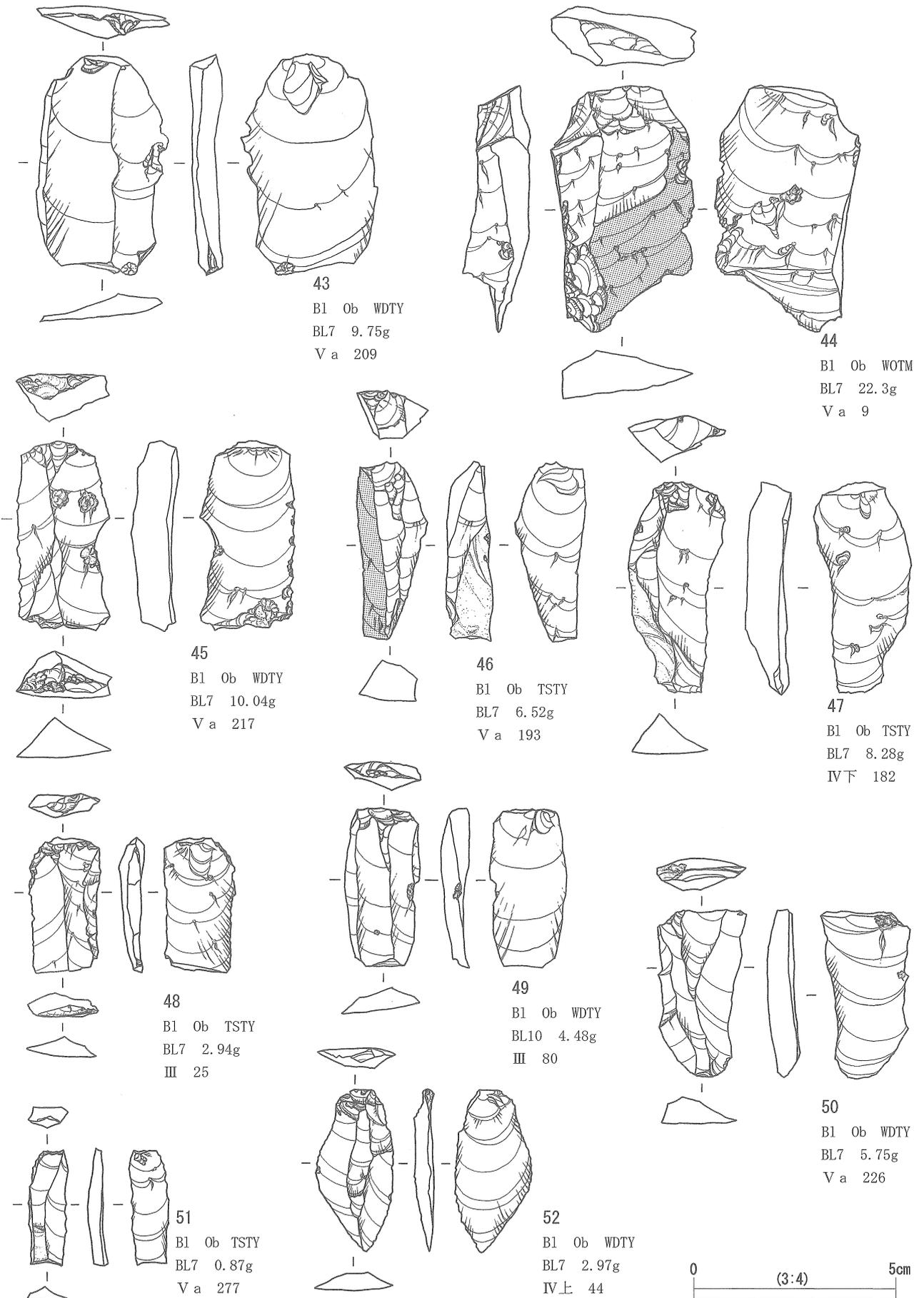
第32図 旧石器時代 石器実測図4(楔形石器2・石刃1)



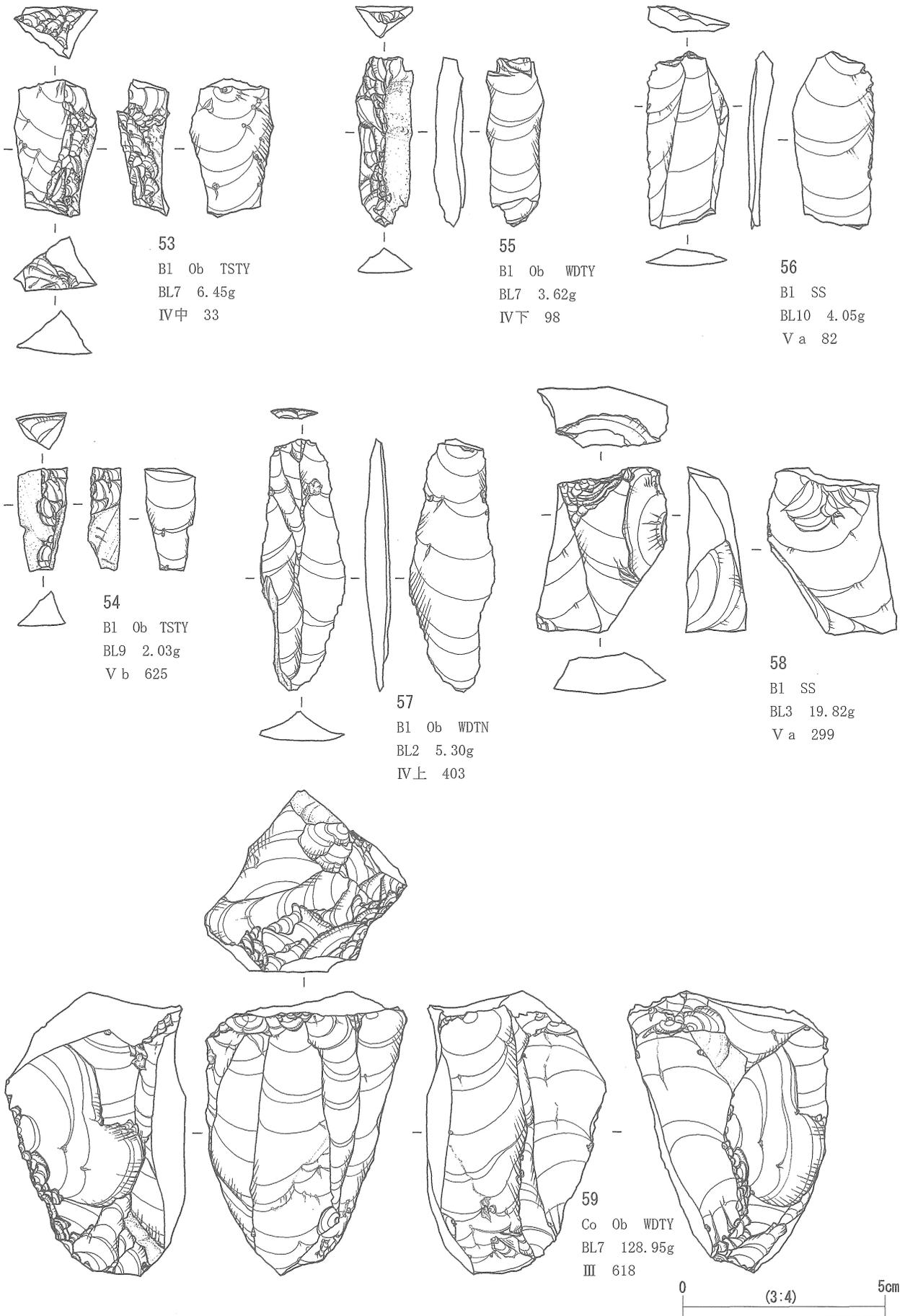
第33图 旧石器時代 石器実測図5 (石刃2)



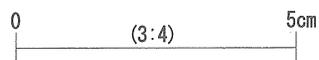
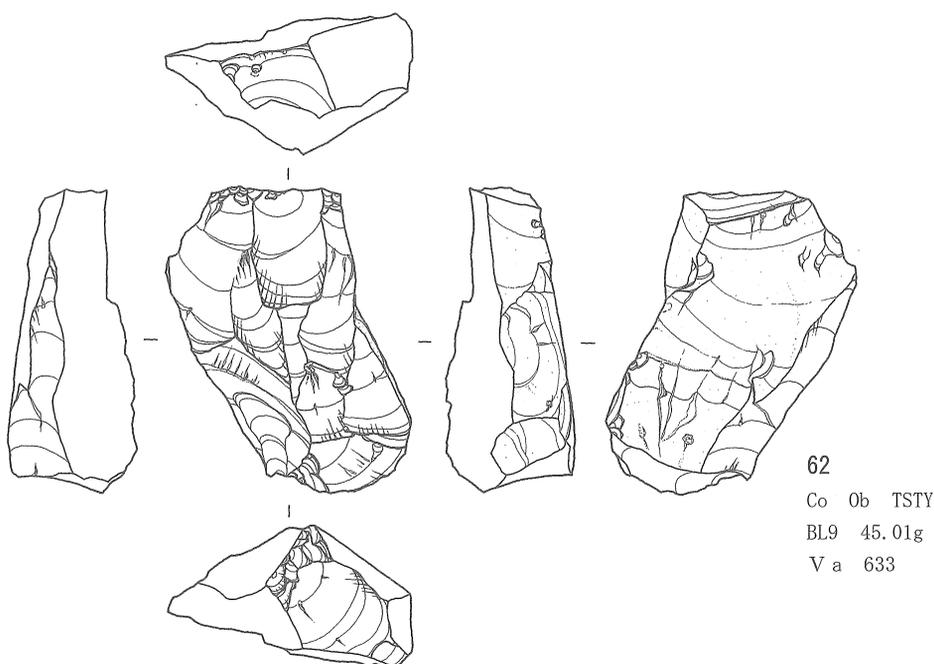
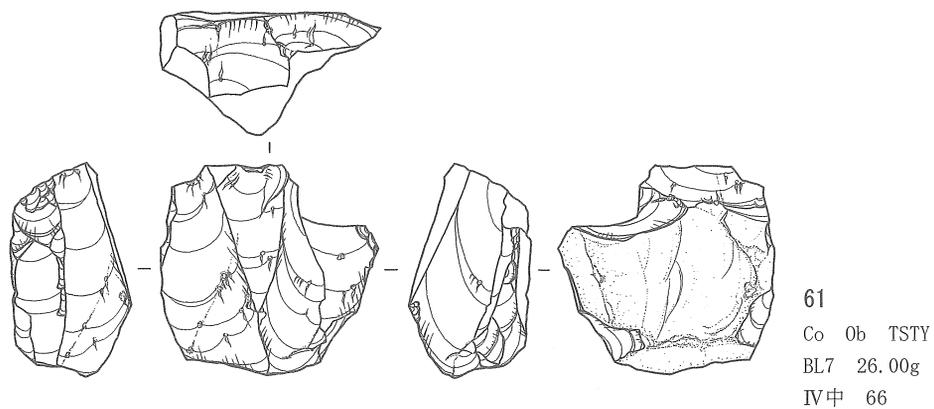
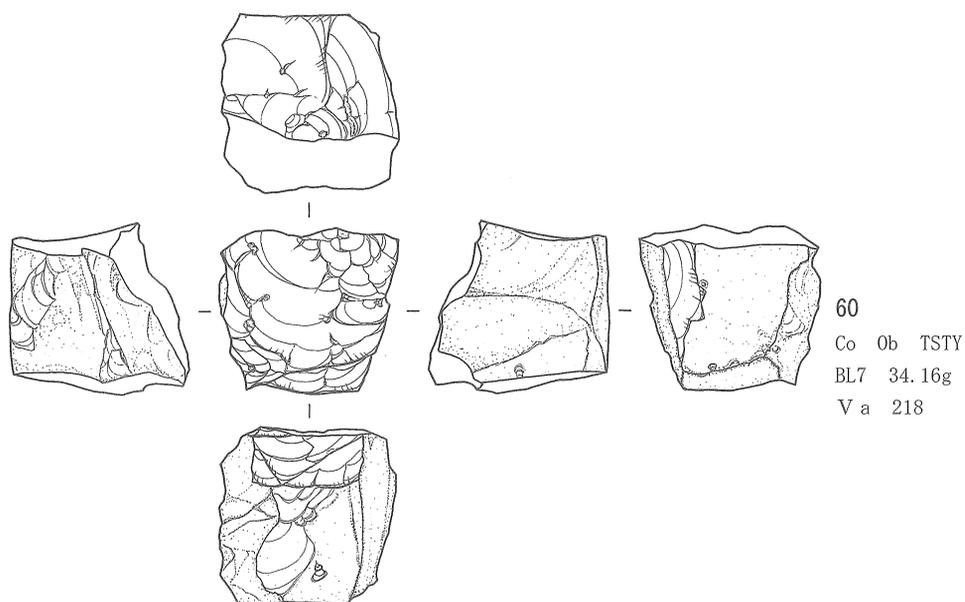
第34図 旧石器時代 石器実測図6 (石刃3)



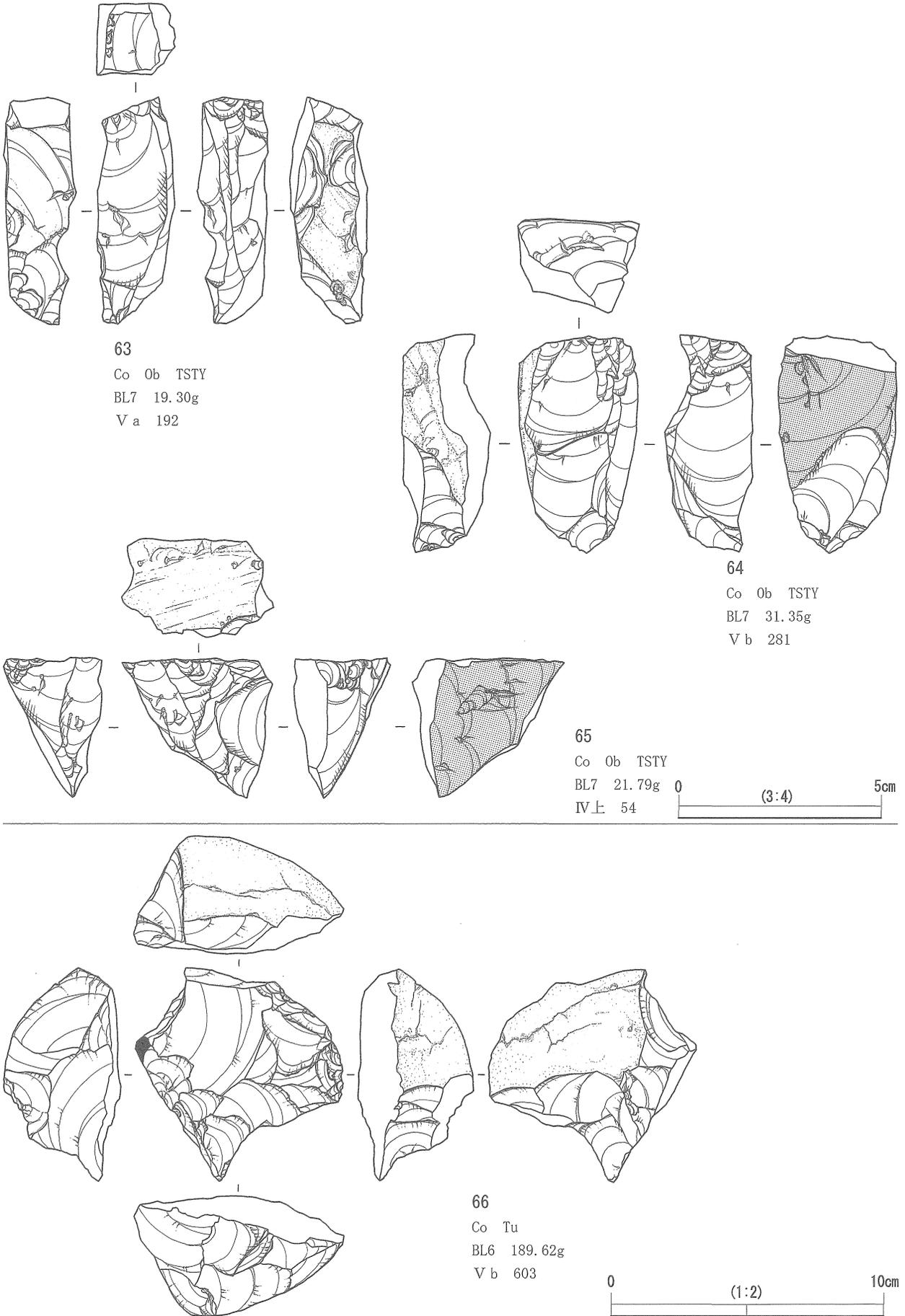
第35图 旧石器時代 石器実測図7 (石刃4)



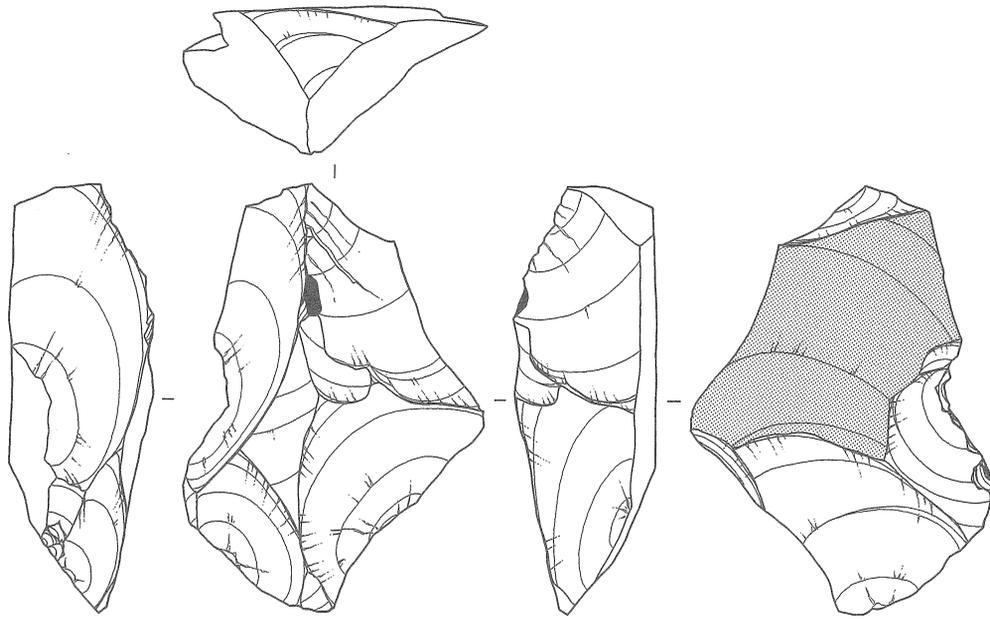
第36図 旧石器時代 石器実測図8 (石刃4・石核1)



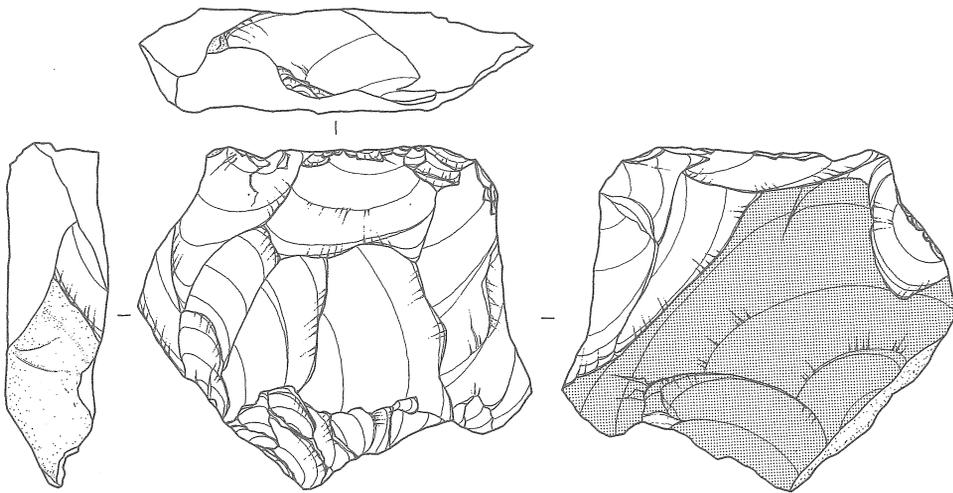
第37図 旧石器時代 石器実測図9 (石核2)



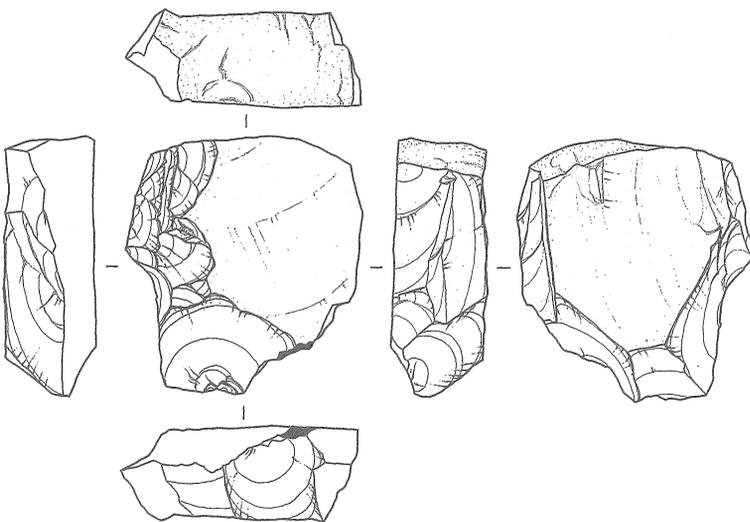
第38図 旧石器時代 石器実測図10 (石核3)



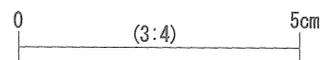
67
Co Tu
BL6 65.69g
V b 538



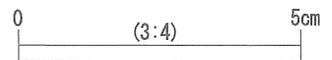
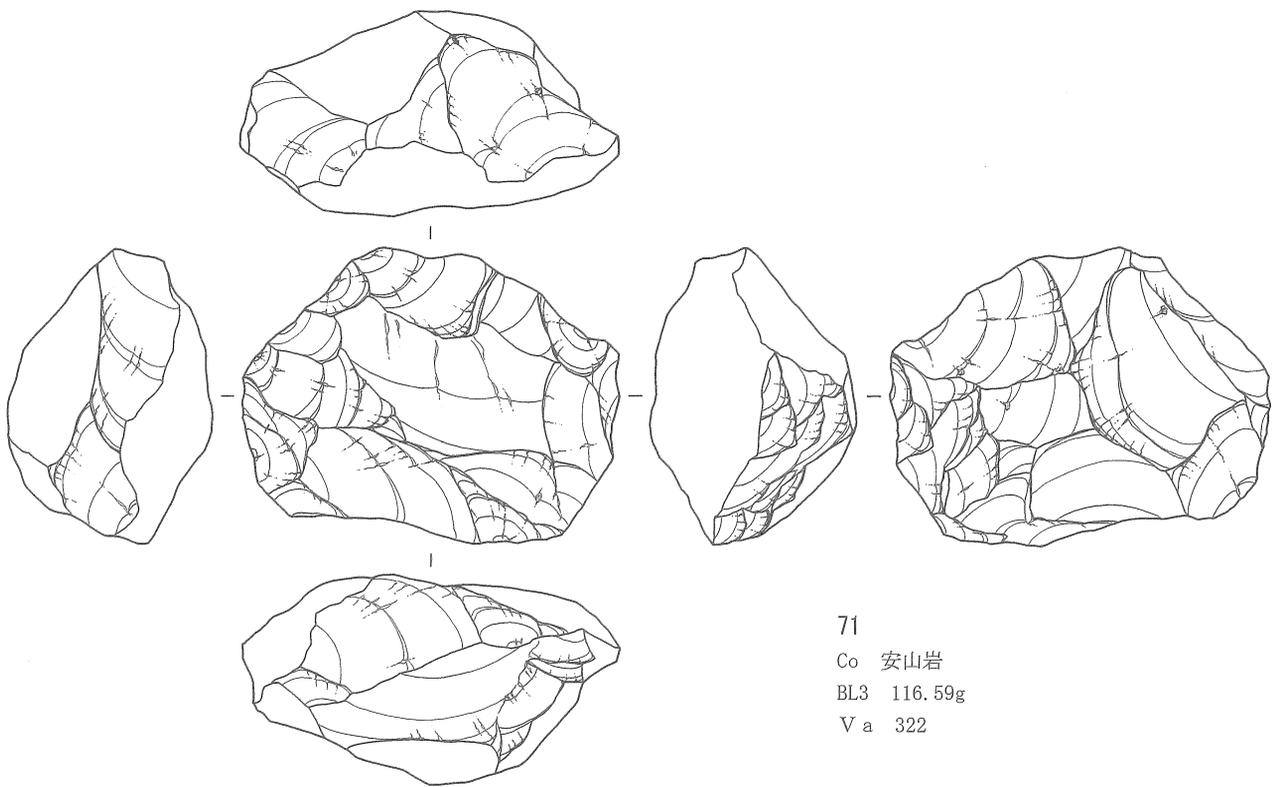
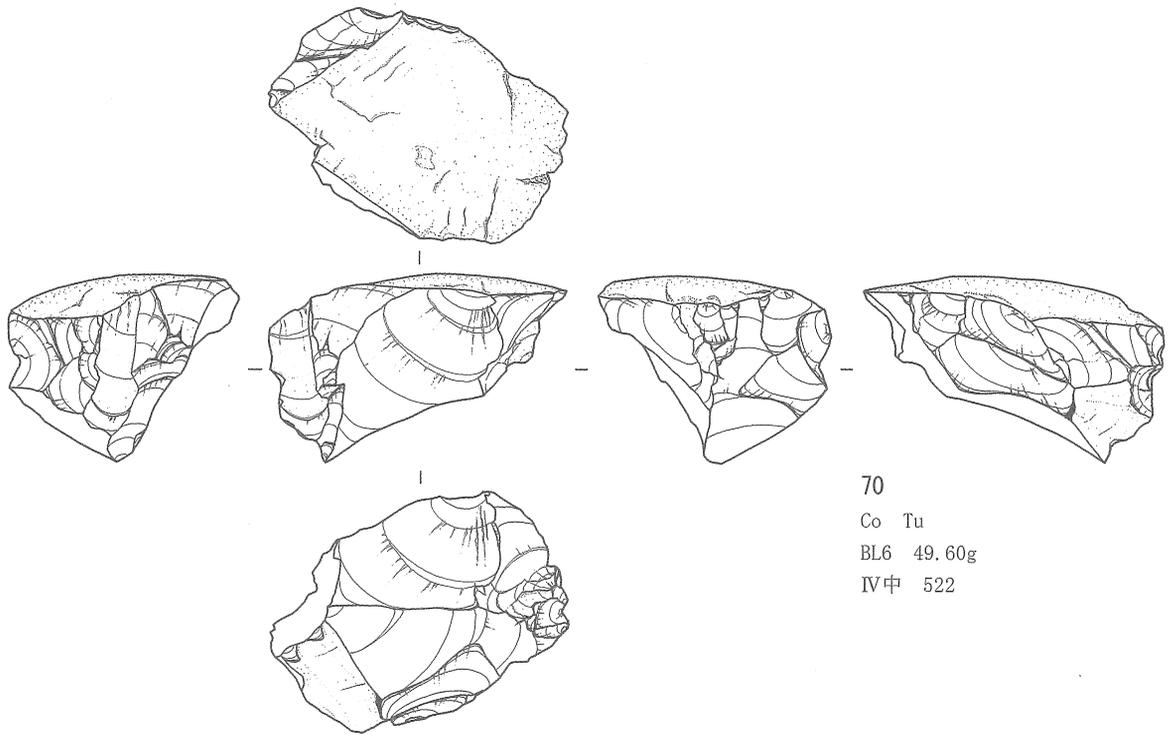
68
Co Tu
BL6 75.82g
V a 512



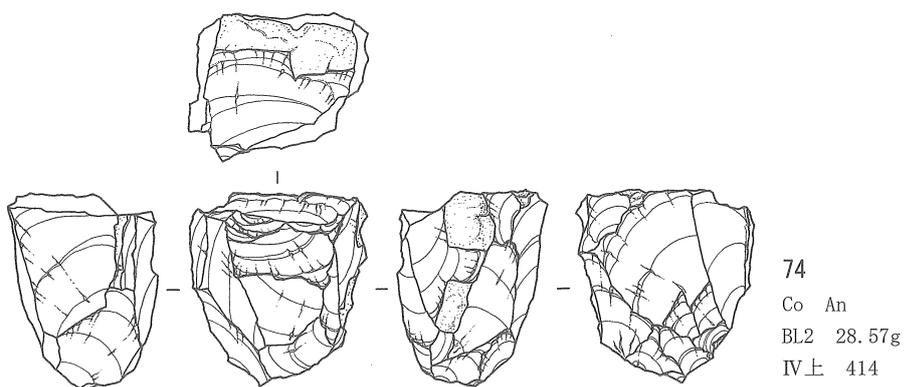
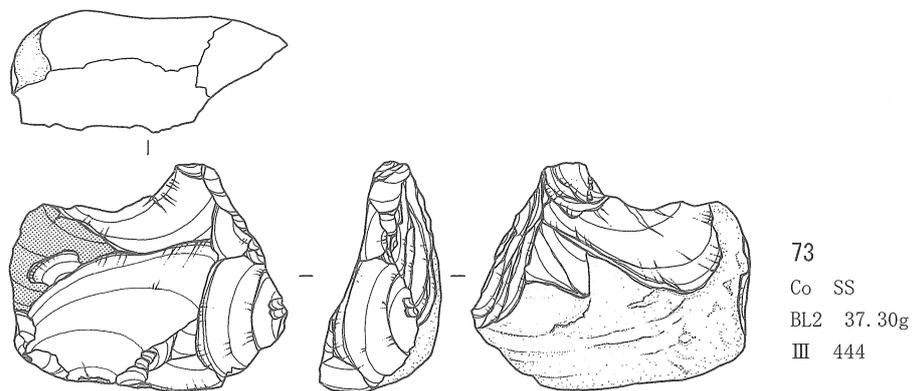
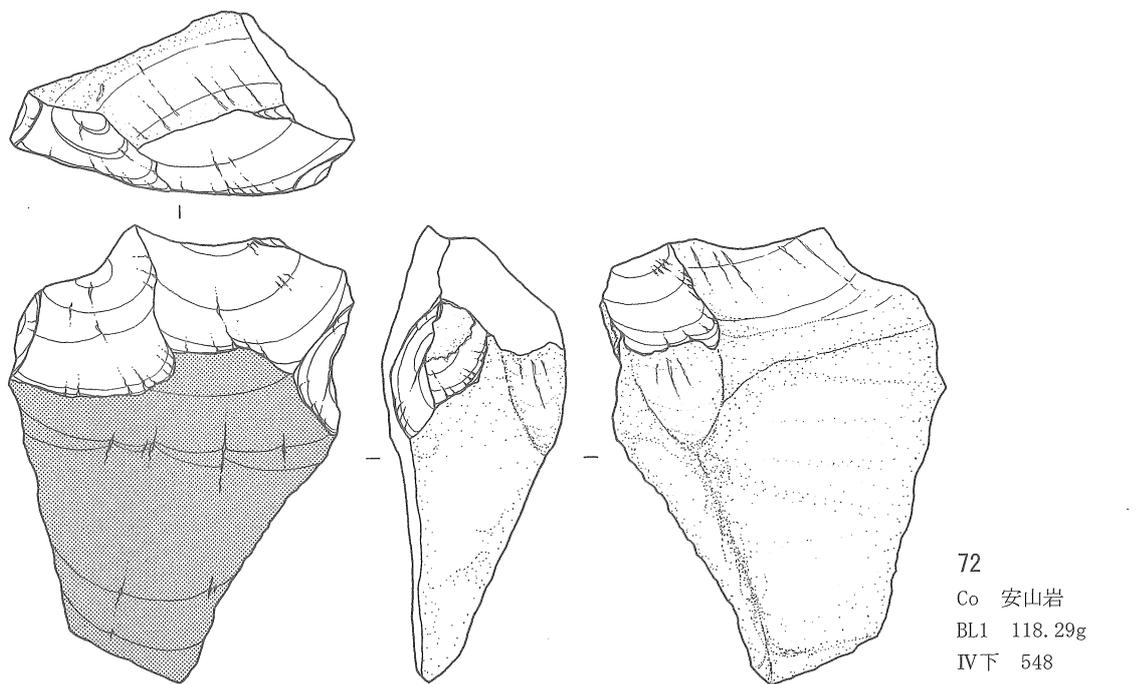
69
Co Tu
BL4 44.93g
IV中 456



第39図 旧石器時代 石器実測図11 (石核4)

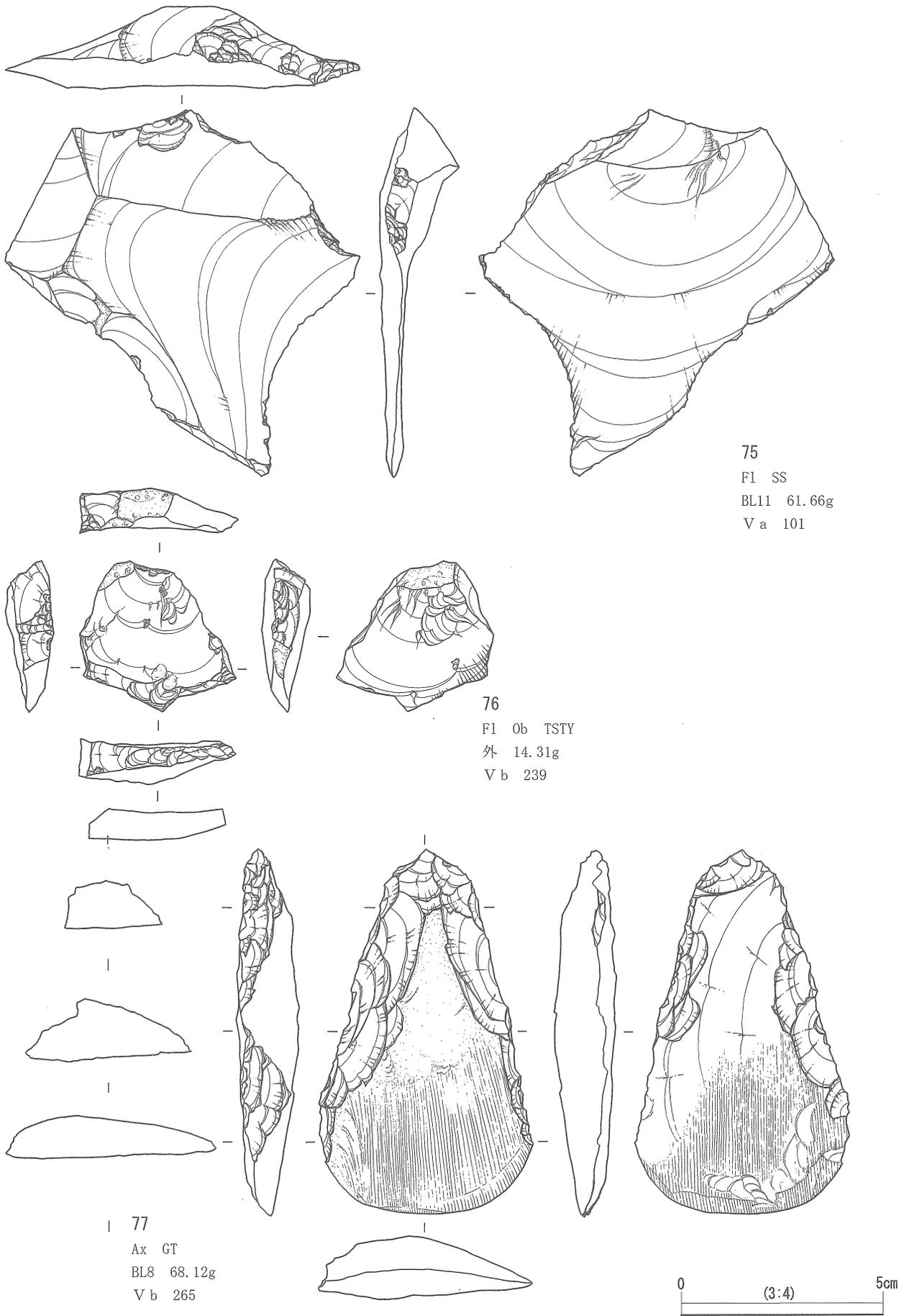


第40図 旧石器時代 石器実測図12 (石核5)



0 (3:4) 5cm

第41图 旧石器時代 石器実測図13 (石核6)



75
Fl SS
BL11 61.66g
V a 101

76
Fl Ob TSTY
外 14.31g
V b 239

77
Ax GT
BL8 68.12g
V b 265

0 (3:4) 5cm

第42図 旧石器時代 石器実測図14 (打面再生剥片・斧形石器1)

61～65の打面には調整がない単剥離面もしくは平坦な礫面となっており、62～64は下面にも打面が設定される両設打面が認められる。頭部調整はさほど顕著ではないがどの石核にもみられる。64・65にはポジティブな剥離面が存在することから剥片を素材とした石核であることがうかがえる。

60はサイコロ状の石核だが目的的な剥片は得られていないようで、石核というより分割原石と表現すべきものかもしれない。

66～74は貝殻状剥片を剥離した石核で、いずれも北区から検出されている。剥片の形状、大きさに斉一性がなく、明確な目的形状がないことをうかがわせている。板状の分割礫および剥片が素材となり、作業面が1つの広面に固定され、縁辺を打点が横に移動して剥離が進行するものが主体となっている。明瞭な打面調整、頭部調整は認められないため、石核調整はほとんどないといえる。

(9) 打面調整剥片 (第43図・報告番号75・76)

2点の打面再生剥片が出土している。いずれも石刃石核の打面再生剥片と思われる。なお、器種上の分類は剥片となっているため、組成表や分布図上の表現は剥片と同じなので注意されたし。

75は珪質頁岩製である。長さ、幅とも9cm弱と大形で打面全体が背面に収まりきっていないため、打面はさらに大きく巨大な石核から剥離されたものと思われる。調査区内には同一母岩の石刃があるものの、剥片、碎片がないため石刃等と共にこの状態で持ち込まれたものと思われる。打面に残っていたパンチコーンの影響のためか打点が明瞭ではない。

76は黒曜石製である。遺物取り上げ時に出土位置がわからなくなってしまったが、ほぼ遺物の並び順に取り上げ時の番号を付けているため、第7号ブロックか第8号ブロックに属すると思われる。背面にはほぼ打面全体が収まっており、パンチコーンもみられる。

(10) 斧形石器 (第42・43図・報告番号77・78)

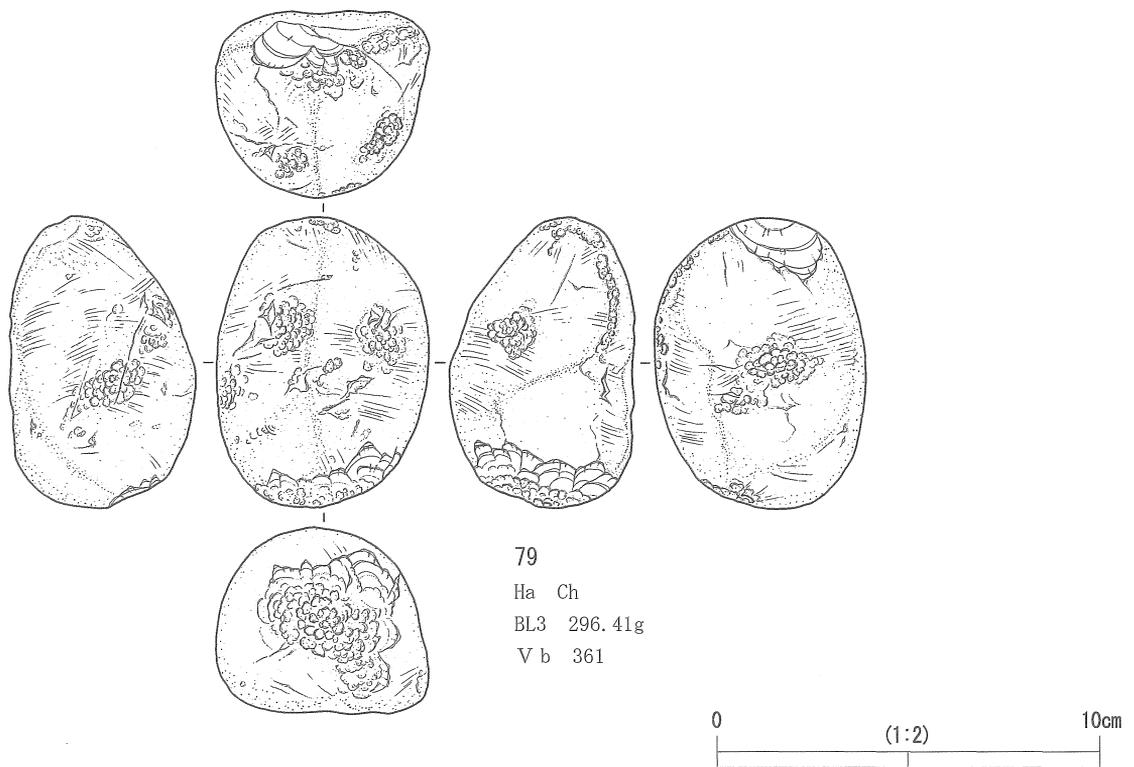
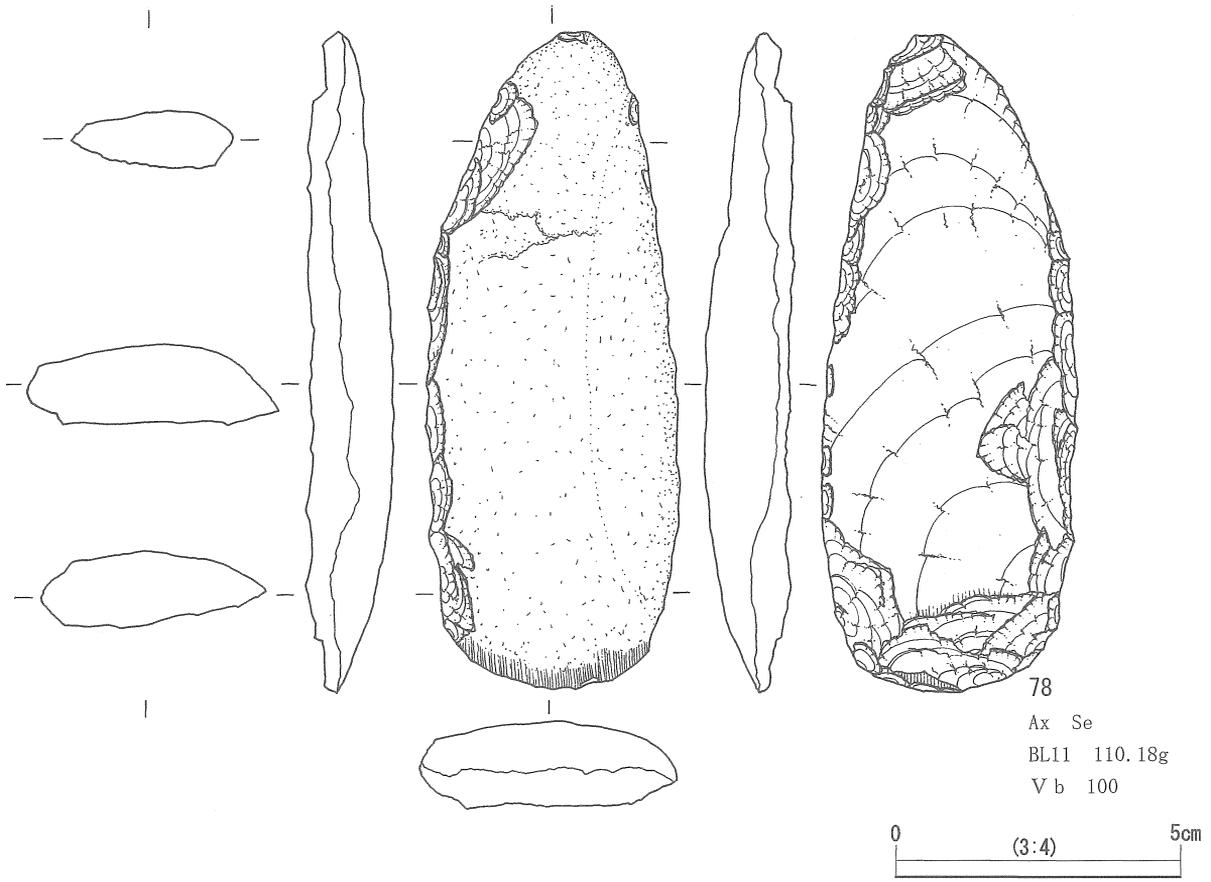
2点の斧形石器が出土している。

77は緑色凝灰岩の横長剥片を素材としている。素材を横に置き縦長に用いている。素材の打面側となる左側縁は、正方向の平坦な剥離が施され打面が除去されている。この剥離は厚みのためか剥離の収束部にステップが目立つ。その後反方向の小さく平坦な剥離により縁辺を直線的に整えている。右側縁は下半部は正方向のやや切り立った剥離が施されており、上半部は1枚の大きく平坦な剥離を施した後に、反方向の小さく平坦な剥離が施され、直線的な側縁が作出されている。刃部から胴部下半部には研磨が施されている。丁寧な研磨により、滑らかで鋭い縁辺が作出されている。

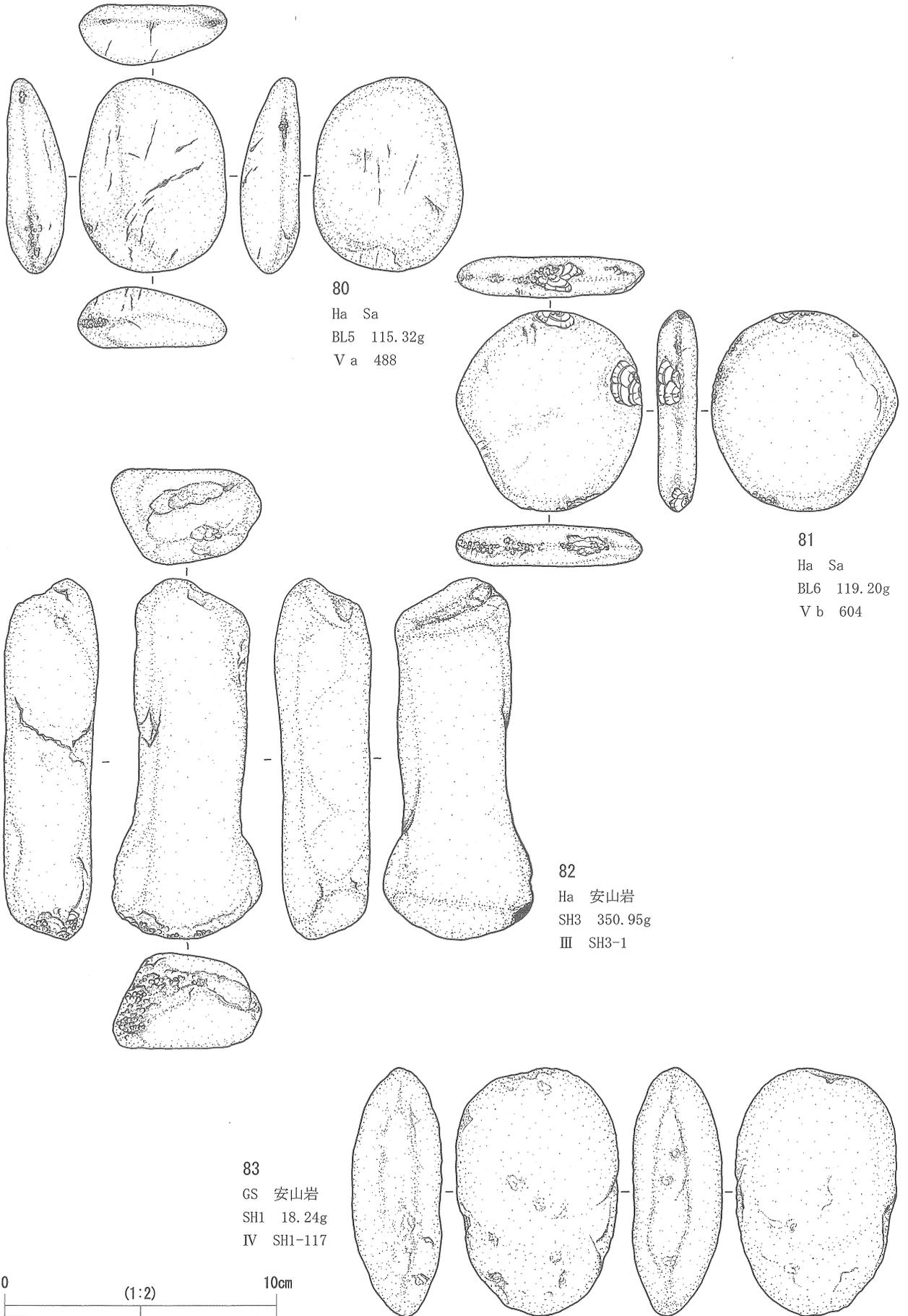
表面はほぼ全面礫面だったようで、礫面の持つ滑らかさを利用して研磨が施されている。研磨面と礫面は漸移的で明瞭な境目がない。裏面は素材の主要剥離面であり礫面はなく、中央付近はわずかな凹面となっているが研磨がおよんでいる。刃部縁辺から5mm前後の範囲に研磨面同士による稜がみられる。刃部がより丁寧に磨かれているのだろうか。または、使用による刃部の研ぎなおしの結果であろうか。研磨方向は表裏とも刃部に対してほぼ垂直であるが、やや左上がりになる部分もみられる。研磨は基本的に剥離の後に施されており、明瞭に研磨面を切る剥離面はない。

平面形は最大幅が刃部近くにあり、基部が狭くなる左右対称の撥形をていしており、横の断面形は表面が凸となるD字状を呈している。下面からの刃部縁辺は表面が凸となるゆるやかな弧状をていしている。

78は蛇紋岩の横長剥片を素材としている。素材を横に置き縦に長く用いている。素材打面側の左側縁に正反方向の平坦な剥離を施そうとしているようだが、厚みのためか剥離は内面まで達せず、短くステップで収束しているものが多いため切り立っている。右側縁は反方向の小さく平坦な剥離が施されている。



第43図 旧石器時代 石器実測図15 (斧形石器2・敲石1)



第44图 旧石器時代 石器実測図16 (敲石2・磨石)

表面は前面滑らかな礫面で、その滑らかさを利用して研磨が施されているが、研磨範囲は刃部縁辺から数mmの幅と狭い。裏面は全面剥離面となっているが、刃部付近にわずかに研磨面がみられる。この研磨面は刃部縁辺からの微細な剥離に切られている。また、刃部方向からの平坦な剥離のステップ状の収束部の上にも狭い研磨面が認められる。おそらくもともと研磨面があったが、刃部再生のため研磨面が狭くなってしまったものと思われる。平面形は左右対称で基部幅がやや狭いが、最大幅は中央付近にある撥形と短冊形の間隔的な形を呈している。断面形は表面が凸となるD字状を呈している。

(11) 敲石 (第43・44図・報告番号79～82)

5点の敲石が出土しているが、いずれも北区から検出されている。

79はチャートの円礫を用いている。長軸の端部および胴部中央付近に敲打痕が集中している。端部の敲打部には面ができており、胴部の敲打部は凹石のようにくぼんでいる。敲打痕の周辺には線状の傷が無数に残されている。よく観察すると端部および胴部の敲打部内部にも線状の傷が無数にあり、敲打痕の最小単位は線状の傷で、その集合体が敲打部となっていると考えられる。そのため、一般的なハンマーストーンとされている敲石とは性格が異なる。79が検出された第3号ブロックは楔形石器が11点集中している。線状の傷の大きさはまさに楔形石器のあたりによってできる傷の大きさと一致しているように思われる。したがって、この敲石は楔形石器の使用もしくは製作の時のハンマーおよび台石のような機能があったと推定される。

80・81は平面形が円形を呈する砂岩の扁平な円礫を用いている。その外縁に敲打痕が確認できる。80の使用頻度は低いようで敲打痕は少なく明瞭ではない。

82は棒状の多孔質の安山岩を用いている。端部に敲打痕が集中しており、第3号礫群から検出されている。

(12) 磨石 (第44図・報告番号79～83)

1点の磨石が出土している。83は第1号礫群から検出されている。扁平な円礫を用いており、胴部に使用によると思われる稜がみられる。しかし、石器表面はざらざらに風化しており、磨面は明瞭ではない。

2 石材・母岩分類

石材・母岩分類作業は碎片・敲石・磨石を除くすべての石器を対象としておこなった。その結果12石材72母岩に分類された。各母岩の分類基準を第16表に示した。次に石材ごとの特徴と母岩分類状況等を記述する。

(1) 黒曜石

黒曜石は特徴のある岩石のため他の石材との分類は容易だったが、母岩の分類は遺物数が多く個体差があまりないためにきわめて困難であった。そのため、母岩分類作業は1母岩1個体のレベルまでおよそ達することができなかった。また、産地推定をおこなっているが、作業順序は母岩分類が先で、産地推定を後におこなったため第17表のように1母岩に複数の産地が含まれる結果となっている。

母岩1は大半が蓼科冷山群となっている。蓼科冷山群の黒曜石は小さな球顆が特徴的で肉眼でも比較的容易に分けることができるが、少量だが、和田鷹山群と和田高松沢群が混じってしまった。その理由には和田鷹山群の黒曜石は球顆のない質の良いものから、球顆のある質の悪いものまであり、あらゆる顔つきの黒曜石があること。和田高松沢群は一般的に出回ることが少なく、球顆の多い特徴が蓼科冷山群に似ているため少数で遺跡内にある場合に抽出することが難しい点等があげられる。

同様に和田峠、星糞峠周辺の和田鷹山群や和田小深沢群と星ヶ塔、星ヶ台のある諏訪星ヶ台群はよく似ており、肉眼による分類は難しく精度が低い。ただし、同一産地群内の黒曜石でも異なる顔つきの黒曜石が多種あり、それは蛍光X線を用いた産地推定で分けることができないため、肉眼での分類にたよるしかない。

第2章 旧石器時代

報告番号	遺物番号	出土遺構	地層	器種	材質	Ob産地	母岩番号	接合番号	長mm	幅mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	標高	
1	198BL7	IV下	Kn	Ob			4		9	32	21	3.6	2.02	88027.432	-24479.086	660.188
1	199BL7	Va	Kn破	Ob	WDTY		4		9	34	21	3.4	2.76	88027.200	-24479.652	660.136
2	519BL6	III	Kn	Ob	SWHD		4			42	18.5	10.8	3.45	88051.255	-24440.048	660.641
3	340BL3	III	Kn	Ob	SWHD		3			26	9	2.7	0.63	88051.285	-24467.536	660.734
4	219BL7	Va	Tr	Ob	TSTY		6			40	24.5	7	6.07	88024.738	-24482.519	659.948
5	272BL7	Va	Tr	ST			72			46	25	9.7	9.54	88024.768	-24477.858	660.143
6	501BL6	IV下	Tr	Ob	SWHD		13			27.5	20	5.2	2.51	88048.177	-24441.409	660.302
7	190BL7	Va	Tr	Gh			57			33	17.5	8.8	5.36	88026.081	-24478.764	660.048
8	194BL7	Va	CF	SS			37			31	25	8	7.21	88027.020	-24478.390	660.080
9	288BL7	Vb	ES	An			16			41	42	17.2	37.20	88027.889	-24481.781	659.796
10	304BL1	IV中	ES	An			17			43	26.5	11.15	14.33	88055.946	-24473.158	660.694
11	377BL2	IV中	Sc	An			17			37	73	19.1	39.23	88056.878	-24463.728	660.751
12	463BL4	Va	Sc	Tu			22			41	42.5	8	14.48	88047.703	-24453.297	660.313
13	496BL5	IV下	Sc	Ag			47			41	32	9	10.55	88050.106	-24445.649	660.414
14	564BL3	Vb	Pe	SS			31			38	17.5	10	6.49	88051.675	-24469.070	660.282
15	137BL2	III	Pe	Ag			46			34.5	18	10.25	5.70	88054.389	-24457.266	660.831
16	108BL3	III	Pe	SS			31			33.5	29	7.7	5.31	88052.038	-24465.939	660.721
17	311BL3	IV下	Pe	Tu			30			30	23	7.6	5.43	88050.598	-24471.063	660.415
18	542外	IV上	Pe	Ob	WDTY		1			27.5	27	11	6.68	88048.293	-24435.007	660.368
19	146BL5	Vb	Pe	Ag			40			27	17	13.7	5.92	88048.901	-24446.041	660.223
20	315BL3	IV中	Pe	SS			31			25	20	4.5	1.75	88051.098	-24470.250	660.549
21	561BL3	IV中	Pe	SS			31			24	14.5	7.4	2.46	88050.044	-24468.705	660.557
22	559BL3	Va	Pe	SS			31			22	28	7.3	3.30	88050.099	-24470.105	660.402
23	109BL3	IV上	Pe	SS			31			21	34	5.9	3.24	88051.461	-24465.994	660.654
24	335BL3	Va	Pe	SS			33			20.5	30.5	12	5.86	88051.853	-24469.169	660.446
25	17BL7	Vb	Pe	Ob	WDTY		5			23	20	5	2.42	88026.882	-24484.231	659.825
26	313BL3	Va	Pe	SS			31			16	12	7.3	1.22	88050.648	-24470.329	660.418
27	329BL3	IV中	Pe	SS			31			30	20	6	3.56	88050.295	-24469.672	660.533
28	362BL3	攪乱	Pe	Ob	SWHD		5			33	28	10	9.28	88053.177	-24467.955	660.671
29	95BL11	Va	Bl	SS			32			121.5	40	17	61.60	88019.887	-24448.882	660.042
30	99BL11	Va	Bl	SS			32			91	28	10.5	22.25	88020.105	-24448.100	659.999
31	37BL7	Vb	Bl	ST			71			104.5	40	21	67.77	88023.790	-24481.951	659.970
32	222BL7	Vb	Bl	TS			68			74	31	11	19.13	88025.806	-24483.412	659.800
33	5BL7	Va	Bl	An			15			100	39.5	15	62.05	88023.505	-24484.557	659.842
34	12BL7	Va	Bl	GT			34			91.5	35.5	10.4	38.89	88023.854	-24482.559	659.931
35	29BL7	IV中	Bl	An			16			70	25.5	11.3	19.75	88025.885	-24481.118	660.150
36	23BL7	III	Bl	An			15			53	25.5	11.8	12.41	88027.177	-24481.418	660.231
37	22BL7	III	Bl	An			15			44.5	27	11.1	11.43	88027.102	-24481.860	660.211
38	24BL7	IV中	Bl	An			15			46.5	28	11.5	14.48	88027.137	-24480.818	660.144
39	32BL7	Va	Bl	SS			39			38.5	14	4.1	1.76	88025.337	-24480.800	660.108
40	20BL7	IV下	Bl	GT			34			58	25	7.9	7.33	88026.039	-24482.256	660.073
41	1BL7	Va	Bl	GT			34			52	18.5	13.4	8.12	88025.034	-24485.014	659.729
42	173BL7	Va	Bl	An			15			55	22	7	8.97	88023.047	-24479.634	660.074
43	209BL7	Va	Bl	Ob	WDTY		3			55	33	7	9.75	88027.658	-24480.076	660.059
44	9BL7	Va	Bl	Ob	WOTM		1			63	34	13	22.30	88023.233	-24483.999	659.855
45	217BL7	Va	Bl	Ob	WDTY		3			47	24	10	10.04	88026.991	-24481.582	659.997
46	193BL7	Va	Bl	Ob	TSTY		1	11		44	18	9	6.52	88025.910	-24478.282	660.098
47	182BL7	IV下	Bl	Ob	TSTY		2			52	24	10	8.28	88025.155	-24479.108	660.123
48	25BL7	III	Bl	Ob	TSTY		1			33.5	17.5	5	2.94	88026.960	-24480.531	660.305
49	80BL10	III	Bl	Ob	WDTY		4			40	19	6.4	4.48	88023.360	-24475.724	660.422
50	226BL7	Va	Bl	Ob	WDTY		3			42	22	7	5.75	88028.091	-24481.153	659.969
51	277BL7	Va	Bl	Ob	TSTY		1	8		29	10	4	0.87	88025.496	-24478.249	660.034
52	44BL7	IV上	Bl	Ob	WDTY		6			40	19	5	2.97	88023.092	-24480.797	660.189
53	33BL7	IV中	Bl	Ob	TSTY		2			33.5	20.5	13	6.45	88025.331	-24481.297	660.146
54	625BL9	Vb	Bl	Ob	TSTY		1			25	13	7	2.03	88026.316	-24469.476	660.106
55	98BL9	IV下	Bl	Ob	WDTY		5			41	15	8	3.62	88022.964	-24472.350	660.218
56	82BL10	Va	Bl	SS			38			43	20	4.6	4.05	88022.691	-24474.960	660.203
57	403BL2	IV上	Bl	Ob	WDTN		4			61	22	6	5.30	88051.343	-24459.800	660.645
58	299BL3	Va	Bl	SS			31			42	37	16.9	19.82	88050.627	-24475.575	660.302
59	618BL7	III	Co	Ob	WDTY		12			68.5	49	44	128.95	88028.050	-24484.312	659.818
60	218BL7	Va	Co	Ob	TSTY		1			32	30	31	34.16	88025.647	-24481.870	659.976
61	66BL7	IV中	Co	Ob	TSTY		1			38	39	22	26.00	88023.532	-24477.582	660.281
62	633BL9	Va	Co	Ob	TSTY		1			53	45	24	45.01	88025.569	-24467.040	660.215
63	192BL7	Va	Co	Ob	TSTY		1			54	20	18	19.30	88025.464	-24478.353	660.141
64	281BL7	Vb	Co	Ob	TSTY		2			53	30	23	31.35	88025.130	-24479.463	659.844
65	54BL7	IV上	Co	Ob	TSTY		1			34	37	23	21.79	88025.660	-24478.056	660.299
66	603BL6	Vb	Co	Tu			21		6	78	77	44	189.62	88051.060	-24441.647	660.303
67	538BL6	Vb	Co	Tu			21			75	54	27	65.69	88048.368	-24439.773	660.191
68	512BL6	Va	Co	Tu			26		5	60	70	16	75.82	88050.413	-24441.513	660.352
69	456BL4	IV中	Co	Tu			25			46	43	17	44.93	88052.297	-24454.740	660.609
70	522BL6	IV中	Co	Tu			25		4	33	53	34	49.60	88050.232	-24439.901	660.475
71	322BL3	Va	Co	安山岩			48			51	67	34	116.59	88052.652	-24468.721	660.418
72	548BL1	IV下	Co	安山岩			48			80	60.5	32	118.29	88055.490	-24472.618	660.631
73	444BL2	III	Co	SS			36			40	49	19	37.30	88054.956	-24454.885	660.937
74	414BL2	IV上	Co	An			14			34	31	24	28.57	88054.335	-24459.963	660.779
75	101BL11	Va	Fl	SS			32			89	87	16.4	61.66	88020.296	-24447.652	659.978
76	239外	Vb	Fl	Ob	TSTY		1			38	40	11	14.31			
77	265BL8	Vb	Ax	GT			59			89	52.5	10.2	68.12	88027.641	-24472.875	660.080
78	100BL11	Vb	Ax	Se			69			116	45	13	110.18	88019.977	-24447.016	659.880
79	361BL3	Vb	Ha	Ch			58			76	56	49.1	296.41	88053.719	-24468.524	660.428
80	488BL5	Va	Ha	Sa			64			71	55	22	115.32	88047.284	-24446.579	660.233
81	604BL6	Vb	Ha	Sa			65			73	69	15	119.20	88051.101	-24440.744	660.312

第10表 石器属性表1

第3節 旧石器時代の遺物

報告番号	遺物番号	出土遺構	地層	器種	材質	Ob産地	母岩番号	接合番号	長mm	幅mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	標高
82	1	SH3	Ⅲ	Ha	安山岩		51		132	55	36	350.95	88049.960	-24449.710	660.540
83	117	SH1	Ⅳ	GS	安山岩		50		91	60	33	180.24	88052.840	-24462.500	660.580
	48	BL7	Ⅳ下	RF	Ob	TSTY			30	20	8	4.03	88025.135	-24479.647	660.228
	130	BL2	Ⅳ下	RF	Tu		47		37	68	19	39.69	88056.340	-24460.581	660.680
	563	BL3	Ⅳ下	RF	安山岩		48		27	53	9	12.20	88051.716	-24468.591	660.567
	568	外	Ⅳ上	RF	Ob	WDTK	8		16	30	3	1.51	88050.067	-24461.947	660.696
	141	BL4	Ⅳ上	UF	Ch		54		56	36	15	29.67	88049.782	-24452.124	660.574
	154	BL6	V b	UF	Ob	SWHD	4		34	34	12	10.73	88053.164	-24442.547	660.311
	213	BL7	V b	UF	Ob	WDTY	3		70	40	15	33.31	88027.670	-24481.183	659.969
	318	BL3	Ⅳ下	UF	Ob	SWHD	5		18	11	5	0.77	88052.262	-24470.249	660.475
	384	BL2	V a	UF	SS		32		107	51	21	62.38	88053.186	-24462.407	660.484
	591	BL2	V b	UF	Ob	WDTY	5		31	15	6	1.90	88054.313	-24457.101	660.316
	615	BL7	Ⅲ	UF	Ob	WDTY	4		31	31	9	6.32	88029.490	-24485.769	659.830
	636	BL7	V b	UF	Ob	TSTY	2		30	30	10	6.87	88028.183	-24485.636	659.583
	479	BL4	V b	Co	安山岩		49		31	40	38	38.25	88052.014	-24453.141	660.350
	3	BL7	Ⅳ	Fl	Ob	WOTM	1		12.6	25.1	9.4	2.59	88023.594	-24485.539	659.849
	4	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	5		13	12	2.7	0.46	88023.209	-24485.349	659.819
	7	BL7	Ⅳ下	Fl	An		16		29.6	18.8	12.3	5.47	88023.170	-24484.266	659.926
	8	BL7	Ⅳ下	Fl	Ob	WDTY	5		30.6	18.3	5.4	2.50	88023.291	-24484.161	659.940
	10	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	風化	5		34.4	15.8	5.1	2.09	88023.466	-24483.703	660.211
	14	BL7	Ⅳ	Fl	Ob	WDTY	3		15.8	9.4	5.6	0.78	88024.331	-24483.766	660.032
	15	BL7	Ⅲ	Fl	An		15		42.4	28.5	8.7	9.39	88024.427	-24483.169	660.202
	18	BL7	V a	Fl	Tu		27		15.7	16.8	3.8	0.75	88026.625	-24484.035	659.830
	19	BL7	Ⅳ上	Fl	Ob	TSTY	1		20.3	12.7	4.6	0.83	88025.883	-24482.759	660.098
	21	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	5		18.6	11.7	2.4	0.54	88027.351	-24482.786	660.188
	26	BL7	Ⅳ上	Fl	An		15	3	62.7	27	11.2	13.58	88026.679	-24480.743	660.170
	27	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		23.7	13	3.8	1.36	88026.169	-24481.479	660.271
	28	BL7	Ⅳ中	Fl	An		15		39.6	54.9	8.5	19.34	88025.911	-24481.708	660.129
	30	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		15.1	12.6	4.4	0.89	88025.688	-24481.310	660.308
	31	BL7	Ⅳ上	Fl	Ob	WDTY	3		28.2	29.9	8.1	5.98	88025.713	-24481.427	660.193
	34	BL7	Ⅳ上	Fl	Ob	TSTY	1		25.5	11.9	2.6	0.63	88024.819	-24480.798	660.226
	35	BL7	Ⅳ上	Fl	An		15	3	34	32.5	5.7	5.48	88024.764	-24481.454	660.188
	36	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		19.4	14.9	5.2	0.96	88024.565	-24480.481	660.423
	38	BL7	Ⅳ上	Fl	Ob	WDTY	5		19.9	40.4	15.8	9.32	88022.640	-24482.610	660.193
	39	BL7	Ⅳ上	Fl	Ob	WDTY	2		21.5	18.1	7.6	2.26	88022.692	-24482.416	660.170
	46	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		29.1	16.7	5.3	1.72	88024.149	-24479.947	660.071
	47	BL7	Ⅳ下	Fl	Ob	TSTY	2		24.5	22.5	5.5	2.45	88024.589	-24479.983	660.161
	49	BL7	Ⅳ中	Fl	Ob	TSTY	1		21.3	11.3	1.9	0.43	88025.267	-24479.364	660.248
	50	BL7	Ⅳ中	Fl	Ob	TSTY	1		19.8	10.5	6	0.91	88025.734	-24479.678	660.259
	51	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		26.7	14.9	3.6	1.40	88026.241	-24480.059	660.151
	52	BL7	Ⅳ下	Fl	Ob	TSTY	1		18.5	15.5	3.6	0.86	88026.607	-24478.295	660.235
	53	BL7	Ⅳ下	Fl	Ob	TSTY	1		11.8	19.4	3.1	0.66	88026.133	-24477.916	660.237
	55	BL7	Ⅳ上	Fl	Ob	TSTY	1		41	18.5	8.6	5.50	88025.256	-24478.142	660.324
	57	BL7	Ⅳ上	Fl	Ob	TSTY	1		16.2	16.7	2.2	0.52	88025.391	-24479.037	660.297
	58	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		45.8	20.4	7.5	4.84	88024.559	-24479.071	660.415
	59	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	2		43.3	21.2	9.8	6.42	88023.989	-24479.339	660.360
	61	BL7	Ⅳ中	Fl	Ob	TSTY	1		19.4	20.8	3.7	1.56	88023.074	-24479.130	660.244
	64	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		22.4	8.3	3.5	0.68	88023.647	-24478.070	660.420
	65	BL7	Ⅳ下	Fl	Ob	TSTY	2		13.5	17.1	7.1	1.92	88023.301	-24477.676	660.235
	67	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		37.4	26.3	6.9	5.68	88024.026	-24477.974	660.116
	68	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		24.7	11.7	6.6	1.64	88024.037	-24477.867	660.128
	71	BL7	Ⅳ上	Fl	An		19		53.1	33.5	17	28.48	88024.010	-24477.171	660.321
	72	BL7	Ⅳ中	Fl	Ob	TSTY	2		25.6	27.2	10.6	6.83	88024.179	-24477.003	660.311
	74	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		14.8	10.2	4.4	0.58	88024.838	-24477.591	660.205
	75	BL7	Ⅳ下	Fl	Ob	TSTY	2		48.3	18.8	11	9.07	88025.003	-24477.599	660.259
	77	BL7	Ⅳ下	Fl	Ob	TSTY	1		12.8	19.9	2.5	0.64	88025.910	-24477.305	660.244
	79	BL10	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		28.7	15.8	6.1	2.59	88023.545	-24475.949	660.422
	81	BL10	Ⅳ上	Fl	Ob	WDTY	4		12.9	17.2	2.4	0.52	88023.302	-24475.485	660.397
	83	BL10	V a	Fl	Ob	WDTY	5		37.1	35.1	8.9	8.45	88022.083	-24474.714	660.199
	85	BL10	Ⅲ	Fl	Ob	WDTY	4		25.8	30.9	6.9	4.88	88022.333	-24474.426	660.493
	86	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	1		27.1	34.6	12.7	10.25	88025.209	-24473.480	660.214
	88	BL9	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		31.8	20.8	10.8	4.25	88023.613	-24472.570	660.645
	90	BL9	Ⅲ	Fl	Ob	WDTY	3		18.9	18.3	2.2	0.63	88024.862	-24470.487	660.650
	92	BL9	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		23.2	17.5	6.3	1.87	88021.572	-24467.350	660.645
	94	外	V a	Fl	An		19		48.6	51.2	13.9	28.02	88022.717	-24460.614	660.232
	96	BL11	V a	Fl	SS		32		73.6	65.3	15.5	65.42	88019.862	-24448.954	660.032
	97	BL11	Ⅲ	Fl	SS		33		24.6	26.3	7.3	4.01	88021.260	-24444.896	660.197
	102	BL11	V a	Fl	ST		63		49	57.3	26.7	42.89	88021.804	-24448.008	659.980
	103	BL3	V b	Fl	Ob	WDTM	4		11.4	15.4	4.8	0.77	88052.241	-24472.660	660.348
	105	BL1	Ⅳ中	Fl	TS		67		83.4	39.3	9.7	31.01	88056.370	-24469.051	660.697
	106	BL1	Ⅳ上	Fl	An		18		20.5	22.9	4.9	3.14	88057.113	-24469.239	660.830
	107	BL1	Ⅲ	Fl	An		18		17.5	34.3	5.7	3.50	88057.404	-24469.351	660.893
	110	BL3	Ⅳ上	Fl	Ch		53		29	14.6	11	4.61	88050.712	-24465.622	660.799
	111	BL3	V b	Fl	Ob	TSTY	1		19.1	14.5	6.5	1.89	88050.510	-24465.993	660.274
	115	BL2	V b	Fl	An		14		40.4	39	12.4	20.04	88055.074	-24461.447	660.550
	116	BL2	V b	Fl	An		14		22.1	20.8	8.7	3.59	88055.232	-24461.411	660.534
	117	BL2	Ⅳ上	Fl	An		14		32.2	37.2	23.3	24.52	88055.389	-24461.319	660.829
	118	BL2	Ⅲ	Fl	An		14		29.1	18.4	7.3	3.04	88055.661	-24461.357	660.941
	120	BL2	Ⅳ中	Fl	An		14		48	22.4	5.1	6.10	88056.173	-24461.258	660.758
	121	BL2	Ⅲ	Fl	An		14		18.5	25.1	23.3	9.71	88056.124	-24460.983	660.957
	125	BL2	Ⅳ下	Fl	An		14		34.5	39.1	19.5	19.57	88055.866	-24460.774	660.719
	126	BL2	V a	Fl	Tu		22	1	38.1	15.7	6.5	3.07	88055.824	-24461.029	660.593

第11表 石器属性表2

第2章 旧石器時代

報告番号	遺物番号	出土遺構	地層	器種	材質	0b産地	母岩番号	接合番号	長mm	幅mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	標高
	127	BL2	V a	Fl	An		14		30.3	38.9	25.1	26.33	88054.988	-24460.905	660.608
	128	BL2	V b	Fl	An		14		31	39.5	19.5	20.12	88054.925	-24460.675	660.543
	129	BL2	V a	Fl	An		14		28.8	53.1	22.7	34.34	88056.123	-24460.447	660.593
	132	外	IV中	Fl	An		18		32	16.8	5.7	2.60	88050.005	-24460.974	660.596
	138	BL2	Ⅲ	Fl	An		14		46.1	23.4	15.3	13.44	88055.724	-24456.452	660.944
	142	BL4	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		14.6	18.9	5.5	1.23	88049.288	-24450.719	660.709
	143	BL5	IV中	Fl	Ag		40		29.6	33.3	5.2	3.86	88049.445	-24447.622	660.476
	144	BL5	IV上	Fl	Ag		40		21.2	14.2	5.5	1.91	88048.368	-24447.120	660.495
	145	BL5	Ⅲ	Fl	An		14		61.1	34.4	14.1	26.13	88048.159	-24447.106	660.630
	147	BL5	V b	Fl	Ag		40		20.8	17.1	6.5	2.46	88048.599	-24446.410	660.237
	149	BL5	V a	Fl	Tu		27		22.9	28.1	9.5	5.45	88048.997	-24447.151	660.236
	150	BL5	IV下	Fl	Ch		53		34.5	22.6	7.8	5.85	88047.993	-24446.621	660.355
	151	BL5	IV下	Fl	Tu		22		47.8	50.1	10.7	22.11	88047.812	-24446.833	660.336
	152	BL5	IV中	Fl	An		14		24.7	35.8	9	7.97	88047.824	-24446.706	660.428
	153	BL5	IV上	Fl	An		14		18.3	37.2	15.6	9.03	88047.810	-24446.390	660.500
	155	BL6	V a	Fl	Tu		21		24.2	27.6	5.9	3.79	88051.321	-24439.582	660.377
	156	BL6	IV下	Fl	Tu		21		48.7	46.6	9.8	20.82	88051.406	-24439.925	660.443
	157	BL11	IV上	Fl	SS		33		40	20.2	6.9	4.62	88018.972	-24447.721	660.119
	158	BL9	V a	Fl	Ob	WDTY	5	7	95.2	23.6	13.9	19.36	88024.165	-24471.544	660.260
	160	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	1		35.8	32.1	8.8	10.11	88026.120	-24476.009	660.191
	163	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	1		19.2	9.8	7.6	0.81	88026.698	-24476.615	660.175
	165	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		58.8	29.8	23.6	35.37	88024.711	-24477.956	660.154
	167	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		23.3	6.3	4.2	0.57	88024.288	-24478.694	660.152
	168	BL7	V b	Fl	Ob	TSTY	1		21.9	26.3	9.7	6.05	88023.953	-24478.616	660.023
	170	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1	8	32.5	10.4	5.1	1.14	88023.824	-24478.921	660.139
	171	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		21.7	23.1	3.9	1.86	88023.507	-24478.552	660.103
	175	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		40.2	26.2	7.8	8.03	88023.816	-24479.645	659.997
	176	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	6		59.1	36.1	10	15.22	88024.039	-24479.584	660.064
	178	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	2		23.7	40.5	13.9	10.63	88024.747	-24479.092	660.093
	179	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		35.8	13.3	8.4	3.82	88024.953	-24478.824	660.049
	180	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	2		34	23.3	7.9	6.23	88025.012	-24479.012	660.131
	181	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		25.5	12.3	3	0.62	88025.094	-24478.860	660.086
	183	BL7	V b	Fl	Ob	TSTY	1		12.4	19	4.3	1.03	88024.825	-24479.504	660.011
	185	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		24.3	9.8	2.4	0.63	88025.519	-24479.547	660.058
	187	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	2		27.1	19.2	4.6	2.10	88025.643	-24479.478	660.088
	189	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		38.9	33.5	18.6	19.48	88025.732	-24478.686	660.034
	195	BL7	V a	Fl	An		15		40.1	58.4	11.6	11.86	88026.891	-24478.864	659.996
	196	BL7	V a	Fl	An		15		33.2	40.4	10.8	14.07	88028.008	-24478.542	660.123
	197	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	2		30.4	32	8.3	3.89	88027.664	-24479.087	660.533
	201	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	1		15.9	17	6	1.09	88026.718	-24475.875	660.137
	203	BL8	IV中	Fl	Ob	TSTY	9		34.3	18	7.4	4.98	88027.236	-24475.767	660.259
	204	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	1		28.5	28.3	9.4	6.81	88027.371	-24475.936	660.153
	205	BL8	IV中	Fl	Ob	TSTY	1		28.4	18.7	6.4	2.46	88027.646	-24475.803	660.207
	211	BL7	V b	Fl	An		15		65.4	51	14.8	65.79	88027.065	-24480.167	659.966
	212	BL7	IV上	Fl	An		15		17	14.8	4.4	1.18	88027.369	-24480.856	660.299
	214	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	WDTY	3		31.2	37.4	16.4	9.99	88028.489	-24481.666	660.293
	215	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	TSTY	1		39.8	17.7	11.5	4.78	88027.787	-24481.896	660.249
	216	BL7	IV上	Fl	Ob	WDTY	3		23.2	17.4	3.5	1.44	88027.404	-24481.855	660.150
	220	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	3		60.3	55.6	15.1	27.80	88026.913	-24481.001	659.958
	221	BL7	攪乱	Fl	Tu		21		35.7	16.5	6.5	3.55	88027.412	-24485.679	659.627
	223	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	3		19.7	21.8	5.2	2.11	88027.976	-24482.529	659.851
	224	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	3		36.9	21	3.7	2.64	88028.726	-24482.513	659.888
	225	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	3		49.9	31.3	6.1	6.66	88028.093	-24480.935	659.903
	228	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	3		30.3	24	7.6	3.86	88027.991	-24481.243	659.961
	229	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	3		54.5	47.9	7	13.21	88027.940	-24481.334	659.954
	232	BL7	V a	Fl	Ob	WDTY	7	10	75.6	38.8	21.2	47.35	88027.369	-24480.633	659.915
	233	BL7	V b	Fl	Ob	WDTY	7	10	41.2	26.4	8	8.27	88027.208	-24479.940	659.827
	235	BL7	V b	Fl	An		15		37.2	26.8	7.7	7.18	88026.753	-24478.868	659.949
	236	BL7	V b	Fl	Ob	WDTY	3		22.9	14.2	3	0.98	88027.329	-24477.891	659.948
	238	外	V b	Fl	Ob	TSTY	1		38	18.8	10.1	6.72			
	244	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	2		21.8	10.6	5.2	1.00	88026.598	-24475.085	660.110
	246	BL8	攪乱	Fl	Ob	TSTY	2		32.4	20.7	8.1	4.05	88027.171	-24475.184	660.113
	247	BL8	攪乱	Fl	Ob	TSTY	1		19.4	18.1	2.7	0.70	88027.428	-24475.079	660.700
	250	BL8	攪乱	Fl	Ob	風化	1		30.4	11	7	1.50	88027.564	-24474.594	660.110
	251	BL8	攪乱	Fl	Ob	TSTY	1		21.6	11.6	3.1	0.56	88027.427	-24474.686	660.145
	253	BL8	攪乱	Fl	Ob	TSTY	1		39.4	25.7	9.1	6.28	88027.012	-24474.403	660.755
	254	BL8	攪乱	Fl	Ob	TSTY	1		21.7	15.7	3.8	1.07	88026.561	-24474.882	660.390
	255	BL8	攪乱	Fl	Ob	WDTY	5		26.8	34.2	11.1	5.91	88025.644	-24474.517	660.094
	259	BL8	V b	Fl	Ob	TSTY	1		20.2	12.4	5.1	0.98	88027.001	-24473.894	659.969
	260	BL8	攪乱	Fl	Ob	TSTY	2		37.1	18.4	8.7	4.28	88027.337	-24474.130	660.378
	261	BL8	攪乱	Fl	Ob	風化	1		23.4	7.2	2.6	0.41	88027.381	-24473.876	660.324
	262	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	1		23.4	27	6	2.47	88027.599	-24473.642	660.107
	264	BL8	V a	Fl	Ob	TSTY	1		20.5	28.1	6.5	2.29	88027.499	-24473.007	660.220
	268	BL10	V a	Fl	Ob	WDTY	5	7	28.6	16.8	11.6	6.17	88023.293	-24475.790	660.224
	270	BL7	V b	Fl	Ob	TSTY	1		30.1	15	4.1	1.72	88024.508	-24478.367	659.924
	271	BL7	V b	Fl	Ob	TSTY	1		13.7	24.7	5.7	1.72	88024.536	-24477.936	659.844
	273	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1	11	31	6	4	0.78	88024.786	-24477.673	660.060
	276	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	1		62.2	30.9	13.2	30.33	88025.171	-24478.214	660.064
	278	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	2		30.2	17.8	9.2	3.35	88025.081	-24478.901	660.080
	279	BL7	V a	Fl	Ob	TSTY	2		44.3	28.1	7	7.63	88025.249	-24479.075	660.126
	287	BL7	V a	Fl	Ob	WDKB	8		57.1	49.6	11.4	26.76	88026.923	-24480.749	659.935
	289	BL8	V b	Fl	Ob	TSTY	1		32.6	32.7	5.7	4.81	88026.910	-24476.091	659.885

第12表 石器属性表3

第3節 旧石器時代の遺物

報告番号	遺物番号	出土遺構	地層	器種	材質	Ob産地	母岩番号	接合番号	長mm	幅mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	標高	
	291	BL7	Vb	Fl	Ob	WDTY	11		34.8	20.7	4.1	2.23	88022.995	-24485.331	659.681	
	292	BL11	Vb	Fl	SS			32		57	94.3	15.2	81.59	88019.945	-24448.908	660.031
	293	BL11	Va	Fl	SS			32		72.1	26.2	7.8	12.19	88020.225	-24447.758	659.961
	303	BL1	IV中	Fl	Tu			21		24.8	20.1	6.3	3.10	88057.688	-24474.573	660.622
	305	BL1	III	Fl	An			14		21.5	35.2	10	8.03	88056.337	-24472.085	660.831
	306	BL1	III	Fl	Ob	TSTY		1		30.6	45.2	16.5	18.19	88055.352	-24471.342	660.778
	314	BL3	IV上	Fl	安山岩			48		48.3	20.8	7.1	7.49	88050.902	-24470.254	660.708
	317	BL3	Va	Fl	安山岩			48		25.4	44.3	13	15.55	88051.894	-24470.218	660.415
	319	BL3	IV下	Fl	Ob	SWHD		4		21.4		25	10.5	88052.292	-24470.264	660.433
	320	BL3	IV下	Fl	SS			31		57.3	34.4	10.9	17.63	88052.736	-24469.212	660.523
	321	BL3	Va	Fl	安山岩			48		20.5	21.3	3.6	1.55	88052.377	-24469.130	660.418
	323	BL3	IV中	Fl	Ob	SWHD		4		14.3	26.2	4.7	1.78	88051.755	-24469.578	660.599
	326	BL3	III	Fl	SS			31		40.1	23.3	7.1	5.27	88051.422	-24469.610	660.716
	327	BL3	IV中	Fl	安山岩			48		28	39.6	10.8	11.05	88050.844	-24469.754	660.537
	330	BL3	IV下	Fl	Ob	SWHD		10		66	25.4	14.5	24.74	88049.873	-24469.226	660.481
	331	BL3	IV上	Fl	SS			31		19.4	58.2	16	2.60	88050.055	-24468.744	660.603
	332	BL3	IV上	Fl	SS			31		16.3	33.1	6.1	12.94	88050.376	-24468.485	660.593
	334	BL3	Va	Fl	SS			33		20.7	13.1	6.4	1.67	88051.196	-24468.949	660.430
	337	BL3	Va	Fl	安山岩			48		25	24.7	8	5.55	88051.790	-24468.402	660.404
	338	BL3	Va	Fl	An			20		42.4	38.6	11.1	15.71	88052.424	-24468.165	660.399
	339	BL3	Va	Fl	Tu			28		46.2	26.8	10.3	11.59	88052.296	-24467.727	660.428
	346	BL1	IV中	Fl	An			15		24.5	35.6	8.1	5.12	88057.348	-24471.468	660.743
	347	BL1	IV上	Fl	An			14		40.1	40.3	13.4	14.19	88057.715	-24470.967	660.841
	364	BL3	攪乱	Fl	Ob	TSTY		1		27.8	21.4	3.3	2.08	88053.191	-24466.176	660.791
	374	BL2	IV上	Fl	Ag			43		14.8	20.1	8.1	1.80	88055.095	-24463.470	660.847
	376	BL2	IV下	Fl	安山岩			48		34.9	16.4	4	2.04	88055.609	-24463.121	660.701
	388	BL3	IV中	Fl	Tu			28		50.4	26.4	13.2	20.87	88054.081	-24465.667	660.695
	389	BL3	IV中	Fl	Ob	TSTY		2		48.4	21.9	13.4	11.64	88054.374	-24465.215	660.655
	391	BL3	IV下	Fl	安山岩			60		26.7	48.8	5.7	5.07	88053.242	-24464.892	660.646
	394	BL2	Va	Fl	An			14		23.6	18.3	7.8	3.04	88053.898	-24461.576	660.564
	396	BL2	Vb	Fl	An			14		57.4	42	16.2	33.41	88054.792	-24461.918	660.544
	397	BL2	IV下	Fl	Tu			24		30.8	37.4	8.4	7.12	88054.448	-24461.339	660.693
	398	BL2	IV上	Fl	An			14		54.8	22.2	12.2	12.33	88054.453	-24460.967	660.790
	404	外	III	Fl	Ob	WDTN		8		71.7	43.3	11.2	30.83	88048.746	-24459.531	660.690
	409	BL2	III	Fl	An			14		24.2	33	16.1	13.31	88052.163	-24458.778	660.814
	410	BL2	Va	Fl	安山岩			48		29	14.4	13	4.89	88052.415	-24459.315	660.429
	411	BL2	IV上	Fl	An			14		26.5	34.1	6.1	5.02	88053.265	-24459.135	660.758
	412	BL2	III	Fl	Tu			24		38	19.4	9.6	5.07	88053.480	-24459.379	660.817
	415	BL2	IV下	Fl	An			14		56.9	33.8	10.7	12.92	88055.359	-24459.787	660.630
	417	BL2	Va	Fl	Tu			22	1	27.4	62.2	12.1	16.22	88055.627	-24459.596	660.592
	418	BL2	IV中	Fl	Ag			40		16.6	27.7	10.1	4.40	88055.975	-24459.989	660.781
	419	BL2	IV上	Fl	An			14		34.4	19.3	7.6	4.47	88055.977	-24459.773	660.852
	420	BL2	III	Fl	An			14		35	34.9	10.4	8.75	88056.547	-24460.091	660.806
	421	BL2	IV下	Fl	Tu			25		76	66.6	22.7	90.30	88056.415	-24459.818	660.638
	422	BL2	IV中	Fl	An			14		38.3	55.4	18.3	30.75	88056.295	-24459.656	660.687
	424	BL2	IV上	Fl	An			14		26.9	16.4	7.9	3.69	88056.153	-24458.832	660.779
	436	BL8	Vb	Fl	Ob	TSTY		1		41.8	23.5	9.2	6.58	88027.635	-24472.985	659.980
	437	BL7	Va	Fl	Ob	TSTY		1		14.7	23.5	3.2	1.11	88024.714	-24477.934	660.112
	441	BL4	III	Fl	An			14		27.6	21.6	8.2	4.02	88051.321	-24457.400	660.832
	458	BL4	III	Fl	Ob	TSTY		9		41.8	23.5	9.5	8.94	88051.894	-24454.867	660.813
	461	BL4	Vb	Fl	An			14		53.6	36.3	13.1	30.03	88048.286	-24456.022	660.248
	462	BL4	Va	Fl	Tu			22		46.2	67	10.4	40.36	88048.596	-24453.971	660.389
	464	BL4	攪乱	Fl	Tu			29		36.9	46.8	6.2	6.72	88047.463	-24452.781	660.628
	468	BL4	IV上	Fl	Tu			22		21.6	31.1	4.6	2.46	88048.851	-24453.555	660.536
	469	BL4	IV上	Fl	An			17		48.6	36.2	10.4	17.61	88049.336	-24453.230	660.564
	472	BL4	III	Fl	SS			35		23.9	34.6	4.8	3.91	88049.141	-24452.035	660.738
	475	BL4	IV中	Fl	Tu			61		38.2	43.2	12.2	17.25	88050.057	-24452.150	660.539
	476	BL4	IV上	Fl	Ch			54		47.5	23.6	11.7	12.17	88050.167	-24451.565	660.611
	478	BL4	IV中	Fl	QP			70		54.1	35.8	9.8	16.74	88051.334	-24453.741	660.568
	482	BL4	IV上	Fl	Ch			54		54.8	40	16.3	36.46	88051.578	-24450.363	660.639
	483	BL4	Va	Fl	Tu			22		56.9	103.5	18	98.23	88051.716	-24449.919	660.404
	486	BL4	Va	Fl	Tu			22		27.6	41.7	7.6	5.70	88047.440	-24450.256	660.307
	487	BL5	IV下	Fl	An			14		14.4	29.7	4.4	1.32	88047.210	-24446.957	660.389
	489	BL5	IV中	Fl	An			14		52.7	34.4	10.4	15.44	88047.121	-24446.167	660.439
	490	BL5	IV下	Fl	Tu			25		23.3	13.5	6.7	2.02	88047.076	-24446.030	660.368
	491	BL5	Va	Fl	Tu			21		47.5	64.9	12.5	33.59	88048.290	-24445.431	660.247
	492	BL5	Va	Fl	Ob	SWHD		3		16.2	13.2	4.6	0.88	88048.660	-24445.727	660.309
	493	BL5	Va	Fl	An			14		31.7	30.9	12.3	8.72	88048.621	-24444.953	660.362
	497	BL5	III	Fl	Ag			41		16	26.4	8.3	2.33	88050.815	-24444.810	660.728
	499	BL6	IV中	Fl	Tu			25	4	29.5	45.6	19.8	20.90	88051.413	-24442.961	660.523
	502	BL6	III	Fl	Ob	SWHD		4		14.8	20.5	3.3	1.06	88048.813	-24441.372	660.588
	503	BL6	IV下	Fl	Tu			23		15.6	20.5	3.2	0.78	88049.179	-24441.473	660.428
	504	BL6	Vb	Fl	Ob	WDTY		6		33.8	43.2	8.8	9.93	88049.442	-24441.237	660.258
	505	BL6	攪乱	Fl	Ag			44		43.8	47.5	13.4	14.89	88049.737	-24441.673	660.638
	506	BL6	Vb	Fl	Tu			21	6	40	52.7	12.9	15.74	88050.182	-24442.231	660.302
	508	BL6	攪乱	Fl	Tu			21		52.1	26.9	10	9.06	88050.200	-24441.566	660.610
	509	BL6	攪乱	Fl	Ag			40		18.3	20	2.3	0.70	88050.061	-24441.343	660.640
	510	BL6	攪乱	Fl	Tu			26		71.2	46.5	15.1	46.92	88049.966	-24441.153	660.665
	511	BL6	Vb	Fl	Tu			26	5	49.8	33.4	8	9.14	88050.684	-24441.817	660.283
	513	BL6	IV下	Fl	Ch			53		29.7	20	7.3	4.29	88050.589	-24441.052	660.374
	514	BL6	Va	Fl	Tu			21		39.5	37	12.1	12.47	88051.004	-24441.577	660.368
	515	BL6	Va	Fl	Tu			25		26	43.4	21.5	14.20	88050.951	-24441.377	660.376

第13表 石器属性表4

第2章 旧石器時代

報告番号	遺物番号	出土遺構	地層	器種	材質	0産地	母岩番号	接合番号	長mm	幅mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	標高	
	516	BL6	V b	Fl	Tu			23	56.2	37.2	13.4	17.76	88051.476	-24441.703	660.325	
	517	BL6	Ⅲ	Fl	Ch			53	19.1	31.5	7.5	3.25	88051.039	-24440.843	660.617	
	518	BL6	V b	Fl	An			14	58	42.3	10.9	24.63	88051.079	-24440.608	660.249	
	520	BL6	V b	Fl	Tu			21	6	59.3	66.3	27	69.78	88051.096	-24439.768	660.291
	521	BL6	V a	Fl	Tu			21		47.5	63.9	14.1	48.09	88050.752	-24439.886	660.307
	526	BL6	IV下	Fl	Tu			23		26.6	34.7	7.4	5.47	88050.062	-24440.542	660.387
	527	BL6	V b	Fl	Ag			41		16.4	16.5	1.8	0.42	88049.619	-24440.860	660.216
	528	BL6	IV上	Fl	Tu			23		26.8	15.4	6.1	1.35	88049.312	-24440.656	660.475
	530	BL6	V b	Fl	Tu			23	2	18.6	35.5	4.1	2.69	88048.929	-24440.182	660.226
	531	BL6	Ⅲ	Fl	Tu			21		29.6	41.3	15.6	15.02	88048.831	-24439.917	660.543
	532	BL6	Ⅲ	Fl	Tu			24		37.1	32.9	8.8	9.66	88048.668	-24439.412	660.584
	533	BL6	Ⅲ	Fl	Tu			24		22.9	40.7	15.5	14.66	88049.735	-24439.473	660.552
	534	BL6	V b	Fl	Tu			23	2	21.6	33.8	5.7	3.14	88049.952	-24439.363	660.227
	536	BL6	Ⅲ	Fl	Tu			24		40.5	28.4	13.5	10.95	88050.365	-24438.940	660.613
	537	BL6	IV中	Fl	Tu			23		45.2	39	9.7	12.32	88049.717	-24438.868	660.416
	540	BL6	IV上	Fl	Ag			42		24.1	27.4	11.9	5.13	88047.186	-24439.954	660.429
	541	BL6	V a	Fl	Tu			21		30.5	28.2	6.9	5.73	88048.837	-24437.735	660.256
	545	外	IV下	Fl	Ch			56		37	53.5	20.4	29.02	88050.747	-24433.924	660.317
	547	外	V b	Fl	An			15		40.7	56.5	8	16.16	88051.133	-24433.879	660.145
	560	BL3	V b	Fl	SS			62		23.1	17.1	5.8	2.19	88050.243	-24469.747	660.378
	569	BL2	V b	Fl	An			14		56.2	50	17.3	38.46	88053.676	-24461.587	660.512
	570	BL2	IV中	Fl	Tu			29		25	25.7	8.4	3.79	88054.380	-24461.922	660.773
	571	BL2	IV中	Fl	An			14		30.5	15.8	5.2	2.14	88054.404	-24461.001	660.703
	573	BL2	IV中	Fl	An			14		28.9	31.4	8.3	5.21	88054.275	-24459.954	660.657
	574	BL2	V a	Fl	An			14		37.2	35.2	20.2	14.73	88056.191	-24460.662	660.617
	575	BL2	IV下	Fl	An			14		29.3	22.4	6.8	4.03	88056.469	-24460.854	660.764
	577	BL2	IV下	Fl	An			14		29.4	40.3	22	26.07	88056.580	-24460.310	660.741
	578	BL2	IV下	Fl	Tu			22		19	31	4.4	2.19	88056.540	-24460.039	660.713
	579	BL2	IV中	Fl	An			14		24.1	18.9	6.3	2.82	88055.994	-24459.724	660.775
	580	BL2	IV下	Fl	An			14		18	25.9	6.1	1.85	88056.313	-24459.570	660.678
	581	BL2	IV下	Fl	An			14		52.3	50.6	10.8	22.04	88056.328	-24459.307	660.696
	582	BL2	V a	Fl	An			14		52	40.6	21.1	43.74	88056.341	-24459.337	660.646
	586	BL2	IV下	Fl	Ag			45		21.9	36.2	6.9	3.83	88054.598	-24458.572	660.325
	587	BL2	IV上	Fl	Ag			40		22.3	18.3	7.4	3.11	88053.073	-24458.437	660.725
	589	BL2	V a	Fl	An			14		19.1	31.3	11.1	6.36	88055.908	-24457.795	660.600
	599	BL4	V b	Fl	An			14		20.6	19.7	6.5	2.27	88047.643	-24451.681	660.177
	600	BL5	V b	Fl	An			14		58.6	34.9	8.8	13.94	88047.233	-24446.600	660.201
	601	BL6	V b	Fl	Ob	WDTY		6		28.7	13.9	5.5	1.19	88049.004	-24441.391	660.227
	602	BL6	攪乱	Fl	Tu			26	5	23.8	54	19.1	17.86	88050.462	-24442.080	660.162
	605	BL6	V b	Fl	Tu			25		25.2	26.5	16.4	9.03	88049.275	-24439.591	660.162
	606	BL6	V b	Fl	Ob	WDTY		6		15.6	22.4	4.2	1.40	88049.068	-24442.032	660.072
	607	BL6	V b	Fl	Ag			40		19.4	30.8	8.2	3.81	88048.593	-24439.461	660.019
	610	BL2	IV上	Fl	SS			31		46.8	26.7	11.9	9.81	88055.036	-24454.425	660.746
	611	BL2	IV上	Fl	An			14		45.3	22.5	7.9	4.99	88055.900	-24457.578	660.755
	612	BL6	V b	Fl	Tu			23	2	48.4	63.8	7.5	21.83	88051.031	-24440.712	660.290
	613	外	Ⅱ	Fl	Ob	TSTY		2		21	17.8	8.3	2.42	88025.734	-24486.803	659.688
	614	外	攪乱	Fl	Ob	WDTY		4		32	16.7	6.4	3.78	88030.218	-24486.916	659.578
	616	BL7	Ⅲ	Fl	Ob	WDTY		5		18	12.6	4.4	0.90	88029.349	-24485.446	659.827
	617	BL7	IV上	Fl	Ob	WDTY		4		21.9	19.9	3.2	1.17	88028.945	-24485.156	659.788
	619	BL7	IV下	Fl	GT			34		76.1	61.5	12.8	39.14	88028.631	-24484.013	659.818
	620	BL7	IV中	Fl	GT			34		22.4	24.7	3	1.56	88028.881	-24484.018	659.942
	621	BL7	IV上	Fl	Ob	WDTY		3		17.2	26	5	1.81	88028.787	-24483.605	659.989
	622	BL7	IV上	Fl	Ob	WDTY		3		34.6	22.8	8.1	6.30	88028.649	-24483.420	660.041
	623	BL7	IV中	Fl	Tu			21		31.2	18.2	9.5	3.97	88028.338	-24483.327	659.938
	624	BL7	IV下	Fl	Ob	WDTY		6		20.3	27.8	4	1.80	88029.131	-24484.443	659.553
	626	BL9	V b	Fl	Ch			55		28.1	39	9.9	9.14	88026.491	-24468.583	660.129
	627	BL9	IV上	Fl	Ag			41		25.5	16.7	4.6	1.62	88025.899	-24468.730	660.385
	629	BL9	V a	Fl	Tu			23		55	31.2	17.5	20.49	88026.436	-24467.662	660.171
	630	BL9	V a	Fl	Ob	TSTY		1		32	14	5	2.02	88025.270	-24468.011	660.155
	631	BL9	V a	Fl	Ob	TSTY		1		22.5	16.5	3.3	1.09	88025.548	-24467.377	660.207
	632	BL9	V b	Fl	Ob	TSTY		2		41.3	23.6	12.1	5.82	88025.617	-24467.141	660.133
	634	BL9	IV中	Fl	Ob	TSTY		1		33.1	28.6	10.4	10.22	88024.283	-24467.052	660.378
	635	BL9	V a	Fl	Ob	TSTY		1		20.1	19.2	5	1.33	88023.508	-24467.728	660.093
	637	BL9	V b	Fl	Ob	TSTY		1		24.5	13.9	5.7	1.45	88025.125	-24467.464	660.010
	638	BL9	V a	Fl	Ob	TSTY		1		25.4	25	6.5	2.50	88024.376	-24467.297	660.246
	639	BL9	V a	Fl	Ob	TSTY		1		23.8	14.3	5.3	1.37	88024.262	-24467.003	660.106
	640	BL9	V a	Fl	Ob	TSTY		1		23.9	14.2	4.2	0.73	88025.172	-24466.499	660.200
	2	BL7	Ⅲ	Ch	Ob								0.09	88025.165	-24484.760	660.037
	6	BL7	IV下	Ch	Ob								0.26	88023.024	-24484.205	659.934
	11	BL7	IV中	Ch	Ob								0.29	88023.200	-24483.005	659.972
	16	BL7	V a	Ch	An								1.52	88024.615	-24482.584	659.972
	40	BL7	V a	Ch	Ob								0.98	88022.885	-24481.837	660.038
	41	BL7	V a	Ch	Ob								0.32	88022.853	-24481.300	660.083
	42	BL7	IV上	Ch	Ob								0.22	88023.521	-24481.155	660.201
	43	BL7	Ⅲ	Ch	Ob								0.25	88023.618	-24480.460	660.280
	45	BL7	V b	Ch	Ob								0.21	88022.738	-24480.682	659.991
	56	BL7	V a	Ch	Ob								0.21	88025.354	-24478.535	660.184
	60	BL7	V a	Ch	Ob								0.50	88023.094	-24479.370	660.115
	62	BL7	IV上	Ch	Ob								0.11	88022.656	-24477.751	660.333
	63	BL7	V a	Ch	Ob								0.88	88023.189	-24478.162	660.124
	69	BL7	V b	Ch	Ob								0.11	88024.392	-24477.882	659.897
	70	BL7	V b	Ch	Ob								0.37	88024.506	-24477.955	659.927

第14表 石器属性表5

第3節 旧石器時代の遺物

報告番号	遺物番号	出土遺構	地層	器種	材質	産地	母岩番号	接合番号	長mm	幅mm	厚mm	重量g	X座標	Y座標	標高
	73	BL7	V a	Ch	Ob							0.09	88024.397	-24477.431	660.151
	76	BL7	IV下	Ch	Ob							0.79	88025.562	-24477.195	660.211
	78	BL8	Ⅲ	Ch	Ob							0.35	88026.280	-24475.680	660.434
	84	BL10	IV下	Ch	Ob							0.19	88022.364	-24474.638	660.237
	93	BL9	V a	Ch	Tu							0.71	88023.445	-24465.640	660.228
	148	BL5	V a	Ch	An							0.93	88048.059	-24446.381	660.234
	159	BL10	V a	Ch	Ob							0.17	88023.386	-24474.749	660.184
	162	BL8	V b	Ch	Ob							0.15	88026.653	-24476.379	660.128
	164	BL7	V a	Ch	Ob							0.25	88025.613	-24477.437	660.176
	166	BL7	V b	Ch	Ob							0.18	88024.532	-24478.466	660.031
	169	BL7	V b	Ch	Ob							0.05	88024.074	-24478.779	660.034
	172	BL7	V a	Ch	Ob							0.37	88023.121	-24479.576	660.096
	174	BL7	V a	Ch	Ob							0.08	88022.798	-24479.891	660.089
	177	BL7	V a	Ch	Ob							0.14	88024.084	-24479.785	660.025
	184	BL7	V b	Ch	Ob							0.20	88025.104	-24479.878	660.012
	186	BL7	V a	Ch	Ob							0.42	88025.485	-24479.379	660.027
	188	BL7	V b	Ch	Ob							0.48	88025.781	-24478.897	659.996
	191	BL7	V a	Ch	Ob							0.40	88025.084	-24478.382	660.123
	200	BL7	V b	Ch	Ob							0.17	88026.106	-24481.090	659.996
	202	BL8	V b	Ch	Ob							0.29	88026.640	-24476.199	660.072
	206	BL8	IV中	Ch	Ob							2.13	88027.614	-24476.058	660.239
	207	BL8	IV上	Ch	Ob							0.72	88027.646	-24476.347	660.323
	208	BL8	V a	Ch	Ob							0.16	88027.592	-24476.683	660.096
	227	BL7	V a	Ch	Ob							0.22	88028.065	-24481.349	659.965
	230	BL7	V a	Ch	Ob							0.44	88027.911	-24481.437	659.962
	231	BL7	V a	Ch	Ob							0.23	88027.949	-24480.565	659.942
	234	BL7	V b	Ch	Ob							0.34	88026.826	-24480.290	659.908
	237	BL7	V a	Ch	Ob							0.92	88026.044	-24478.101	660.059
	240	BL7	V b	Ch	Ob							0.07	88023.086	-24478.383	659.972
	241	BL8	V b	Ch	Ob							0.05	88026.140	-24476.251	660.013
	242	BL8	V b	Ch	Ob							0.22	88026.390	-24476.330	660.002
	243	BL8	V a	Ch	Ob							0.33	88026.678	-24475.326	660.107
	245	BL8	V b	Ch	Ob							0.14	88026.832	-24475.091	659.980
	248	BL8	攪乱	Ch	Ob							0.11	88027.405	-24475.232	659.968
	249	BL8	攪乱	Ch	Ob							0.06	88027.580	-24475.048	659.886
	252	BL8	V b	Ch	Ob							0.11	88027.204	-24474.717	660.060
	256	BL8	V b	Ch	Ob							0.18	88026.336	-24473.505	660.107
	257	BL8	V b	Ch	Ob							0.16	88026.585	-24473.816	660.116
	258	BL8	V a	Ch	Ob							0.68	88026.773	-24473.930	660.154
	263	BL8	V a	Ch	Ob							0.02	88027.281	-24473.575	660.103
	267	BL9	V a	Ch	Ob							0.36	88025.481	-24469.959	660.153
	269	BL7	V b	Ch	Ob							0.23	88024.010	-24477.926	659.960
	274	BL7	V b	Ch	Ob							0.16	88024.970	-24477.629	659.938
	275	BL7	Ⅵ	Ch	Ob							0.18	88025.128	-24477.759	659.872
	280	BL7	IV中	Ch	Ob							0.45	88025.382	-24479.006	660.257
	282	BL7	V a	Ch	Ob							0.78	88025.340	-24479.285	660.015
	283	BL7	V b	Ch	Ob							0.59	88025.485	-24479.390	659.930
	284	BL7	IV下	Ch	Ob							0.36	88025.378	-24480.758	660.073
	285	BL7	IV下	Ch	Ob							0.27	88024.582	-24480.444	660.132
	316	BL3	IV下	Ch	SS							0.10	88051.401	-24470.304	660.447
	345	BL1	IV中	Ch	An							1.88	88056.319	-24470.309	660.747
	348	BL1	IV中	Ch	An							0.28	88057.970	-24470.847	660.770
	366	BL3	IV上	Ch	Ch							0.10	88051.979	-24464.640	660.729
	383	BL2	IV下	Ch	An							1.46	88053.692	-24462.269	660.658
	395	BL2	IV上	Ch	An							1.67	88054.099	-24461.882	660.781
	423	BL2	IV下	Ch	An							0.24	88055.715	-24459.282	660.649
	430	BL2	IV上	Ch	Tu							0.42	88054.193	-24458.898	660.836
	431	BL8	V b	Ch	Ob							0.09	88026.608	-24476.025	660.041
	432	BL8	IV中	Ch	Ob							0.21	88026.306	-24475.744	660.288
	433	BL7	V b	Ch	Ob							0.14	88027.970	-24481.272	659.836
	434	BL8	攪乱	Ch	Ob							0.12	88027.077	-24475.172	660.039
	435	BL8	V b	Ch	Ob							0.06	88026.913	-24474.479	660.034
	467	BL4	V a	Ch	An							0.55	88048.127	-24453.561	660.307
	495	BL5	IV中	Ch	安山岩							1.53	88049.473	-24445.340	660.448
	525	BL6	V a	Ch	Tu							1.77	88050.004	-24439.924	660.313
	529	BL6	V b	Ch	Ob							0.53	88049.232	-24440.241	660.284
	535	BL6	Ⅲ	Ch	Tu							0.62	88050.016	-24439.159	660.607
	555	BL1	V b	Ch	An							0.95	88058.175	-24472.197	660.513
	583	BL2	IV下	Ch	An							0.39	88055.990	-24458.570	660.699
	585	BL2	IV中	Ch	An							1.06	88052.720	-24460.572	660.675
	97	SH1	IV	Ha	Sa		66		84	61	56	362.67	88050.170	-24460.460	660.630
	87	BL9	V a	原石	Ch		55		87	58	35	185.39	88024.698	-24473.008	660.174

第15表 石器属性表6

(2) 無斑晶質安山岩

ガラス質黒色安山岩、ガラス質安山岩、黒色安山岩、黒色緻密安山岩等と呼称されている石材と同種である。本書ではこれまで野尻湖遺跡群で用いられてきた呼称にあわせて無斑晶質安山岩を使うこととする。岩石的には個性的な方で比較的容易に他石材と分類することができる。灰色に風化して気泡がほとんどないものの中に凝灰岩と迷うものが存在する。

7母岩に分類したが、個体差が少ないため母岩14や母岩15については個体レベルまでの分類には至っていないと思われる。

(3) 凝灰岩

灰色に風化している珪化の弱い堆積岩を凝灰岩としているが、非破壊の肉眼分類では頁岩、凝灰質頁岩との分類は不可能で、やや珪化しているものについては珪質凝灰岩や珪質頁岩と迷う。特に凝灰質頁岩との分類が困難で、今回は迷ったものについてはすべて凝灰岩としてある。母岩27は流紋岩との区別が難しかった。

10母岩に分類されており、比較的個体の特徴がつかみやすいため、個体レベルに近い分類が可能であった。

(4) 珪質頁岩

白っぽいものについては珪質凝灰岩と、黄色や褐色のものの中には鉄石英との区分に迷うものが存在する。また、珪化が弱いものは頁岩、凝灰質頁岩と漸移的なものが存在する。母岩34は珪化が弱く凝灰質頁岩にすべきか迷った。

9母岩に分類されており、数が少ないためほぼ個体レベルの分類ができている。

(5) 玉髓

透明感があるものについては容易に分類することができたが、母岩42のように透明度が低いものは流紋岩の可能性もある。

7母岩に分類され、数が少ないためほぼ個体レベルの分類ができている。

(6) 安山岩

無斑晶質安山岩と異なり非ガラス質でとろとろに風化している。数少ない野尻湖遺跡群在地の石材の可能性が考えられる。

4母岩に分類され、数が少ないためほぼ個体レベルの分類ができている。

(7) チャート

赤色のものについては鉄石英との区分が難しいが、今回の調査では赤色のチャートは検出されなかった。

6母岩に分類され、数が少ないためほぼ個体レベルの分類ができている。

(8) 珪質凝灰岩

珪化がすすんでいて灰白色のものは珪質頁岩と、白色で石英がみられるものについては流紋岩との区別に迷う。71・72については流紋岩の可能性も考えられる。

5母岩に分類され、数が少ないためほぼ個体レベルの分類ができている。

(9) 凝灰質頁岩

頁岩と凝灰岩の中間的なものを凝灰質頁岩としているため、両者の間には中間的なものが存在する。

2点が2母岩に分類されている。

(10) 蛇紋岩

日向林B遺跡の斧形石器は蛇紋岩であるが、その多くが比重を計ると蛇紋石より重いため、透閃石岩や透緑閃石岩等の軟玉類であることが予想されている。しかし、これまでの長野県、富山県、新潟県等の遺跡発掘調査報告書では同種の石材のほとんどが蛇紋岩と報告されており、日向林B遺跡の報告でも蛇紋岩とした。

母岩番号	材質	遺物数	剥離面色調	透明度	縞・斑晶・スジ等	含有物
1	Ob	83	黒色	半透明	1mm前後間隔で平行する白スジ、霧状の白色部	φ1mm前後の球顆、砂状の球顆
2	Ob	23	黒色	半透明	1mm前後間隔で平行する節理状の白スジ	砂状の球顆
3	Ob	20	黒色	半透明	霧状の黒色不透明部	φ5mm前後の球顆少量
4	Ob	15	黒色	透明	なし	φ5mm前後の球顆少量
5	Ob	15	黒色	透明	霧状の白色部	φ10mm前後の球顆少量
6	Ob	7	灰色	半透明	霧状の白色部	φ1mm前後の球顆が僅か
7	Ob	2	黒色	半透明	霧状の茶色のスジ	φ5mm前後の球顆少量
8	Ob	3	黒色	半透明	霧状の灰色のスジ	φ1mm前後の球顆が僅か
9	Ob	2	黒色	不透明	1mm前後間隔で平行する白スジ	砂状の球顆
10	Ob	1	暗灰色	半透明	幅5mm前後の灰白色の縞	なし
11	Ob	1	黒色	透明	幅2mm前後の縞状の黒スジ	なし
12	Ob	1	黒色	半透明	なし	φ1mm前後の球顆が僅か
13	Ob	1	黒色	不透明	なし	なし
14	An	47	暗灰色	不透明	なし	φ0.5~1mmの気泡多量
15	An	16	灰色	不透明	なし	φ0.5~1mmの気泡多量 硬質
16	An	3	黒色	不透明	なし	φ0.5~1mmの気泡少量 硬質
17	An	3	オリーブ褐色	不透明	幅0.51mm~4mmの灰色の縞 流離構造	φ0.5~1mmの気泡僅か
18	An	3	黄褐色	不透明	流離構造	なし
19	An	2	灰色	不透明	局部的に暗灰色の縞	φ0.5~1mmの気泡少量
20	An	1	灰黄色	不透明	なし	φ0.5~1mmの気泡
21	Tu	15	灰色	不透明	なし	茶色の粒子が僅か
22	Tu	9	灰色	不透明	なし	茶色の粒子が僅か
23	Tu	9	オリーブ灰色	不透明	幅0.1mm前後の白スジ	茶色の粒子
24	Tu	5	灰黄色	不透明	なし	茶色・黒色の粒子 φ0.1mm前後の気泡
25	Tu	7	灰色	不透明	なし	白色の粒子 φ0.1mm前後の気泡
26	Tu	4	灰色	不透明	幅0.1mm以下の白スジ	細かい茶色の粒子が少し見られる
27	Tu	2	にぶい黄褐色	不透明	ぼんやりとした灰白色・褐色の縞	なし
28	Tu	2	灰色	不透明	斑の白色部	黒色粒子僅か
29	Tu	2	灰黄褐色	不透明	なし	茶色の粒子 φ0.1mm前後の気泡
30	Tu	1	灰黄色	不透明	なし	黄褐色粒子 φ0.1mm前後の気泡多量
31	SS	14	灰白色	不透明	局部的に幅0.1mm前後の白スジ	なし
32	SS	7	黄灰色	不透明	幅0.1mm前後の縞状の黒スジ僅か	なし
33	SS	4	灰色	不透明	φ0.5mm前後の点状黒色部	なし
34	SS	5	灰白色	不透明	なし	黒色・茶色の粒子 φ0.1mm前後の気泡多量
35	SS	1	灰白色	不透明	幅1mm前後の暗灰色の縞	なし
36	SS	1	灰色	不透明	灰白色の縞	なし
37	SS	1	灰色	不透明	幅0.1mm前後の白スジ	なし
38	SS	1	灰黄褐色	不透明	局部的に黒褐色部	なし
39	SS	1	灰色	不透明	幅10mm前後の黄褐色の縞	白色の粒子僅か
40	Ag	8	灰白色	半透明	部分的に色調が異なり幅10mm以上の暗褐色の縞 φ0.5mm前後の点状白色部	なし
41	Ag	3	灰白色	不透明	帯状赤褐色部 霧状黒褐色部が少量	なし
42	Ag	1	灰白色	不透明	黒色・暗褐色・浅黄色部が混ざりあう	なし
43	Ag	1	明赤褐色	半透明	白色が粒状に入り込む	なし
44	Ag	1	灰黄褐色	半透明	φ0.5mm前後の点状白色部が少量	なし
45	Ag	1	灰黄色	半透明	φ0.5mm前後の点状白色部が少量	なし
46	Ag	1	灰白色	不透明	φ0.5mm前後の点状白色部が少量	なし
47	Ag	2	灰褐色	不透明	φ0.5mm前後の点状白色部 幅1mm強の白帯	なし
48	安山岩	10	灰色	不透明	なし	輝石と白色の粒子
49	安山岩	1	暗灰色	不透明	点状の白色部	輝石・φ0.1mm前後の気泡多量
50	安山岩	1	褐色	不透明	なし	普通輝石 気泡多量
51	安山岩	1	灰黄色	不透明	なし	普通輝石 気泡
53	Ch	4	灰色	不透明	斑状の赤黒色部 チャートスジ	なし
54	Ch	3	暗灰色	不透明	幅1mm程度の縞とスジ	なし
55	Ch	2	オリーブ灰色	不透明	不明瞭の黒色スジ チャートスジ少ない	なし
56	Ch	1	緑灰色	不透明	不明瞭の赤黒色縞 細かいスジ チャートスジ少ない	なし
57	Ch	1	暗灰色	不透明	透明のスジ	なし
58	Ch	1	暗オリーブ灰色	不透明	斑状の明暗部 チャートスジ少ない	なし
59	GT	1	明オリーブ灰色	不透明	粒状の茶色部 点状の黒色部	なし
60	GT	1	オリーブ灰色	不透明	なし	黒色の粒子 φ0.1mm前後の気泡
61	ST	1	灰白色	不透明	斑状のφ1~5mmの白色部	茶色の粒子が僅か
62	ST	1	灰色	不透明	斑の白色部	なし
63	ST	1	灰白色	不透明	なし	φ0.1mm前後の気泡
64	Sa	1	灰色	不透明	なし	粒子粗い
65	Sa	1	灰色	不透明	なし	なし
66	Sa	1	灰白色	不透明	なし	なし
67	TS	1	灰白色	不透明	一部に褐色のスジが見られる	細かい気泡が見られる
68	TS	1	浅黄色	不透明	茶色のスジ	φ0.1mm前後の気泡
69	Se	1	暗青灰色	不透明	斑状・帯状の灰白色部	なし
70	QP	1	灰白色	不透明	点状の黒色・白色・淡黄色部	なし
71	ST	1	不透明・灰色	不透明	明るい灰色のスジが平行に見られる	石英が僅か
72	ST	1	不透明・灰色	不透明	明るい灰色のスジが斑に見られる	石英が僅か

第16表 母岩分類基準

母岩番号	判別群	判別群記号	遺物数
1	蓼科冷山群	TSTY	78
	和田鷹山群	WDTY	1
	和田高松沢群	WOTM	2
	風化	風化	2
2	蓼科冷山群	TSTY	22
	和田鷹山群	WDTY	1
3	和田鷹山群	WDTY	18
	諏訪星ヶ台群	SWHD	2
4	和田鷹山群	WDTY	7
	諏訪星ヶ台群	SWHD	5
	和田土屋橋西群	WDTN	1
	和田土屋橋南群	WDTM	1
5	蓼科冷山群	TSTY	1
	和田鷹山群	WDTY	11

母岩番号	判別群	判別群記号	遺物数
5	諏訪星ヶ台群	SWHD	2
	風化	風化	1
6	蓼科冷山群	TSTY	1
	和田鷹山群	WDTY	6
7	和田鷹山群	WDTY	2
8	和田土屋橋西群	WDTN	1
	和田小深沢群	WDKB	1
	和田土屋橋北群	WDTK	1
9	蓼科冷山群	TSTY	2
10	諏訪星ヶ台群	SWHD	1
11	和田鷹山群	WDTY	1
12	和田鷹山群	WDTY	1
13	諏訪星ヶ台群	SWHD	1

第17表 黒曜石母岩別産地群組成

本遺跡の1点の蛇紋岩もこれらと同じ石材と思われるが、ここでも蛇紋岩としておく。

1点が1母岩に分類されている。

(11) 石英斑岩

1点1母岩のみである。野尻湖遺跡群で石英斑岩はめずらしいが、きわめて流紋岩にちかい石英斑岩である。

3 接合資料

11組25点の石器の接合があった。石器総点数482点でこれだけの接合数は少ないと思われる。原因としては接合作業時間が不十分な点もあるが、最も大きな要因は調査区が細長く部分的にしか調査されていない点にあり、接合すべき石器の多くが調査区外に分布していると思われる。

最大接合数が3点と少なく、石器製作行程を示すような資料は得られなかった。

また、ブロック間での接合は第7号ブロックと第9号ブロック間で1例のみであった。

4 剥片剥離技術

北区には第1～6号ブロックが分布しているが、いずれのブロックでも、剥片、碎片、石核の数量が少ないため、まとまった数の目的剥片を得るための剥片剥離はおこなわれていない。しかし、少量だが碎片や石核が存在することも事実であるため、非常に小規模な剥片剥離がおこなわれた痕跡が残されていると評価されようか。

ここに残されている石核、剥片から想定される剥片剥離は、貝殻状剥片を目的としている。しかし、剥片の形状、大きさに斉一性がなく多様である。したがって、ここでの貝殻状剥片への目的意識は低く、だいたいの形・大きさの剥片が得られればよかったと思われる。

石材には凝灰岩が主に用いられ、厚手で板状の分割礫や剥片を石核の素材としている。作業面は板状の広面に固定される場合が多く、作業面を表面とした場合、裏面を打面として、縁辺を打点が横に移動する剥離が中心となる。しかし、剥離回数が少ないために打点が1週して円盤状になることはない。打面調整はなく礫面や単剥離面が打面となっている。頭部調整も認められない。

南西区には第7～10号ブロックが分布しており、剥片、碎片、石核が多くみられることから、まとまった剥片剥離作業の痕跡が残されている。

ここでの剥片剥離は石刃を目的としている。石材は黒曜石が用いられている。剥離が進んで小形化した石核が多いため石核の素材の状況がはっきりとわからないが、原石と剥片の両方があるようだ。作業面は固定される場合が多く、作業面に対して背にあたる部分に稜に調整が施されるものがある。打面には調整打面と

単剥離打面があり、180°の打面転移も認められる。また、頭部調整、稜上調整も確認できる。剥離された石刃は長さ5cm前後が標準的な大きさであるが、3cm以下の小形石刃も剥離されている。また、長さ7cm以上の大形石刃は非黒曜石のため遺跡内で剥離されたものでないと考えられる。

5 礫

891点の礫が検出されているが、南西区の4点以外はすべて北区から検出されており、分布に偏りが見られる。さらに、そのうちの760点が礫群に属するもので、大部分が礫群から検出されている。礫群の礫の出土層位はIV層が圧倒的に多く、生活面もIV層にあると思われる。礫群外から検出されている礫もIV層から検出されるものが大半を占める。ブロック内に分布する礫についても同様であり、石器はより深い層まで分布しているのに対して、礫の出土層位は浅いといえる。したがって、今回の調査で出土した礫の大半は礫群に関与するもので、IV層堆積中に遺跡に残されたものと思われる。

礫の特徴としては近くに鳥居川があるためか、円礫やかなり角のとれた歪角礫が主体を占める。また、破損礫も少ないことから全体的に丸い礫が多い印象を持たせられる。

礫の接合作業では64組148点の接合があったが、ほとんどが礫群内部間の接合で礫群間接合がなかった。接合数が少ないのは完形礫が多いためと思われる。礫群外との接合は第3号礫群で、第2号ブロックと1組、遺構外と2組の接合資料の共有があった。



吹野原 A 遺跡から斑尾山を望む

第3章 縄文時代以降

第1節 縄文時代以降の遺構と遺物

1 縄文時代以降の遺構

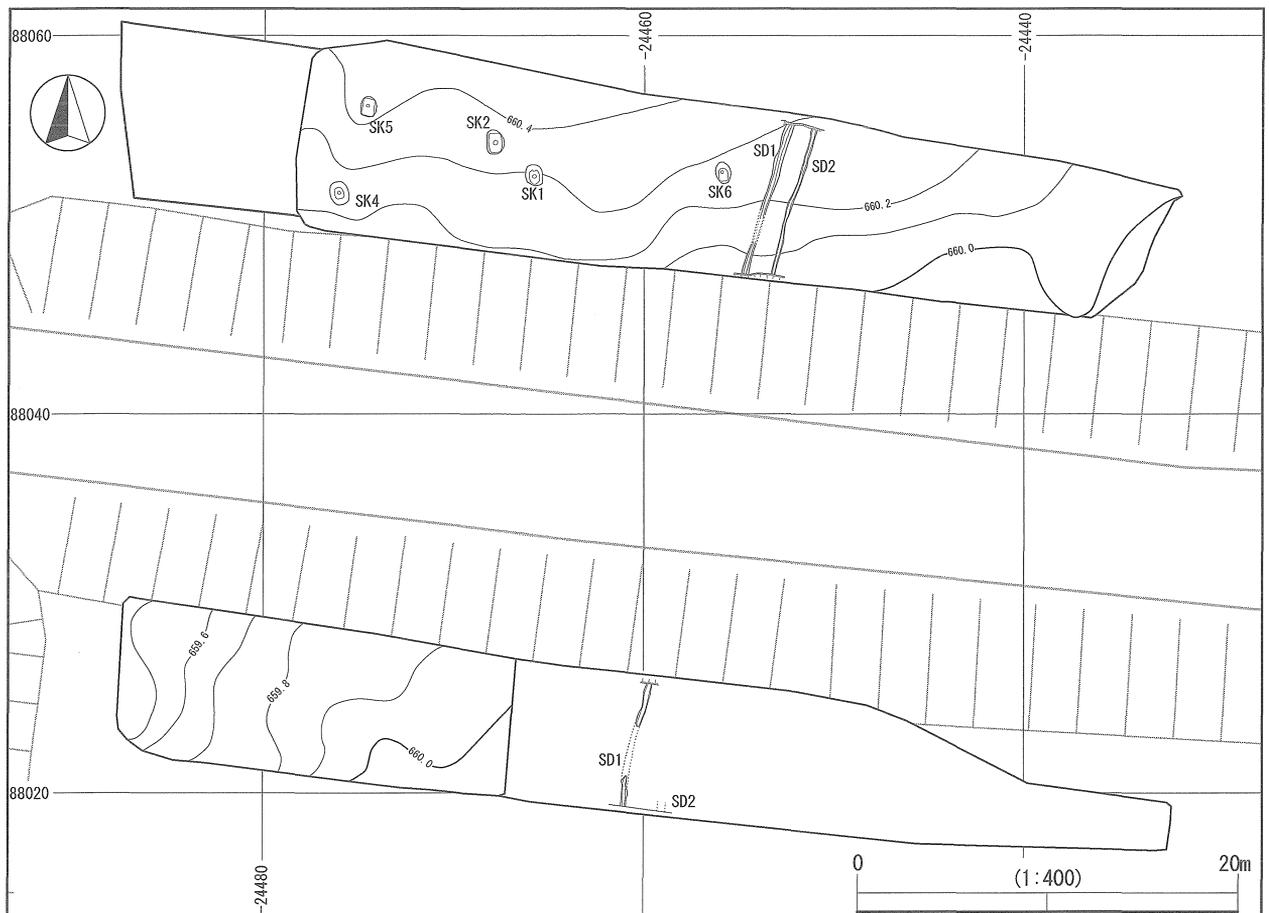
(1) 土坑

陥し穴と思われる土坑が5基検出された。検出面はIV層上面（ローム上面）だが、覆土の状況から掘り込み面はII層中からと思われる。

5基の土坑は切りあうことはなく、ほぼ等高線に平行して並んでいる。北側の調査区外へはこの配置の続きで土坑が連なることが予想されるが、調査区外西は急な下り斜面となるため、今回検出されたものが端になるとと思われる。

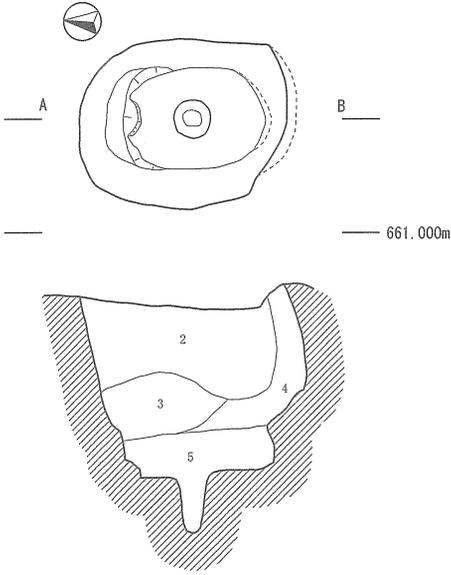
土坑の時期は形状等から縄文時代の陥し穴と考えられるが、縄文時代の遺物が皆無であるため特定ができない。

坑底部のピット数はいずれも1ヶ所である。掘り込みの短長軸は1m強で、短軸が80cm前後となっている。

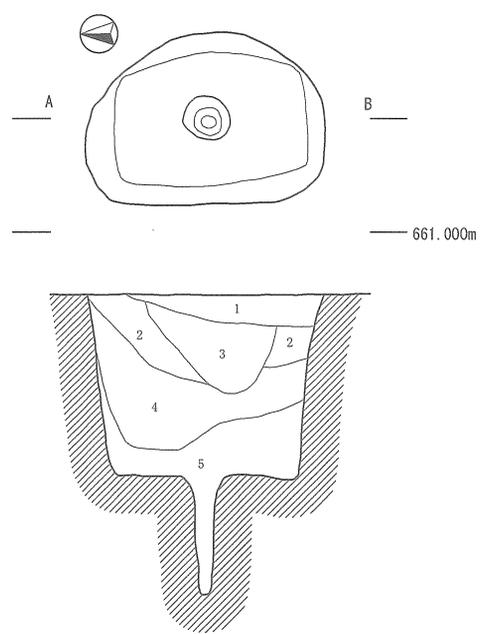


第45図 縄文時代以降の遺構分布図

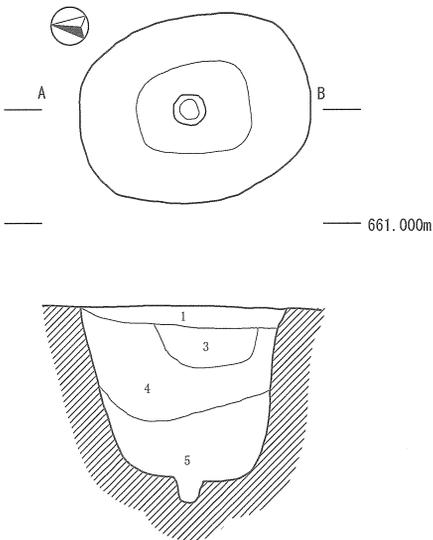
SK1



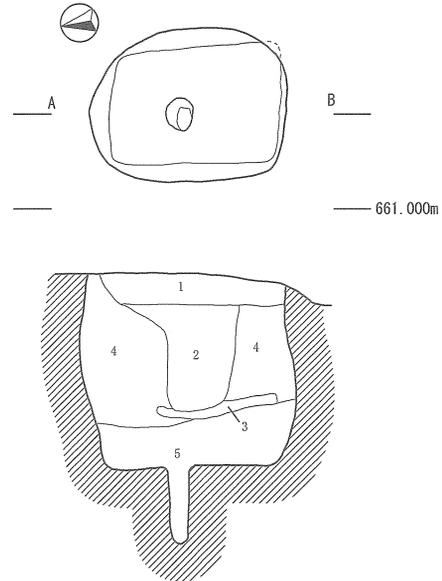
SK2



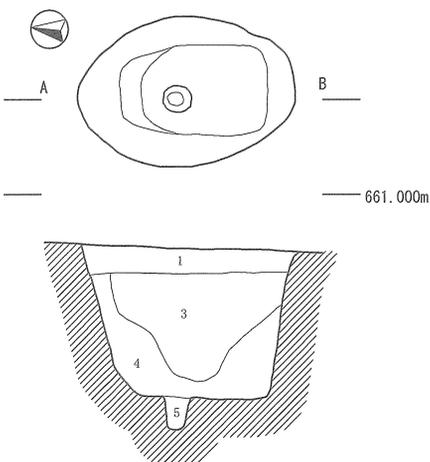
SK4



SK5

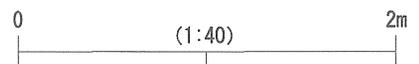


SK6



土層注記 (各 SK 共通)

- 1: Hue10YR2/2 黒褐色土 粘性がわずかにありしまりがよい
- 2: Hue10YR2/2 黒褐色土 粘性がわずかにありしまりがよい わずかにローム粒やロームブロックがはいる
- 3: Hue10YR1.7/1 黒褐色土 粘性がわずかにありしまりがよい わずかにローム粒がはいる
- 4: Hue10YR5/6 黄褐色度土と Hue10YR3/1 黒褐色土がブロック状に混在 粘性がややありしまりがややよい
- 5: Hue10YR5/6 黄褐色土 粘性がありしまりがよいが地山のロームよりやわらかい



第46図 縄文時代以降の土坑

長軸は等高線に対してほぼ直交している。覆土も共通性が高く、上層はⅡ層の黒褐色土にローム粒が混じり、下層はⅣ・Ⅴ層のロームが再堆積した土が主体となっている。基本的には下層へ行くほどロームの混じる比率が高くなると判断できるため、短時間に人為的に埋没したのではなく、時間をかけて自然に埋没したものと思われる。

なお、SK3・7は検出時に遺構の可能性が考えられたため遺構番号を付けたが、掘り下げの結果SK3は拔痕による攪乱、SK7は風倒木痕と判断された。

各土坑の位置は第46図を参照されたし。

1. 第1号土坑 (SK1・第46図)

北区ほぼ中央からやや西よりに位置し、北西約2mに第2号土坑が存在する。

112cm×92cm、深さ100cmの規模を持つ。坑底部は楕円形を呈し、ほぼ中央に深さ32cmのピットを1個有する。北側の壁には狭いテラス状の段が認められ、南壁は検出面上端より外側にオーバーハングしている部分がみられる。

2. 第2号土坑 (SK2・第46図)

北区中央からやや西よりに位置し、南東約2mに第1号土坑、西約6mに第5号土坑が存在する。

128cm×92cm、深さ96cmの規模を持つ。坑底部は長方形を呈し、ほぼ中央に深さ64cmのピットを1個有する。坑底部のピットは非常に深く底の確認が十分にできなかったため、さらに深い可能性がある。

3. 第4号土坑 (SK4・第46図)

北区西よりに位置し、北約4mに第5号土坑が存在する。

124cm×100cm、深さ88cmの規模を持つ。坑底部は隅丸の長方形を呈し、中央に深さ16cmのピットを1個有する。他の土坑と比べると壁の傾斜が緩やかで、検出面近くの形状が丸みを帯びている。

4. 第5号土坑 (SK5・第46図)

北区西よりに位置し南約4mに第4号土坑が存在する。

104cm×80cm、深さ44cmの規模を持つ。坑底部は長方形を呈し、中央に深さ40cmのピット1個を有する。坑底部の角部はしっかりしており、壁も切り立っているため、埋没時のくずれが少なかったと思われる。

5. 第6号土坑 (SK6・第46図)

北区中央付近に位置し、西約9mに第1号土坑が存在する。

116cm×80cm、深さ80cmの規模を持つ。坑底部は隅丸の方形を呈し、中央に16cmのピットを1個有する。

(2) 溝跡

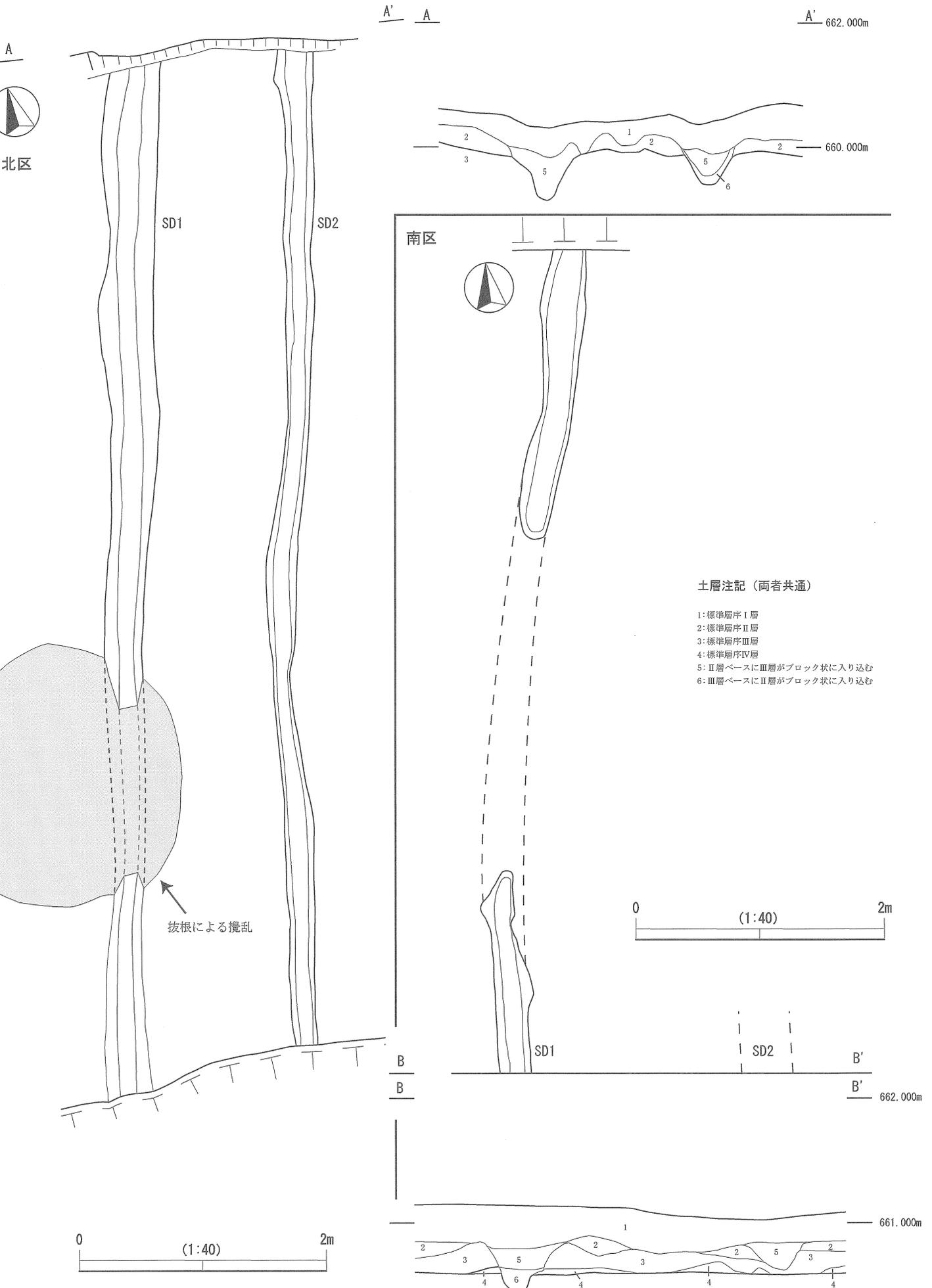
1. 第1・2号溝跡 (SD1・SD2・第47図)

2条の溝跡が検出されている。掘り込み面はⅠ層中にあり、Ⅳ層まで達する部分と達しない部分がある。検出面はⅢ層下部からⅣ層上面のため、掘り込みが浅い部分については表土剥ぎの段階で、なくなってしまっている。

両溝跡は約1mの幅でほぼ南北方向に平行して配置されており、東西に細長い北区と南区をそれぞれ横断している。北区と南区の間は現道に切られているが、連なっていたと思われる。幅40cm前後、深さ20～40cm、長さ40m以上の規模を持ち、断面形は「U」字状を呈している。

溝内から遺物は検出されなかったため遺構の時期決定が難しいが、表土剥ぎ時に溝跡周辺から「寛永通宝」が1点出土している(第48図)。

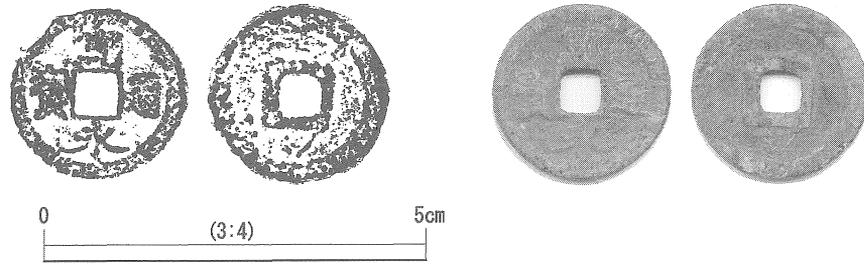
地元の話によると溝跡を切る現道は戦後間もない頃に作られたそうなので、少なくともそれよりは古



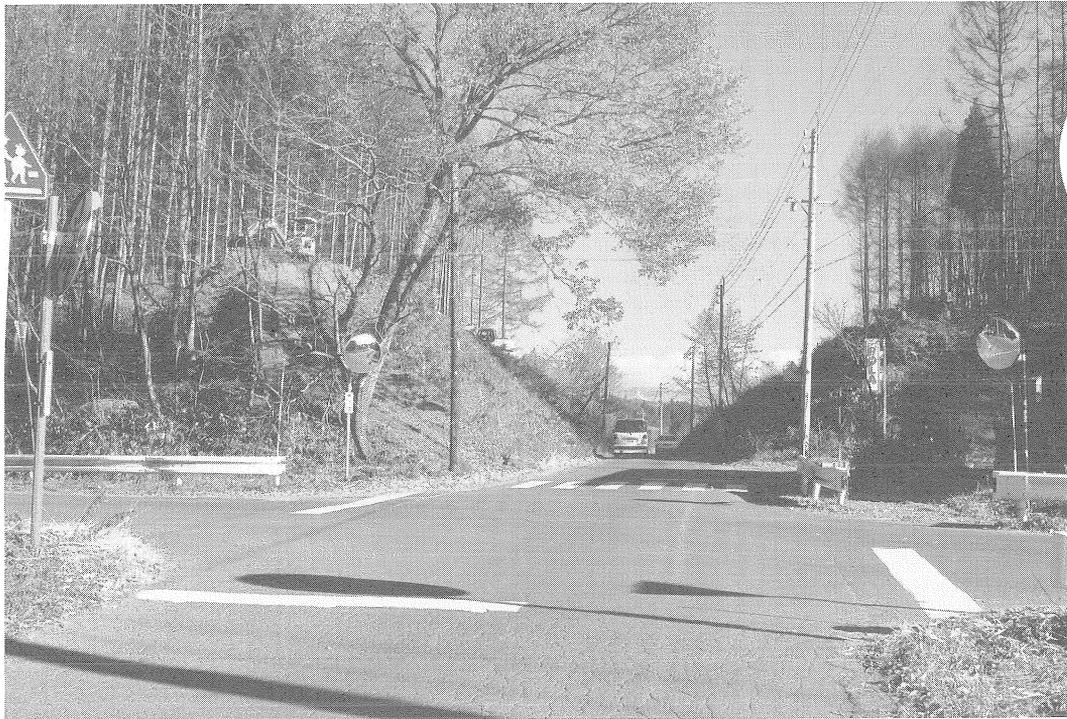
第47図 第1・2号溝跡

いといえよう。

溝跡は道に伴うものとも考えられるが、両溝間に路面となるような安定した面は確認できなかった。また、昔、所有者の異なる土地の境に溝を設けることがあったとも聞く。



第48図 寛永通宝



発掘調査終了時の遺跡風景（道路両側の切りとおし上部が調査区）

第4章 自然科学分析

第1節 吹野原A遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定

望月明彦

1. はじめに

吹野原A遺跡は野尻湖周辺遺跡群のひとつである。野尻湖周辺遺跡群では、現在までに12,000点を超える黒曜石製石器の産地推定が蛍光X線分析を用いて行われている。その結果、最も多く用いられているのは、和田エリアの黒曜石であり、諏訪エリアの黒曜石がそれに続き、蓼科エリアの黒曜石も一定数用いられていることが判明している（長野県埋蔵文化財センター2000）。本遺跡ではVa層を中心として241点の黒曜石製石器が出土しているが、そのうち173点について産地推定を試みた。

2. 分析法

蛍光X線分析には波長分散蛍光X線分析(WDX)とエネルギー分散蛍光X線分析(EDX)の二つの方法がある。本研究室で用いているのはEDXである。WDXでは分光結晶を用いて蛍光X線を分離して、検出器で検出する。この方法では装置が大掛かりになり、強い1次X線を必要とする。一方、EDXでは蛍光X線を半導体検出器(SSD)で検出する。WDXと異なり、X線を分離検出するために機械的な部分の必要がないことから装置はコンパクトである。SSDは多元素の蛍光X線を同時に分離検出可能であるが、液体窒素などを用いて冷却する必要がある。WDXでは冷却水で十分である。また、試料の形態による測定への影響はEDXのほうが少ない。

蛍光X線分析のもっとも大きな特徴は試料を破壊せずに分析できることにある。本研究室で取り扱う考古学的試料(主として黒曜石、その他土器、陶器、ガラス器、金属器など)は、その考古学的価値から破壊することができない場合が多い。非破壊分析である蛍光X線分析はこれらの試料の分析には欠かせない方法といえる。また、迅速に分析できることもあり、多数の試料の分析に適した方法である。本研究室で最も多く分析する黒曜石の場合、遺跡からの出土数が多いことから蛍光X線分析の迅速性は強力な武器となっている。

本研究室では試料形態の多様性、試料数、迅速性などを考慮してEDXによる分析を行っている。

3. 分析試料と試料調整

3.1 産地原石

蛍光X線分析による産地推定法では、あらかじめ産地から採取された原石を分析してデータベースを作成する。この原石のデータベースと遺跡から出土した黒曜石の分析データとを照合して産地推定を行う。本研究室では北海道から九州までのほとんどの産地のデータベースを作成済みであるが、第18表には隠岐以東の黒曜石産地について示す。第49図はこれらの産地の分布図である。

産地原石のデータベースが徐々に大きくなり、分析に用いる蛍光X線分析装置も替わる中で、当初用いていた産地名を変更することになり、現在では新しい分類を用いている。第18表には旧名称、新名称、旧記号、新記号を挙げてある。新しい分類では、産地を大きく分けてエリアとした。このエリア名には基本的にそのエリアを含む行政区域名を使用した。適当な行政区域に特定できない場合は山や川の名前を使用した。

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)	
北海道	1	白滝	八号沢群 黒曜の沢群		STHG STKY		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)	
	2	上士幌	三股群		KSM		十三ノ沢(16)	
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)	
	4	旭川	高砂台群 春光台群		AKTS AKSK		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)	
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)	
	6	新十津川	須田群		STSD		須田(6)	
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川(25)、土木川(15)	
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)	
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸(34)	
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)	
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群 脇本群		OGKS OGWM		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98) 脇本海岸(16)	
山形	12	羽黒	月山群 今野川群		HGGS HGIN		月山荘前(30)、朝日町田代沢(18)、櫛引町中沢(18) 今野川(9)、大綱川(5)	
	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)	
新潟	14	新発田	板山群		SBY		板山牧場(40)	
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、桜沢(20)	
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)	
長野	16	和田(WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、芙蓉ライト(87)、古峠(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、丁字御領(18)	
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2		
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3		
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4		
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5		
			芙蓉ライト群		WDHY			
			古峠群		WDHT			
	和田(WO)	ブドウ沢群	男女倉1群	WOB	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)		
		牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2			
		高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3			
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)	
18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ湯(29)、美し森(4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池(34)		
			双子山群		TSHG			双子池(26)
			播鉢山群		TSSB			播鉢山(31)、亀甲池(8)
神奈川	20	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯(34)	
			畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿(71)	
			黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋(9)	
静岡	21	天城	鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KIY	鍛冶屋(30)	
			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)	
東京	23	神津島	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠(80)	
			恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)	
島根	24	隠岐	砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糠崎(40)、長浜(5)	
			久見群		OKHM		久見パーライト中(30)、久見採掘現場(18)	
その他			箕浦群		OKMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)	
			岬群		OKMT		岬地区(16)	
			NK群		NK		中ッ原1G、5G(遺跡試料)、原石産地は未発見	

第18表 産地原石判別群(SEIKO SEA-2110L 蛍光X線分析装置による)



第49図 隠岐以東の主な黒曜石産地分布図

従って、以前和田峠系、男女倉系としていた産地は共に和田村を中心とし、同一地点で両者の原石が混在しているような状況から和田エリアとして統一した。ただし、今までとの比較が必要な場合を想定して、場合によっては和田(WD)エリア(旧和田峠系)、和田(WO)エリア(旧男女倉系)という呼称を用いている。産地エリア内の細分された判別群の名前としては、その群の原石を採取可能な代表的な地点名を用いた。たとえば鷹山群という名前は、この群に属する原石が鷹山で代表されるということである。鷹山でほかの群の原石が採取されないということではない。また、他の地点でも鷹山群の原石は採取可能であり、決してこの群の原石が鷹山でしか採取できないということではない。

産地原石の測定はハンマーを用いて打ち割り、できるだけ平坦な面を選んで行った。完全に平坦な面を作成したり、粉末として測定しなかった理由は、目的とする遺物にできるだけ近い状態で測定した結果、産地が推定可能であることが必要と考えたからである。原石を理想的な状態で分析し、その結果、各原石を分類できたとしても、実際に遺物に適用できないことがありうるからである。

3.2 吹野原A遺跡出土試料

分析した試料は173点で、ナイフ形石器、台形石器、石核、石刃、楔形石器、剥片である。剥片には微細剥離痕や使用痕のあるものを含む。各石器の詳細については石器の属性表を参照していただきたい。

各試料を超音波洗浄後、メラミンフォーム製のスポンジでこすって汚れを落とし、できるだけ平坦な面を選んで測定を行った。望ましい結果が得られなかった場合は、再度洗浄したり、測定面を変更するなどして測定を繰り返した。

4. 測定

用いた装置はセイコーインスツルメンツ社のエネルギー分散蛍光X線装置SEA-2110Lで、X線管ターゲットはロジウム、検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件を次に示す。

電流：自動設定 電圧：50kV 照射径：10mm, 3mm 雰囲気：真空

測定時間：産地原石 500sec, 遺跡出土試料 240sec

分析された元素は以下の通りである。

アルミニウム(Al)、ケイ素(Si)、カリウム(K)、カルシウム(Ca)、チタン(Ti)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)

5. 産地推定法

前述したように産地原石を用いて産地推定の基礎的なデータベースを作成した。測定結果から算出した推定のための指標は以下のとおりである。

蛍光X線分析から得られたK、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zrの7元素の蛍光X線強度を用いて、次のような産地推定のための指標を計算する。

$A = (\text{Rb 強度} + \text{Sr 強度} + \text{Y 強度} + \text{Zr 強度})$ とした時、

$$\text{Rb 分率} = \text{Rb 強度} \times 100/A \quad \text{Sr 分率} = \text{Sr 強度} \times 100/A$$

$$\text{Zr 分率} = \text{Zr 強度} \times 100/A \quad \text{Mn 強度} \times 100/\text{Fe 強度}$$

$$\log(\text{Fe 強度} / \text{K 強度})$$

これらの指標の算出には蛍光X線のエネルギー差が小さく、風化に影響されにくい元素をできる限り用いた。

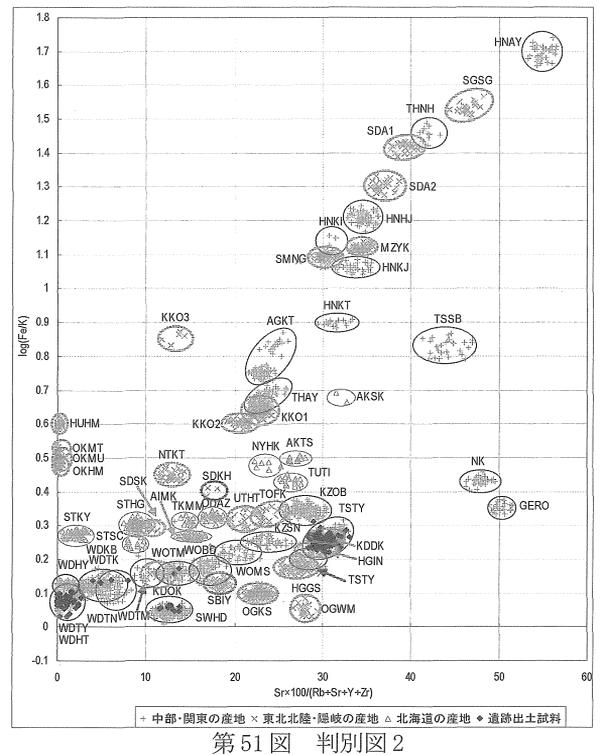
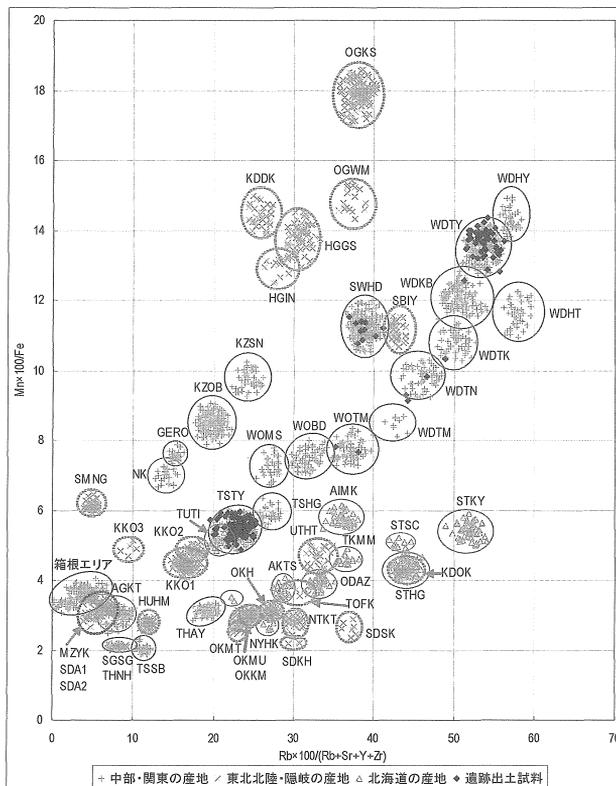
推定のための第1の方法としては上記のうちZr分率を除く4つの指標を用いて2つのグラフによる推定法を用いた。以下この方法を判別図法、二つのグラフを判別図と呼ぶことにする。

二つの判別図を第50図と第51図に示した。第50図は横軸にRb分率、縦軸にMn強度×100/Fe強度をプロットしたものである。第51図は横軸にSr分率、縦軸にlog(Fe強度/K強度)をプロットしてある。第50図と第51図とから、各エリアの判別群の分類が可能となる。

遺跡出土試料についても同様に蛍光X線分析を行い、産地原石と同様のプロットを行って比較することで産地推定を行った。図中では吹野原A遺跡出土の黒曜石を◆で示した。判別図法は、遺跡出土黒曜石の産地推定において形状、厚み、風化の影響を受けにくく、信頼性の高い産地推定法であるといえよう。また、指標の計算は非常に簡単であり、推定結果はグラフにより視覚的・直感的に把握できることから非常にわかりやすいことも大きな長所といえる。

第2の方法として多変量解析の1つの手法である判別分析を用いた。この方法はすでに分類された群のいずれに未知の試料が帰属するかを求める方法である。変量として上記の指標をすべて用いた。原石の群はあらかじめクラスター分析と主成分分析によって分類し、判別分析によって結果に矛盾がないかを確認した。

判別図法と判別分析との結果は非常に一致度が高いが、和田鷹山群と和田小深沢群など同エリアの中のものとも類似した群の場合には異なる群に分類される場合もある。このような場合は判別分析の結果を採用している。



6. 産地推定結果

判別図には淡色の原石と◆の吹野原遺跡出土試料を示した。23～25表の推定結果表には以下の情報を示した。

2002 通し番号：本研究室における 2002 年度の通算分析番号

分析番号 遺物番号 推定産地：産地エリアと判別群の最終推定結果

判別図判別群：判別図による推定結果

判別分析 第1候補：判別分析による判別群第1候補

距離：第1候補の判別群と試料との間のマハラノビス距離

確率：試料が第1候補の判別群に属する確率

第2候補についても第1候補と同様

二つの判別図と判別分析の結果から、産地エリアとして和田エリア(55点)、諏訪エリア(11点)、蓼科エリア(104点)の3つのエリアの黒曜石が検出された。測定した173点中、風化のために3点の産地推定ができなかった。判別分析と判別図の結果は1点(MFH-44)を除いてすべて一致した。この試料は判別図からはWDTNとされたが、判別分析の結果はWDTMとなった。判別分析の結果はWDTM83%、WDTN17%である。

第19表には、吹野原A遺跡全体の産地組成を試料数と試料数%で示した。

第20表に示したのは石器器種別の産地組成である。諏訪エリアと和田エリアの黒曜石は剥片の数に比べて石器が多いが、蓼科エリアは石核に多く見受けられ、楔形石器やナイフ形石器には用いられていない。台形石器は諏訪エリアと蓼科エリアが1点ずつである。

第21表に石器ブロック別に産地組成を示した。出土遺物の産地別分布図は第2章第9図から第11図に示したので、そちらを参照されたい。和田エリアと蓼科エリアはともにBL7からBL10にかけて共存するが、同一のブロック内ではその分布が偏って存在することが見て取れる。例えば、最も試料数の多いBL7を見てみよう。蓼科エリアの黒曜石は南北の中央付近、東西では東側に偏在するのに対して、和田エリアの黒曜石は南北では北と南側に別れて、東西には比較的均等に分布している。旧男女倉系は2点ともBL7の南西に分布する。諏訪エリアの黒曜石は北区のBL3からBL6に集中する。

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WO)	高松沢	WOTM	2	1.18
和田(WD)	鷹山	WDTY	48	28.24
	小深沢	WDKB	1	0.59
	土屋橋北	WDTK	1	0.59
	土屋橋西	WDTN	2	1.18
	土屋橋南	WDTM	1	0.59
諏訪	星ヶ台	SWHD	11	6.47
蓼科	冷山	TSTY	104	61.18

第19表 黒曜石産地組成

器種	SWHD	TSTY	WDKB	WDTK	WDTM	WDTN	WDTY	WOTM	総計
Bl		6				1	6	1	14
Co		6					1		7
Fl	5	89	1		1	1	35	1	133
Kn	2								2
Kn破							1		1
Pe	1						2		3
RF		1		1					2
Tr	1	1							2
UF	2	1					3		6
総計	11	104	1	1	1	2	48	2	170

第20表 器種別産地組成

ブロック番号	SWHD	TSTY	WDKB	WDTK	WDTM	WDTN	WDTY	WOTM	総計
1		1							1
2						1	1		2
3	6	3			1				10
4		2							2
5	1								1
6	4						3		7
7		63	1				34	2	100
8		19					1		20
9		13					3		16
10		1					5		6
ブロック外		2		1		1	1		5
総計	11	104	1	1	1	2	48	2	170

第21表 石器ブロック別産地組成

本遺跡の大きな特徴としては、長野県の三大黒曜石産地のうち、野尻湖周辺遺跡群では比較的少ない蓼科エリアの黒曜石が、全体の約61%という高率で検出されたことである。下に示すように、野尻湖周辺遺跡群で最も近い産地組成を示すのは上ノ原遺跡で、蓼科エリアの黒曜石を約55%含んでいる。蓼科エリアの次に和田エリアが多く含まれ、諏訪エリアの黒曜石が非常に少ない点でも共通している。

7. まとめ

野尻湖遺跡群の調査は広大な面積にわたる。現在までに12000点を超える試料の産地推定をしてきたとはいえ、全体の出土量の一部をカバーしたに過ぎない。しかも、考察は遺跡ごとにしか行われていない。これからさらに野尻湖周辺遺跡群の黒曜石の分析例は増加することは予想されるが、分析した遺跡全体の地理的条件、出土層位、その他を総合的に考えて、行政発掘調査の都合による遺跡別からはなれ、考察すべき対象を正確に把握してその上で野尻湖周辺における黒曜石利用の様相、変遷を見ていく必要が出てくるものと考えられる。

遺跡名	貫ノ木	日向林B	東裏	上ノ原	大久保南	西岡A	裏の山	セツ栗	大平B	日向林A
推定試料数	4643	3495	986	314	493	456	1639	35	43	52
和田エリア (WO)	ぶどう沢群	5		8	1		1			
	高松沢群	23		12	1			1		
和田エリア (WD)	鷹山群	1884	2866	683	127	455	257	1489	31	36
	小深沢群	384	487	18		4	15	65		1
	土屋橋北群	114	35	26	1		1	14		
	土屋橋西群	188		42	1	4	8	22	2	
	土屋橋南群	116		10		1	3	2	1	1
諏訪エリア	星ヶ台群	1754	34	175	8	27	117	45	1	2
蓼科エリア	冷山群	171	72	10	172	1	51	1		1
	双子山群	3	1		1		1			
神津島エリア	恩馳島群				1					
高原山エリア	甘湯沢群						2			
男鹿エリア	金ヶ崎群			2	1					4
深浦エリア	八森山群	1				1				1
木造エリア	出来島群									3

第22表 野尻湖遺跡群黒曜石産地推定結果まとめ

2002 通し番号	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK02-509	MFH-1	3	和田高松沢群	WOTM	WOTM	4.36	0.9988	WOBD	17.46	0.0012
MK02-510	MFH-2	4	和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.42	1	WDKB	34.19	0
MK02-511	MFH-3	8	和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.91	1	WDHY	24.87	0
MK02-512	MFH-4	10	風化	風化	風化			風化		
MK02-513	MFH-5	14	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.22	1	WDHY	23.08	0
MK02-514	MFH-6	19	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.59	0.9943	TSHG	9.01	0.0057
MK02-515	MFH-7	21	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.42	1	TSHG	25.99	0
MK02-516	MFH-8	27	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.01	0.9999	TSHG	16.12	0.0001
MK02-517	MFH-9	30	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	10.28	1	TSHG	40.65	0
MK02-518	MFH-10	31	和田鷹山群	WDTY	WDTY	0.17	1	WDHY	20.07	0
MK02-519	MFH-11	34	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.15	1	TSHG	24.41	0
MK02-520	MFH-12	36	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.19	1	TSHG	26.93	0
MK02-521	MFH-13	38	和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.71	0.7874	WDHY	7.9	0.2126
MK02-522	MFH-14	39	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.43	1	WDHY	36.58	0
MK02-523	MFH-15	46	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.25	1	TSHG	39.29	0
MK02-524	MFH-16	47	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.54	0.9915	TSHG	10.14	0.0085
MK02-525	MFH-17	48	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.9	1	TSHG	22.42	0
MK02-526	MFH-18	49	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.75	0.9999	TSHG	18.64	0.0001
MK02-527	MFH-19	50	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.38	1	TSHG	31.49	0
MK02-528	MFH-20	51	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	9.98	0.9843	TSHG	14.34	0.0157
MK02-529	MFH-21	52	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.64	1	TUT1	46.85	0
MK02-530	MFH-22	53	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.97	0.9999	TSHG	19.35	0.0001
MK02-531	MFH-23	55	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.3	1	TSHG	19.4	0
MK02-532	MFH-24	57	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	9.65	0.9999	TSHG	23.99	0.0001
MK02-533	MFH-25	58	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.32	1	TSHG	22.35	0

第23表 産地指定結果1

2002 通し番号	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK02-534	MFH-26	59	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.26	0.9999	TSHG	18.69	0.0001
MK02-535	MFH-27	61	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.05	1	TSHG	20.79	0
MK02-536	MFH-28	64	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.08	0.9998	TSHG	18.7	0.0002
MK02-537	MFH-29	65	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.89	0.9864	TSHG	13.56	0.0136
MK02-538	MFH-30	67	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.09	1	TSHG	25.05	0
MK02-539	MFH-31	68	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.16	0.9972	TSHG	15.99	0.0028
MK02-540	MFH-32	72	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.52	0.9895	TSHG	8.7	0.0105
MK02-541	MFH-33	74	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.1	0.9958	TSHG	10.13	0.0042
MK02-542	MFH-34	75	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.74	1	TSHG	28.76	0
MK02-543	MFH-35	77	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	13.55	1	TSHG	47.13	0
MK02-544	MFH-36	79	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	7.79	1	TUTI	25.97	0
MK02-545	MFH-37	81	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.67	0.9997	WDHY	16.82	0.0003
MK02-546	MFH-38	83	和田鷹山群	WDTY	WDTY	8.84	0.9997	WDHY	22.89	0.0003
MK02-547	MFH-39	85	和田鷹山群	WDTY	WDTY	3.75	0.9998	WDHY	18.3	0.0002
MK02-548	MFH-40	86	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.95	0.9999	TSHG	18.23	0.0001
MK02-549	MFH-41	88	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.19	0.9973	TSHG	12.1	0.0027
MK02-550	MFH-42	90	和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.61	0.9986	WDHY	17.29	0.0014
MK02-551	MFH-43	92	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.6	0.9997	TSHG	16.17	0.0003
MK02-552	MFH-44	103	和田土屋橋南群	*WDTN	WDTM	12.58	0.8343	WDTN	13.04	0.1657
MK02-553	MFH-45	111	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.14	0.9999	TSHG	20.11	0.0001
MK02-554	MFH-46	142	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.3	1	TSHG	20.21	0
MK02-555	MFH-47	154	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.19	1	SBIY	68.39	0
MK02-556	MFH-48	158	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2	1	WDHY	31	0
MK02-557	MFH-49	160	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	11.34	1	TUTI	31.07	0
MK02-558	MFH-50	163	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.89	1	TSHG	29.11	0
MK02-559	MFH-51	165	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.84	1	TSHG	27.52	0
MK02-560	MFH-52	167	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.64	1	TUTI	28.54	0
MK02-561	MFH-53	168	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.09	1	TUTI	25.76	0
MK02-562	MFH-54	170	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.66	1	TSHG	20.9	0
MK02-563	MFH-55	171	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.04	1	TSHG	23.82	0
MK02-564	MFH-56	175	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.83	1	TSHG	40.49	0
MK02-565	MFH-57	176	和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.19	0.8622	WDHY	8.43	0.1378
MK02-566	MFH-58	178	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	13.53	1	TSHG	46.26	0
MK02-567	MFH-59	179	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.19	0.9998	TSHG	14.5	0.0002
MK02-568	MFH-60	180	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.22	1	TSHG	23.6	0
MK02-569	MFH-61	181	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.38	0.9999	TSHG	16.51	0.0001
MK02-570	MFH-62	183	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.09	1	TSHG	23.46	0
MK02-571	MFH-63	185	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.96	1	TSHG	31.03	0
MK02-572	MFH-64	187	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.13	1	TSHG	21.79	0
MK02-573	MFH-65	189	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	15.03	1	TSHG	51.91	0
MK02-574	MFH-66	197	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.72	1	TSHG	43.14	0
MK02-575	MFH-67	201	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.92	1	TSHG	31.34	0
MK02-576	MFH-68	203	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.31	1	TSHG	21.78	0
MK02-577	MFH-69	204	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	11.07	1	TUTI	52.26	0
MK02-578	MFH-70	205	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.33	1	TUTI	27.03	0
MK02-579	MFH-71	213	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.84	0.9994	WDHY	17.24	0.0006
MK02-580	MFH-72	214	和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.78	1	WDHY	32.88	0
MK02-581	MFH-73	215	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.5	1	TSHG	22.64	0
MK02-582	MFH-74	216	和田鷹山群	WDTY	WDTY	7.15	0.9322	WDHY	9.96	0.0678
MK02-583	MFH-75	220	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.72	1	WDHY	30.5	0
MK02-584	MFH-76	223	和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.08	0.9936	WDHY	16.73	0.0064
MK02-585	MFH-77	224	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.48	1	WDHY	25.71	0
MK02-586	MFH-78	225	和田鷹山群	WDTY	WDTY	10.89	0.7914	WDHY	11.13	0.2086
MK02-587	MFH-79	228	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.73	0.9993	WDHY	16.92	0.0007
MK02-588	MFH-80	229	和田鷹山群	WDTY	WDTY	12.81	0.783	WDHY	12.94	0.217
MK02-589	MFH-81	232	和田鷹山群	WDTY	WDTY	11.77	1	WDKB	33.44	0
MK02-590	MFH-82	233	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.57	0.9994	WDHY	14.83	0.0006
MK02-591	MFH-83	236	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.53	0.9995	WDHY	15.48	0.0005
MK02-592	MFH-84	238	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.48	1	TSHG	20.09	0
MK02-593	MFH-85	239	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.88	1	TSHG	25.14	0
MK02-594	MFH-86	244	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	16.86	1	TUTI	59.18	0
MK02-595	MFH-87	246	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.45	1	TSHG	24.88	0
MK02-596	MFH-88	247	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	7.39	0.9998	TSHG	20.98	0.0002
MK02-597	MFH-89	250	風化	風化	風化			風化		
MK02-598	MFH-90	251	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	12.47	0.9993	TUTI	22.07	0.0007
MK02-599	MFH-91	253	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	15.27	1	TSHG	52.82	0
MK02-600	MFH-92	254	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	10.23	1	TSHG	32.03	0
MK02-601	MFH-93	255	和田鷹山群	WDTY	WDTY	8.78	1	WDHY	29.46	0
MK02-602	MFH-94	259	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	10.93	1	TUTI	29.24	0

第24表 産地指定結果2

2002 通し番号	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図 判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK02-603	MFH-95	260	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.85	0.9591	TSHG	6.25	0.0409
MK02-604	MFH-96	261	風化	風化				風化		
MK02-605	MFH-97	262	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.78	1	TSHG	18.99	0
MK02-606	MFH-98	264	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.81	0.9985	TSHG	11.94	0.0015
MK02-607	MFH-99	268	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.87	1	WDHY	27.52	0
MK02-608	MFH-100	270	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.11	1	TSHG	37.19	0
MK02-609	MFH-101	271	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	7.54	0.9999	TSHG	22.73	0.0001
MK02-610	MFH-102	276	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	11.34	1	TUTI	33.16	0
MK02-611	MFH-103	278	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.39	1	TSHG	26.86	0
MK02-612	MFH-104	279	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.04	0.9997	TSHG	18.15	0.0003
MK02-613	MFH-105	287	和田小深沢群	WDKB	WDKB	12.67	0.9569	WDTY	19.54	0.0431
MK02-614	MFH-106	289	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.96	1	TSHG	19.27	0
MK02-615	MFH-107	291	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.79	1	WDHY	28.73	0
MK02-616	MFH-108	306	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.51	0.9991	TSHG	13.55	0.0009
MK02-617	MFH-109	318	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.25	1	SBIY	90.83	0
MK02-618	MFH-110	319	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.79	1	WDTN	76.96	0
MK02-619	MFH-111	323	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.88	1	SBIY	98.53	0
MK02-620	MFH-112	330	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.59	1	SBIY	108.99	0
MK02-621	MFH-113	364	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	10.2	0.9993	TSHG	20.89	0.0007
MK02-622	MFH-114	389	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.05	1	TSHG	17.23	0
MK02-623	MFH-115	404	和田土屋橋西群	WDTN	WDTN	1.63	1	WDTK	29.64	0
MK02-624	MFH-116	436	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.32	0.9991	TSHG	11.39	0.0009
MK02-625	MFH-117	437	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.22	0.9999	TSHG	16.31	0.0001
MK02-626	MFH-118	458	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.14	1	TSHG	19.72	0
MK02-627	MFH-119	492	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.58	1	SBIY	79.68	0
MK02-628	MFH-120	502	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.3	1	SBIY	107.84	0
MK02-629	MFH-121	504	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.53	1	WDHY	27.42	0
MK02-630	MFH-122	568	和田土屋橋北群	WDTK	WDTK	7.17	0.9464	WDTN	13.14	0.0536
MK02-631	MFH-123	591	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.43	1	WDKB	35.02	0
MK02-632	MFH-124	601	和田鷹山群	WDTY	WDTY	2.86	0.9999	WDHY	18.3	0.0001
MK02-633	MFH-125	606	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.64	1	WDHY	36.19	0
MK02-634	MFH-126	613	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	7.07	1	TUTI	27.72	0
MK02-635	MFH-127	614	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.39	0.9999	WDHY	17.9	0.0001
MK02-636	MFH-128	615	和田鷹山群	WDTY	WDTY	4.2	1	WDHY	29.22	0
MK02-637	MFH-129	616	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.86	0.9989	WDHY	13	0.0011
MK02-638	MFH-130	617	和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.1	1	WDKB	41.84	0
MK02-639	MFH-131	621	和田鷹山群	WDTY	WDTY	9.07	1	WDHY	34.41	0
MK02-640	MFH-132	622	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.39	1	WDHY	23.96	0
MK02-641	MFH-133	624	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.35	1	WDHY	26.45	0
MK02-642	MFH-134	630	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.21	1	TSHG	26.42	0
MK02-643	MFH-135	631	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.73	1	TSHG	28.15	0
MK02-644	MFH-136	632	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.71	0.9997	TSHG	17.33	0.0003
MK02-645	MFH-137	634	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.68	0.9999	TSHG	16.1	0.0001
MK02-646	MFH-138	635	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.26	1	TSHG	22.52	0
MK02-647	MFH-139	636	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.37	0.9876	TSHG	9.21	0.0124
MK02-648	MFH-140	637	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.28	1	TSHG	22.7	0
MK02-649	MFH-141	638	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.48	1	TSHG	29.79	0
MK02-650	MFH-142	639	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.81	1	TSHG	25.53	0
MK02-651	MFH-143	640	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	4.9	0.999	TSHG	14.82	0.001
MK02-652	MFH-144	54	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.77	1	TSHG	32.6	0
MK02-653	MFH-145	218	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	10.69	1	TUTI	42.69	0
MK02-654	MFH-146	633	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.62	1	TSHG	45.02	0
MK02-655	MFH-147	66	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.73	1	TSHG	35.15	0
MK02-656	MFH-148	192	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.39	1	TSHG	28.1	0
MK02-657	MFH-149	281	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.79	1	TSHG	21.01	0
MK02-658	MFH-150	33	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.61	0.9999	TSHG	18.05	0.0001

第25表 産地指定結果3



第5章 成果と課題

第1節 検出された石器群

1 はじめに

今回検出された旧石器時代の石器群は1時期1様相ではなく、4つに大分することができる。第1に北区石器群、第2に南西区石器群、第3に南東区石器群、第4に礫群に伴う石器群である。

次項ではそれぞれの石器群の概略について触れることとする。

2 各石器群の様相

(1) 北区石器群

1. 該当するブロック

北区には6ヶ所のブロックが存在する。第2・3・5・6号ブロックは礫群と分布の重なりがほとんどなく、層位的分布も異なる。そのため、大部分が本石器群に属すると考えられるので、本石器群の評価の対象とする。第1・4ブロックは礫群と分布が重なっており、礫群に伴う石器群と混在している可能性がある。また、数量も少なく定形的な製品がないため、明確な位置付けが難しい。そのため、北区石器群の評価の対象には含めないものとする。

2. 石器群の層位

どのブロックでもⅢ層からⅤb層の間に石器が分散して分布している。しかし、石器が本来の生活面より下層に分布する数は、上層に浮き上がる数より少ないことを考慮すると、Ⅴb層でもまとまった数の石器が検出されていることから、本石器群の生活面はⅤa層からⅤb層の間にあると考える。

3. 石器群の内容

本石器群に確実に伴うといえる製品が楔形石器である。楔形石器も第3号ブロックに集中しており、それ以外での影は薄い。さらに第3号ブロックは器種組成が楔形石器に偏る点から、ことなる石器群に細分できる可能性がある。

第3号ブロックと第6号ブロックからナイフ形石器が1点ずつ検出されており（報告番号2と3）、組成に加わる可能性が十分に考えられるものの、いずれもⅢ層出土であるため、より新しい時期の石器である疑いは晴れない。

第6号ブロックから検出されている台形石器（報告番号6）はⅣ層下部出土で生活面と予想される層準に近い。素材を縦に用いて表裏に平坦な剥離を施す特徴は、貫ノ木Ⅰ石器文化第3地点（大竹2000）の台形石器との共通点が見られることから本石器群に組成する器種として考えられるが、1点のみであり、ブロック縁辺に分布している点から確実とはいいきれない。

板状の石核から作業面をほぼ固定して貝殻状剥片を剥離する技術が認められるが、石核、剥片の形状に斉一性がなく性格付けをおこなうには厳しい。

したがって、製品として認定できる石器が少ない事が石器群の特徴として指摘される。

4. 石器群の評価

全体的に石器数量が少なく、製品と認定できる器種が楔形石器以外にない理由としては、今回の調査区が狭いため石器群の一部しか検出されていないと思われる点にある。したがって、調査区周囲の状況がわからないと判断しがたいが、見通しとしては層位と台形石器等の状況から、ATより下位の石器群として位置付けられよう。

(2) 南西区石器群

1. 該当するブロック

南西区には第7～10号ブロックは石材や層位の共通が高いため、同時期に残されたブロックとして評価できる。

2. 石器群の層位

Ⅲ層からVb層の間に石器が分散して分布しているが、Va層が最も多く、Vb層の数も多いことから生活面はVa層からVb層の間にあると思われる。

3. 石器群の内容

本石器群ではナイフ形石器、台形石器、石刃、斧形石器が組成している。ナイフ形石器と斧形石器は1点ずつしか検出されなかったが、平面的層位的な分布状況から本石器群に含まれるものと判断した。

ナイフ形石器は石刃を素材とする2側縁に加工が施されるもので、いわゆる「茂呂型」の範疇に含まれる。素材の打面を基部に置くが、打面は加工により除去され尖端は鋭く尖る。素材の剥離軸と石器の主軸はほぼ一致している。

台形石器は貝殻状剥片もしくは縦長剥片を横に用いている。側縁には折れ面や打面等から平坦な剥離と、ブランディング状の急角度の剥離が施されている。その結果比較切り立った側縁が作出されている。

石刃、石刃石核が組成しており、これらには打面調整、頭部調整等の石核調整が認められる。

4. 石器群の評価

ナイフ形石器、台形石器、斧形石器、石刃の組成がみられ、石刃を目的とする製作が認められ、1つの石器文化の様相を示すことができる資料として捉えられることから、本石器群に「吹野原Ⅰ石器文化」の呼称を与えることとする。

(3) 南東区石器群

1. 該当するブロック

第11号ブロックのみである。

2. 石器群の層位

Va層の遺物が多いためVa層に生活面があると考えられる。

3. 石器群の内容

斧形石器、石刃が組成するものの、石器総点数が10点と限られている。製品や素材となりうる大形品が主体で、石器製作が認められないことから、いずれも単独で持ち込まれたものと思われる。

4. 石器群の評価

ブロックが調査区隅にあり本体は調査区外にあると思われるため評価は難しい。

(4) 礫群に伴う石器群

1. 該当するブロック

第1～3号礫群に伴うブロックとしては第1号ブロックと第4号ブロックがあげられるが、いずれのブロックも礫群より深い層からの石器の検出があり、確実に伴うとはいいきれない。石器単体についても確実に礫群に伴うといえるものはない。

2. 石器群の層位

礫群に伴う石器がわからない状態だが、礫群礫の出土層位はIV層に集中しておりIV層中に生活面が想定される。

3. 石器群の評価

礫群に伴う石器がわからないためなんとも評価できないが、3基も礫群が存在することから、小規模かもしれないが、調査区内外にこれに伴う石器群が存在するものと予想される。

3 検出された石器群の評価

今回の調査区は細長く狭い上、現道により2ヶ所に分断されている。そのため、検出された4つの石器群も、南西区石器群以外は部分的で、遺跡の全体像を想定するには足りないものと思われる。

1単位の石器文化の様相を見ることができる南西区石器群「吹野原Ⅰ石器文化」については次節で詳しく触れることとする。

第2節 吹野原Ⅰ石器文化の位置付けと問題点

1 吹野原Ⅰ石器文化の層位的位置付け

Vb層に位置付けられる日向林Ⅰ石器文化(谷2000)や貫ノ木Ⅰ石器文化では、Va層の遺物数よりVb層の遺物数が多くなる。また、Vc層やVI層に至ると遺物数が激減する。吹野原Ⅰ石器文化ではVb層よりVa層から多く遺物が検出され、Vb層にもそこそこの遺物数があることから、Va層の下半部からVb層上面付近に生活面が求められる。

2 吹野原Ⅰ石器文化のナイフ形石器

吹野原Ⅰ石器文化のナイフ形石器は石刃を素材として2側縁に加工が施される「茂呂型ナイフ形石器」として評価できる。石器主軸と素材剥離軸はほぼ同一方向で、斜めに折断されているというよりは、素材の剥離軸に沿ってブランディングが施されているといえよう。このナイフ形石器の特徴は裏ノ山Ⅱ石器文化(谷2000)の大形のナイフ形石器とよく似ている。

3 吹野原Ⅰ石器文化の台形石器

吹野原Ⅰ石器文化の台形石器は貝殻状剥片もしくは縦長剥片を横に用いている。側縁には折れ面や打面等から平坦な剥離と、ブランディング状の急角度の剥離が施されている。その結果、側縁は比較的切り立つ状態となる。

Vb層の石器文化である日向林Ⅰ石器文化と比較すると、素材の使い方が多様な分、平面形の斉性が低

く、側縁は切り立っているものが多い。この特徴は裏ノ山Ⅱ石器文化にも見られ、日向林Ⅰ石器文化との時期差として考えられようか。

4 吹野原Ⅰ石器文化の斧形石器

本石器文化の1点の斧形石器は緑色凝灰岩製で、剥離および研磨による調整は細かく丁寧に施されている。そのため、野尻湖遺跡群に一般的に見られる蛇紋岩製の斧形石器とはやや異なる雰囲気を持っているといえよう。

野尻湖遺跡群のほとんどの斧形石器は、日向林Ⅰ石器文化とほぼ同時期の武蔵野台地立川ローム層Ⅹ～Ⅸ層下部段階に位置付けられると思われる。しかしながら、吹野原Ⅰ石器文化は前記したナイフ形石器や台形石器の特徴から、日向林Ⅰ石器文化より新しい石器文化として考えられる。関東地方の刃部に研磨が施される斧形石器は、旧石器時代終末の「神子柴型石斧」に類するものを除けば、武蔵野台地立川ローム層Ⅸ層より新しく位置付けられるものはないと思われる。全国的にも同様で、刃部に研磨が施される斧形石器のほとんどが、武蔵野台地立川ローム層Ⅹ層・Ⅸ層下部段階に位置付けられていると認識している。

しかし、野尻湖遺跡群には武蔵野台地立川ローム層Ⅸ層段階より、新しい可能性が指摘できる資料が数例あげられる。杉久保型ナイフ形石器と斧形石器がいっしょに存在する例が、杉久保A遺跡（林他1970）と東裏遺跡特別養護老人ホーム地点（渡辺1994）で確認されている。また、本石器文化とほぼ同一層準に位置付けられる東裏HⅡ石器文化（谷2000）にも斧形石器が組成している。

本石器文化とナイフ形石器、台形石器との共通性が高い裏ノ山Ⅱ石器文化に斧形石器は組成していない。しかし、隣接する裏ノ山Ⅰ石器文化（谷2000）に組成している。裏ノ山Ⅰ石器文化は裏ノ山Ⅱ石器文化の遺物分布域の土層よりも若干厚い堆積があり、Ⅴ層出土石器が中心となっているため、裏ノ山Ⅱ石器文化より古い石器文化としての位置付けをおこなっている。しかし、今回検出された吹野原Ⅰ石器文化に斧形石器が組成することから、裏ノ山遺跡から検出された2つの石器文化は同時期の可能性が考えられるようになったのではないだろうか。

このように野尻湖遺跡群には武蔵野台地立川ロームⅨ層段階より新しいと思われる石器群に斧形石器が伴う例が見られる。武蔵野台地Ⅹ・Ⅸ層下部段階の野尻湖遺跡群には、他地域を圧倒する数の斧形石器が検出されていることから、その後の段階に斧形石器が残っていても不自然ではないと思われる。

5 吹野原Ⅰ石器文化の問題点

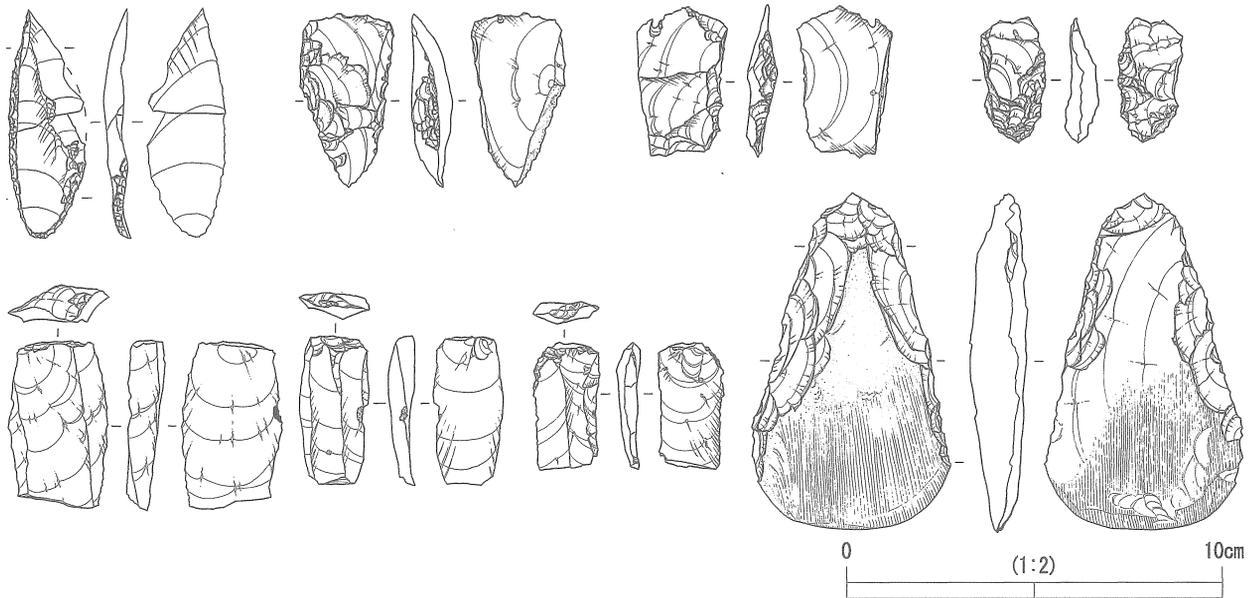
これまで記述してきたことをまとめると、吹野原Ⅰ石器文化は時間的にATより下位であるが、日向林Ⅰ石器文化に代表されるⅤb層の石器群よりは新しいと位置付けることができる。

空間的には茂呂型ナイフ形石器の存在や石材が黒曜石を主体としていることから、大局的にはあるが、中部高地から関東、東海地方に見られる石器群として評価できよう。

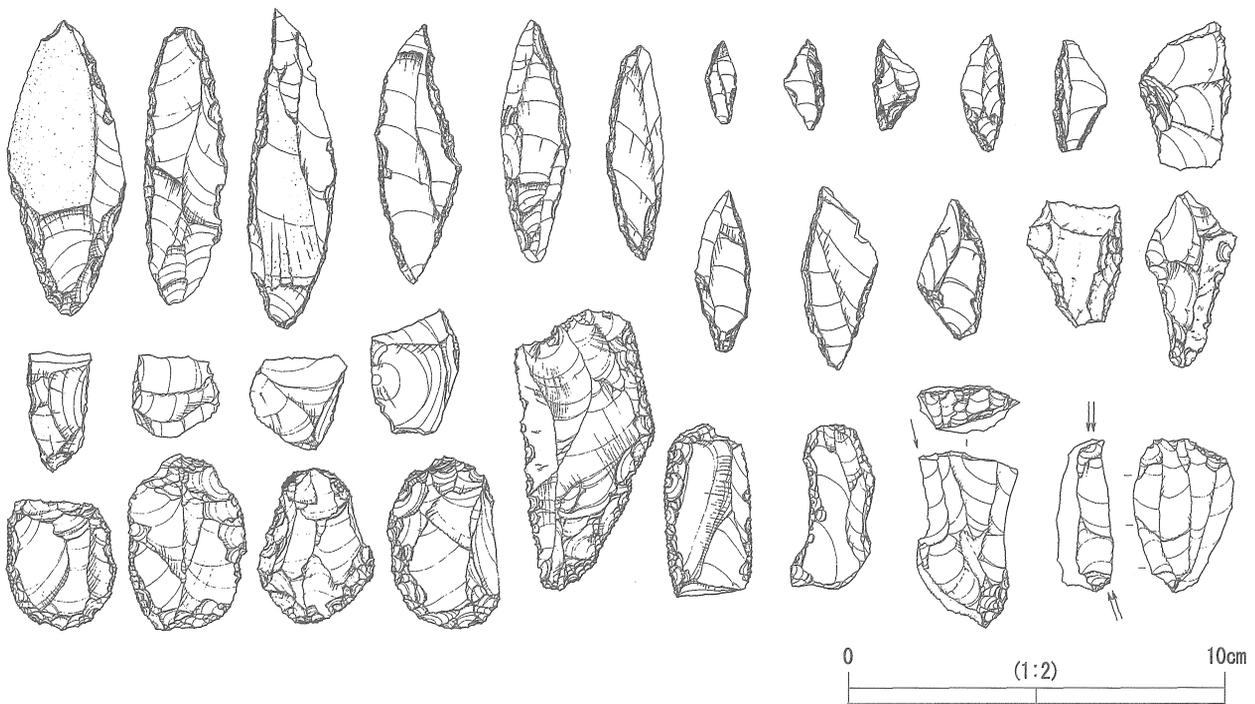
吹野原Ⅰ石器文化の生活面は野尻湖遺跡群のⅤa層からⅤb層上面が想定されるが、武蔵野台地立川ローム層に対比すると、Ⅸ層上部からⅥ層の下部の幅を持つ。南関東ではこの間に、Ⅸ層段階（諏訪間段階Ⅱ・諏訪間1988）、Ⅶ層段階（諏訪間段階Ⅲ）、Ⅵ層段階（諏訪間段階Ⅳ）と石器群が変遷している。南関東とは地域が異なるため、野尻湖遺跡群でも同じように変遷しているとは思えないが、吹野原Ⅰ石器文化がほぼ1時期の様相を示しているのも事実であり、時間的に南関東のどの段階と並行しているのか知りたいところである。

新しい段階に対比すれば、南関東にはない斧形石器や台形石器が存在することとなり、古い段階に対比すると茂呂型ナイフ形石器および石刃の初現の問題が浮かびあがる。

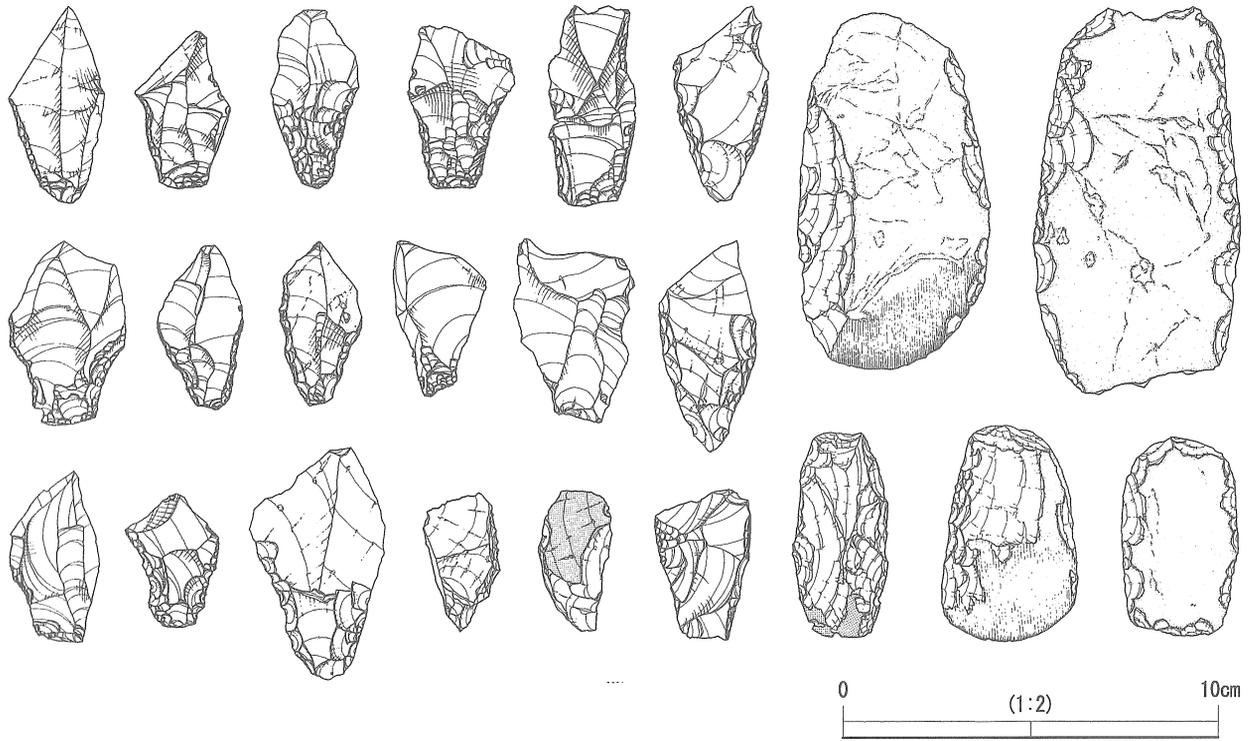
現在、野尻湖遺跡群では国道18号線のバイパス建設に伴う大規模な緊急発掘調査および報告書作成に向けての整理作業が続けられている。これらの中には吹野原 I 石器文化と同時期に該当すると思われる石器群が複数存在している。これらの調査や分析が進めば、新たな展開が期待できよう。そのため、より詳細な見解は次の機会にまわすこととしたい。



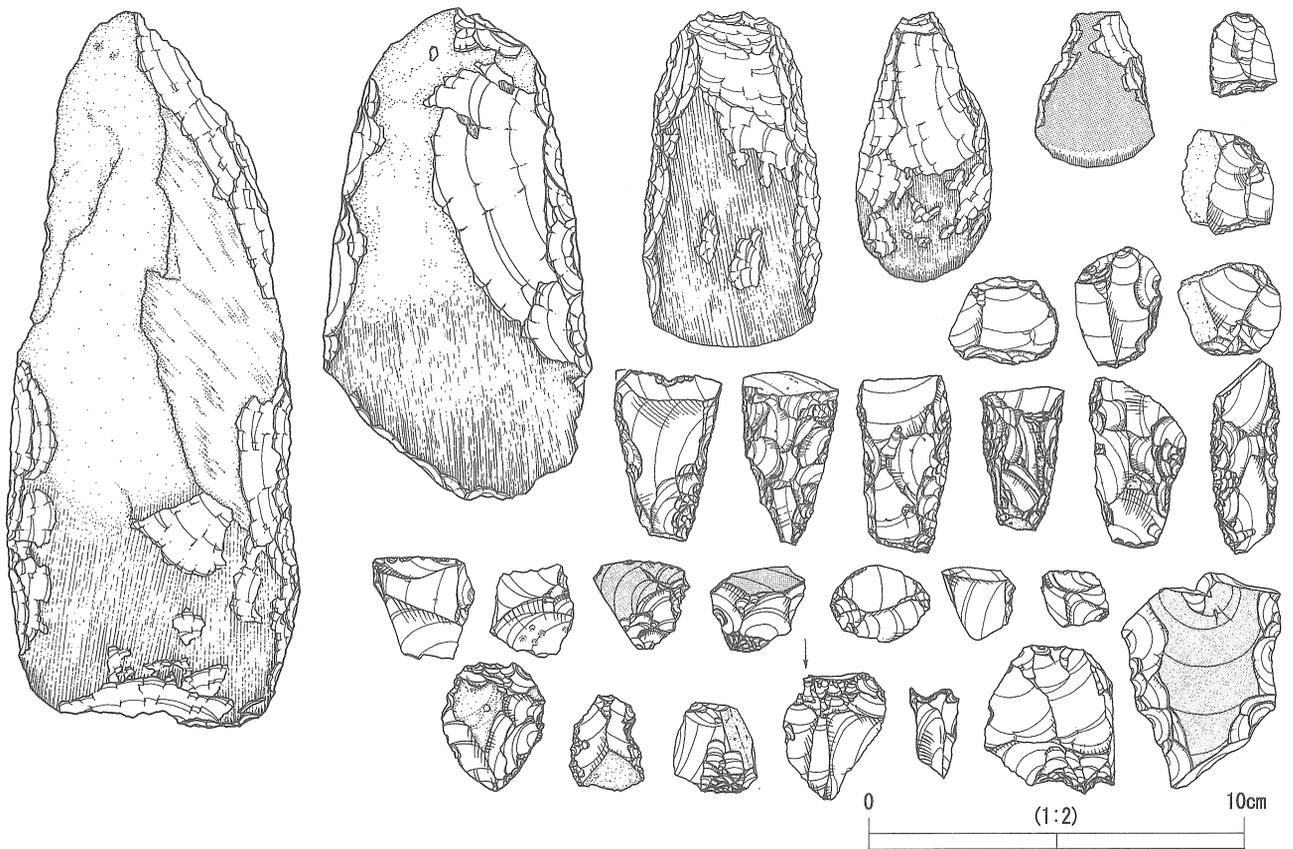
第52図 吹野原 I 石器文化の石器



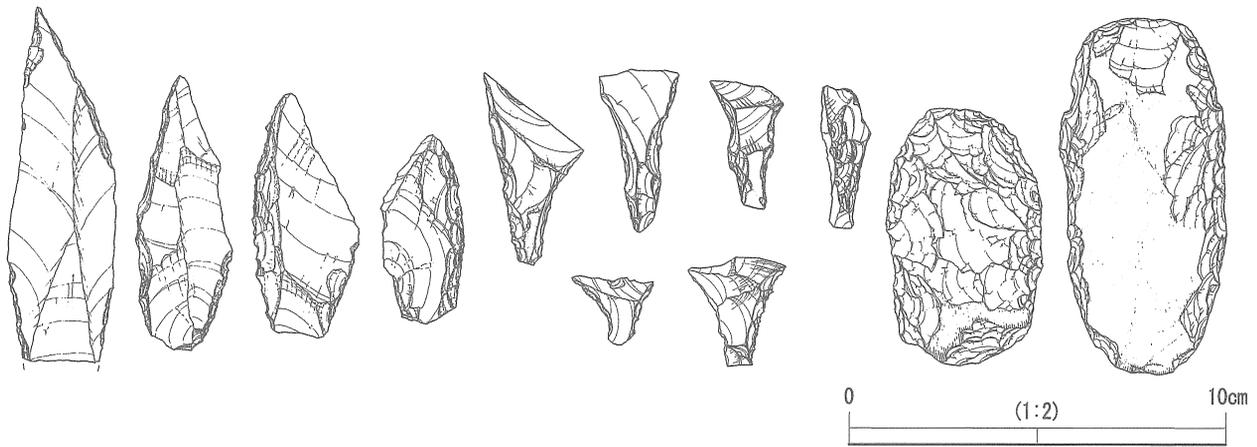
第53図 裏ノ山 II 石器文化の石器 (谷 2000)



第54図 貫ノ木 I 石器文化（第3地点）の石器（大竹 2000）



第55図 日向林 I 石器文化の石器（谷 2000）



第56図 東裏H1 II石器文化の石器 (谷2000)

引用、参考文献

- 赤羽貞幸 1996 「野尻湖の生い立ちとその変遷」『アーバンクボタ』35
 安藤政雄 1979 「2 石器の形態と機能」『日本考古学を学ぶ』(2) 有斐閣選書
 内田陽一郎・渡辺哲也 2001 「信濃町吹野原A遺跡の12年度調査」第13回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨
 大竹憲昭 1989 「長野県の石斧」『旧石器時代の石斧(斧形石器)をめぐって』北陸旧石器文化研究会
 大竹憲昭 2000 「第5章 成果と課題」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 貫ノ木遺跡・西岡A遺跡 旧石器時代編』
 織笠 昭・野尻湖発掘調査団 1986 「長野県野尻湖遺跡群の編年と地域的様相」『日本考古学協会第52回総会研究発表要旨』
 酒井潤一 1996 「野尻湖と最終氷期の研究」『アーバンクボタ』35
 佐藤宏之 1988 「台形様石器研究序説」『考古学雑誌』第73巻第3号
 佐藤宏之 1992 『日本旧石器文化の構造と進化』柏書房
 須藤隆司 1986 「群馬県蕨塚遺跡の石器文化—ナイフ形石器の型式学的考察—」明治大学考古学博物館館報No. 2
 砂田佳弘 1983 「石斧について」『神奈川考古』第15号
 諏訪間順 1988 「相模の台地における石器群の変遷について」『神奈川考古』24
 芹沢長介、麻生優 1953 「北信、野尻湖底発見の無土器文化」『考古学雑誌』39-2
 谷 和隆 1995 「野尻湖遺跡群における先土器時代の石器石材」『長野県埋蔵文化財センター紀要』4
 谷 和隆 1995 「野尻湖遺跡群と石斧」『考古学ジャーナル』No. 385
 谷 和隆 2000 「第7章 成果と課題」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 日向林B遺跡・日向林A遺跡・七ツ栗遺跡・大平B遺跡 旧石器時代編』
 谷 和隆 2000 「第6章 成果と課題」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡 旧石器時代編』
 谷 和隆 2002 「信濃町吹野原A遺跡(県道地点)の調査」第14回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨
 戸沢充則 1968 「埼玉県砂川遺跡の石器文化」『考古学集刊』4-1
 長崎潤一 1990 「後期旧石器時代前半期の石斧—形態変化論を視点として—」『先史考古学研究』第3号
 中村由克 1995 「長野、新潟における石器石材について」『石器石材—北関東の原石とその流通を中心として—』第3回岩宿フォーラム予稿集
 中村由克 2000 「信濃町吹野原A遺跡の11年度調査」第12回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨
 橋本勝雄 1995 「関東東南部における後期旧石器時代前半期の石斧」『考古学ジャーナル』No. 385
 林茂樹、樋口昇一、森嶋稔、笹沢浩、小林孚、畑田充、北村直次 1970 「杉久保A遺跡緊急発掘調査報告」『長野県考古学会誌』第8号
 矢島國雄・鈴木次郎 1976 「相模野台地における先土器時代研究の現状」『神奈川考古』第1号
 渡辺哲也 1997 「信濃町吹野原A遺跡の調査」第9回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨
 地学団体研究会編 1996 『新版地学辞典』平凡社
 信濃町誌編纂委員会 1968 『信濃町誌』
 信濃町教育委員会 1995 『貫ノ木遺跡、日向林B遺跡(個人住宅地点)発掘調査報告書』
 日本道路公団・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 日向林B遺跡・日向林A遺跡・七ツ栗遺跡・大平B遺跡 旧石器時代編』
 日本道路公団・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 裏ノ山遺跡・東裏遺跡・大久保南遺跡・上ノ原遺跡 旧石器時代編』
 日本道路公団・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 貫ノ木遺跡・西岡A遺跡 旧石器時代編』
 日本道路公団・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16 信濃町内その2 星光山荘A遺跡・星光山荘B遺跡・西岡A遺跡・貫ノ木遺跡・上ノ原遺跡・大久保南遺跡・東裏遺跡・裏ノ山遺跡・針ノ木遺跡・大平B遺跡・日向林A遺跡・日向林B遺跡・七ツ栗遺跡・普光田遺跡 縄文～近世編』
 日本道路公団・長野県埋蔵文化財センター・長野県教育委員会 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16 信濃町内その2 信濃町データ編』
 野尻湖人類考古グループ 1987 『野尻湖遺跡群の旧石器文化I』野尻湖発掘の考古学的成果 第1集
 野尻湖人類考古グループ 1990 『野尻湖遺跡群の旧石器文化II』野尻湖発掘の考古学的成果 第2集
 野尻湖人類考古グループ 1994 「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告』第2号
 北陸旧石器文化研究会 1989 『旧石器時代の石斧(斧形石器)をめぐって』

第6章 結語

吹野原A遺跡は平成13年に調査がおこなわれた。吹野原A遺跡の所在する長野県上水内郡信濃町は、旧石器時代～縄文時代草創期の遺跡が密集しており、野尻湖遺跡群と呼ばれている。

平成5年～7年に当センターがおこなった上信越自動車建設に伴う発掘調査では、貫ノ木、日向林B、東裏などの遺跡から約7万点の旧石器時代の石器が検出され多大なる成果が得られている。その中でも、始良丹沢火山灰(以下AT)降灰以前の石器群は充実しており、大量の斧形石器や台形石器のあり方は量的にも質的にも国内で最も充実した内容を持つといえよう。今回の調査ではそれに次ぐ時期の良好な石器群が検出されたことが大きな成果としてあげられる。

以下時期をおって主な成果をあげ、まとめとする。

旧石器時代 AT降灰以前～降灰直後

第7～第10号ブロックは、出土層位、器種石材組成等に共通性が認められ、空間的にも他の時期の遺物の混入の可能性がほとんどないまとまった石器群であることから、吹野原I石器文化と位置付けることができた。

吹野原I石器文化はVa層下半部～Vb層上面付近に生活面が想定できる層的分布状況である。ATを最も多く包含する地層はIV層下部～Va層となっている。日向林I石器文化等の斧形石器や台形石器を多量に組成する石器群の層位はVb層であることから、吹野原I石器文化は日向林I石器文化以降からAT降灰前後の間に時期的な位置付けが想定される。

吹野原I石器文化には完成された石刃製作技術が見られ、器種組成にナイフ形石器、台形石器、斧形石器が相伴している。斧形石器、台形石器はひとつ前の時期であるVb層に生活面がもとめられる石器群を象徴する器種であり、AT降灰以降に継続して組成する器種として考えられていなかったと思われる。吹野原I石器文化にこれらが存在することは、斧形石器、台形石器がどこまで新しい時期まで組成するのか、または、縄文時代まで継続して組成する器種としての可能性を考えさせる貴重な成果として評価できよう。

旧石器時代 AT降灰以降

当該期の石器として明確なものは存在しないが、3基の礫群は象徴的である。

本遺跡の礫群は火の影響と思われる赤化が見られる礫が少なく、また、割れずに完形品が多い特徴を持つ。火を受け割れている礫が多いのが一般的な礫群礫の特徴であることから、本礫群は一般的な礫群とはやや性格が異なる可能性が考えられる。さらに、これらの礫が1辺1mから1.5mの「コ」の字状に配置されていることも、なにか特殊な機能や活動の痕跡をうかがわせている。

縄文時代以降

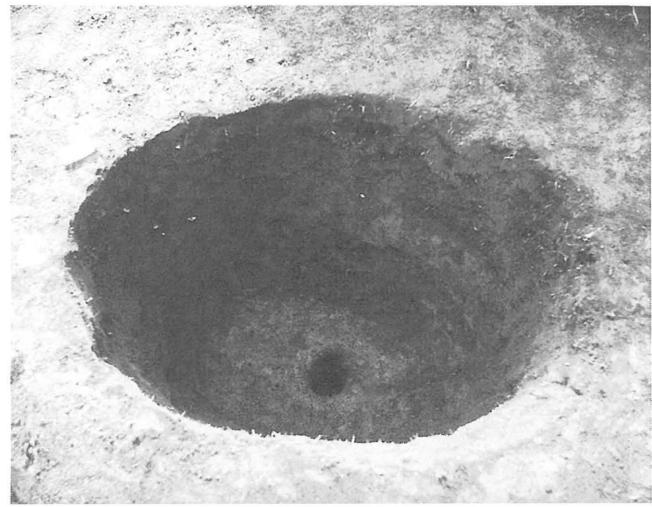
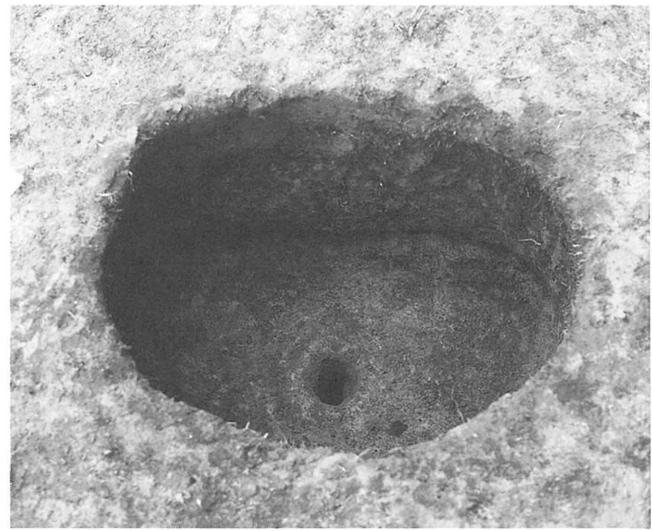
5基の陥し穴は長軸が1m強、短軸が80cm前後、深さ1m弱の規模を持ち、坑底部に1ヶ所のピットを有する特徴を持つ。しかし、出土遺物が皆無で時期的な位置付けができない。周辺遺跡の状況から縄文時代早期～前期に属する可能性が高いと思われる。

以上のような成果が得られたが、今回の報告は吹野原A遺跡の既調査部分の一部にすぎない。また、信濃町内では、国道18号バイパス等の開発事業による調査は続いており、今後の確実な資料増加が見えている。今後、それら成果を含めて、野尻湖遺跡群が世界を代表する遺跡群として評価されていくことを期待する。

写真図版



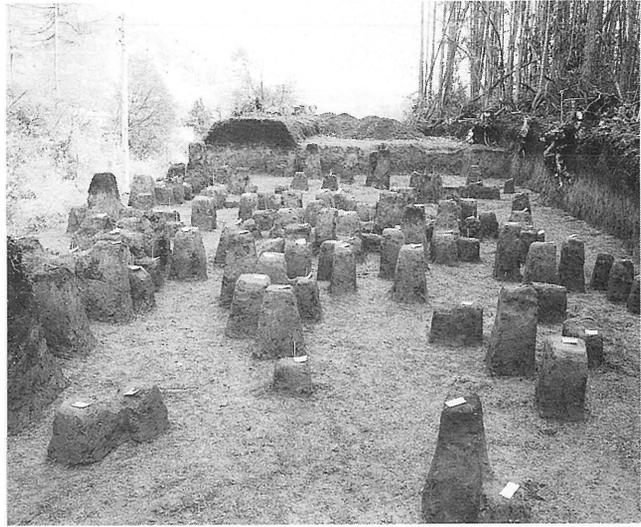
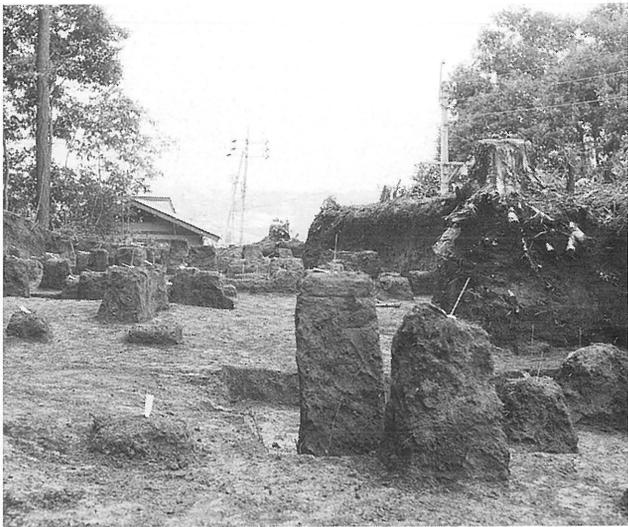
遺跡遠景
(西より)



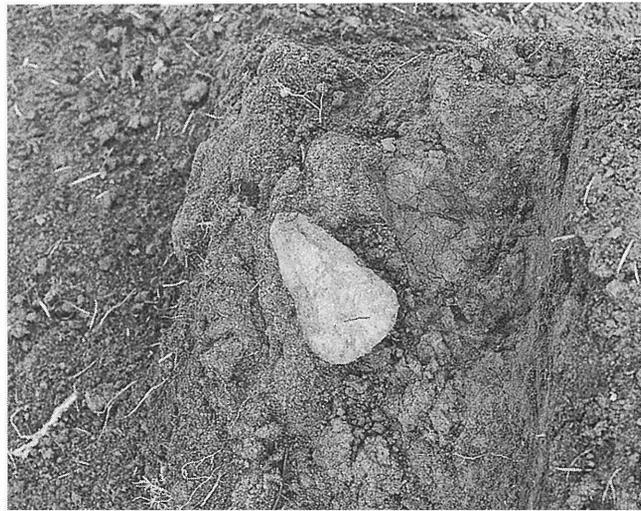
左：SD1・2(北より)
右上：SK5(南より)
右下：SK4(南より)



南西区 (BL7~10)
Ⅲ~Ⅴb層遺物分布状況 (東より)



左：南西区 (BL7~10)
Ⅲ~Ⅴa層遺物分布状況 (東より)
右：南西区 (BL7~10)
Ⅲ~Ⅴb層遺物分布状況 (西より)



左：斧形石器
(報告番号77)
出土状況 (西より)
右：斧形石器
(報告番号77)
インプリント
(西より)



左：斧形石器出土状況(報告番号78)
(北より)
右：同インプリント
(北より)



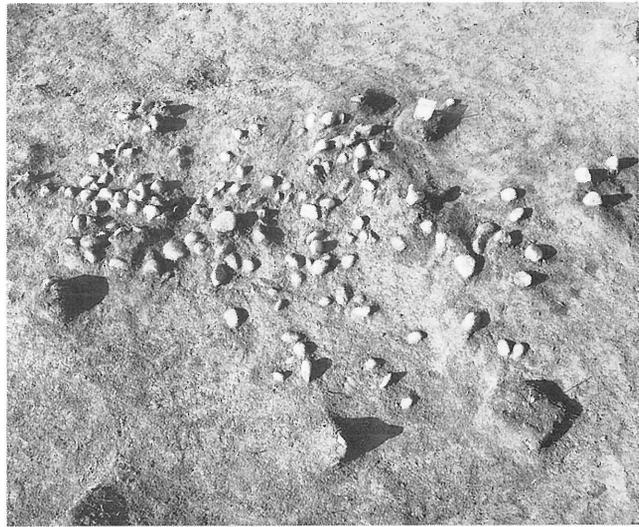
左：南東区(BL11)
Ⅲ～Ⅴb層遺物
分布状況(西より)
右：北区掘り下げ作
業風景(西より)



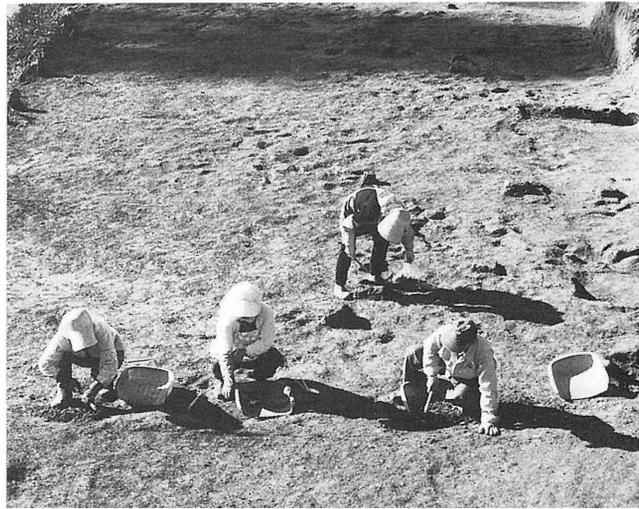
北区Ⅲ～Ⅳ層
遺物分布状況
礫群・陥し穴配列
(西より)



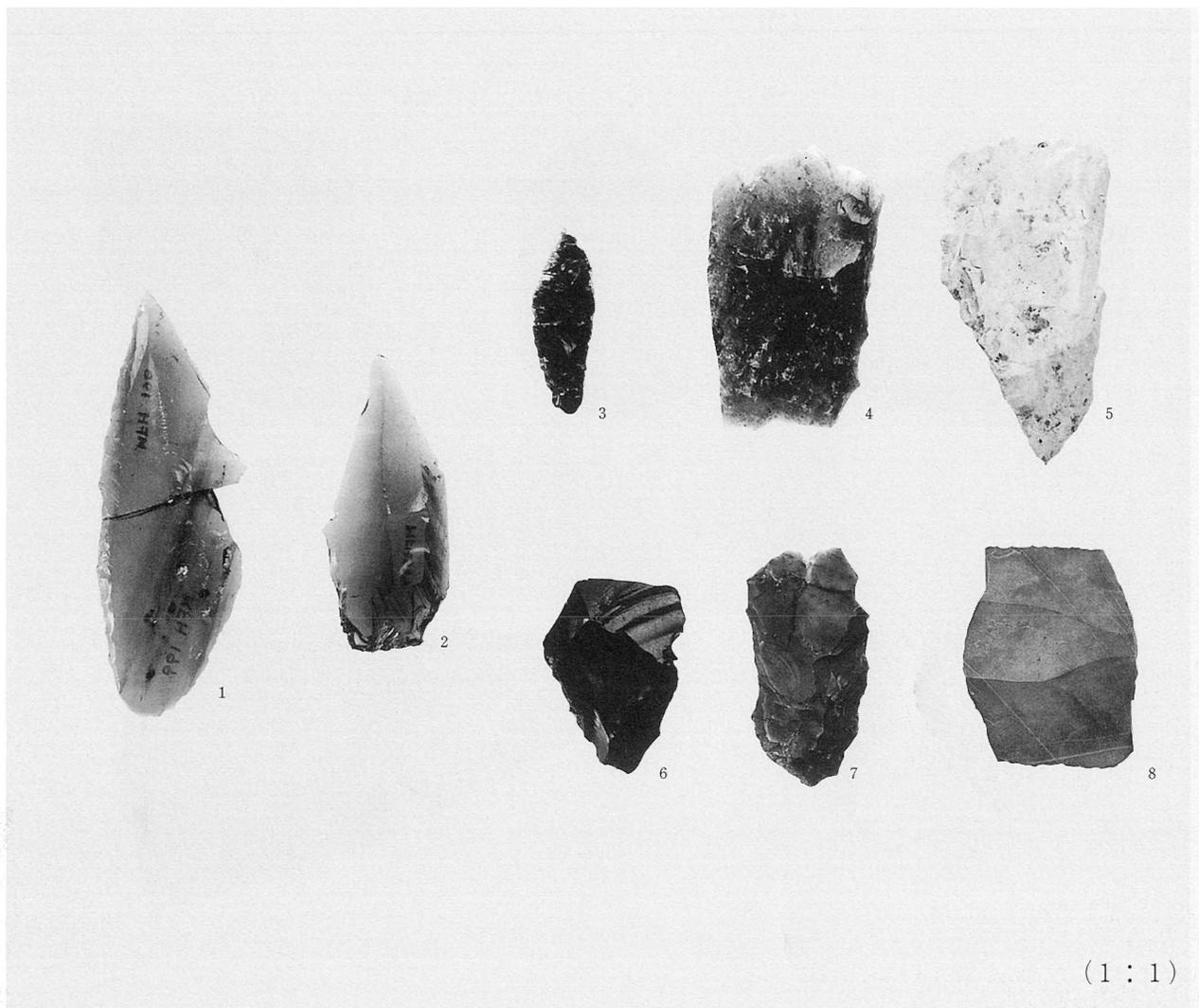
北区Ⅲ～Ⅴb層
遺物分布状況
陥し穴配列
(西より)



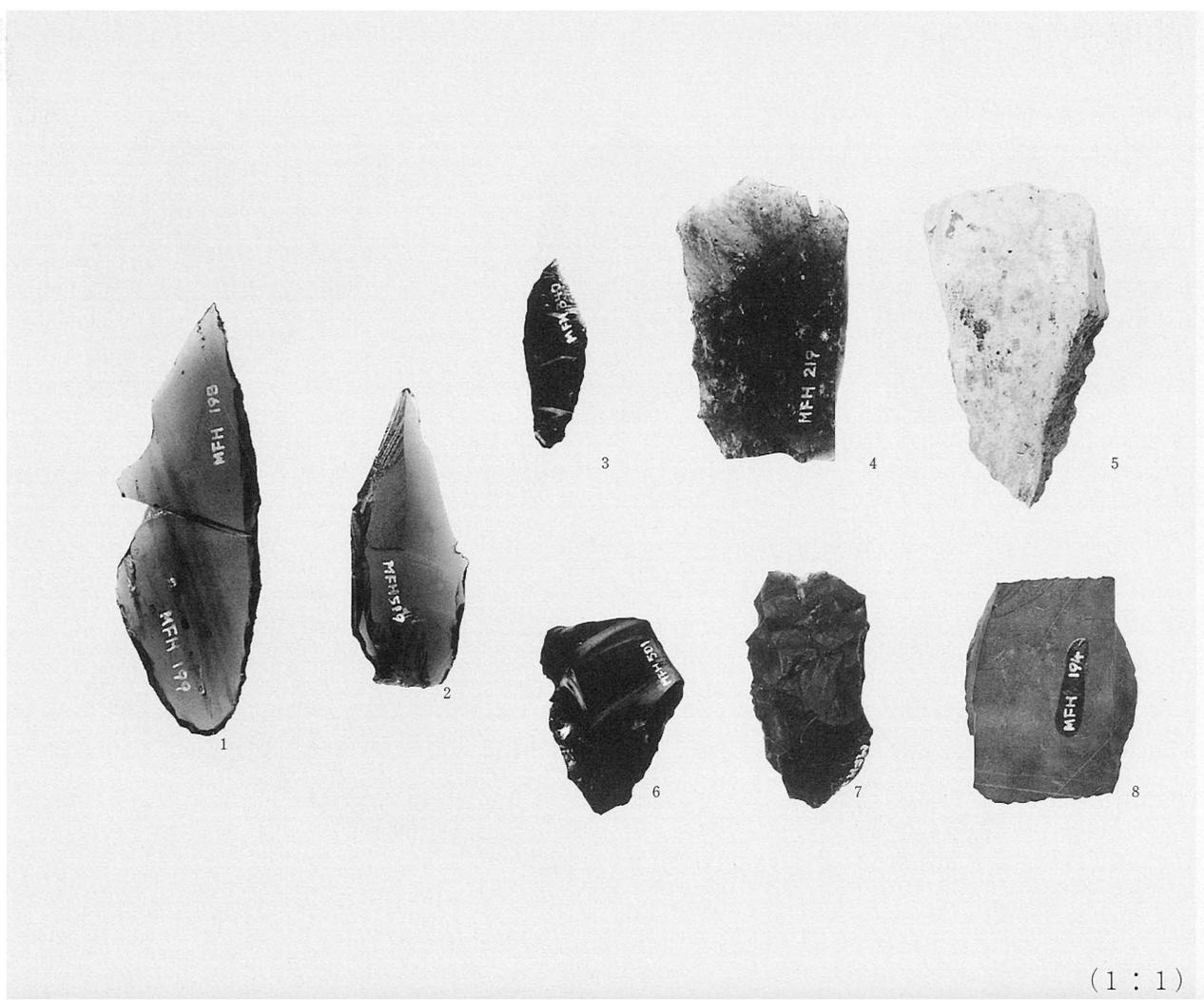
左：SH1礫分布状況
(北より)
(上半部のみ)
右：SH2礫分布状況
(南より)



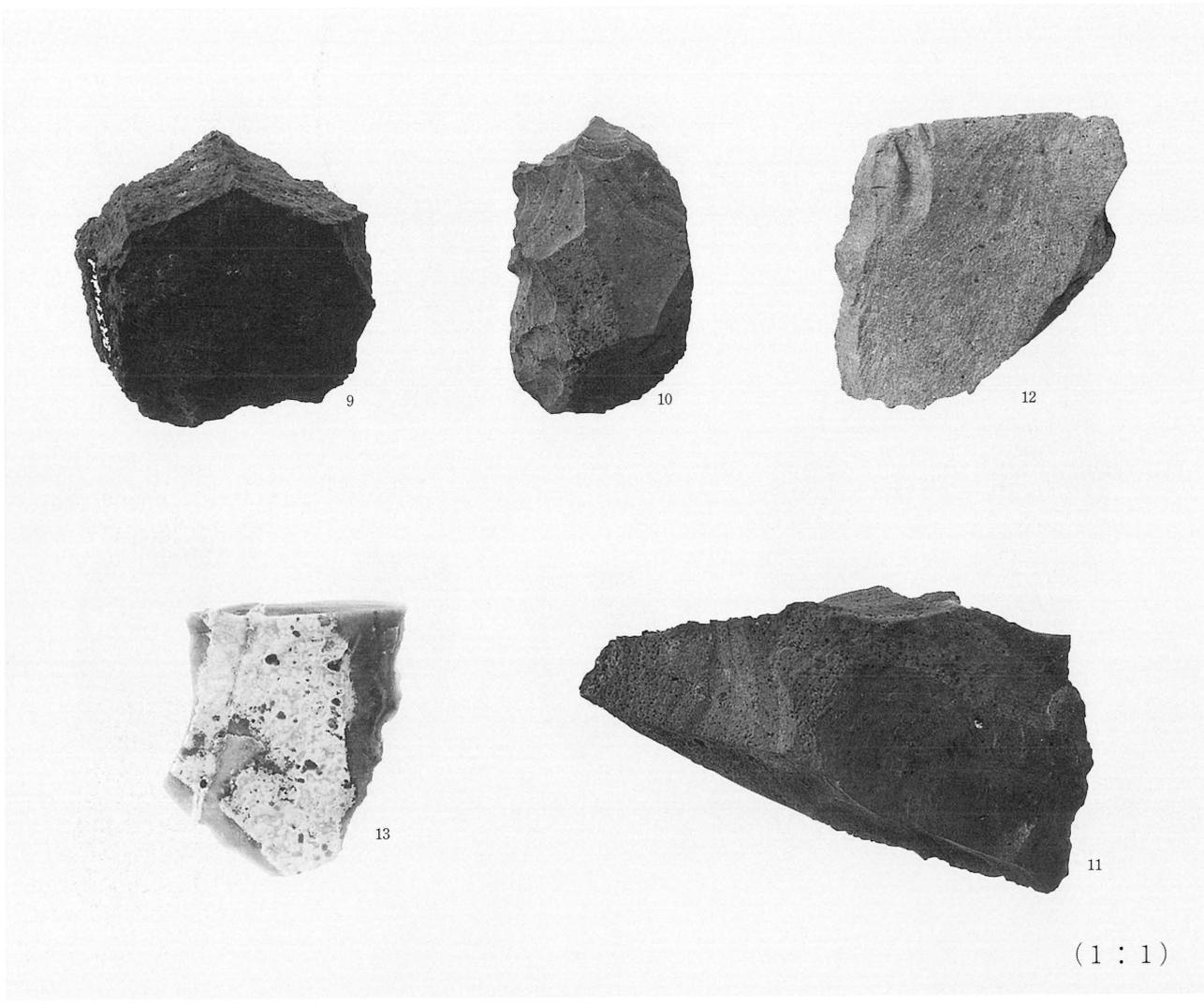
左：SH3礫分布状況
(北西より)
右：北区Ⅵ層面掘り
げ作業風景



ナイフ形石器
 台形石器
 折断剥片
 表

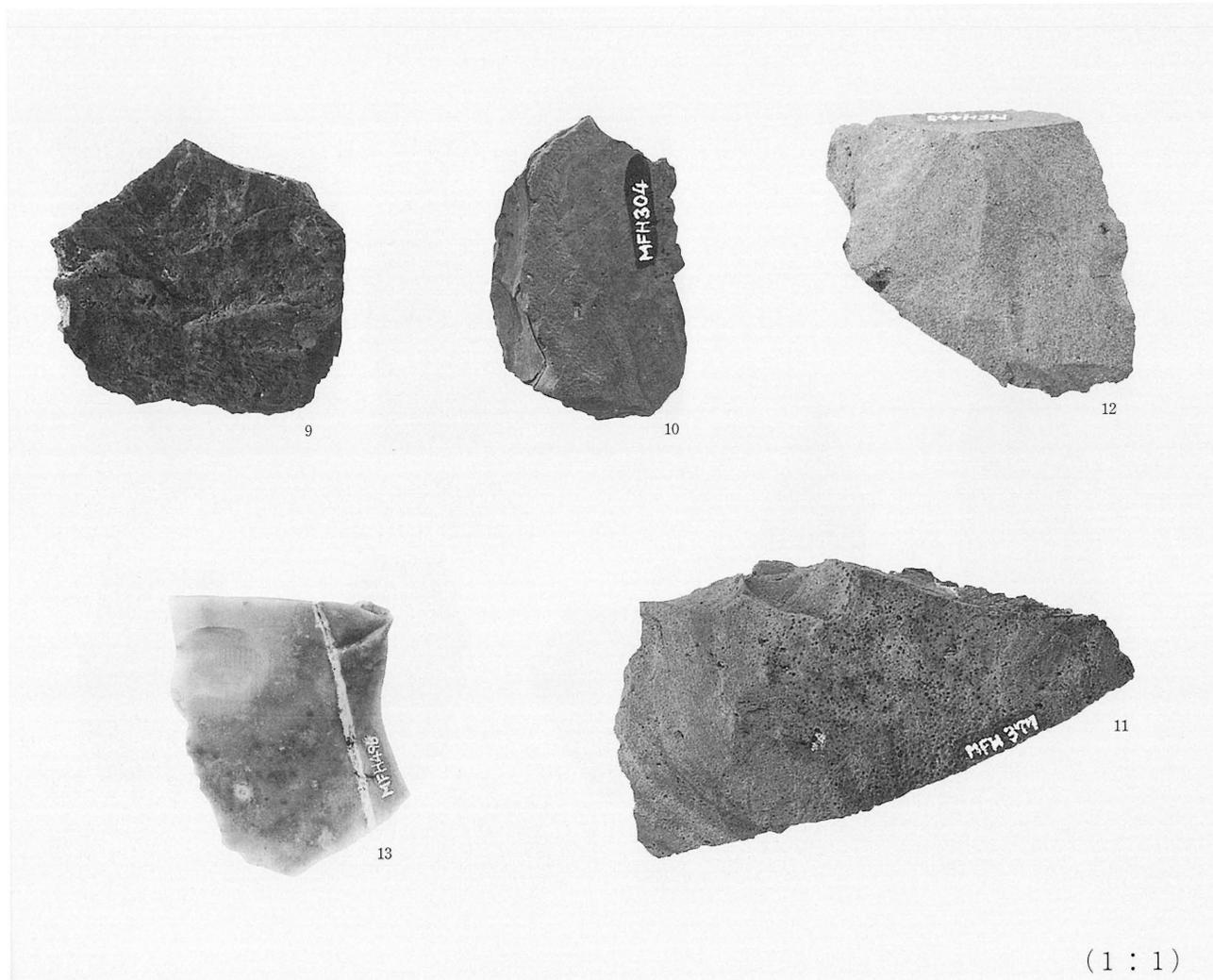


ナイフ形石器
 台形石器
 折断剥片
 裏



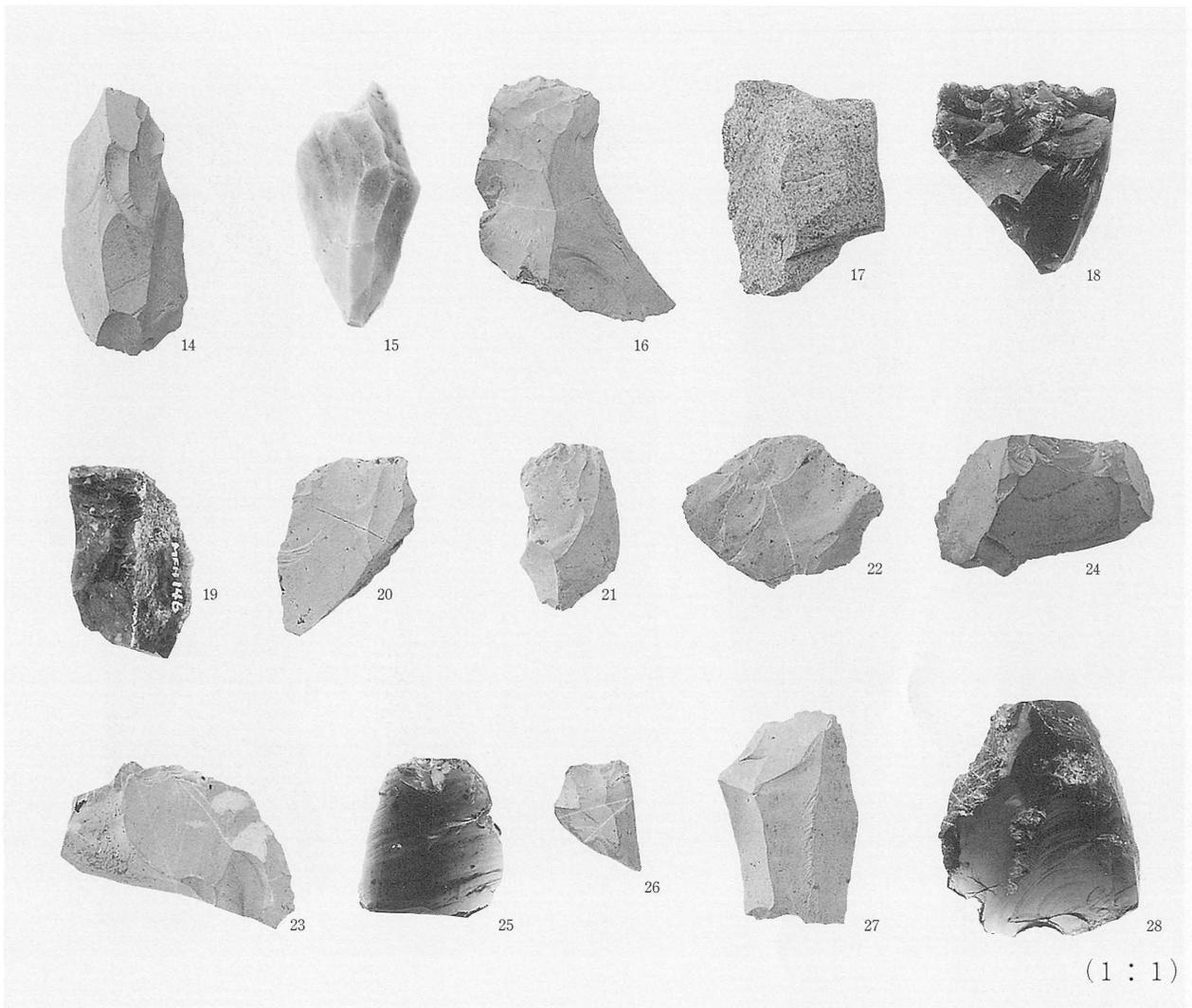
(1 : 1)

搔器・削器
表



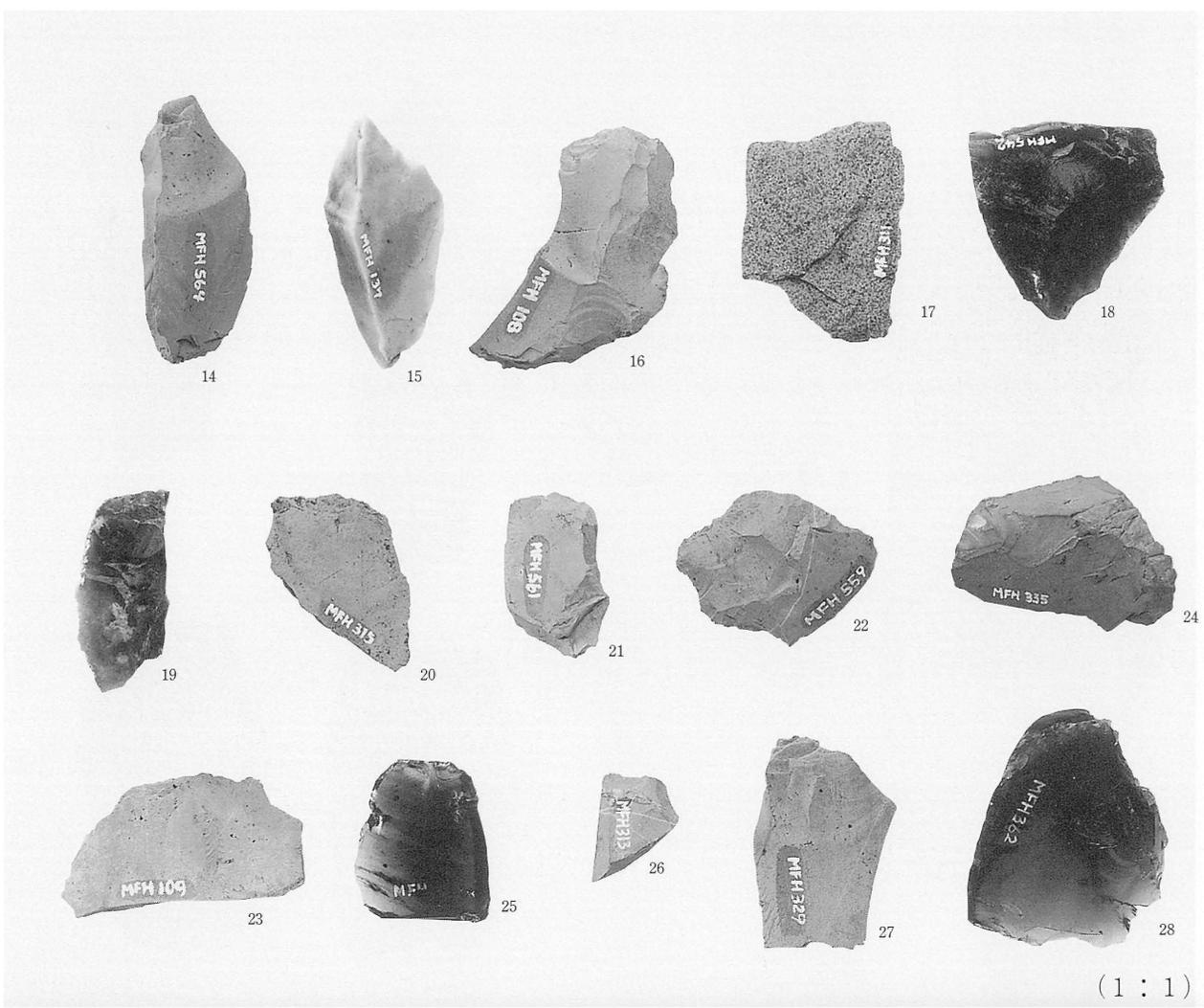
(1 : 1)

搔器・削器
表



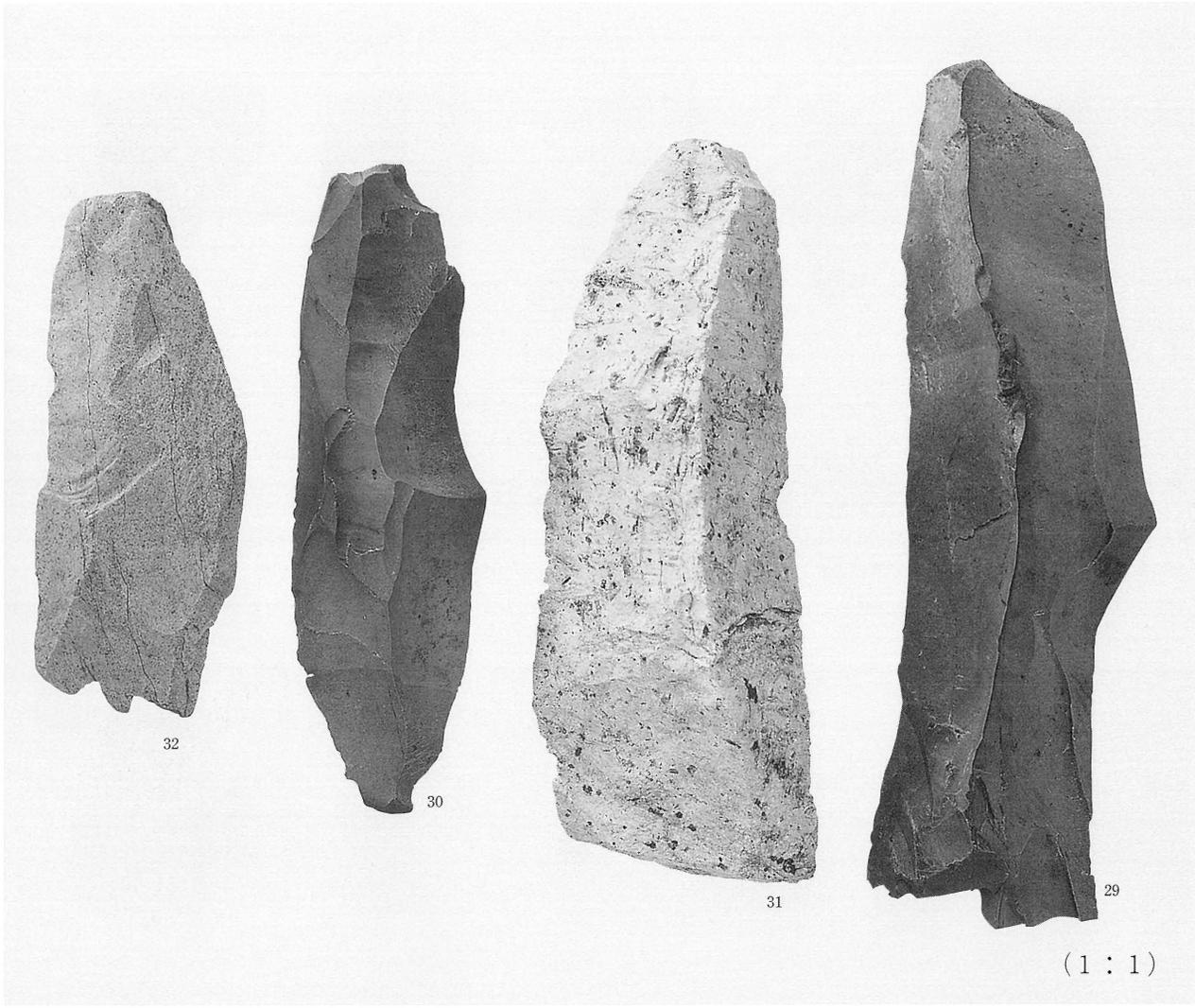
楔形石器
表

(1 : 1)



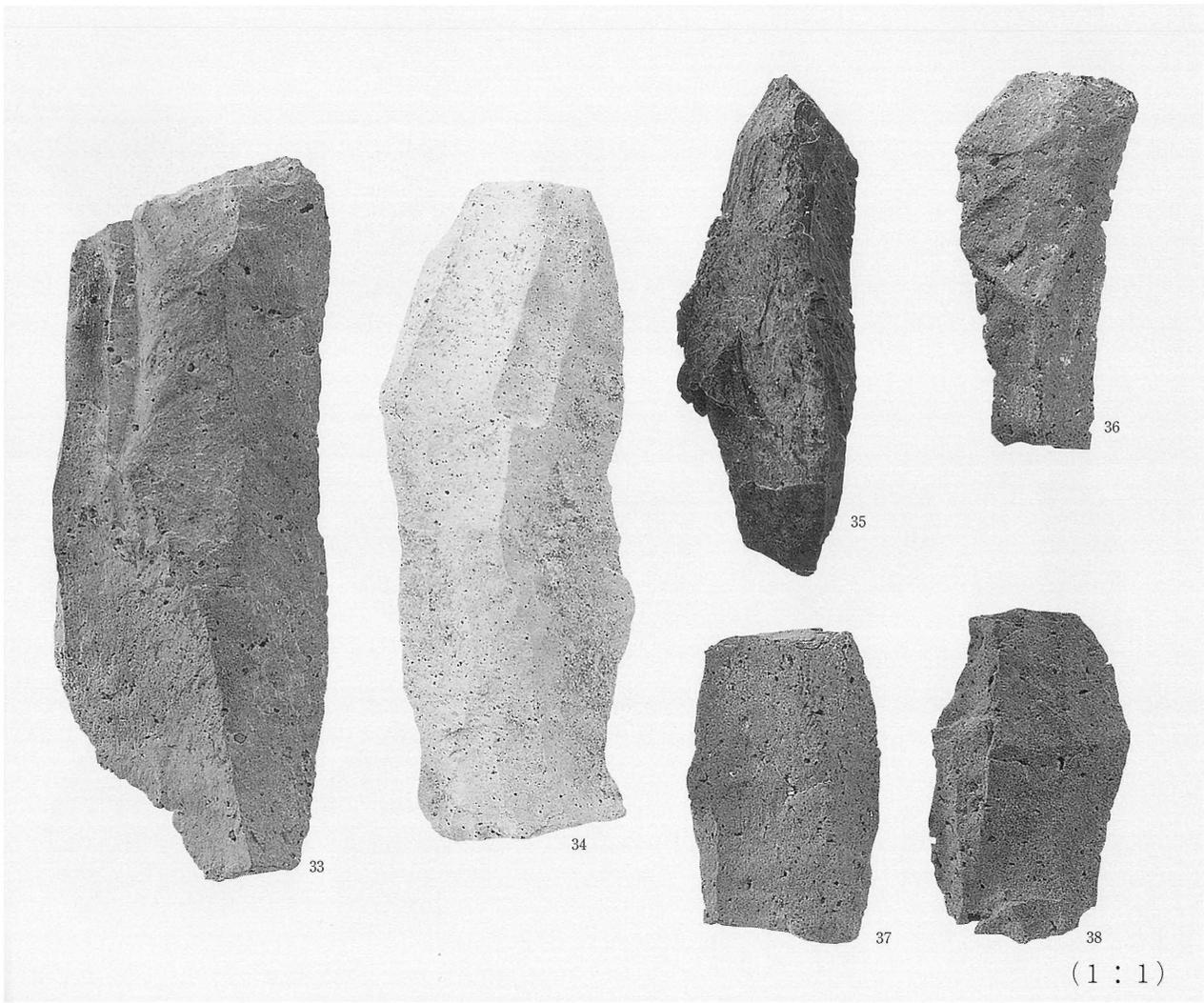
楔形石器
裏

(1 : 1)



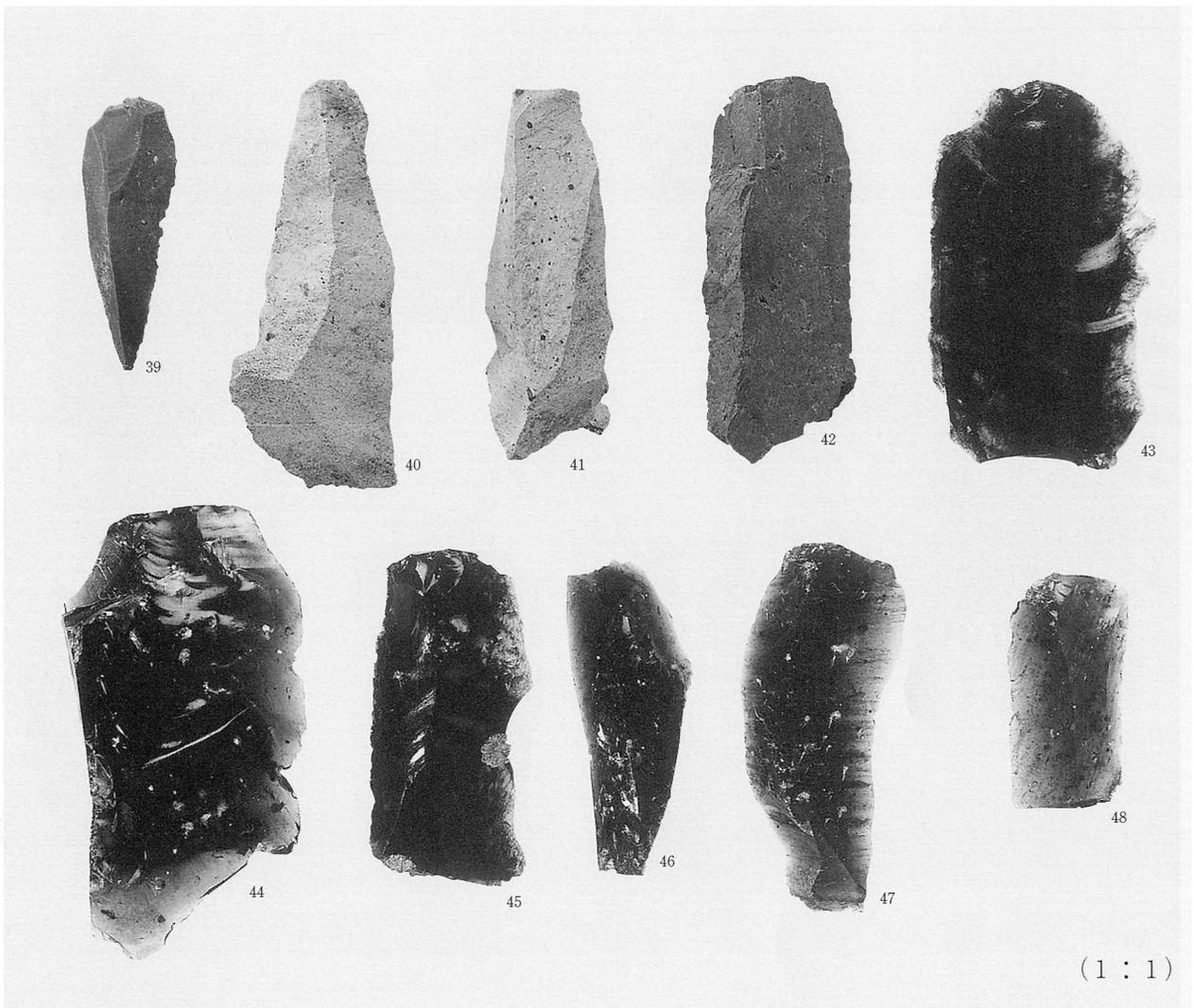
(1:1)

石刃1



(1:1)

石刃2



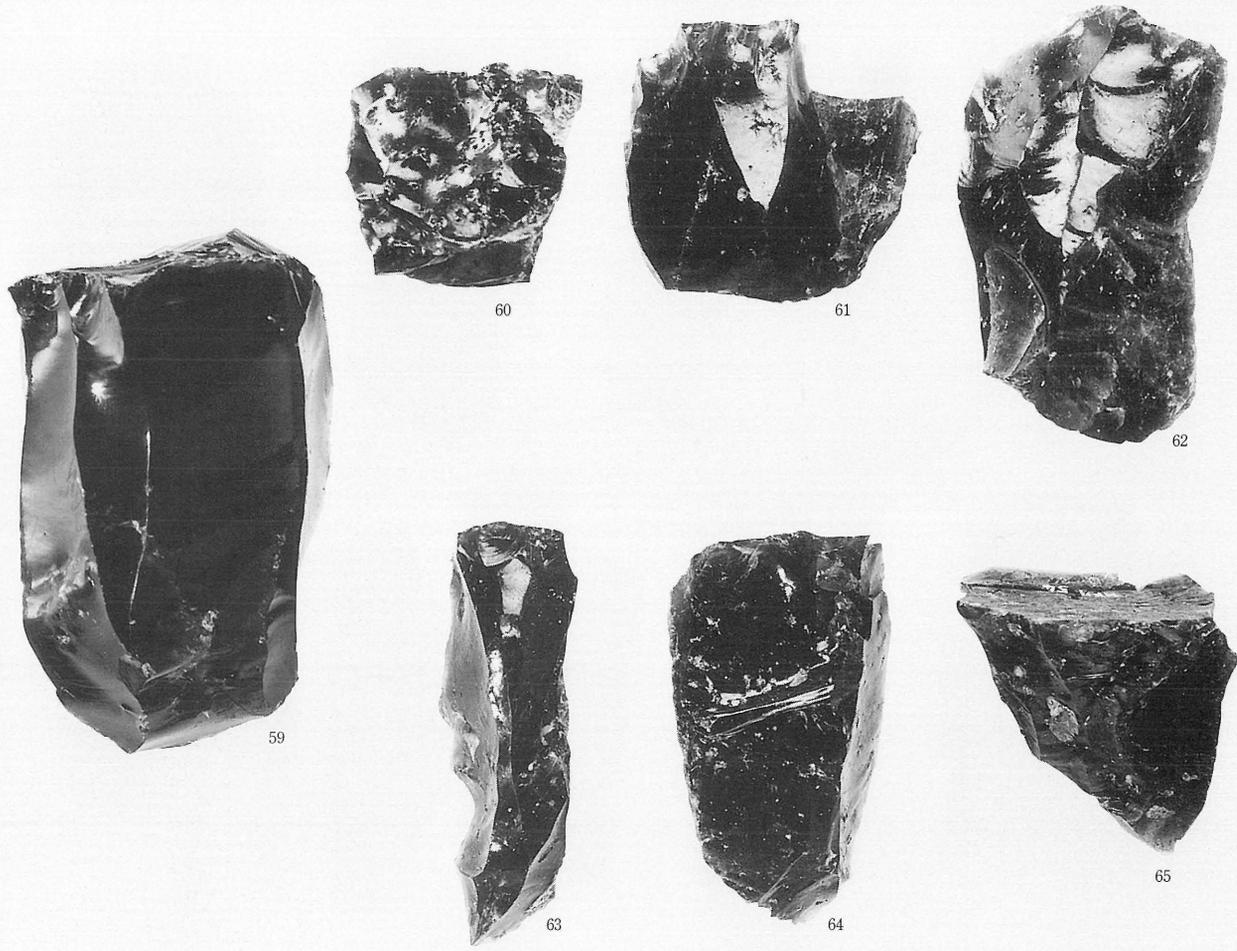
石刃3

(1 : 1)



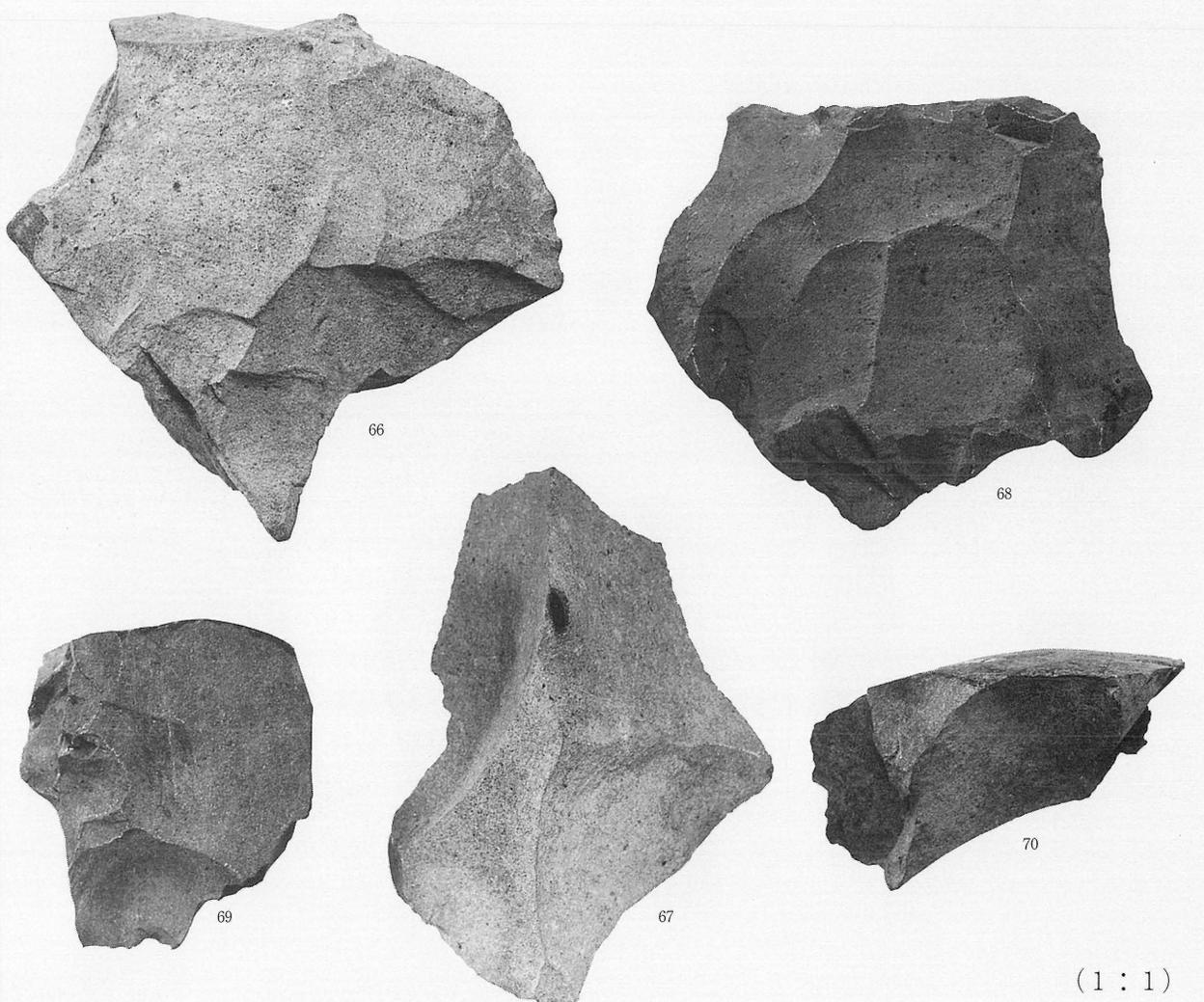
石刃4

(1 : 1)



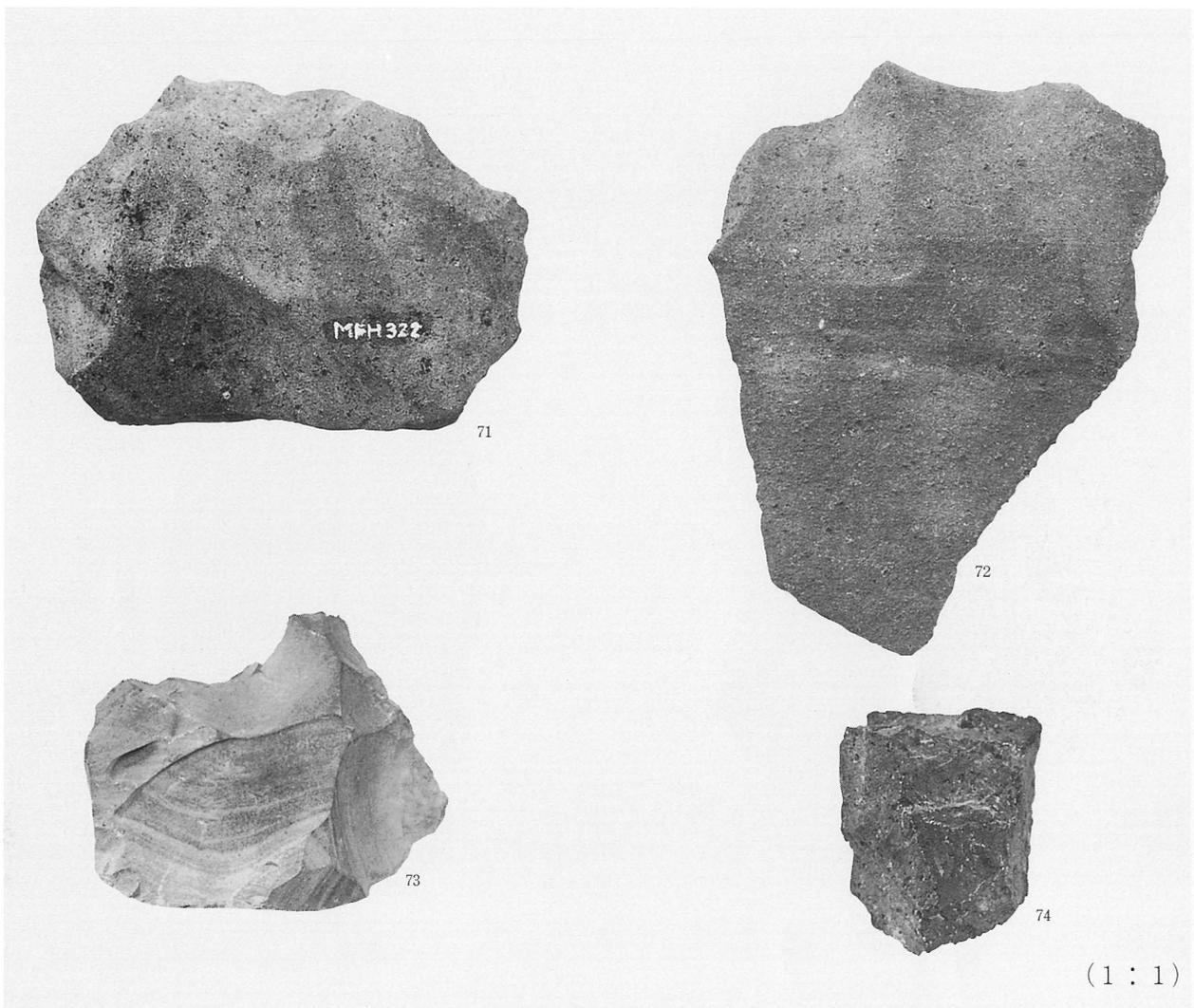
(1:1)

石核1

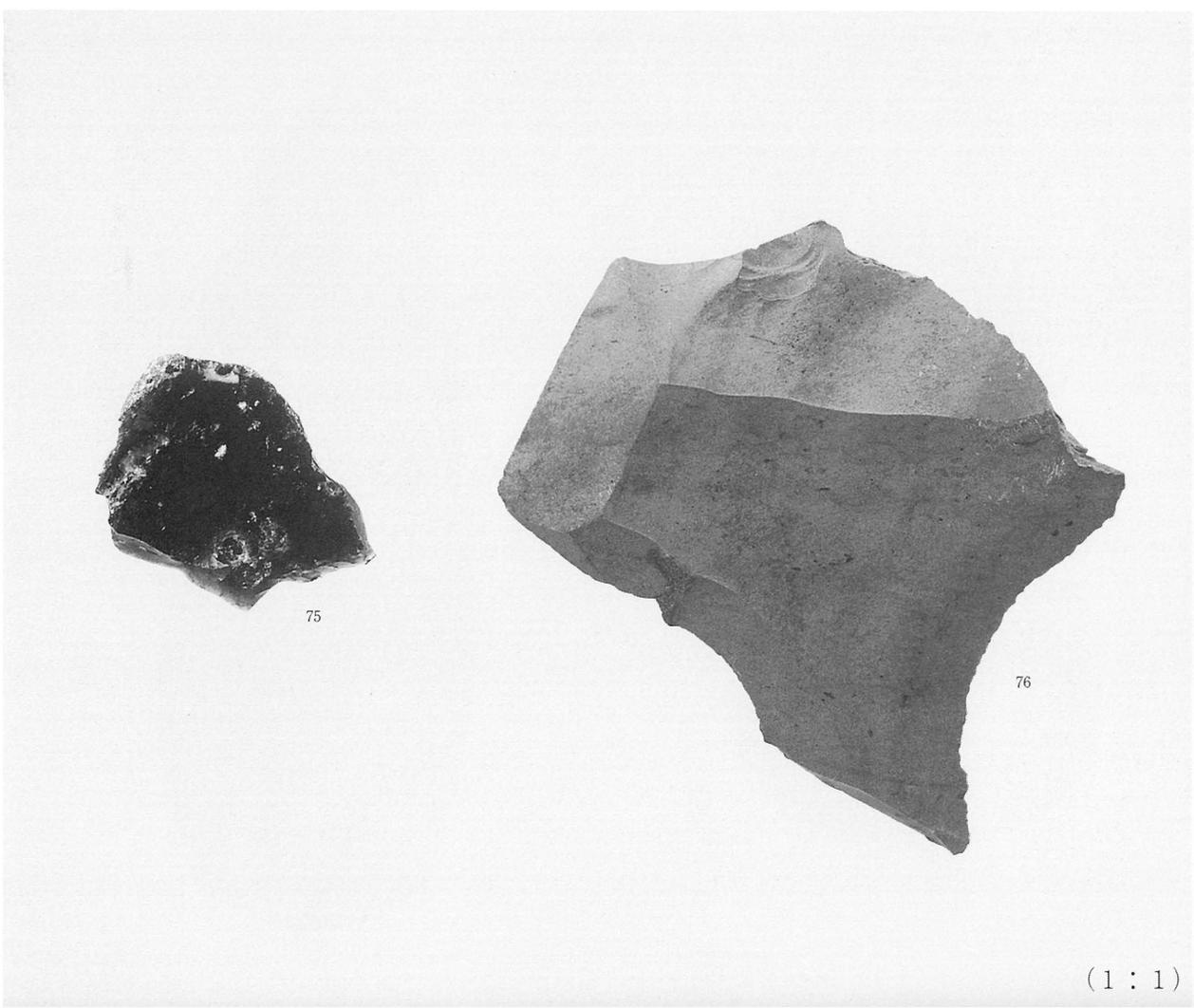


(1:1)

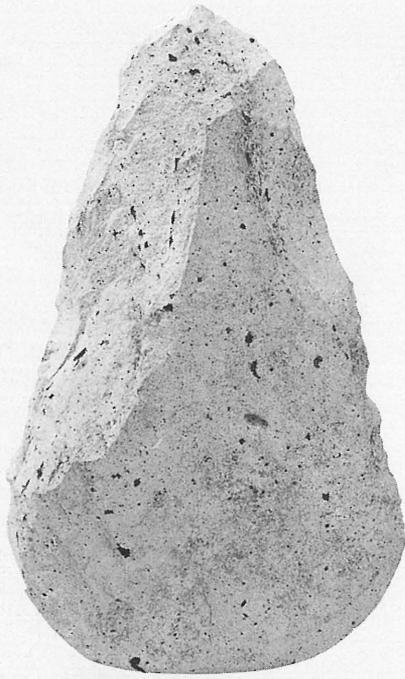
石核2



石核3



打面再生剥片



77



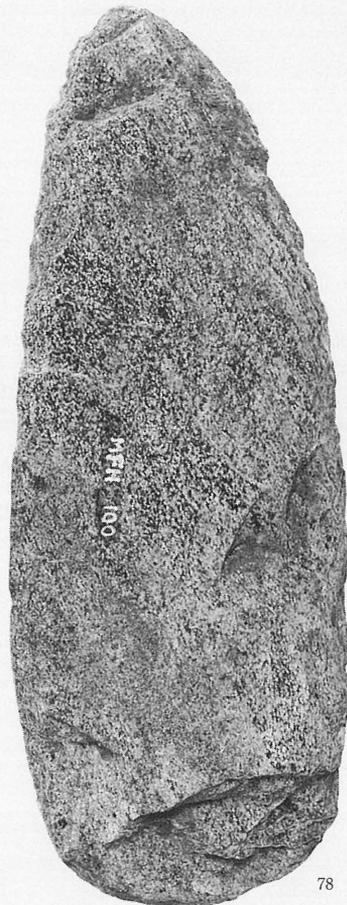
78

(1 : 1)

斧形石器
表



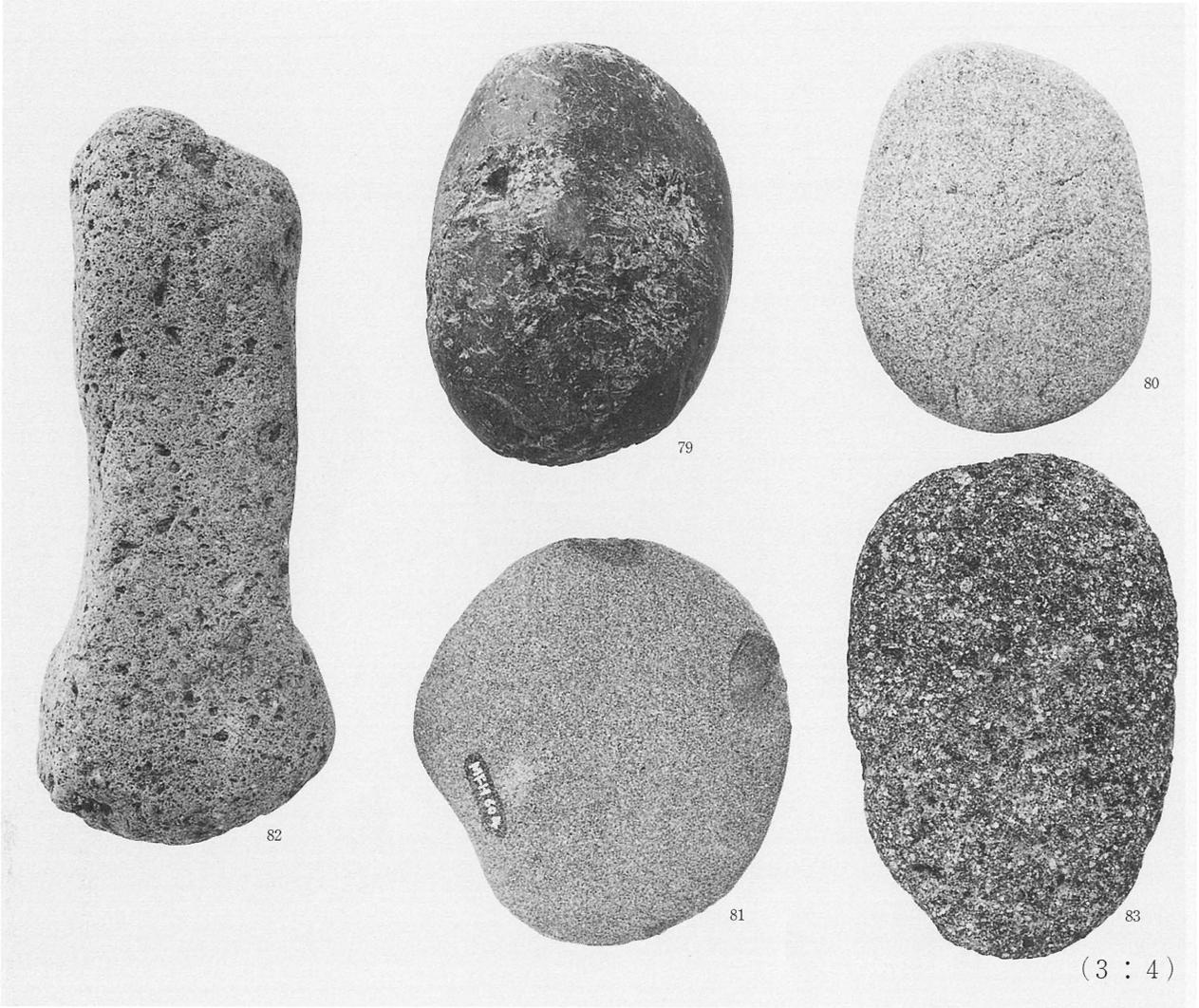
77



78

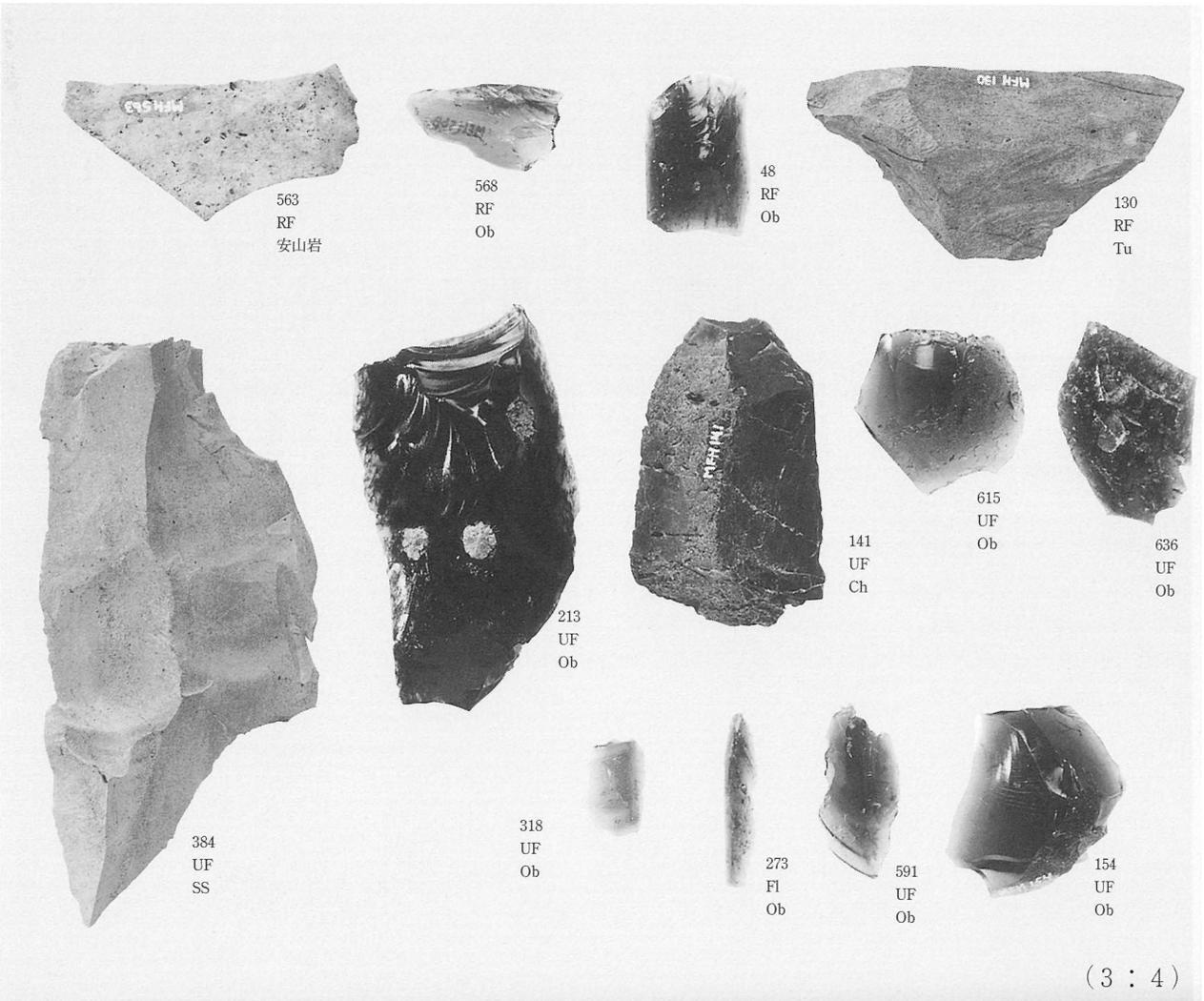
(1 : 1)

斧形石器
裏



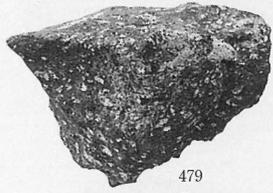
敲石
磨石

(3 : 4)



実測図のない石器

(3 : 4)



479
Co
安山岩



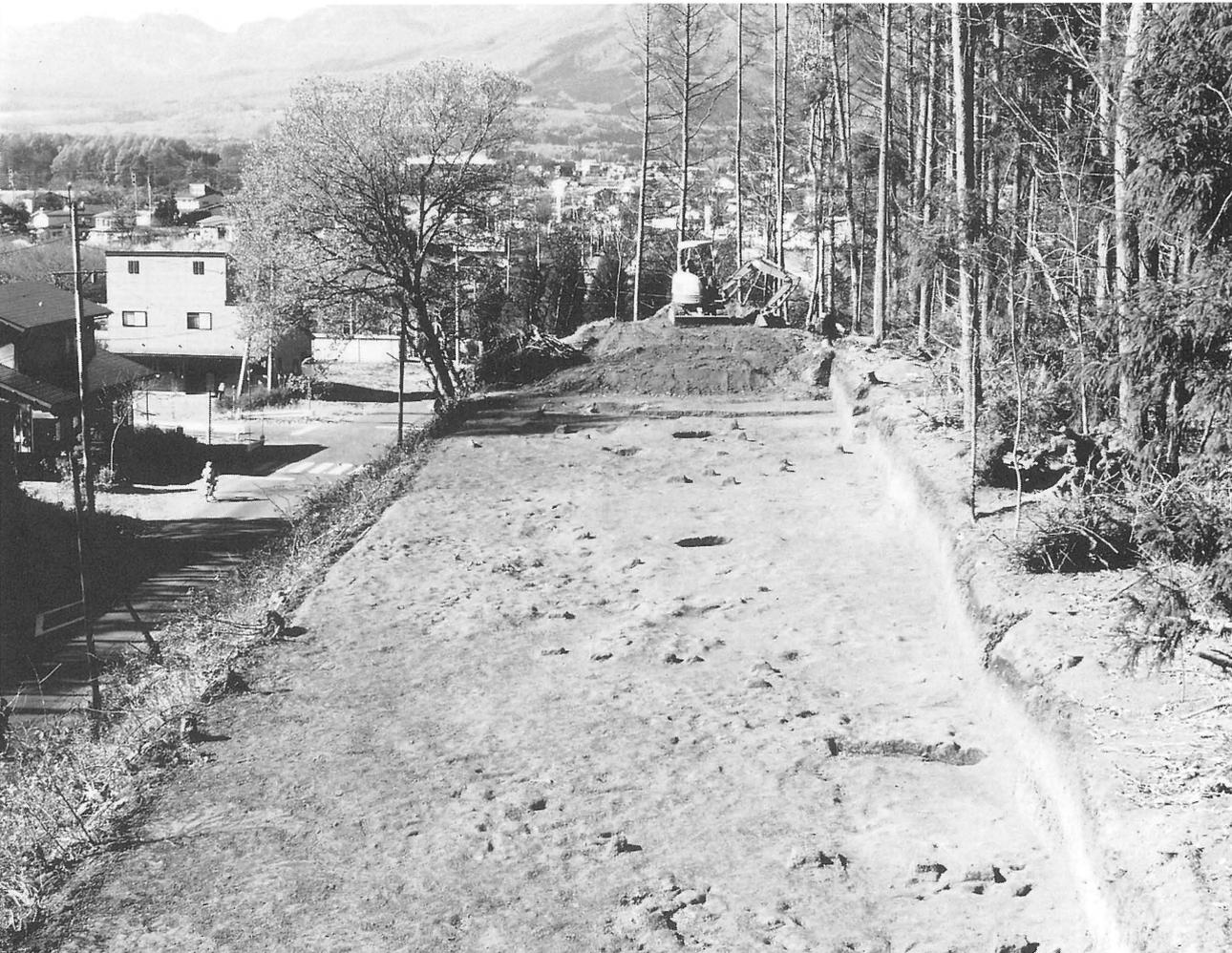
SH1・97
Ha
Sa



87
原石
Ch

(3 : 4)

実測図のない石器



北区調査終了状況
(西より)

報告書抄録

ふりがな	けんたんどろろかいりょう いっぱんけんどうふるまていしゃじょうせんまいぞうぶんかざいはつくつちょうさほうこくしよ
書名	県単道路改良 (一)古間(停)線埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	信濃町内 吹野原A遺跡
巻次	
シリーズ名	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	59
編著者名	谷 和隆
編集機関	財団法人 長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
所在地	〒387-0007 長野県更埴市屋代260-6 TEL026-274-3891
発行年月日	2002年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査面積	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	調査期間	m ² 調査原因
あきのほら いせまき 吹野原A遺跡	ながのけんかみみのちぐんしなみのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあきふるまあきあきの 大字古間字吹野	205834	92	36° 47' 36"	138° 13' 35"	2001年9月13日～ 2001年11月26日	1,600 県道拡幅工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吹野原A遺跡	集落	旧石器	石器集中地点(ブロック)11・礫群3	ナイフ形石器・台形石器 斧形石器・石刃	2側縁加工のナイフ形石器・台形石器に 斧形石器が共伴
	土坑群	縄文	陥し穴5	なし	なし

長野県埋蔵文化財センター報告書 59

県単道路改良 (一)古間(停)線 埋蔵文化財発掘調査報告書

—信濃町内—
吹野原 A 遺跡

発行 平成 14 年 3 月 29 日

発行者 長野県長野建設事務所
長野県埋蔵文化財センター
TEL026-274-3891 FAX274-3892

印刷 カシヨ株式会社
TEL026-251-0510 FAX251-0500

